

東洋大学 FD・SD 活動報告書

(2022 年度)

東洋大学高等教育推進センター

2023 年 5 月

サポート役としての高等教育推進センター

高等教育推進センター長 村田奈々子

高等教育推進センターは、本学の教育の質保証のために、本学教員の授業や職員の学生対応をサポートする役割を担っている。2020年に始まった新型コロナウイルス感染症拡大以降、教育DXが加速した。センターもその潮流に乗り遅れることなく、教育DXの良い点を取り入れながら、学生の学びを止めないよう様々に取り組んできた。2022年度は、高等教育推進センターを構成する4つの部会（教育方法改善部会／FD・SD研修部会／高等教育研究部会／教育改革・開発部会）において、これまでの取り組みをさらに一歩進め、学修者本位の教育を実現することを目指して活動した。

本年度のセンターの具体的な活動としては、以下の取り組みがあげられる。第一に、コロナ禍で普及した非対面授業にも対応した、授業形態別の授業評価アンケートの実施である。コロナ禍後も、非対面授業は部分的に残ることになる。今後は経年比較することで、非対面・対面授業の教育効果についてのデータが集積され有効に活用されることが期待される。第二に、活発なFD・SD活動である。非対面型のFD・SD研修会の実施やFD・SD Channelの動画配信にとどまらず、対面による「学びを促す授業づくりワークショップ」を夏季に短期集中で実施し、参加教員に好評を得た。さらに、体系的にFD・SD活動を知っていただくことを目的として、FD・SDプログラムガイドを作成した。第三に、「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」では、シリーズ7として「ICT活用アイディア」を配信した。また、FD・SD研修に参加した職員からの寄稿を掲載し、学内周知につとめた。第四に、教育支援システム等の利用状況や活用事例の評価や課題整理をおこなった。

教育の質の良し悪しは、簡単に採点して評価できるものではない。本学での学びを終えた学生たちが社会に巣立つときに、自分で考え、判断し、行動できる人間に成長してはじめて、私たちは質の良い教育を施したのだと胸をはることができるだろう。教職員みなさんにそのような達成感と充実感を得てもらうために、高等教育推進センターはサポート役として今後も活発な活動を展開していきたいと思う。

目次

学部 FD・SD 活動報告 1

文学部	2
経済学部	4
経営学部（添付資料含む）	6
法学部	62
社会学部	65
理工学部	68
生命科学部	70
ライフデザイン学部	76
総合情報学部	78
食環境科学部	80
国際学部	83
国際観光学部	87
情報連携学部	92

研究科/センターFD・SD 活動報告 94

文学研究科	95
経済学研究科（添付資料含む）	99
経営学研究科	108
法学研究科	111
社会学研究科	114
理工学研究科	116
生命科学研究科	118
ライフデザイン学研究科	121
総合情報学研究科	125
食環境科学研究科	127
社会福祉学研究科	131
国際学研究科	137
国際観光学研究科	140
情報連携学研究科	144
学際・融合科学研究科	146

国際教育センター	150
高等教育推進センター/委員会 FD・SD 活動報告	155
2022 年度高等教育推進センター/委員会活動一覧	156
高等教育推進委員会	157
教育方法改善部会	159
FD・SD 研修部会	161
高等教育研究部会	164
教育開発・改革部会	166
付録	168
東洋大学高等教育推進センターFD・SD プログラムガイド	169
東洋大学高等教育センター規程	170
東洋大学高等教育センターニュースレター Vol.5 アーカイブ	173
教育開発・改革部会 第Ⅲ期（2021-2022）年度活動成果	220

学部 FD・SD 活動報告書

1) 2022 年度 FD・SD 活動計画 / 2022-Plan

①『各年度データブック』による情報公開

例年、文学部における授業実績や教育に関わる各種取り組みについて、各年度の「データブック」として作成し、学部教育の基礎的な資料を共有してきた。この資料は各学科や関係部局からの情報提供に基づき構成され、ガルーンやホームページを通じて学内外に公開されてきたが、2022 年度もこの資料作成を継続する。

②FD 講演会・研修会

文学部はこれまで年 2 回程度、学内外の講師を招いて、講演会・研修会を実施してきた。本年度もこの企画を踏襲するが、講演・研修テーマについては、教員が共通に学ぶべき課題であり、かつコロナ禍という特殊な事情を鑑みたものを学部内自己点検・評価委員会での検討をもとに設定したい。

2) 2022 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2022-Do, Check

No.	FD・SD 区分	活動名	概要 (Do)	成果・課題 (Check)	参加 者数
1*	FD	学修成果測定指標による検証や成績分布の把握等	学習成果測定指標を教員一人一人が確認し、学科単位で情報共有することを通じて、現在の学科運営活動や今後の計画に役立てる。	本活動は各学科における自己点検活動に反映された。ただし、指標データそのもののとらえ方や価値づけについては、数年にわたる継続的活動が必要だと思われる。	
2*	FD	授業評価アンケート	学期毎に授業評価アンケートを実施し、教員への実効性のあるフィードバックを行うことにより、学修者本位の教育への転換をもたらしするための授業改善を図る。	文学部自己点検・評価活動推進委員会を中心にアンケート対象科目選定を行った。一部の科目において、アンケート回答が少ないため、FD のために有意義な情報が得られない場合があるので、回答数の改善が必要である。	

3	FD	『文学部自己点検・評価報告書（2021 年度データブック）』	2021 年度の文学部教育研究活動情報を公開する。	文学部自己点検・評価活動推進委員から各学科の教育研究活動情報を収集し、「データブック」としてまとめ、ガルーンおよびホームページに公開した。	
4	FD	FD 講演会・研修会①	合理的配慮学生への対応について(2022 年 9 月 7 日) 講師：早川和宏氏（本学学生部長・ウェルネスセンター長）	早川和宏学生部長・ウェルネスセンター長による講演後に、文学部教員が 6～7 名のグループに分かれて、要配慮学生への対応に関する経験（配慮の工夫や対応上苦慮すること）の共有および情報・意見の交換を行い、そこで出された対応上の課題や問題点等について、文学部障がい学生支援委員会委員・緒方登士雄教授を通じて障がい学生支援委員会に報告を行った。	90
5	FD	FD 講演会・研修会②	ハラスメント研修会（2022 年 10 月 15 日） 講師：厚井久弥氏（本学顧問弁護士）	左記活動を通じ、大学内でのハラスメント防止の法的根拠と、学内の防止体制を文学部教員職員で共有した。	90

3) 2023 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2022-Act, 2023-Plan

文学部自己点検・評価活動推進委員会が主体となり、全学自己点検・評価活動推進委員および高等教育推進委員と随時情報を共有して企画・運営を行う。具体的には学内外講師による講演会を年 2～3 回程度企画し、教授会開催日に合わせ実施する。また、『文学部自己点検・評価報告書』についても継続的な作成を検討し、文学部全体の教育研究活動の透明化と、更なる向上を目指す。

4) その他

1) 2022 年度 FD・SD 活動計画 / 2022-Plan

経済学部では教育および研究の質を高めるべく、全学で実施される授業評価アンケートや学部独自のゼミアンケートを中心に、FD 会合・FD 研修会・FD 視察等の様々な組織的な取り組みを行ってきた。こうした活動によって学部の教育力および研究力は毎年着実に向上している。2022 年度も、こうした活動を継続する計画である。さらに 2022 年度は、2021 年度に引き続き、オンライン授業の実施という新たな課題を遂行する際に、FD 活動の枠を超えた自発的な情報交換の場をもち、教職員全体で教育の質保証に向けて取り組む。

2) 2022 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2022-Do, Check

No.	FD・SD 区分	活動名	概要 (Do)	成果・課題 (Check)	参加 者数
1*	FD	学修成果測定指標による検証や成績分布の把握等	各学科の学科会議において、学修成果システムを用いて学生の成績分布、学修状況を確認・検証した。2 部経済学科は 2 部検討委員会において議論を行った。	さらなる検証や検討が必要な課題について確認できた。特に GPA の低い学生の履修状況および成績状況を細かく調査し、単位僅少者面接などの学習支援体制やカリキュラムの適切性について検討を進めていく必要がある。	
2*	FD	授業評価アンケート	講義科目は全学方式、ゼミアンケートは学部独自方式で実施した。 実施科目：講義科目（春学期 345、秋学期 353）、ゼミ（春学期 20、秋学期 146）。	アンケート結果に基づいて授業改善に取り組むことができた。アンケート結果について経年的に集約し今後の資料としていきたい。今年度は対面講義ならびにコロナ禍における非対面講義に関して重要な学生の反応を得ることができた。	
3	FD	FD 会合	教育活動上の諸問題を組織的に検討するために、秋学期に FD 会合を開催した。 ◆テーマ別会合（2022 年 11 月 3 日） テーマ①「2020 年・2021 年度入学生問題」 テーマ②「グループワークとゼミ活動の活性化」 テーマ③「対面授業の中でオンラインの手法を	各分科会での議論の内容は、報告書の作成を通じて共有をおこなった。知見のさらなる共有や、行動に向けたワーキンググループ化などを検討していきたい。	55

			どう効果的に組み込むか」 テーマ④「授業の同時配信の技術的な情報交換について」 テーマ⑤「オンライン試験・成績評価について」		
4	FD	学生目安箱の設置	昨年度に引き続き、学部生から直接意見を聴取する機会を設ける手段として、経済学部生向けの ToyoNet-ACE のコースのアンケートに目安箱を設けた。(2022 年 10 月 20 日～2022 年 11 月 30 日) 特にテーマは限定せずに、大学生活や授業などに関する意見を募った。	73 人の学生から様々な意見が寄せられ、各学科で意見を確認のうえ、意見のあった学生に対し個別に回答を行った。集まった意見は、今後の授業運営に活かしていきたい。	
5	FD・SD	授業参観	一層の教育改善に資するため、互いに授業を参観する授業参観(授業公開)を 2022 年 10 月 10 日(月)～2023 年 1 月 23 日(月)の間に実施した。すべての授業を参観対象とし、授業参観を希望する教員は、事前に科目担当者に直接連絡してもらい、参観後 Google フォームを通じて参観者アンケートに回答してもらった。	参観者アンケートは 1 名より回答を得た。科目担当者へフィードバックを行った。参観者からは、制度があることで参観を依頼しやすく、貴重な機会となった旨感想があった。	

3) 2023 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2022-Act, 2023-Plan

コロナ禍における FD・SD 活動となり、規模の縮小ややり方の変更を余儀なくされたものがあつた。2023 年度は、これら活動をどのように遂行していくのかを検討していく必要がある。一方で授業参観などを通じて、遠隔講義の課題や工夫の共有を行うなどポジティブな対応もできている。これら知見を 2023 年度の活動に生かし、さらに知見の蓄積と共有化を進めていきたい。

1) 2022 年度 FD・SD 活動計画 / 2022-Plan

2022 年度も、前年度より引き続き、教育活動の改善と質の向上を目指して、全学の高等教育推進委員会と連携を図りながら、組織的な取り組みを行うことを計画した。年に数回開催する学部 FD 講演・研修会では、教員がそこで得た知見を日々の授業に活かすことができるようテーマや講師を選定し、また、学部教員が非対面授業を含めた様々な授業形態に柔軟に対応できるよう教員相互の情報・意見交換の場を設け交流を活性化するとした。さらに、教員が先進的な内容の研修も受けられるよう学内外の FD 講演会等への参加を促していく。

2) 2022 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2022-Do, Check

No.	FD・SD 区分	活動名	概要 (Do)	成果・課題 (Check)	参加 者数
1*	FD	学修成果測定指標による検証や成績分布の把握等	1. 経営学科：KPI による学習成果測定を行っている。右記は主だった成果と課題である。 2. マーケティング学科：GPA×学年別×ヒストグラムおよび修得単位数×学年別×ヒストグラムの分布による捕捉。 3. 会計ファイナンス学科：GPA×学年別×ヒストグラムおよび修得単位数×学年別×ヒ	1. 4 年 8 セメ卒業率は高い水準であったが、基礎演習Ⅰ履修者に対する演習Ⅳ単位修得率が低下傾向にある。4 年時まで演習を継続履修できる場づくりの検討が必要である。 2. マーケティング学科：①GPA×学年別×ヒストグラムの分布は、どの学年においても若干左に裾が長い分布を示しており、高学年になるにつれて極端に低い GPA は少なくなっている。②修得単位数×学年別×ヒストグラムの分布は、1 年生から 3 年生までは左に裾が長い分布を示したが、4 年生においては卒業に必要な単位数である 124 を超える位置にピークが見られており、卒業に向けて確実に単位を修得していることが推察された。 3. 会計ファイナンス学科：①修得単位数×学年別×ヒストグラムの分布において、順調	

			ストグラムの分布による捕捉。 4. 2部経営学科:GPA×学年別×ヒストグラムおよび修得単位数×学年別×積み上げグラフおよび修得単位数×学年別×ヒストグラムの分布による捕捉。	な単位取得を行っている。ただし、希少単位取得者も一定数おり、学生との面談を実施した。②GPA×学年別×ヒストグラムにおいても同様に各学年ともに高い学修成果を身に付けている。 4. 修得単位数×学年別×ヒストグラムにより、1年生から4年生まで修得単位数のピークが次第に上昇し、学修が進む様子を見てとることができた。	
2*	FD	授業評価アンケート	1. 春学期アンケート実施状況 ・2022年度春学期の経営学部開講科目 550 科目中、アンケート対象科目は 240 科目。経営学部の専任・非常勤 120 名中、115 名が授業評価アンケートを実施。 ・それに対し、アンケートに回答した総履修者数は 5,750 名 (22,016 名中)。 2. 秋学期アンケート実施状況 ・2022年度秋学期の経営学部開講科目 567 科目中、229 科目がアンケート対象科目。専任・非常勤 123 名中、117 名が授業評価アンケートを実施。 ・それに対し、アンケートに回答した総履修者数は 3,644 名 (21,544 名中)。	・各教員は授業評価アンケート結果を確認し、授業改善に役立てている。本年度よりアンケート項目が一新され、オンライン・対面等の授業形態ごとに学生の授業への取り組み状況が確認できるようになった。学生に対し、教員は ToyoNet-ACE を通してフィードバックコメントを行っている。	
3	FD・SD	アサーション研修：2022年11月9日、教授会前に実施	(株)日本・精神技術研究所 石井隆之氏をお招きし、「自他尊重のコミュニケーション」である「アサーション」の基本的な考え方や、アサーションスキルを身に付けるためのポイントについて講演いただいた。アサーションは、人と人との間の相互理解を深める上で有用と言われる。ア	・講演後、受講者に対しアンケート調査を行った。回答数は少ないが、いただいた内容はとても良好であった。今後、教職員間及び教員・学生間でのコミュニケーションのさらなる円滑化や、学生のコミュニケーション能力向上への寄与が期待される。	56

4) その他

1) 2022 年度 FD・SD 活動計画 / 2022-Plan

これまでの実績を踏まえ、学部執行部や学部内の他の各種委員会と連携を取りつつ、FD 活動を引き続き実施する。全学の取り組みである授業評価アンケートやシラバス・チェックなどの FD 活動に積極的に参画するとともに、継続的な活動を実施しつつ、適宜工夫や改善を盛り込み、学部全体の教育能力の向上に努める。特に FD 学習会のより一層の充実化が課題であり、教職員からの要望に応じて企画を立てることに努めることで、教職員全体で教育の質保証に向け取り組みたい。その際に、コロナ禍で実施できなかった外部講師の招聘も積極的に計画したい。

2) 2022 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2022-Do, Check

No.	FD・SD 区分	活動名	概要 (Do)	成果・課題 (Check)	参加 者数
1*	FD	学修成果測定指標による検証や成績分布の把握等	次期カリキュラム (25 カリ) 策定に向けた前提として、3 月 7 日に開催した法学部人事構想・将来構想委員会において、現行カリキュラムに対応した学修成果測定指標、成績分布を確認した。	2022 年度は現行カリキュラムが進行中であること、またコロナ禍からの正常化の途上にあるが、次期カリキュラム策定に向けて学修成果、成績分布を確認する機会とすることができた。 他方、次期カリキュラム策定に向けた検討課題 (指標の妥当性、成績分布を踏まえた新規開講科目・閉講科目の検討等) も見えてきた。今回の確認の成果については、機会を捉えて教授会メンバーとも共有することとしたい。	13 名
2*	FD	授業評価アンケートの実施	春・秋の各学期に本学高等教育推進センターによる全学統一フォーマットを用いた授業評価アンケートを実施した (春学期: 164 科目、秋学期: 175 科目)。授業評価アンケートの実施後には、学生にフィードバックできるように授業担当者からのコメントをまとめ、履修学生に向けて公表した。学部独自の追加質問として、「当該授業受講によって学生が新しい知識を得たか」「授業の形態は	前年度 (春学期: 163 科目、秋学期: 175 科目) よりやや多い科目数について授業評価アンケートを実施することができた。本アンケートにより各教員が自分の授業を客観的に振り返る良い機会となった。次年度以降も、学生のニーズを適切に把握し授業改善につなげるために、よりふさわしい学部独自の追加質問内容を検討していきたい。また、オンライン回答になったことで回答率の低下が指摘されて	

			適切だったか」等の質問項目も設け、学生のニーズを担当教員が適切に把握できるように工夫した。	いるが、回答率を増加させるように引き続き取り組むことが課題である。	
3	FD・SD	単位僅少者面接の実施（学部FD委員会、学生生活委員会合同）	留年率や退学率の低下につなげるべく、修得単位が少ない学生に対する個別面談を例年実施している。今年度は春学期の追加登録期間前に学部FD委員会委員と学生生活委員会委員がオンラインでの個別面談を実施し、教員が学生の相談に乗るとともに助言を行った。面談後には、担当教員の報告を基に課題を確認し、教務課と密接な連携の下、前年度と同様に対応した。また、面接対象者の保証人に「単位僅少者面接結果通知」（欠席者には欠席通知）を送付した。欠席学生には「修学状況調査書」を後日教務課まで提出させ、学習状況の把握や学生との面接といったフォローアップを教務課で行った。	教員に直接悩みや状況を話し、アドバイスを得ることにより、学生の勉学へのモチベーション向上につながったケースが多々見られた。今後は、欠席学生数をどのようにしたら減らすことができるのか、また、欠席学生をどのようにフォローするのが課題である。	学生 37 名が出席
4	FD・SD	保護者との連携を視野に入れた取り組み	法学部生の保護者に「14（とーよー）メール」と題したメールマガジンを毎月 14 日に配信し、教育活動の紹介や行事予定の案内、各種事務手続きなど様々な情報提供を教職員が行っている。2022 年度の配信件数は延べ 14,013 件（2021 年度は 13,090 件、2020 年度は 14,728 件）となっている。	大学側から直接保護者に連絡することで、保護者が大学の様子を身近に感じられる一助となっている。保護者のニーズに応える情報をさらに多く提供することが今後の課題である。	
5	FD・SD	法学部 FD 学習会の開催	全 3 回の FD 学習会を実施した。12 月に早川副学長より「障がい者差別解消法改正に伴い今後本学が取り組むべきこと」について講演いただいた。また、例年、着任間もない教員による本学での教育に関する課題や悩み・工夫などを講演してもらい、教員間で問題点を共有し意見交換する場を設けているが、今年度も 10 月と 2 月に 2 回実施できた。	これまでの経験を踏まえた上で、今年度はオンライン方式と対面方式の両方を利用して効果的な FD 学習会を実施できた。今後も FD 委員会としては、教員のニーズや現実に応じた、より実用的な内容を FD 学習会として企画していきたい。コロナ禍ということもあり外部講師を招聘することはできなかった。	10 月：50 名 （教員 45 名・職員 5 名） 12 月：51 名 （教員 46 名・職員 5 名） 2 月：47 名 （教員 42 名・職員 5 名）

3) 2023 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2022-Act, 2023-Plan

今年度の実績を踏まえ、次年度も学部執行部や各種委員会と連携を取りつつ、特に以下の点に関して適宜工夫を凝らしながら FD 活動を引き続き実施していく。①授業評価アンケートの学部独自の追加質問では、授業形態・受講学生の多様化を踏まえて、学生のニーズをより適切に把握できる質問内容を設定する。②FD 学習会のさらなる活性化。2020 年度からコロナ禍で実施できなかった外部講師の招聘も積極的に計画する。③学部 FD の活動を大学のホームページで報告する体制を整えることも計画する。

4) その他

1) 2022 年度 FD・SD 活動計画 / 2022-Plan

- ①新規採用教員を対象に FD 研修会を実施し、授業運営での悩み等を学部長・学科長・FD 委員と共有・アドバイスし、今後の新員教員の授業運営の向上を目指す。
- ②学内・学外で先進的な取り組みを行っている組織の関係者に講演を依頼し社会学部で実現可能な取り組みを検討する。
- ③各学科の様々な取り組みを学部内 FD 講演会として紹介する。学科の取り組みを学部内で共有し、各学科の取り組みの参考とする。

2) 2022 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2022-Do, Check

No.	FD・SD 区分	活動名	概要 (Do)	成果・課題 (Check)	参加 者数
1*	FD	学修成果測定指標による検証や成績分布の把握等	学科毎に、学修成果システムを利用し学生の成績分布や学修状況を確認・検証した。学習成果測定指標を学科単位で情報共有することを通じて、現在の学科運営活動や 25 年以降のカリキュラム作成に役立てる。	各学科における自己点検評価活動に反映されたが、継続的な活動が重要である。また、指標データのとらえ方や利用方法について別途議論が必要と思われる。	69 人
2*	FD	授業評価アンケート	春学期と秋学期、それぞれ設定された期間に授業時間を使い、ToyoNet-ACE を用いて授業評価アンケートを実施した。アンケート結果に対しては、科目ごとに担当教員がフィードバックを記載し、ToyoNet-ACE で公開した。	授業評価アンケートの集計結果、自由記述回答に対する学生の書き込みは、教員が授業の運営方法、教授内容の改善に活用している。課題としては、全般に受講学生のアンケートへの回答率が低下している。	69 人
3	FD・SD	社会学部新任教員 FD 研修会	2022 年 5 月 23 日 (12:15~13:00)、社会学部の新任教員 4 人と、同学部 FD 推進委員、学部長、教務課職員の参加により Webex Meetings で実施した。事前と事後に新任教員へのアンケートも実施した。	新任教員からの事前アンケートに書き込まれた質問およびその場で出された質問に対して、FD 推進委員が回答することによって、新任教員の授業運営に関する多数の疑問を解消することができた。事後アンケートでは、新任教員から本研修会が有用であったとの評価を得た。課題としては、次年度以降、コロナ禍以前のように対面での実施に戻すかどうかの検討を要する。	12 人

4	FD	社会学部教授会 FD 研修会「SDGs の推進を生かした大学教育」	2022 年 6 月 13 日 (17:00~19:00)、「SDGs の推進を生かした大学教育」をテーマとして、田邊心技氏（進研アド取締役）と柴田聡子氏（進研アド改革支援室）による講演を Webex Meetings で実施した。講演の録画は Youtube にアップし、8 月 4 日まで全学にオンデマンド公開した。	録画時は講演者と社会学部 FD 委員のみの参加であったが、事後に Youtube で公開した録画は社会学部教授会メンバー全員が視聴した。講演の内容は、日本の他大学の SDGs 活動や諸外国の状況等、広範囲にわたるもので、大学における SDGs と教育について有用な情報・知識を共有することができた。この情報・知識を活かして、具体的にどのような教育活動を展開すべきなのかの議論が今後の課題である。	69 人
5	FD・SD	2025 年度カリキュラム改訂に向けた FD 研修会	2022 年 10 月 24 日 (15:00~16:00)、「学修者本位の教育をめざす 3 ポリシーの見直し」をテーマとして、石田衛教授（岡山大学教育推進機構）による講演および質疑応答を Zoom で実施した。社会学部の学部長、各学科長、教育課程委員、FD 推進委員、教務課職員がリモートで参加した。	ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの意義と見直しのポイントについて詳細に学び、社会学部の教職員間で情報・知識を共有することができた。この情報・知識を活かして、学部・学科の 3 ポリシーをどのように改訂するのか、2025 年度からの新カリキュラムを具体的にどのように構築するのかが今後の課題である。	20 人
6	FD	社会学部教授会 FD 研修会「文系学部におけるデータサイエンス教育」	2022 年 11 月 7 日 (18:00~19:25)、「文系学部におけるデータサイエンス教育」をテーマとして、針原素子氏（武蔵大学社会学部准教授）と柴内康文氏（東京経済大学コミュニケーション学部教授）による講演および質疑応答を Zoom で実施した。社会学部の教授会メンバーがリモートで参加した。	文系学部において先進的なデータサイエンス教育を行っている 2 つの大学から講師を招き、その活動内容について学び、社会学部の教職員間で情報・知識を共有することができた。この情報・知識を活かして、社会学部としてデータサイエンス教育をどのように進めていくのかが今後の課題である。	51 人

3) 2023 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2022-Act, 2023-Plan

①新規採用教員（新任教員）と学部長、学科長、FD 推進委員との FD 研修会を実施する。新任教員の授業運営での悩みや課題を共有し、必要なアドバイスと意見交換を行うことで、新任教員が授業運営を改善する援助を行う。

②教授活動に関して学内・学外で先進的な取り組みを行っている組織・団体の関係者に依頼して、学部内または全学公開の FD 講演会を実施する。先進的な取り組み

について知識を獲得し、社会学部で実現可能な取り組みを検討する。

③各学科または各教員が実施している教育上の優れたプロジェクト、意欲的な活動を紹介するために学部内 FD 講演会を実施する。優れたプロジェクト、意欲的な活動の詳細を学部内で共有することで、社会学部全体の教授活動の向上を図る。

4) その他

特になし。

1) 2022 年度 FD・SD 活動計画 / 2022-Plan

感染状況を踏まえながら、学士力の質保証と専門教育を学生に提供できるように努める。講義は感染状況により対面・非対面授業を交えた形式で行い、従来の FD・SD 活動として出席状況確認、基盤教育科目の学習支援、グローバル化への取り組み、学修相談会を実施する。また法改正の年度でもあることから、個人情報保護の留意点について講習する機会を設ける。

2) 2022 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2022-Do, Check

No.	FD・SD 区分	活動名	概要 (Do)	成果・課題 (Check)	参加 者数
1*	FD	2022 年度出席調査 春学期 4/9-5/13 秋学期 9/23-10/20	各学科で定めた科目について 4 回の出席調査を実施した。出席不良、課題提出が芳しくない学生に電話連絡して状況を確認し、その結果について各学科で情報共有した。	相談会、学生対応の履歴を参照し学生に合わせた電話連絡をして頂いた。留学生に連絡がつきにくい、単位修得状況に問題がない学生はメール連絡するなど緊急性があるか判断して柔軟に対応したい。	
2*	FD	基盤教育科目の学習支援	基礎科目学習支援室では数学・物理学およびその関連科目を支援し、英語学習支援室・GCS では多岐にわたる英語に関する支援に取り組んだ。	学習支援を対面・オンラインで柔軟に対応することで相談件数が昨年度の 195 件から 800 件に急増した。2020 年度以前よりも相談件数は少ないが、支援室相談員の負担となっていないか注視したい。 英語学習支援室の 2022 年度の利用者数は 2794 件 (4/1-3/1)であった。2021 年度の同期間は 3259 件であり利用件数が減った。理由は不明だが、今年度は、各種講座への参加者や留学相談の件数が昨年よりも減少しているためと考えられる。	基礎科目 学習支援 室： 195 件 英語学習 支援室： 2794 件

3	FD	グローバル化への取り組み	英語による授業科目の開講 外国語で行う授業科目数：135 科目 外国語で行う授業科目実施率 9.5%	昨年度に比べて科目数は 46 科目増、実施率は 1.4% 増であり、学生の英語学習に対する関心の高さを伺うことができる。英語学習支援室、GCS と情報共有しながら学生の外国語に対する学修効果を高める工夫を検討したい。	
4	FD	学修相談会 春学期 2022/09/17 秋学期 2023/03/18	単位僅少者の基準に基づき、対象学生および保証人と面談を行った。対面・電話・メールによる相談、Web 面談により相談会を開催した。	対象者に合わせて柔軟に対応することで、学生および保証人と今後の履修計画および学修計画について話し合うことができた。面談の機会だけでなく、継続的に履修指導することが望ましいと考える。	
5	FD・SD	川越キャンパス FD 講演会 2022 年度「個人情報保護の留意点」 島田裕次先生・工技研客員研究員	個人情報保護法が改正されたことを受けてデータ活用における留意点について講演機会を設けた。	個人情報保護に関する留意点を再確認すると共に、新たな知見を得ることができた。社会情勢の変化に合わせて定期的に法改正されるため継続的に講演会を実施したい。	88 名

3) 2023 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2022-Act, 2023-Plan

昨年度に続いて感染症対策に留意しつつ、教育・学習支援に取り組んだ。対面授業・オンライン授業を併用しながら、各教員が 2022 年度の講義することができた。職員による出席調査後の電話連絡は今年度で終了するため、各学科においてそれに代わる対応が必要になると思われる。学修相談会は相談者の要望に応じて対面・非対面形式で開催しており、昨年度の経験を活かすことができた。学習支援・履修指導の質保証は最重要点である。2023 年度も従来の FD・SD 活動を継続しつつ、理工学部教員と川越事務部職員が学生の学士力保証を目指した教育に努める。

4) その他

なし

1) 2022 年度 FD・SD 活動計画 / 2022-Plan

これまでの取組や活動を下敷きに、2022 年度も授業運営や指導技術の向上を目指す活動を行っていくと共に、学生理解の面にも注意を払いながら FD 活動を着実に展開していく。その際、特に重点を置きたい事項として以下の 3 点を挙げる：

- 対面・非対面授業の運営や実施に関する力量を高める
- 理系学部の特質に起因する諸課題への対応力を増す
- 学生理解を深め学生支援につなげる力を伸ばす

2) 2022 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2022-Do, Check

No.	FD・SD 区分	活動名	概要 (Do)	成果・課題 (Check)	参加 者数
1*	FD	学修成果測定指標による検証や成績分布の把握等	生命科学部では、5つの「ディプロマ・ポリシー」(DP1～DP5)の内から、専門教育科目を中心とする各科目がそのどれに対応するかを特定し、「学修成果測定指標」を形成している。運用においては、学生(2021 年度)の学修到達度(学生の各授業の成績)をベースに指標の数値を算出する「学修成果システム」を作成し、そこから DP 別の学生の平均的なスコアの算出と検討などを行った。 これに加えて、英語の外部試験や資格試験の結果なども指標としている。	DP1～DP5 を用いた「学修成果システム」の運用から、学生の学習状況に偏りがある(DP1 該当科目の学習が極めて多い)ことが把握されるなど、今後の教学上の課題や改善の方向性を突き止めることができた。同時に、学修成果測定指標のディプロマ・ポリシー項目別の GPA グラフなどから、学生の学修達成度合いの評価を通じて、ディプロマ・ポリシー自体の検証や見直しへと向けた資料も得ることができた。 課題としては、学修成果測定指標の活用がまだ始まったばかりであるため、学生の経年変化や入学年次ごとの比較ができていないことが挙げられる。また、資格試験の状況などは 3 年次以降にならないと分からないものもあり、これの指標としての適切さがまだ判断できていな	

				い。もう数年時間をかけて、指標の見直しや改善などを計画していきたい。	
2*	FD	授業評価アンケート	春学期・秋学期のそれぞれにおいて、専任教員は自己の担当する授業科目の中から2科目以上を選び、「授業評価アンケート」の対象科目として実施した。 アンケートの質問事項については、大学で統一されている質問事項に加え、生命科学部独自の質問事項を6つ、また自由記述欄も設けて、より詳細な情報の収集に努めた。 寄せられたアンケート結果に対しては、授業者が内容の吟味・検討の上でフィードバック・コメントを付して公開し、かつ当該授業の改善・向上のための有力な資料として活用された。	各教員とも左記の内容に従って実施し、授業の改善・向上を図っている。こうした活動が学期毎に繰り返されることで、教育力や授業内容などを定期的・継続的に見直す良いきっかけともなっている。 課題としては、アンケートの解答率・回収率が授業間で差異があるため、精度の高い情報の確保のために高い解答率・回収率を安定的に確保する方策が求められよう。	
3	FD	基礎学力テスト	「基礎学力テスト」は生命科学部が独自に実施する学力テストで、全ての新1年生を対象としている。今年度は4月4日～7日を期間として、ToyoNet-ACEを使って実施された。テストは生物(30分)と化学(60分)で構成され、結果は整理されて翌8日に教員に提供された。 テスト後は新入生アンケートも実施された。	基礎学力テストの結果は、過去の平均点との比較や入試種別間の成績比較などができる形にまとめられており、初年次教育およびその後の専門教育を効果的に進める上での貴重な資料として役立っている。今後も継続していきたい。 ただ、受験締切時間直前に慌てて取組んだ学生や、全ての設問に解答していない学生が散見されたため、それらを防止する方策を講じる必要がある。	

4	FD	PROG テスト	PROG テストは株式会社リアセックが実施するテストで、学生の非認知能力を計測してデータで示すものである。今年度は各研究室に仮配属される学年となった3年生を対象に、FD 予算を使って実施した。期間は4月7日～30日で、東洋大学公式アプリを用いて行われた。結果等については生命科学部12月定例教授会にて本学部のキャリア支援担当教員より報告され、それを受けて板倉事務課によって研究室ごとに当該3年生が1年次に受験したPROGテストとの結果比較データが作成され、年内に教員に提供された。 なお、PROGテストの実施は今年度をもって終了する予定である。	PROG テストは、これまで学生の1年次と3年次に実施してきており、これによって学生の非認知的な資質や能力についてだけでなく、その経年変化も把握することができた。今回も得られた知識・理解を、研究室における個人／集団指導に役立てることができた。 課題としては、PROG テストに替わって学生の非認知能力を把握する何らかの手立てを講じる必要がある（生命科学部では昨年度より学生の就職情報サイト「マイナビ」が主催する適正診断テスト「MATCHplus」を運用しているが、これは学修支援よりもキャリア支援への指向性が強い）。	
5	FD	TA・SA 研修会	実施形態としては、「高等教育推進センター」が主催する研修（2021年度からToyoNet-ACEを使って実施）があるが、それと共に、生命科学部研究科FD委員が中心となって独自に実施するTA・SA研修会もある。 後者は春学期・秋学期にそれぞれ実施した。テーマは実験科目を担当する教員に「もっとも事故が生じやすい操作」を挙げてもらった。研修においては、教員による説明の後、対象学生を集めて担当する実験科目ごとにグループ分けし、「注意事項と事前準備」に関するディスカッションを行った。ディスカッションの内容等は実験科目担当教員に回送され、その内容を確認した上で教員を交えた注意事項などの伝達など	成果としては、何と言っても実験科目において現実に大きな事故が発生しなかったことが挙げられる。グループ・ディスカッションにより、TA/SAたちの意識の向上と仲間同士による危険箇所の確認等ができたことが、安全の確保につながったと実感される。 課題としては、TA登録が無くSAのみであった科目においては、過去に生じた危険項目等が伝達されにくい状況があったことが挙げられる。また、TA・SA同士でそうした危険項目を共有することが安全の確保につながるため、研修会欠席者への堅実な対策も立てる必要がある。これについては、研修会の開催時期の見直しも含めて検討が必要である。	春 41 名 秋 46 名

			が行われた。		
6	FD・SD	FD・SD 研修会	生命科学研究科 FD 委員会との連携の下で、計 3 回の研修会を実施した： ● 第 1 回（2022 年 8 月 31 日） テーマ：「本学における中国人留学生の動向と求められる支援」 講師：東洋大学国際教育センター、郝仁平先生（東洋大学経済学部長） ● 第 2 回（2022 年 12 月 5 日） テーマ：「学生相談活動と相談室から先生方へ」 講師：工藤健彦先生（板倉キャンパス学生相談室カウンセラー） ● 第 3 回（2023 年 2 月 13 日） テーマ①：「産官学連携、特許出願の促進」・「共同研究・受託研究の活性化に向けて」 講師：稲本康先生（産官学連携推進課・産官学連携マネージャー） テーマ②「大学における発明の役割」 講師：松下文夫先生（産官学連携推進課・知的財産マネージャー） テーマ③「研究資金のあれこれ」 講師：花岡千草先生（ユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーター） 開催にあたっては、各回とも板倉事務課およ	研修会ごとにまとめて記す： ● 第 1 回研修会（25 名参加） 本学部・研究科への留学生は中国出身者が多数を占めるという実態があり、この研修を通じて、中国人留学生たちが背負う家庭的・社会的な背景や、受け入れ側に求められる教育・指導上の配慮事項などを、本学の実態に即して学ぶことができた（このテーマで FD・SD を企画したのは、この生命科学部・研究科が本学で初めてと推察される）。同時に、本学に来る留学生の動向や国際教育センターの活動内容についても学び、本学部・研究科の留学生対応力の強化につなげることができた。 課題として、学部・研究科の組織的な対応力と共に、「留学生サポートデスク」との連携なども含んだ、個々の留学生へのきめ細かい対応力の向上への取組も意識された。 ● 第 2 回研修会（34 名参加） COVID-19 の影響によって高校生活の大半をリモートで過ごしてきた新入生等への対応や指導に関し、大学の教職員として注意や配慮が必要と考えられる事項について、心理学をベースに専門的かつ具体的に学ぶことができた。さら	25 名・34 名・45 名

			び食環境科学部にも通知し、参加を可能とした。また実施はオンライン実施で、研修内容は録画して後の視聴もできる態勢をとった。	に板倉キャンパスの「学生相談室」のさまざまな活動についても、詳しく知ることができた。 課題としては、学生理解や支援は非常に複雑でデリケートな面を有するため、教職員はこれに関する知識や技能のアップデートを継続的に行うだけでなく、支援体制や組織の一層の整備や強化も進めていくことが認識された。 ● 第3回研修会（45名参加） 生命科学部・研究科教員に期待される創造的・飛躍的な研究力・教育力の展開に必要な知識や技能を学ぶことができた。この研修テーマに関する内容を、組織的に共有することもできた。 課題としては、このテーマが多岐にわたる事項を含むため、今後とも継続的な研修機会の提供が重要である。	
7	FD	FD 推進ワークショップ	「一般社団法人 日本私立大学連盟」が主催する「FD 推進ワークショップ」（8月実施分）にて、生命科学部の教員2名が研修を受け、また別の教員1名が運営員として参加した。 この行事は、例年であれば連盟加盟校の新任の専任教員を対象として行われるものであるが、「オンライン授業の改善は、教歴にかかわらず共通する新たな課題である」との認識から、今年度は新任専任教員に限定せず広く専任教員の参加が認められた。	他の加盟校から参加した教員たちとグループ・ディスカッションを行い、コロナ禍前後の大学方針や学生の様子などに関して情報交換・共有をすることができた。さらに、参加者がリモートで模擬講義（15分）を行い、同グループの参加者からコメントを受けるなどして、自己の授業力向上のきっかけをつかむことができた。 課題としては、「授業評価アンケート」などから判明する本学部に求められる授業内容や進捗度合に、こうした研修機会に学び得た知識や技能をどう効果的に反映させるかが挙げられる。	

3) 2023 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2022-Act, 2023-Plan

2023 年度に向けた大きな変更点としては、PROG テストの契約終了が挙げられる。これによって FD 予算は大きく減額されるが、他の活動をしっかりと堅持・継続していく。

FD・SD 研修会は 3 回の実施を予定している。外部講師を招来しての研修会も良いが、2022 年度のように学内事情や本学の学生の様子に精通する学内の人材の活用も続けていきたい。

その他、特に経費を必要としないが、学部の中で簡易かつ日常的に行える FD 活動を増やしていき（例：1 年次生で授業の出席状況がおもわしくない学生に関する情報共有や組織的な対応）、教員の教育力・研究力の向上につなげていきたい。

こうした学部の FD 活動は、研究科と連携・協力しながら進めていく。

1) 2022 年度 FD・SD 活動計画 / 2022-Plan

2021 年度までは、①FD 研修会の開催（年に 1 回）、②授業評価アンケート、③シラバス点検、を主な活動とした。2022 年度については、基本的には 2021 年度までの活動を継続・充実させることを主眼とした。FD 研修会は、ここ数年は授業に関連する内容を取り扱うことが多く、研究に関連する内容が扱われていないことから、独立行政法人日本学術振興会（JSPS）研究公正アドバイザーでもある岡林浩嗣氏をお招きし、研究倫理・研究公正に関する研修会を実施することとした。

2) 2022 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2022-Do, Check

No.	FD・SD 区分	活動名	概要（Do）	成果・課題（Check）	参加 者数
1*	FD	学修成果測定指標による検証や成績分布の把握等	2022 年度は実施せず。	2022 年度は実施できなかったため、2023 年度に学修成果の測定指標内容について必要に応じて見直しを行うこととした。	
2*	FD	授業評価アンケート	・日程：2022 年 7～8 月 および 2022 年 12 月～2024 年 1 月 ・内容：専任教員は各学期 2 科目（通年 4 科目）、非常勤の教員については 1 科目の授業評価アンケートを実施した。 ・設問：3 つの授業形式（対面、オンデマンド、同時双方向）それぞれに対応した質問を設けた。	いずれの形態の授業も全体的な授業評価は高かった。しかしながら、以下の 3 つの課題が明らかとなった。 ・全ての形式の授業において、学生の授業 1 回あたりの平均的な予習復習時間が短い。 ・全ての形式の授業において、学生が知識を活用して考えることが少ない。 ・同時双方向型の授業において、教師と学生の間で双方向的なやりとりが十分に行われていない。	
3	FD	ライフデザイン学部 FD 研修会 ・タイトル：研究活動の「公正さ」について考えよう ・講師：岡林浩嗣氏（筑波大学生存ダイナミクス研究センター）	本研修会では、最初に研究倫理に関する背景や基本概念を振り返り、近年に研究不正として報告された事例の傾向について理解した。さらに、明確な研究不正かどうか判断の難しい「好ましくない研究行為（QRP）」という概念の考え方	研究倫理の基本事項、研究公正の事例と研究公正教育、研究不正とどう向き合うかについて、最新の知見を得ることができた。また、研究公正を取り巻く近年の状況や法令遵守についても理解した。今後も研究不正・公正に関する最新	57

		・日時：2022 年 12 月 21 日 16:30-18:00 ・形式：Webex	や、研究活動上の留意点に関する要点を整理した。最後に、研究者の社会的責任や研究活動における「公正さ」との向き合い方について、話題提供が行われた。	の知見を定期的に学び、研究活動に関わる「不適切な行為」の考え方を理解し、不正を未然に防止する効果的な対策を考える必要がある。	
4	FD	子ども支援学専攻 F D 研修会 ・タイトル：東洋大学優秀教育活動賞受賞授業に学ぶ ・講師：嶋崎博嗣氏（ライフデザイン学部・生活支援学科・子ども支援学専攻） ・日時：2022 年 9 月 7 日 10:00-11:00 ・形式：Webex	「保育内容の指導法（健康）」は、主に“運動遊び”を手段にして、子どもの全面发展をいかに引き出すのかを体験を通して考える授業である。この授業の実践において、東洋大学優秀教育活動賞を受賞された嶋崎教授に、授業の運営方法や具体的な工夫の例、その理論的な背景と意図についてご説明いただいた。その後、参加教員との質疑応答を行い、効果的な演習授業の運営方法について情報共有を行った。	本授業の総まとめでは、半期に亘ってグループで考案した「運動遊びプログラム」の発表が行われている。個々の学生がグループ活動に主体的に参加し、他の学生と協力をしながら活動を進められるようにするための、教師の支援の在り方や具体的な方略について学ぶことができた。	14

3) 2023 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2022-Act, 2023-Plan

2022 年度は、新学部開設に向けての準備、収束しない新型コロナウイルスと共存しながらの授業や多数の学外実習の運営など、各教員・職員は様々な準備や実施に追われることとなった。そのため、教員・職員の負担を可能な限り軽減した上で、継続的な FD・SD 活動を実施するための工夫や改善策を盛り込み、学部全体の教育・研究能力の向上に努めた。しかしながら、いくつかの課題が残った。例えば、学生との意見交換会などの以前は行われていた活動が、新型コロナウイルスが蔓延した 2020 年度から依然として実施できない状態が継続している。よって 2023 年度は、授業等に関して学生と教員とが意見を交換する機会をどのような形で設けるかを検討する必要がある。また、学修成果測定指標による検証や成績分布の把握等は、2022 年度は実施できなかった。そのため、2023 年度に学修成果の測定指標内容について必要に応じて見直しを行うこととした。さらに、授業評価アンケートについても、引き続きスムーズな実施が行えるよう、学部内での体制作りを整えたい。

2022 年度 FD・SD 活動報告

総合情報学部

1) 2022 年度 FD・SD 活動計画 / 2022-Plan

個々の教員は授業評価アンケートや学修成果システムを活用して授業の改善に取り組むほか，学部として秋学期に 2 回の F D 講演会・研修会を実施する。

2) 2022 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2022-Do, Check

No.	FD・SD 区分	活動名	概要 (Do)	成果・課題 (Check)	参加 者数
1*	FD	学修成果測定指標による検証や成績分布の把握等	2022 年度自己点検・評価報告書の作成に合わせ，コースごとに学修成果システムを用いて成績の分布などを確認した。	学修成果システムが主に前年度の 1 年生に対応したものであったため，今後も継続的に検討をしていく必要性を各コース，学科で確認した。	全教員
2*	FD	授業評価アンケート	春学期・秋学期（1～4 Q）に，少人数のゼミを除いて全ての講義科目について実施した。	各教員がフィードバックコメントを入力する他，運営委員会等で適宜議論した。	全教員
3	FD	FD 講演会	2022 年 12 月 8 日「サイエンスコミュニケーションと研究倫理審査」と題する講演会をオンラインで開催した。	学部の研究・教育活動にも関係する話題であり，改めてその重要性を再認識した。また，他学部からも多くの参加があり，有益な講演会となった。	62 名

4	FD	FD 研修会	2023 年 1 月 19 日～2 月 28 日までオンデマンド方式で「コロナ禍におけるメンタルヘルス」と題する研修会を行った。	受講者にアンケートを行ったところ、大半から有益であったとの回答があり、7 割近くが個別に感想を述べるなど概ね好評であった。	34 名
---	----	--------	--	---	------

3) 2023 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2022-Act, 2023-Plan

2022 年度と同様に、少人数のゼミ等を除く全ての授業で授業評価アンケートを行うとともに、学修成果システムを活用してシラバスやカリキュラムの改善にあてる。また、年間 2 回程度の F D 講演会／研修会を企画する。

4) その他

1) 2022 年度 FD・SD 活動計画 / 2022-Plan

今年度は、教職員の FD・SD に関する具体的なニーズを調査し、本学部の状況に即したプログラム、教育の更なる質的向上を目指したプログラムの検討を行い、FD・SD 活動を実施していくことを計画していた。また、一昨年度のアセチレングス爆発事故を受け、大学内での実験・授業を安全に行うための安全講習会の見直しを行った昨年度の流れを踏襲し、引き続き安全委員会と協力し、さまざまな安全講習会が計画された。

今年度の FD・SD 活動の講習会・イベント等の実施にあたっては、新型コロナウイルス感染症対策を考慮し、対面、オンラインまたはハイブリッド形式と、その状況に合わせた様々な形式での開催となった。

2) 2022 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2022-Do, Check

No.	FD・SD 区分	活動名	概要 (Do)	成果・課題 (Check)	参加 者数
1*	FD	学修成果測定指標による検証や成績分布の把握等	GPA と普段の学習時間、学生の授業満足度、原級・除籍率、就職率、各種資格合格率などを総合的に評価し、質的保障の内容的裏付けを行う。	健康栄養学科では 3 年次の GPA と管理栄養士国家試験得点の比較を行った（目立った相関なし）が、それ以外についてはまだ十分に解析できているとは言えない。今後の検討課題とした。	
2*	FD	授業評価アンケート	今年度も春学期および秋学期に実施した。学部独自の質問項目は昨年と同じ項目を設定した。	回答率の低さが課題であり、教員同士の連携や情報共有を行いながら、回答率を上げていきたい。	
3	FD	FD 講演会 「授業で使用する教材・資料に関する著作権法上の注意点」	東洋大学法学部・安藤和宏教授に講師をお願いし、授業で利用する様々な著作物資料の取り扱いに関する著作権法上の注意点について講演していただいた。	食環境科学部主催であったが、生命科学部にもメーリングリストを利用して情報共有し、webex を用いたオンライン配信を行った。また、安藤教授が講義を配信した白山会場では事務職員 6 名も聴講した。 昨年の反省を踏まえ、今回は 8 月実施としたが	37

				参加者はそれほど多くなかった印象である。実施時期及び実施内容について今後も精査が必要である。また、今年度も講義動画をオンデマンド配信する予定であったが、webex の録画がうまくいかなかった。次年度はオンデマンド配信ができる準備を入念に行う予定である。	
4	FD・SD	TA・SA 研修会（春） & （秋）	昨年度同様、「安全教育」をテーマに各先生方に協力をいただいた資料を使用し、研修会を実施した。春の研修会では採用予定者に対し、対面での講義とグループディスカッションを約2時間実施し、グループディスカッションでは、授業中の安全上の注意や TA・SA に求められる対応・対策について、議論が行われた。秋の研修会では、秋学期から TA・SA になった学生で、春の研修会に参加していない学生を対象にオンデマンド研修会を実施した。	本学部では実習や実験の授業が多く、それらの授業においては TA・SA と協力し、安全管理を徹底して行わなければならない。2020 年度の実験室内での事故を受け、今後の対面実習・実験授業実施にあたり、さらに安全管理が重要視されることから、TA・SA の研修においても安全管理に関する具体的な事例を取り入れた内容のさらなる充実が求められる。	
5	FD・SD	実験安全講習会（春） & （秋）	卒業研究を行う板倉キャンパスの全学生 SA 業務を行う学生を対象とした、板倉キャンパスで実験を行う上での決まり & 高圧ガスの安全な取り扱い方（講演）、バイオ系実験を安全に行うために（DVD）についての講習会を行った。	学生、そして教員に対する講習会を増やし、受講する機会を増やしたことで、学生および教員の安全管理意識をさらに高めることに繋がった。今後も継続していく体制を構築していくことが課題である。	
6	FD・SD	健康栄養学科新人実験指導助手向けの安全講習会	今年度は健康栄養学科の実験指導助手が大幅に入れ替わったことから、安全講習会を開催した。内容としては TA・SA 研修会と実験安全講習会の要点を加味した内容であった。	実験指導助手は任期制の職員であるため、今後も定期的に開催することが望ましい。	

3) 2023 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2022-Act, 2023-Plan

2020 年度に板倉キャンパスで起こった実験室における失火および爆発事故報告を受け、今年度も安全委員会と協力し、学生および教員に対する安全講習会を実施し

た。今後の授業運営を安全に行うためにも、引き続き安全講習会を開催することが重要であり、来年度も安全委員と協力し、安全講習会を計画していく。FD 研修会については、朝霞移転も近づく中で 2023 年度以降の本学部の状況に即したプログラム、教育の更なる質的向上を目指したプログラムの検討を行っていく。

1) 2022 年度 FD・SD 活動計画 / 2022-Plan

教育システムの高度化の推進、海外大学及び専門機関と連携強化、海外留学支援体制の充実、英語化推進、キャリア教育の充実を中期計画として打ち出しており、これに向けた活動の展開を図る。授業評価アンケート、シラバス点検、各種セミナー研修参加については、一層着実な定着を図る。また、ポストコロナにおける授業内容の向上を図るため、引き続き教員間の情報共有の強化と授業における ICT 活用研修会の開催及び積極的な参加、クォーター制を活かした「反転授業」のようなオンラインと対面授業の適切な組み合わせの工夫、学生とのインタラクションの強化を講じる。

2) 2022 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2022-Do, Check

No.	FD・SD 区分	活動名	概要 (Do)	成果・課題 (Check)	参加 者数
1*	FD	学修成果測定指標による検証や成績分布の把握等	6 月 14 日 (火) 15:00 より、高等教育推進課協力のもと、学修成果システム利用説明会を webex にて実施し、以下の点について説明を受けた。 ・基本的な使用方法の説明 ・自己点検・評価活動報告書の作成に伴う操作・確認ポイントの説明 ・学修成果システムおよび自己点検・評価報告書作成に関する質疑応答 (共催：自己点検・評価活動推進委員会)	学習成果システムの利用により、学生の単位取得状況、学修状況、科目群ごとの GPA (成績) 分布、入試分類別の TOEIC 点数把握など、英語化が進展している本学部独自の、学生の学習成果の検証や把握が、短時間でできることが周知された。教員の把握や検証については、諸会議や委員会などで周知が可能であるものの、学生側の把握については、教育機関であるがゆえに、システム設定とその学生の活用の間にタイムラグがあり、課題が残る。	40

2*	FD	授業評価アンケート	例年どおり授業評価アンケートを実施した。専任教員はクォーター・学期の期間内で2科目以上を、非常勤講師は1科目以上を選定している。アンケート項目には高等教育推進センターが策定する全学共通の項目に加えて、学部独自の項目として次の7つを設定した： ・E1. 専門知識や用語は分かりやすかったですか ・E2. 授業は要点をとらえた説明になっていましたか ・E3. 教員は授業へ熱心に取り組んでいましたか ・E4. 教員の学生の質問に対する対応は適切でしたか ・E5. 授業内容に触発され、自分でさらに調査・学習をしてみましたか。 ・E6. 教材は読み易かった（見易かった）ですか ・F. 本授業で①特に良かった点、②改善できると思われる点、③最も印象に残ったトピックとその理由を具体的に記述してください。または④授業全体を通しての感想や要望でも構いません。なお、回答欄には、「1.、2.」や「3.」とわけて記載して下さい。	原則対面の授業に戻りつつも、非対面形式での授業も、一部で併用する形式をとり、授業評価アンケートの全学共通項目は前年に引き続き非対面形式に合わせた項目と、対面形式に合わせた項目とを併用することで実施された。学部独自の項目は、例年と同じ項目でアンケートを行った。しかし、一部、非対面形式で受講した学生からの回答についても、少数意見とすることなく、各教員が、過去2年間の非対面授業並びに、それ以前の対面授業との比較、課題の検証を行うことができた。次年度は、より一層、非対面授業の縮小と、対面形式主体の授業形態が中心となることが予測される。原則、対面の授業形態となることが求められる中で、非対面形式の縮小を踏まえながら質的水準の維持・確保が求められ、縮小に対し、今回のアンケート結果を、活用していくことが課題である。	全員
3	FD	シラバス点検	今年度も専任教員全員によるシラバス第3者点検会は実施せず、各教員がチェックリストをもとにセルフチェック及びスクリーニングチェックを行った。なお、発展レベルの点検項目における「一定項目数の充足の達成有無」の項目数については3項目以上の達成を目標として設定	過年度より継続して担当している各教員については、チェックリストの条件をすべて満たしており、第3者による点検は必要なかった。標準レベルの内容については既に学部が定めた基準を充足しており、これからは発展レベルにおいて達成すべき特定項目の優先順位や項目数を	全員

			し実施した。上記チェックの結果、基準に満たなかったシラバスや新任教員の担当科目などを対象に、FD 委員会における第3者点検を実施することとした。	徐々に決めていき、シラバス内容の充実を図る必要がある。新任教員の担当科目についてはFD 委員により第3者点検を行い、基準を満たすシラバスとなるよう修正依頼を実施した。	
4	FD・SD	外部講師招聘によるFDに関する講演と研修	サービス・ラーニングについて、外部講師を招聘し、「大学教育におけるサービス・ラーニングの近年の動向（講師：黒沼敦子氏）」とのタイトルで、12月13日（火）15:00より、本学白山キャンパス（5B12教室）で講演会兼研修をおこなった。教員の、オンライン参加も可能とした。内容は、以下の通りである。 ・サービス・ラーニングの原理 ・サービス・ラーニングの展開（米国・日本） ・取り組み事例紹介と今後の展望 ・質疑応答	ボランティアとインターンシップの中間に位置し、①リフレクション、②互惠性、③変容性を特徴としながら、進展していること、1960年代から米国で発祥し、日本には、21世紀に入り、一部大学で導入していること、中でも、2016年からのJSSLプログラムが、典型例であることが、国際学部教員に対して、紹介された。まだ、導入校の事例が、日本では少数であるため、サービスラーニングを学部で今後どのように認知度を高め、展開・定着を図るか課題である。	36
5	FD・SD	ハラスメント研修	10月11日（火）15:00より、Webexにてハラスメント相談室主催のハラスメント防止研修会を実施した。 内容は、以下の通りである。 ・ハラスメントの動向（判例紹介、社会的損失） ・人権の視点から見たハラスメント ・ハラスメントのタイプ（ジェンダー、パワー、アカデミック） ・アンガーマネジメント ・これまでの事例と事例を通じて学ぶ	一般的なハラスメントの事例紹介とその防止策についての説明に加えて、本学でのハラスメント防止のための体制（相談室の存在とその機能）についての説明もあった。 近年、日本でも性の多様化に対応した、「ジェンダーハラスメント」、2020年春からのオンライン授業の増加による「リモートハラスメント」など、それまでは認識されることの少なかったハラスメントの事例が紹介されたが、留学生比率が、比較的高く、ハラスメントについての認識も多様である本学部の授業に、日本人講師によりおこなわれた研修を、どう活用させていくか、整合の上で、課題が散見された。	全員

6	FD・SD	RDS 学科リトリート	3月24日（金）9：30より、全学カリキュラム再編と本学科の整合性をとるために、国際地域学科のリトリートをおこなう。分科会テーマは以下の通りである。 ・外国語教育、 ・卒業論文 ・フィールドワーク ・留学 ・イブニング	前回開催から5年が経過した中で、高等教育の変化と学生層の変化を踏まえた上で、今後の学科運営について議論予定である。全学と本学科の整合性（クォーター制の存否、イブニングと昼間授業の関係、教員の授業数の多さなどの要因とする、教育の質の担保の有無）をどのようにしていくかは、依然として大きな課題点である。	RDS 全員（退職予定者を除く）
---	-------	-------------	--	--	------------------

3) 2023 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2022-Act, 2023-Plan

クォーター制度の存否と教育の質の担保という本学部独自の課題、GINOS における英語講義内容の高度化、海外留学必修化（一般学生）、R D S におけるカリキュラム再編と教育の質の担保などの諸課題については、P D C A により、効果を検証し、引き続き改善を図っていく。2022 年度入学の高校生向けの高校学習指導要領の改訂（プログラミング、地理などの新規科目の高校での必修化）に対応した本学部の授業のあり方については、2 年後に、新指導要領における高校教育を受けた学生の入学が迫っていることから、引き続き、F D 研修参加やセミナーをおこなう。例年、おこなわれている授業評価アンケート、シラバス点検、各種セミナー研修参加や開催は、2023 年度もおこなう予定である。RDS については、2023 年 3 月におこなわれる学科リトリートの議論を踏まえて、関連する F D 研修参加や開催をおこなっていく。

4) その他

1) 2022 年度 FD・SD 活動計画 / 2022-Plan

2022 年度の計画では、学部のビジョンや教育方針、組織の在り方を再考する機会とすることを目的とするために、

①授業評価アンケート、②1 年基礎ゼミ教育を考える、③シラバス点検会、④学修成果測定指標による検証および成績分布の把握の 4 点を計画していた。

コロナ禍の影響の把握や今後の対応などの議論の必要性から再検討した結果、①授業評価アンケート、④観光系学部の入試状況の把握と今後の学生獲得に向けた議論、

③観光基礎演習（1 年基礎ゼミ）の振り返りと改善、④シラバス点検会、の 4 点の実施を計画した。なお、当初計画にあった学修成果測定指標による検証および成績分布の把握については、自己点検・評価活動推進委員会が別途実施した。

2) 2022 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2022-Do, Check

No.	FD・SD 区分	活動名	概要 (Do)	成果・課題 (Check)	参加 者数
1*	FD	学修成果測定指標による検証や成績分布の把握等	学部内の自己点検・評価活動推進委員会において、「学修成果の検証」に焦点を当てて、自己点検・評価報告書の作成に反映することを目標に、学修成果測定指標の検証を行った。 2022 年 7 月 14 日 (木) 13:00～15:00 冒頭には高等教育センターの担当職員の方をお招きして、学修成果指標のデータの読み解き方について説明をいただき、その後、学部の学修成果指標のデータについて、学部内で意見交換をした。	学修成果指標を確認するシステムの利用方法および実際のデータの見方について共有した。まだ 1 年分のデータのみであったが、今後の活用方法や、現状の学部の成績つけ方についての現状の共有などの議論を深めることができた。今後も継続して議論を深め、2025 年度カリキュラムにも活かせるように検討していきたい。	25
2*	FD	授業評価アンケート	春・秋の各学期に本学高等教育推進センターによる授業評価アンケートを実施した（春学期：123 科目、秋学期：117 科目）。また、アンケート結果を受けて、学生に対してフィードバックコメントを入力した。春学期は、学生に対しコロナウイルス流行下において、観光業界につ	アンケート結果に基づき、各教員で授業改善に取り組んでいる。アンケート結果については保存しておき、授業の質の向上に向けて活用していく。	84

			いてどのように感じているかをアンケートし、就職支援等にも活用できるようにした。		
3	FD	第1回FD活動「観光系学部の入試状況の把握と今後の学生獲得に向けた議論」	「観光系学部の入試状況の把握と今後の学生獲得に向けた議論」と題して外部講師による講演及び学部教員によるディスカッションを実施した。 開催日時：2022年7月21日（木）13：00～15：00 実施方法：ハイブリット形式（対面中心でオンラインも併用）にて開催 【第一部】予備校大手河合塾系列会社である株式会社 KEI アドバンスの平野史朗氏（本社営業部本社営業第一グループ次長）による、本学部の入試状況についての講演。詳細なデータに基づき、特にコロナ禍において観光系の学部として競合している他大学・他学部との比較・分析を中心にした説明から、本学部の状況を客観的に把握することができた。講演後の質疑応答の時間では、受験生から見た本学部のイメージや専門家が感じる本学部の特徴などについての具体的なやりとりが活発になされ、本学部の入試の現状と将来の見通し・課題について貴重な示唆が得られた。 【第二部】第一部の内容を踏まえ、学部長以下学部教員間で今後の学生獲得に向けたディスカ	本学部のポジションや今後の課題などが明白となり、教員間で共有された大変貴重な機会であった。一方で、今後の戦略やそれに伴う各教員の教育のあり方などについての議論は今後も時間をかけてさらに深めていく必要がある。	29

			セッションが実施された。今後の本学部の推薦入試についてのあり方や本学部を差別化するためのイメージ戦略について、1 時間以上にわたり、さらに活発に意見交換がなされた。		
4	FD	第 2 回 FD 活動 観光基礎演習（1 年基礎ゼミ）の振り返りと改善	2022 年度に始まった共通シラバスでの観光基礎演習（1 年基礎ゼミ）の振り返りと改善のために、担当教員を対象とした Web アンケートを実施した。提出された意見をもとにして、FD 委員会で共通シラバスの修正版と参考資料リストを作成し、担当教員に共有した。 実施スケジュール： ・2022 年 11 月 10～24 日：Web アンケート（Google Form）による感想・意見の収集 ・2022 年 11 月後半：①アンケート結果のレポートを作成 ・2022 年 12 月 5 日：会議にてレポートの報告 ・2022 年 12 月 6～14 日：②共通シラバス修正版と③参考資料リストを作成 ・2022 年 12 月 19 日：②と③の確定版を担当教員に共有 Web アンケートでの質問項目： ・講義スケジュール（特に第 1～5 回の共通部分）について、ご意見・ご感想があればご回答ください。 ・学習到達目標や実際の学習効果について、ご意見・ご感想があればご回答ください。 ・その他、次年度へ向けた改善案など、何かご意見がございましたら、ご回答ください。	アンケート結果により具体的な改善点がわかり、共通シラバスの修正や参考資料リストの作成ができた。来年度の授業の質のさらなる向上が期待される。	9

5	FD	シラバス点検	活動実績 シラバスは、授業の方法及び内容、全授業の計画並びに学修の成果に係る評価の基準を学生に示すものであると同時に、カリキュラムの実施において学修の質を向上させることが第一の目的となっている。またそれを公表することも義務づけられ、外部からの評価にも堪えるものを作成する必要がある。この目的の達成のために 2021 年度より、スクリーニング・チェックの実施を行うこととなっており、また、コロナ禍において、対面でのシラバス点検の実施が難しい状況になっていることも鑑み、2021 年度に引き続き、オンラインでのシラバス点検を行った。 1. シラバス点検の対象とする科目 ・シラバス入力者自身によるスクリーニング・チェックにおいて、学部として達成すべき項目の充足に不安が生じている、と申告のあった科目。 ・2023 年度新たに開講した科目 ・非常勤講師担当科目 2. 点検実施方法詳細 ・グループ分け（語学、観光政策・ツーリズム領域、ホスピタリティ領域） 各グループ内で点検の分担等について検討いただく。 ・シラバス点検対象科目一覧及びシラバスデータを Google Drive 等を利用し提供。 ・点検方法 シラバスチェックシート（第三者）	スケジュール通りにシラバス点検を実施することができた。これからもシラバスの質の向上およびシラバスに基づいた授業実施による授業の質の向上につなげていきたい。	37
---	----	--------	--	--	----

			に基づき、点検する。 ・点検結果報告方法 シラバス点検報告書を教務課まで提出（Google Drive に格納） 修正の必要なシラバスについては、グループ内で修正情報を共有いただく。 3. スケジュール 1月30日（月） 教員グループ表およびシラバス点検対象科目一覧を配信 1月30日（月）～2月7日（火）未入力督促・点検準備 2月8日（水）～2月15日（水）シラバス点検期間 2月16日（木）シラバス点検報告書提出〆切 2月16日（木）～順次シラバス修正が必要なものを修正 ～2月28日（火）シラバス入力最終〆切		
6	FD・SD				

3) 2023 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2022-Act, 2023-Plan

学部教育の質向上を図るため、引き続き①「授業評価アンケート」と②「シラバス点検」を実施する。

また、FD 活動として、③「25 カリに向けたディスカッション」を実施し、2025 年度の新カリキュラムについて、学部教員から広く意見を聴取する。①は7月と1月にそれぞれ実施後、対象科目担当教員はフィードバックをおこなう。

②は 2022 年度と同様のスケジュールで 2 月中に完了予定である。③は 8 月の開催を予定している。

1) 2022 年度 FD・SD 活動計画 / 2022-Plan

2022 年度は、新カリキュラムにおいて新たに必修化された数理系科目や、増強された情報連携学概論などの 1 年次配当科目を、学部全体の教育との関係性や学生の学修成果を検証しながら構築していく。

また、2023 年次から専門科目がコース制から科目群制に変更になることに伴い、学部長を中心に、前述した分野ごとのカリキュラムに関する打ち合わせにおいて対面、Web、SNS を活用して議論を重ね、新しい教育内容を学部全体として体系的に構築していくこととする。

2) 2022 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2022-Do, Check

No.	FD・SD 区分	活動名	概要 (Do)	成果・課題 (Check)	参加 者数
1*	FD	第 1 回教授会「数学学力テスト結果、再テスト、補習について」(4/13) 第 4 回教授会「数学学力テスト結果及び「数学Ⅲ」の夏季講習について」(7/6)	新入生の入学時の数学学力テストの結果の分析や、補習・再テストの実施計画、春学期中の再テストの結果の分析、夏季講習の実施などを共有、議論した。	学部全体として、学力テストの合格率が向上してきていること、コンピュータ・サイエンス教育の前提となる高校数学の理解度合を共有するとともに、学力が十分でない学生への対応等を協議することができた。	26 名 28 名
2*	FD	FD 研修会「INIAD の授業運営上の課題と今後の方策について」(8/3)	対面講義の増加に伴い、一部の学習のモチベーションの低い学生に積極的でない授業態度や出席不正などが散見されることから、授業運営のあり方や出席管理の厳正化などについて協議した。	学生への指導方法や出席管理の基本方針を学部として共有し、秋学期後半から厳正な取り扱いを導入した。なお、本件は継続的な課題として、第 9 回教授会 (11/30)、第 12 回教授会 (3/1) でも継続的に議論された。	34 名
3	FD	第 7 回教授会「今後の卒業論文の運用について」(10/5) 第 10 回教授会「今後の卒業論文のあり方について」(1/11)	卒業論文の質や各教員の指導方法、コースの指導体制にばらつきがあることから、今後、卒業論文をどのように運用していくか、どのようなあり方が望ましいかについて意見交換を行った。	卒業論文を前向きにとらえている教員がほとんどである反面、負担をばらつき、どこまで学生を指導するかという点は課題となっており、執行部において引き続き検討し、2024 年度にも学部として議論していくこととなった。	27 名 28 名

4	FD・SD	執行部と各科目群の教育内容についての打ち合わせ（1月～3月）	執行部と各科目群（7+1）が、各科目群での教育内容や教育方法について、それぞれ2回～3回のミーティングを開催し、シラバスやカリキュラムマップを元に、教育内容やカリキュラムの体系性などの点検や議論を行った。	科目群内の教育内容、体系性だけでなく、科目群で重複している内容や、全体で不足している内容、科目群間での連携などについて議論が深まり、教育内容の改善を行うことができた。	
5	FD・SD	FD研修会「各科目群＋数理系科目の教育内容について」（3/22）	上記で作成した各科目群の教育内容やカリキュラムマップを、学部全体で共有することで、科目群間、科目間の連携や教育内容の充実を図った。	分野の異なる教員同士が情報共有と議論を行うことで、学部全体のカリキュラムや教育内容の方向性を共有できた。また、生成系AⅠなどの新規の課題に対して、これをどう教育に取り入れていくかの議論を行うことができた。	28名
6	FD・SD				

3) 2023年度FD・SD活動実施計画 / 2022-Act, 2023-Plan

2023年度は各科目群の教育内容の充実を図るとともに、生成系AⅠを学部の教育にどう取り組んでいくかについて、その教育内容や方法を学部全体のFD活動として取り組んでいくこととする。

4) その他

研究科/センターFD・SD 活動報告書

1) 2022 年度 FD・SD 活動計画 / 2022-Plan

文学研究科長のイニシアティブと 2021 年度に策定された「2022 年度 FD・SD 活動実施計画」にもとづき、2022 年度は研修会と大学院生対象アンケート調査を中心に FD・SD を進めた。

2) 2022 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2022-Do, Check

No.	FD・SD 区分	活動名	概要 (Do)	成果・課題 (Check)	参加 者数
1*	FD・SD	障がい学生支援の現状について ～学生相談における障がい学生の現状～	2022 年 10 月 19 日開催の上記研修会では、本学キャンパスソーシャルワーカーの梅田典子氏を招いて講演会を実施した。まず学生サポート室の個別カウンセリングや対応体制、合理的配慮の調整のための関係者会議といったシステムの説明があった。次に、利用者は合理的配慮を依頼している精神・発達障がい学生の大半であり、過去 5 年間の利用実績や実際の学部生への対応事例とともに合理的配慮の考え方（同じ土俵でチャレンジするためのサポートの形であり、えこひいきをしたりルールを変えることが趣旨ではないこと）が紹介された。最後に、大学院生は学部生よりも指導教員との関係や個別・閉鎖的になりがちなため、学生も教員も孤立することのないよう、組織で支える「ネットワーク型支援」が求められることの説明があった。	合理的な配慮を要する学生は、学部においては増加傾向にあり、各教員の対応事例も増えている。今後、文学研究科所属の大学院生においても増加が予想されるなか、直接、学生と面談をしている現場からの具体例に基づきフィードバックを得られたこと、対応していくための「合理的配慮」の概念が示されたこと、学部に対して大学院生が個別・閉鎖的な研究指導環境におかれがちな点が明確化されたことは、各教員の学生支援への認識を新たにする点で貴重な機会となった。今後もこうした講演会の継続が期待される。	46 名 (文 研委 員 40 名 + 職員 6 名)

2*	FD・SD	障がい学生支援の現状について ～学修面・進路に関する困りごと～	2022 年 11 月 16 日開催の上記研修会では、前回に引き続き本学キャンパスソーシャルワーカーの梅田典子氏による講演会を実施した。今回は学修面・進路に関するテーマであった。まず、課題・論文等につまずきを覚える理由として「集中力に欠ける」「物事の優先順位がつけられない」「生活リズム不安定」「情緒不安定」といった理由が説明され、これは進路選択においても影響を及ぼすとの説明があった。これに対応するためには授業・試験・課題・論文執筆など場面ごとに対応が必要であること、特に大学院生で大きなウエイトを占める論文執筆には「本人の主体的な意思決定」「モチベーションの維持」「指導教員とのコミュニケーション」「論文作成プロセスの個別性」などの配慮点があり、今後配慮を要する学生の増加が見込まれるため「見通しを持ちやすい情報提供」「適宜計画の修正」「定期的なコンタクトの設定」「個別対応や支援経験の共有」といった対策が必要であることが説明された。	前回同様、合理的配慮を要する事例について、特に大学院生にとって個別・閉鎖性が高いといわれる学修面の支援にポイントを絞った説明があった。折しも 11 月は、大学院生によって研究指導の深まりや論文執筆の本格化がみられる時期であった。合理的配慮を要する事例の背景要因と、その対応策を併せて提示いただいたことは、各教員にとって研究指導上の留意点を再認識し、かつ合理的配慮の観点からの確な指導方法を考察する手法を学び得た点で、指導力・支援力の向上に大いに資するものになったといえる。 今後、実際に各教員が直面した個別具体的な事例をもとに、その背景要因をいかに分析し、いかなる対応方針のもとで研究指導をアレンジしていくか、という情報共有と検討の機会が設けられるべきであろう。	42 名 (文 研委 員 40 名 + 職員 2 名)
3	FD	文学研究科に在籍する大学院生を対象とするアンケート調査の実施	1. 文学研究科に在籍する大学院生を対象とするアンケート調査の実施 実施期間: 2023 年 1 月 7 日～1 月 30 日に ToyoNet-ACE にて実施 回答者および回答率:文学研究科在籍大学院生総数 95 名のうち 25 名 (26%) 2. アンケート結果概要アンケート回答者のうち、本研究科での授業や指導について「非常に良い」「概ね良い」と答えた割合は 92%であった。昨年度の約 80%から上昇したものの、コロ	徐々に対面による研究指導が可能となっているなか、教育・研究環境の充実を求める大学院生の声に耳を傾けつつ、さらなる研究指導の充実を図ることが課題といえる。特に、図書館の充実や共同研究室の利便性向上などは、その要望を各専攻・研究科として受け止め、改善につなぐ道筋(担当者や取り組み)を考える契機としてもよいだろう。 また、アンケート実施と結果共有は大変有意	

			ナ前の 2019 年の 96.7%には及ばない。徐々に 対面指導が戻りつつあるが、さらに研究指導の 内容充実を期していくことが課題といえる。自 由記述には「大学と比べて人数が少ないため、 教授とのコミュニケーションが取りやすい」と の好評がある一方、「専門科目を充実にして欲し い。図書館の資料を充実させて欲しい」「院生共 同研究室がコロナ対策のため予約制となり大変 使いづらい」「共同研究室で何ができるか・でき ないか・備品等の周知がなされていない」など の記述も見られ、図書館・共同研究室における 研究支援体制にも意を用いるべきとの課題をう かがい知ることができた。 3. 上記調査結果のフィードバック 2月22日 開催の文学研究科委員会において上記の回答結 果を資料で配布し、結果と課題の共有を行った。	義であった。一方で、アンケートの回答率を上 げるための工夫を他研究科の事例も参考にしな がら検討していくことが課題として確認され た。	
4	FD				
5	FD・SD				

6	FD・SD				
---	-------	--	--	--	--

3) 2023 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2022-Act, 2023-Plan

大学院教育において教員が直面する課題、外国人院生の増加に伴う研究指導法、ハラスメント防止、研究倫理や Scopus に関する知見、外部評価の実施準備などに関わる講演会を開催する。多数の大学院教員の参加を得るために、研究科委員会開催日に委員会の前の時間帯などに実施する。あるいは研究科委員以外の大学院担当教員の便宜も考慮し、文学部との共催も模索し、教授会開催日に会議の前に実施することの検討してみたい。実施は高等教育推進委員を中心に企画を立案し、研究科委員会や専攻長会議などで検討した上で、周知・遂行を図る。また昨今の COVID-19 の状況に応じて、リモート開催の経験も積んだので、オンタイムだけでなく、録画視聴などの方式も検討し、多くの教員が研修に参加できるような方法を模索する。また、合理的配慮者とりわけ、発達障害など心理的・精神的に格別な配慮を必要とする院生が今後さらに増加すると予想されるため、そうした院生に対する関わり方も併せて、学んでいく。

4) その他

1) 2022 年度 FD・SD 活動計画 / 2022-Plan

2022 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2021-Act, 2022-Plan (2021 年度 FDSD 報告書より)

(経済学専攻)

- ① 引き続き年度 2 回（春学期、秋学期）の授業評価アンケートを実施し、FD 会合や研究科委員会の場合においてアンケートで得られた問題点・課題を教員間で共有する。回答率 100%を目指し、さらにアンケート項目作成段階から各教員の参画を促す。
- ② 博士前期課程・博士後期課程合同の研究発表会・修士論文発表会・博士論文報告会における指導教員以外の参加も積極的に促す。
- ③ 2021 年度 FD 会合で提示された論点（オンラインの活用など）について、FD 会合や研究科委員会で継続的に議論をする。

(公民連携専攻)

- ① 年度 2 回（春学期と秋学期）授業評価アンケートを行い、学生評価結果を全教員に送付して要望への回答を記載した後、全院生にフィードバックする。
- ② 修了予定セメスターのはじめと最終時点で、院生も参加できる中間報告会、最終報告会を開催し、主査・副査以外の教員も含めてコメントすることで、教員の指導の質の向上と標準化を図る。また、主査・副査間の意見交換を積極的に推奨する。
- ③ 専攻担当教員による専攻担当教員会議、客員教員を含めた拡大専攻担当教員会議を定期的に開催し、授業運営等を検討する機会を設定する。
- ④ 一般参加者からも意見を得られるよう授業を公開する連続トークを実践する。また、ゼミ活動の成果等を発表する発表会を開催する。

2) 2022 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2022-Do, Check

No.	FD・SD 区分	活動名	概要 (Do)	成果・課題 (Check)	参加者数
1*	FD	(経済学専攻) 院生の教育研究・キャリア指導	2022 年 11 月 17 日 (木) に「院生の教育研究・キャリア指導」をテーマとして、経済学専攻教員の FD 会合をオンラインで開催した。経済学専攻教員 12 名が参加し、活発な討論が行われた。(当初の議題の測定指標については、少人数講義が多く、成績分布が大きな論点となることがないため、今回の議論は見送ったが、今後の検討課題としたい)	院生の教育研究・キャリア指導に関する Tips・事例集のようなものを作成する目的で、留学生・日本人院生をそれぞれ念頭に、①講義、②研究指導、において、a) 工夫・留意されている点、b) 困りごとなどを共有した。具体的には、工夫としては、講義や研究指導のコメントは毎回必ずメモして ToyoNet-ACE で共有する、オンラインで録画して確認できるようにする、実証分析ではプログラムを共有する、英語文献の精	12

				読には翻訳ソフトの活用が有効である、との意見も出た。データやコードが公開されている論文を教材に用いる、経済学専攻の教員がカバーしきれていない研究領域では、ランチセミナーのような形でより広くオーディエンスを集めるという提案もなされた。また、入学後に研究テーマが変更された場合の研究指導体制の柔軟な変更や、博士課程の院生（とくに留学生）の満期取得退学後の学位取得の道筋をどうするかといった点が課題として挙げられた。これらについては継続的に議論を重ねていく。	
2*	FD	（経済学専攻）授業評価アンケート	ToyoNet-ACE のアンケート機能を用いて春学期の 7 月、秋学期の 2 月の計 2 回実施した。回答結果を集計し、フィードバックコメント案を記載したものを 10 月および 2 月の研究科委員会で配布して報告し、改善点を洗い出して対応を図った。その後、アンケート結果と研究科委員会で了承されたフィードバックを ToyoNet-ACE 上で学生に公開した。	アンケート回答率は、春学期 77%、秋学期 67% であった。講義・研究指導に対する学生からの評価は概ね高かった。外部講師の講演や英語講義の増設などの要望も聞かれた。前期課程の院生の就職活動との両立、社会人院生の仕事との両立が課題として挙げられた。教員・院生間の交流も求められていた。来年度は、個々の院生の状況に応じた柔軟な研究指導体制を敷くとともに、院生全体に対するイベントを増やしていきたい。	春 17 秋 14
3	FD・SD	（経済学専攻）研究発表会の実施	博士前期課程・後期課程合同の研究発表会・修士論文報告会・博士論文報告会を春学期に 5 回、秋学期に 7 回、計 12 回 8204 教室およびオンラインで開催した（詳細は別添 2022 年度活動記録一覧（経済学専攻）の通り）。毎回、教員・学生間で活発な討論が行われた。	前期課程の学生は全員参加が義務付けられており、後期課程の学生も積極的に参加するため規模の比較的大きな研究会である。教員ばかりでなく学生からも厳しい質問やコメントが出され、白熱した討論となった。指導教員を含めた参加教員が議論をリードし、さまざまな観点からコメントすることにより、FD 効果の向上が図られた。さらに 1 月の「修士論文最終発表会（口	

				述試験)」においては、多数の教員が同席し質問・コメントすることで、相互に指導能力の向上が図られた。今後は、当日発表者の指導教員（主査・副査）以外の教員の参加をさらに積極的に促すことが課題である。	
4	FD	（公民連携専攻）授業評価アンケート	年度2回（春学期と秋学期）行い、学生評価結果を全教員に送付して要望への回答を記載した後、全院生にフィードバックした。	専攻開設当初より実施している。社会人が主であるため単なる要望ではなく建設的な評価や提案も多い。改善点は、それぞれの教員に委ねている。今後とも継続していく。	院生・教員計32
5	FD・SD	（公民連携専攻）論文報告会	修了予定セメスターのはじめと最終時点で、院生も参加できる中間報告会、最終報告会を開催し、主査・副査以外の教員も含めてコメントすることで、教員の指導の質の向上と標準化を図った。また、主査・副査間の意見交換を積極的に推奨した。	論文報告会では主査・副査以外の教員もコメントできることが特徴である。PPP は分野横断的な学問であり、理工系や法律等他分野からの示唆が大きな意味を持っている。現状多数の教員の参加が得られている状態ではないので、教員への協力を促す予定。 院生には早期の論文着手を推奨しているが、仕事に忙殺されて4セメスターに入ってから本格化するケースが多く中間報告会時点でのパフォーマンスの低さが課題である。現在任意に実施しているプレ報告会（3セメスター）の格上げ等は検討したい。また、中間報告会、最終報告会時点で要求される達成水準をループリックで表現するなど工夫を図りたい。	春22秋32
6	FD	（公民連携専攻）専攻担当教員会議・拡大専攻担当教員会議	専攻担当教員による専攻担当教員会議、客員教員を含めた拡大専攻担当教員会議を定期的に行い、授業運営等を検討する機会を設定する。	研究科委員会審議事項とする重要事項についてはあらかじめ専攻担当教員会議を開催して意思決定を行っている。24年度より開始予定の「将来構想」を踏まえて、人事、入試要項等の審議を行った。審議事項は研究科委員会にて正式に	

				審議され意思決定される。 また、専攻の過半を非常勤教員が占めることに鑑み、大学としての方針の徹底を図るために年2回拡大専攻担当教員会議を開催した。この場合はFD 会合も兼ねており、非常勤教員からも教育上の課題について随時質問を受けられる場となっている。 いずれも将来構想の教育システム変更を受けて行われるものであり、平日のオンデマンド・オンライン、土曜日の集中対面における教育指導のあるべき姿や課題、対処方法を議論した。将来構想による変革は専攻始まって以来で、かつ、全学的にも例のないもので、今後具体化する中でも引き続き議論を続けたい。なお、議論の場はこのほかにアンケートの実施も行いたい。	
7	FD	(公民連携専攻) 連続トーク・PPP 成果発表会	一般参加者からも意見を得られるよう授業を公開する連続トークを実践した。 また、ゼミ活動の成果等を発表する発表会を開催した。	連続トークは、教員の負担が増えないよう、また、一般も参加しやすいように、別に講演会を企画するのではなく、2022 年 10 月～2023 年 1 月に通常の授業を公開する方式を採用した。これにより、事実上の公開講義となり専攻の PR にもなった。今後も同様の方式を続ける。 PPP 成果発表会は、ゼミや科目ごとの課外活動の成果を一般公開するイベントとして1月31日に実施した。一般的な PR 効果もちろんあるが、参加する院生のモチベーションになっているという面が大きく、今後も継続する。	延 100 名 以 上

3) 2023 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2022-Act, 2023-Plan

(経済学専攻)

- ① 引き続き年度2回（春学期、秋学期）の授業評価アンケートを実施し、FD 会合や研究科委員会の場合においてアンケートで得られた問題点・課題を教員間で共有する。回答率 100%を目指し、さらにアンケート項目作成段階から各教員の参画を促す。
- ② 博士前期課程・博士後期課程合同の研究発表会・修士論文発表会・博士論文報告会における指導教員以外の参加も積極的に促す。
- ③ 2022 年度の FD 会合において、オンラインによる授業の実践事例が多く教員から提示されたが、指導のさらなるスキルアップを図るため FD 会合や研究科委員会での討論を活用していく。

（公民連携専攻）

基本的には、現状の活動は費用対効果が高いと認識しており、改善を行いつつ継続する。ただし、24 年度からの改革にあたって F D 面でもかなりの工夫が必要となることは間違いない。以下の活動および、その他の活動においても、改革後にも教育の質を高めるために尽力して参りたい。

- ① 年度2回（春学期と秋学期）授業評価アンケートを行い、学生評価結果を全教員に送付して要望への回答を記載した後、全院生にフィードバックする。
- ② 修了予定セメスターのはじめと最終時点で、院生も参加できる中間報告会、最終報告会を開催し、主査・副査以外の教員も含めてコメントすることで、教員の指導の質の向上と標準化を図る。また、プレ報告会の実施、主査・副査間の意見交換を積極的に推奨する。
- ③ 専攻担当教員による専攻担当教員会議、客員教員を含めた拡大専攻担当教員会議を定期的に開催し、授業運営等を検討する機会を設定する。
- ④ 一般参加者からも意見を得られるよう授業を公開する連続トークを実践する。また、ゼミ活動の成果等を発表する発表会を開催する。

4) その他

大学院 2022 年 研究活動報告 (報告期間：2022 年 1 月～2022 年 12 月) ※年度ではありません

経済学 専攻 氏名 久米 功一

- ※ この報告書は、専攻長が専攻の一年間の研究活動報告を代表してご入力下さい。
- ※ 研究発表（教員・院生）、講演会、シンポジウム、調査等について、添付の昨年度のものを参考にご入力下さい。
- ※ まだ実施していない活動については予定としてご入力頂き、詳細は校正時に補って下さい。
- ※ 学生の所属する課程は「**博士前期課程**」「**修士課程**」「**博士後期課程**」を正確にご入力下さい。

日時	開催場所	講演会・研究会名など開催されたことの内容を簡潔にまとめ、そのあと発表者、テーマ、参加者数などその様子をご報告下さい。
6 月 2(木) 16 : 30-18 : 10	8204 教室および Webex によるオンライン開催	春学期論文発表会（第 1 回）(M2 の修士論文中間報告、質疑応答含め各 30 分) (1) 小山 竜輝 (M2) 健康指標と経済指標の相関関係と因果関係の推測 (2) 銭 嘉瑩 (M2) 家庭の経済・就業状況と子供の生活・教育 (3) 由富 康平 (M2) 戦後の若松港の石炭積出港としての重要性について 教員 6 名、学生 14 名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
6 月 9 日(木) 16 : 30-18 : 10	8204 教室および Webex によるオンライン開催	春学期論文発表会（第 2 回）(M2 の修士論文中間報告、質疑応答含め各 30 分) (1) 金 麗 (M2) 「訪日中国人観光客の旅行需要の決定要因」 (2) 千葉 美加 (M2) 「年金基金ポートフォリオの資産構成の検証ーオルタナティブ投資の有効性について」 (3) 石 雨 (M2) 「中国の GDP、観光、エネルギー消費の CO2 排出量への影響」 教員 5 名、学生 14 名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
6 月 16 日(木) 16 : 30-17 : 40	8204 教室および Webex によるオンライン開催	春学期論文発表会（第 3 回）(M2 の修士論文中間報告、D2 の論文中間報告、質疑応答含め各 30 分) (1) 孟 子涵 (M2) 「産業集積における日本自動車企業のアジア立地に与える影響」 (2) 葉 青 (D4) 「中国における都市農村間所得格差の要因分析 家計の各種所得を視点として」 教員 6 名、学生 16 名が参加し、活発な質疑応答が行われた。

6月23日(木) 16:30-17:10	8204 教室および Webex によるオン ライン開催	春学期論文発表会（第4回）(M2の修士論文中間報告、質疑応答含め各30分) (1) 伊藤 翼 (D3)「障害者の生活・就労問題に関する定量的分析のうち、家族の障害発症が家計の労働供給に与える影響」 教員4名、学生17名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
6月30日(木) 16:30-18:10	8204 教室および Webex によるオン ライン開催	春学期論文発表会（第5回）(D3の論文中間報告、質疑応答含め各30分) (1) 阿部 真也 (D3)「いわゆる「AI生成物」の著作権帰属に関する制度研究」 (2) 肥田 親治 (D5)「特定産業におけるブランド戦略の有用性についての研究 - 携帯電話メーカーの商品戦略を考察」 (3) 水村 陽一 (D7)「規制改革による産業活性化と革新 - ドイツ手工業分野規制改革の全容」 教員4名、学生18名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
10月6日(木) 16:30-18:10	8204 教室および Webex によるオン ライン開催	秋学期論文発表会（第1回）(M1の論文中間報告、質疑応答含め各30分) (1) 賀 テイ (M1)「外国人労働者雇用率が企業利益に与える影響」 (2) 白銀 寛司 (M1)「最低賃金と貧困・消費への影響」 (3) 陳 北方 (M1)「新エネルギー車発展における中日自動車貿易研究」 教員3名、学生13名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
10月13日(木) 16:30-18:10	8204 教室および Webex によるオン ライン開催	秋学期論文発表会（第2回）(M1の論文中間報告、質疑応答含め各30分) (1) 陳 志凱 (M1)「地方銀行の合併あるいは経営統合が経営効率に与える影響」 (2) 嵯峨 菜々美 (M1)「自然眺望の経済価値」 (3) 呉 シン蕊 (M1)「グリーン購入に関する研究」 教員7名、学生13名が参加し、活発な質疑応答が行われた。

入力欄が不足する場合は、以下の表をコピーしていただき、行を増やしてご使用下さい。

10月20日(木) 16:30-18:10	8204 教室および Webex によるオンライン開催	秋学期論文発表会（第3回）(M1, M2 の修士論文報告、質疑応答含め各 30 分) (1) 謝 政霖 (M1) 「両面市場におけるプラットフォームの戦略について」 (2) 小山 竜輝 (M2) 「健康指標と経済指標の相関関係と因果関係の推測」 (3) 銭 嘉瑩 (M2) 「家庭の経済・就業状況と子供の生活・教育」 教員 5 名、学生 15 名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
10月27日(木) 16:30-18:10	8204 教室および Webex によるオンライン開催	秋学期論文発表会（第4回）(M2 の修士論文報告、質疑応答含め各 30 分) (1) 金 麗 (M2) 「地域振興における産業観光の効果—中国東北地域に産業観光実施可能性の検証」 (2) 千葉 美加 (M2) 「オルタナティブ投資の有効性についての分析—J-REIT と TOPIX のマルコフ・スイッチング・モデル分析—」 (3) 由富康平 (M2) 「高度経済成長期における内航海運の機帆船依存と産業政策」 教員 6 名、学生 15 名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
11月3日(木) 16:30-17:35	8204 教室および Webex によるオンライン開催	秋学期論文発表会（第5回）(M2 の修士論文報告、質疑応答含め各 30 分) (1) 孟子涵 (M2) 「産業集積における日本自動車企業の中国立地に与える影響」 (2) 石 雨 (M2) 「中国の観光産業における二酸化炭素排出量の定量化」 教員 5 名、学生 14 名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
11月10日(木) 16:30-18:10	8204 教室および Webex によるオンライン開催	秋学期論文発表会（第6回）(D1, D4 の論文報告、質疑応答含め各 30 分) (1) 越後谷 淑 (D1) 「中国における労働分配率上昇要因に関する実証研究」 (2) 高 キン (D1) 「中国における幸福度の評価と分析—農村戸籍から非農村戸籍への対象を中心として」 (3) 葉 青 (D4) 「労働力不足時代に入った中国農業における資本・労働関係の分析 日本の経験からの示唆」 教員 5 名、学生 18 名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
11月24日(木) 16:30-18:10	8204 教室および Webex によるオンライン開催	秋学期論文発表会（第7回）(M2, M4 の修士論文、D3 の論文報告、質疑応答含め各 30 分) (1) 阿部 真也 (D3) 「いわゆる「AI 生成物」の著作権帰属に関する制度研究」 (2) 肥田 親治 (D5) 「特定産業におけるブランド戦略の有用性についての研究 - 携帯電話メーカーの商品戦略を考察 -」 (3) 水村 陽一 (D7) 「規制改革による産業活性化と革新 - ドイツ手工業分野規制改革の全容」

		教員 4 名、学生 17 名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
12 月 15 日（木） 16:30－18:00	8204 教室	外部講師による特別講義を開催。 講師：(株) 日経メディアプロモーション 圓尾 弘和氏 テーマ：「最近の日本企業の事業活動と人材活用を読み解くーキャリア形成の一助として」 教員 1 名、学生 7 名が参加し、活発な質疑応答が行われた
1 月 12 日（木） 16:30－18:00	8204 教室	外部講師による特別講義を開催。 講師：国立台湾大学、東洋大学客員研究員 Cheuk Shing Leung 氏 テーマ：The Value of Social Insurance Programs in Japan:Quantitative Approach 教員 2 名、学生 7 名が参加し、活発な質疑応答が行われた
1 月 28 日（土） 13:00-16:00	8205 教室	2022 年度修士論文口述試験。論文提出者 7 名について、各学生による報告の後、試験官教員（12 名）より質疑応答を行った。各試験官の評価及び研究科委員会の審議を経て、これら 13 名の修士論文を合格とした。

1) 2022 年度 FD・SD 活動計画 / 2022-Plan

コロナ禍による懸念がまだ完全に払拭されない状況ではあったが、対面授業を中心に研究指導を行いつつ、昨年度の FD・SD 活動の結果や課題を踏まえて、今年度の活動を行う。

具体的には、授業改善については学生に対するアンケートの実施によって改善の余地・方向性を継続的に発見する。定例的に実施をすることで経年の変化を把握するとともに、より多くの回答・意見を収集する工夫も検討する。学生の研究報告会の定例的開催に関しては、修士論文の中間報告会・発表会、博士課程中間報告会・公聴会の実施を通じて学生の研究の進捗状況・研究成果を教員間で共有するとともに、研究の質を高める観点から学生・教員間、また教員間でも研究に関する意見交換・交流を行うことをより積極的に推進する。

2) 2022 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2022-Do, Check

No.	FD・SD 区分	活動名	概要 (Do)	成果・課題 (Check)	参加 者数
1*	FD	授業評価アンケート	本年度は、従来と同様の内容のアンケートを同様の方式で行うのではなく、まずアンケートの方式・内容の変更の検討を執行部・高等教育推進委員会委員で行い、その結果、選択式回答を主として質問項目を少なくすることで回答者の負担を減らし、加えて回答数の増加を狙った。また、アンケートの実施を試行的に google フォームによって行った。なお、回答数は 28 であった。	方式・内容の変更の結果、自由記述回答以外の全質問項目への回答結果の数値化が可能となり、問題の顕在化・可視化を図りやすくなった。また経年の比較もしやすくなると期待できる。課題としては、結果を専攻ごとに持ち寄り、教育を中心にした改善につなげるとともに、今回の実施に基づき次年度の方法・内容に関する検討を行うことが挙げられよう。回答者数をより多くする方策も検討すべきであろう。	回答 数 28
2*	FD・SD	学生の研究報告会の定例的開催とその際の教員の研究上の交流	専攻毎に年 1～2 回の報告会は元々教育上の観点からの実施であったところ、以前より慣行的だった「教員間の意見交換を通じた FD・SD 的活動」側面を今年度より強く打ち出し、報告会への他専攻・他コースの教員の参加を認めることとし、教員に FD・SD 観点からもより有意義	経営・マーケティング専攻では例年 2 回実施のところ今年度は 1 回に改めた。専攻毎の教育上の指針・状況に応じてであるものの、研究指導と教員 FD・SD の観点・バランスを踏まえて、妥当の回数・時期を継続的に検討して良いであろう。さらに、このような機会をより有意義に	

			な機会となるよう努めた。	するための工夫なども考えたい。報告会への教員の専攻横断的な参加は、ごく少数に留まったが、これまでそのような機会がなかったことを踏まえれば、一歩前進である。より多くの教員参加が今後の課題である。	
3	FD	研修会・講演会の実施	教員の教育・研究の質向上を念頭に置き、研修会・講演会として「デジタル化とデータ利活用時代に向けた知財マネジメントと大学院教育のあり方」（講演者：小川紘一先生（東京大学））を10月12日（水）に実施した。	コロナ禍によるここ数年の経験からリモート開催のハードルも低く、その意味でのメリットが講演者・参加者共にあったと同時に、参加者の研究促進・共同研究のきっかけの可能性を与える機会になった。一方リモート開催ゆえに、質疑応答やインフォーマルな交流に関しては限界があり、それを補完する工夫があるとより効果的になると考えられる。	24
4	FD・SD				
5	FD・SD				
6	FD・SD				

3) 2023 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2022-Act, 2023-Plan

A. 授業改善について

学生に対するアンケートの実施によって改善の余地・方向性を継続的に発見する。定例的な実施によって経年の変化を把握するとともに、より多くの回答・意見を収集する工夫も検討したい。このアンケートは、今年度行った改変の内容も改めて検討し、修正点があればそれを反映してよりものにしたい。

B. 学生の研究報告会の定例的開催を通じた教員の研究上の交流

修士論文の中間報告会・発表会、博士課程中間報告会・公聴会の実施を通じ、各学生の研究の進捗状況を教員間で共有し、同時に研究の質を高める観点から学生・教員間、また教員間でも意見交換を行う。

C. その他

FD・SD 的活動の余地がないかを常時検討する。FD・SD 研修会・講演会の実施もその一つであるが、FD・SD 的に資する題材・イベントがあれば、それら機会を積極的に取り上げ利用することを常に意識したい。

4) その他

1) 2022 年度 FD・SD 活動計画 / 2022-Plan

実務家による講演会を実施する。法学に関しては、理論と実務の双方を重視することから、単なる実務家による近時の実務の説明ないし報告を求めるのではなく、近時の実務について、アカデミックな観点から分析を加えた講演をお願いする予定である。そのため、実務一筋であった実務家ではなく、研究者としての実績もある実務家に講演を依頼する予定である。実施については、コロナ・ウイルスをめぐる状況について見通しが立たないことから、オンラインでの開催を前提として計画する。時間は 1 時間程度の講演をお願いし、その後 1 時間程度、質疑応答の時間をとる予定である。実施体制については、大学院執行部がオンライン会議の運営を担当する予定である。

2) 2022 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2022-Do, Check

No.	FD・SD 区分	活動名	概要 (Do)	成果・課題 (Check)	参加 者数
1*	FD	FD 講演会「理論と実務の架橋－実務家教員から見た法学教育」	元検察官で、現在東京都立大学法科大学院教授の峰ひろみ先生に左記テーマでの講演を行っていただいた。 すなわち、法学研究科における大学院教育の方向性がリカレント重視へと定められる中で、社会人院生との関係では、実務を踏まえた法学教育が求められることが予想される。そうしたことを前提に、実務家教員から教育上の工夫等についてご講演いただいた。 まず現在所属されている法科大学院での担当科目の概要が示され、実務科目が、単に実務的技術を身につけることだけを目的にしているわけではなく、理論を身につけるための手段として位置づけられていることや、受験対策に関心が集中しがちな学生にそれを理解させるための試行錯誤についてお話いただいた。具体的には、	講演の後の質疑応答においては、未修者教育の現状、事実認定を授業に取り入れる際の工夫、法曹倫理として重要なもの、法学研究科と法務研究科との相違、事例問題を作る際の課題、法務研究科修了後の法学研究科博士後期課程への進学、法務研究科における展開・先端科目の履修状況などについて質問がなされ、それぞれについて回答がなされた。 大学院における法学教育の共通テーマでもある「理論と実務の架橋」に対し、実務家教員ならではの視点と工夫が提示された。 法学は実学であり、実務を離れては、特にリカレント教育の対象としては価値が大幅に減殺されてしまうおそれがある。その文脈では、法科大学院を閉鎖した本学においては、教育に際しての実務の視点、実務感覚というものを教員	19 名

			ご担当の刑事訴訟実務の基礎や模擬裁判等を例に挙げ、手続遂行能力や事実認定能力を身につけさせるため、丹念に事実にあぐらさせ、そこから生じる問題について理論的な検討を行わせることで、実務を理解させるという手法が紹介された。そして、そのように学生に主体的に事実を検討させる作業を通じ理論を実体的に理解させることで、学生が授業に対して能動的にかかわるようになったとの報告もなされた。 そして、最後に司法試験改革と今後の課題についての分析も披露された。	が補充することができたという点で、教育の質の向上に大きく寄与することになったものと思われる。	
2*	FD	短期招聘外国人研究者講演会「テーマ：EU Corporate Social Due Diligence Directive Proposal—企業の社会的責任、注意義務、人権問題、サステナビリティなどについて—」（法学部と共催）	オランダ・マーストリヒト大学のマーク・T・カワカミ准教授に、左記テーマでのご講演を行っていただいた。 まずは、勤務されている大学の紹介を通じて、ヨーロッパにおける学部教育の目的と大学院進学の意義や現状の説明が行われた。 つぎに、近時注目を集めたいくつかの事件を題材に、SDGs という大局的な観点から、また、具体的な法適用という観点から、ヨーロッパにおける法感覚の現状を語っていただいた。特に、問題点についての出席者に対するアンケートを直ちにスクリーンに投影し、直ちにそれに関するコメントを行いながら講演を進めることで、出席者との議論が大いに活況を呈した。 なお、本講演については、テーマとの関係で法学部生にも有用であると考えられたため、法学部との共催というかたちを採り、法学部生の聴講も認めて行った。	コロナ・ウイルス蔓延防止との関係で、海外との対面による交流が制約されていた中で、ヨーロッパにおける法学教育の現状について直接議論を交わすことができ、その世界的な潮流について確認し、本学における教育において参考にすることができた。特に、事件処理の傾向については、今後の制約や立法の課題を考える上で、有用な資料となる者と思われる。 なお、法学部生に大学院進学の意義を語っていただくことで、大学院進学者確保のためにも役立った。	約200名

3	FD・SD	修士論文中間報告会および博士論文中間報告会	修士論文中間報告会を、私法学専攻および公法学専攻に分かれて、11月に各1回開催した。また、博士論文中間報告会を6月、7月、11月、2月の合計4回開催した。	院生の報告について、他分野を専門とする教員から質問や意見が出されることで、指導教員として、改めて学生に指導すべき点等に気づくことができ、また、学生にとっても論文内容の充実を図ることができ、大学院における指導の質の向上を図ることができた。	修論 中間 報告 会延 べ 36 名 博論 中間 報告 会延 べ 47 名
---	-------	-----------------------	---	--	--

3) 2023年度FD・SD活動実施計画 / 2022-Act, 2023-Plan00

大学院における集団指導をテーマに、そうした体制を実施している大学の研究者またはその問題に精通している教育学の専門家の講演会を実施する。これまで主指導教授を中心とした少数での指導体制に慣れているため、制度を変革しようとしても、イメージの構築や体制の整備が十分に進まないことが推認できる。したがって、実例などを挙げて講演を聴くことで、各教員がどのように改革を進めていけばよいかを実感できるようにするつもりである。実施については、コロナ・ウイルスをめぐむ状況について見通しが立たないことから、オンラインでの開催を前提として計画する。時間は1時間程度の講演をお願いし、その後1時間程度、質疑応答の時間をとる予定である。実施体制については、大学院執行部がオンライン会議の運営を担当する予定である。

4) その他

特になし

1) 2022 年度 FD・SD 活動計画 / 2022-Plan

① 組織検討ワーキンググループの活動

2021 年度末に、研究科内において、組織検討ワーキンググループを設置した。社会学専攻のコース編成について検討、人事面の強化についてのコンセンサス形成、将来の研究科のあり方についての検討という 3 つの目的をもうけ、7 名のメンバーから構成される。

2022 年度は、社会学研究科内でかえる組織上の課題を共有し、検討を進める予定である。

② 院生へのアンケート調査の実施

引き続き院生の意識、意見などを知るため実施する。アンケート結果の学生へのフィードバックにつとめたい。また、数年分のアンケート結果が蓄積されてきたことから、その経年的な推移にも着目して分析をすすめ、成果を教員にフィードバックして教育内容の改善に役立てる。

③ 社会学研究科研究活動推進委員による講演会の継続実施

一昨年度は留学生、今年度は国際化に焦点を絞った講演を依頼した。引き続き、課題に即した取り組みを行う。

2) 2022 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2022-Do, Check

No.	FD・SD 区分	活動名	概要 (Do)	成果・課題 (Check)	参加 者数
1*	FD	学修成果測定指標による検証や成績分布の把握等	指標を作成しようとしている。	いまだなし得ておらず、引き続き検討する。	
2*	FD	授業評価アンケート	2023 年 1 月 10 日~2 月 6 日にかけて、「2022 年度社会学研究科 授業評価アンケート」をオンライン (Google フォーム) で実施した。比較のため、質問内容は例年と同じものとした。大学院教務課から学生にメールでアンケート実施を周知するとともに、研究指導の教員からも回答の協力を呼び掛けた。	回答数は 21 名 (無記名) であった。回答からみる限り、授業や研究指導への満足度はおおむね高かった。一方でオンラインをめぐる諸点も指摘された。	—

3	FD・SD	オンライン講演会 『大学院における日本語による留学生指導のポイント』	2023 年 1 月 23 日（月）16:30－18:00 アルタン ボリグ氏から留学生教育について、お話しいただき、質疑を行い、研修を行った。	留学生の日本語論文執筆能力向上にむけて問題点や扱い方について、留意点を示し、活用できる資源を抑えながら積極的に対処する方法について議論ができ、理解が進んだ。	30 名
---	-------	---------------------------------------	---	--	------

3) 2023 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2022-Act, 2023-Plan

社会学研究科では、2021 年度から社会人教育に特化したコースを社会学専攻内にもうけ、従来の昼夜開講体制から、夜間履修の利便性をさらに高めた体制に移行した。また、近年、社会学研究科の入学生に占める留学生の比率は増加している。社会人ならびに留学生を受け入れる中で、従来からの研究者養成を意図した大学院教育のみでは、十分な教育効果を維持できない問題が顕在化した。大学院に適した高度な専門教育ならびに国際的な競争力を備えた研究者養成を維持しながら、社会人ならびに留学生からのニーズに対応するためには、大学院教育において何が必要かを教員間で共有することが喫緊の課題となっている。この課題に取り組むために、ICT 教育の工夫を含めて、外部の専門家を講師に招いて、今日的な大学院教育のニーズならびに対応についての知識を得る。

4) その他

1) 2022 年度 FD・SD 活動計画 / 2022-Plan

新型コロナウイルス感染症の現状を踏まえ、感染予防対策と学修機会の確保・研究活動の継続を両立するため、引き続き試行錯誤を続けながら様々な取り組みを進めて行く。また、大学院担当教員の指導力（質保証）を高めるため、大学院担当教員と川越教学課職員が連携して、以下の通り FD・SD 活動等を推進していく。

- ① 「教育・研究等改善アンケート調査」、②「教員の指導力を向上させるため取り組み」に関連したテーマで FD 講演会を開催する。その他、③「理工学フォーラム」、④ 英語ワークショップ、⑤ シラバス点検、⑥研究科内の「適切性等の検証に関する内規」に基づく各種教育研究活動の検証等を実施して行く。

2) 2022 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2022-Do, Check

No.	FD・SD 区分	活動名	概要（Do）	成果・課題（Check）	参加 者数
1*	FD	学修成果測定指標による検証や成績分布の把握等			
2*	FD	教育・研究等改善アンケート	「教育・研究等改善アンケート」は、学部学生向けの授業評価とは視点を変え、研究指導等について、学生満足度評価の色彩を強めた設問により、研究指導体制や研究教育環境の改善に資する項目で実施した。 ・実施期間：2022/12/5～2023/1/15 ・博士前期課程：回答者 172 名（回答率 83.5%） ・博士後期課程：回答者 12 名（回答率 85.7%）	アンケート調査結果で、研究指導の優先課題を把握する事ができ、研究科内で情報共有を行った。総合的な評価では、満足している（非常に満足、満足、まあ満足の合計）とする者が博士前期課程で 151 名（87.8%）、博士後期で 10 名（博士後期課程：83.3%）、昨年度に比べて満足度が上昇している。しかし、個別の評価内容を踏まえて、改善の必要があると思われる項目もあった。	

3	FD・SD	理工学研究 FD 講演会 日本の半導体産業の現状と将来展望 湯之上 隆氏（微細加工研究所 所長）	日本の半導体産業は、バブル崩壊後に資金調達が困難な状況が影響し、凋落してしまった。しかし、製造装置には特徴的に世界シェアが高い分野があり、多くの製造材料は日本が世界シェアを独占している。なぜ日本の装置と材料が強いのかを分析するとともに、その将来展望について講演いただいた。	理工学研究科の教育研究活動は、社会において魅力的な新製品やサービスの開発につながる技術革新を生み出すことに繋がる。講演会内容は、研究開発におけるイノベーションを起こす組織的能力を高めることの重要性に触れていただき、大学院の教育研究活動の指針となりうる内容であった。今後においても、教員の指導力を向上させることに繋がるテーマで、講演会を開催して行く。	121名
4	FD・SD	川越キャンパス FD 講演会 2022 年度「個人情報保護の留意点」 島田裕次先生・工技研客員研究員	個人情報保護法が改正されたことを受けてデータ活用における留意点について講演機会を設けた。	個人情報保護に関する留意点を再確認すると共に、新たな知見を得ることができた。社会情勢の変化に合わせて定期的に法改正されるため継続的に講演会を実施して行く。	88名
5	FD	理工学フォーラム	開催日：2022 年 11 月 12 日(土) 場 所：721 教室 対面・オンライン併用開催 主な内容： ① 院生の研究口頭発表（各専攻 2 名） ② 大学院の研究活動とキャリア（講演） ③ 先輩からのメッセージ（OB・OG 講演）	研究口頭発表者には、参加した学生・教員から活発な意見や質問、多くのアドバイスがあり、特定の専門分野の知識を持った学生が、他分野や多角的な見方を学ぶ機会となった。また、学部生及びその保護者にも、参加案内を行い大学院への研究活動・進学のメリットを理解してもらう場にもなった。	252名

3) 2023 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2022-Act, 2023-Plan

理工学研究科の「適切性等の検証に関する内規」に基づき、研究科の問題点や課題について継続的に協議を行う。また、継続して大学院担当教員の指導力（質保証）を向上させるために、大学院担当教員と川越教学課職員が連携して、以下の通り FD・SD 活動を推進し行く。①「教育・研究等改善アンケート調査」、② FD 講演会、「理工学フォーラム」、④ 英語ワークショップ、⑤ シラバス点検、⑥「適切性等に関する検証」等を実施して行く予定である。

4) その他

--

1) 2022 年度 FD・SD 活動計画 / 2022-Plan

生命科学部と連携し「6 年間の一貫教育」を目指して、継続的に授業方法の改善、学習および研究環境の整備、学生へのキャリア支援を行っている。そこで、FD・SD 研修会（例年）、安全講習会（TA・SA 必須 2021～）および機器使用者説明会の開催（例年）、グローバル化を視野に入れた基盤科目の開講（2017～）、博士前期課程 1 年生と博士後期課程生による中間発表会（例年）、学会奨励金の支給（例年）、アドバイザー教員制度の実施（2020～）、大学院アンケート実施（2021～）を行っている。さらに、強化なものにするために（1）～（3）に力を入れた。

（i）学生の研究環境の向上

学生が「研究および学習能力の向上」と「人間力の向上」を目指す取組（中間発表、技術講習会、基盤教育科目など）は継続する。さらに SGU 構想の数値目標のためには、今後一層の英語化が求められる。また、それに伴い、シラバスやホームページ、各種書類の英語化などの整備、教職員による留学生サポートを行う。

（ii）学生生活委員会との連携強化

・学生アンケートの活用: 2022 年 3 月にあらためて開始した研究科独自のアンケートの結果を解析し、研究科全体として授業改善・研究環境改善に役立てる。

・アドバイザー制度: 学生が研究や人間関係から生じる様々なストレスを解消するため、学生生活委員会と連携による精神的なサポート体制の強化を目指す。

学生のリアルな声を参考に FD・SD 講演会のテーマを決定する。

（iii）FD・SD 講演会の開催

例年同様に、学習手法と学生の心ケアなどをテーマに、生命科学部との共催で、最少でも春学期、秋学期各 1 回の講演会を実施する。さらに、出席者を増加させるための工夫、著作権の問題に配慮しながら、講演の録画および LIVE 配信を検討する。

2) 2022 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2022-Do, Check

No.	FD・SD 区分	活動名	概要（Do）	成果・課題（Check）	参加者数
1*	FD	学修成果測定指標による検証や成績分布の把握等	（i）中間研究発表会: 指導教員だけではなく、全教員が全学生を指導するという意識を持つために、M1 生（28 名）、D1 生（4 名）が研究の進捗状況を発表し、研究目標設定の確認と達成状況について点検・評価を行った。（ii）グローバル人材の育成: 専門科目以外に基盤教育科目として「英語プレゼンター	成果:（i）は、例年通り各自の研究について、英語でポスターを作成し、担当教員の指導により完成させた。さらに基盤教育科目として「英語プレゼンテーション演習」においても、各自の研究においてポスター作成・プレゼンの指導を受けている。各発表者に対して、今後における研究の方針などについてのサジェスションを与え	

			ション演習」「科学英語ライティング」「科学コミュニケーション特論」「科学コミュニケーション演習」を開講し、英語プレゼンテーションとコミュニケーション能力を強化した。さらに独自の奨励金を支給し国際学会発表を推奨した。	た。(ii)については、12/13(火)に「大学院生によるサイエンスカフェ」をオンライン開催した。その結果、国際会議で発表する学生が増加している。①②とも、従来から行われている活動で、とくに改善をするべき課題はない。 この様な取り組みにより、大学院進学率が上昇している。	
2*	FD・SD	学生生活委員会との連携強化 ①授業評価アンケート ②アドバイザー制度	①大学院アンケート実施(2021～)を3月に行った。グーグルフォーム等の活用によるオンライン形式で実施し調査データは板倉事務課のもとに厳重に保管され、統計的に処理されている。2022年度のアンケートは3/10～23まで実施し2023年度に活用する。 ②学生が研究や人間関係から生じる様々なストレスを解消するため、学生生活委員会と連携による精神的なサポート体制を強化した。	成果：アンケートおよびアドバイザー制度により学生が抱えている悩み・不安(研究の進行度、就活など)を把握・情報共有することができた。その内容をもとに、研修会(テーマ①②)を実施することができた。課題：無記名のため個人特定が困難である。そのため新たな対策が必要となる。	
3	FD・SD	研修会 ①生命科学部・生命科学研究科共催FD・SD講演会の開催(2022年度第1回：8/31) ②生命科学部・生命科学研究科共催FD・SD講演会の開催(2022年度第2回：12/5) ③生命科学部・生命科学研究科共催FD・SD講演会の開催(2022年度第3回：2/13) 3回ともオンライン開催し、不参加に対して講演を録画した動画を提供した。	テーマ①「本学における中国人留学生の動向と求められる支援」講師：東洋大学国際教育センター、郝仁平先生(経済学部長) テーマ②「学生相談活動と相談室から先生方へ」講師：工藤健彦先生(板倉キャンパス学生相談室カウンセラー) テーマ③テーマ：「産官学連携、特許出願の促進」「共同研究・受託研究の活性化に向けて」講師：稲本康先生(産官学連携推進課・産官学連携マネージャー)、「大学における発明の役割」講師：松下文夫先生(産官学連携推進課・知的財産マネージャー)、「研究資金のあれこれ」講師：花岡千草先生(URA)	テーマ①成果：学部・研究科において、中国からの留学生が多くを占める。その留学の背景や国民性、また教育指導上接し方など、一般的な情報では解りかねる知識や理解のあり方を、組織的・体系的に獲得することができた。また、本学に来る留学生の動向や国際教育センターの活動についても知ることができ、そうした学内体制に関する知識や資料は今後の学生支援にも役立てられる。課題：個別対応も伴うため、留学生サポートデスクとの情報共有と密な連携が必要となる。テーマ②成果：COVID-19の影響のため学校の非対面に対応している学生たちについて、教職員が気付かないことや気にかけることについて	①25名 ②34名 ③45名

				て具体例をもとに認識を深めることができた。 さらに学生相談室のさまざまな活動についても詳しく知ることができた。課題： 学生理解や支援は非常に複雑な面を有するため、教職員はこれに関する力量アップの意識や知識はもとより、組織や支援体制の一層の整備などへも結びつけていく必要である。 テーマ③成果：本学における「産官学連携、特許出願の促進」について、新任教員をはじめ情報提供・共有できた。課題：1 回（短時間）の勉強会だけで完結できる内容ではないため、複数回の実施が必要である。	
4	FD	実験安全教育 ・ TA/SA 研修会（実験安全について） ・ 実験安全講習会 ・ 機器使用者説明会	2021 年度から高等教育推進センター主催の研修（ToyoNet-ACE）に加えて、研究科 FD 委員を中心に TA・SA 研修会（春・秋学期）を開催した。その内容として、各実験科目の担当教員が列挙した「もっとも事故が生じやすい操作」をテーマとして、担当する実験科目ごとで「注意事項と事前準備」についてグループディスカッションを行った。後日、実験担当教員に回送し、教員を交えて注意事項など再度共有が図られた。	グループディスカッションにより、TA/SA 同士で危険箇所の確認ができ、大きな事故が生じることがなかった。問題点としては、TA 登録がなく SA のみで、過去に生じた危険項目が伝達されていない実験科目がある。課題として、各実験科目における危険項目を共有することで意思疎通できるため、欠席者への対策が必要があると考えている。	春：41 名、秋：46 名

3) 2023 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2022-Act, 2023-Plan

FD・SD 研修会（例年）、安全講習会（TA・SA 必須 2021～）および機器使用者説明会の開催（例年）、グローバル化を視野に入れた基盤科目の開講（2017～）、博士前期課程 1 年生と博士後期課程生による中間発表会（例年）、学会奨励金の支給（例年）、アドバイザー教員制度の実施（2020～）、大学院生活の満足度アンケート実施（2020～）を行っている。その成果として、成果発表数と賞の受賞数が年々増加しているため、今後も、上記の取組を継続しながら、学生個人に合わせた指導を行っていく。その中で、2023 年度の FD・SD 研修会テーマとして「AI 教育」に関して、春学期に生命科学部と共催予定である。

ライフデザイン学研究科
福祉社会デザイン研究科（ヒューマンデザイン専攻）

1) 2022 年度 FD・SD 活動計画 / 2022-Plan

2022 年度の研究科全体としての FD・SD 活動計画を、以下のように計画した。

- 1) 日常における教員の研究、社会貢献、管理業務に関する資質向上の啓発
 - ① 研究科委員会等を活用した、FD・SD に関係する情報の確実な共有と議論ならびに実践。
 - ② 在籍する大学院生との適切なコミュニケーションを通じた日常的なリフレクションの実施。
- 2) 学生アンケートの継続的な実施
 - ① 研究科委員会等を活用したアンケート結果の確実な共有と議論ならびに改善。
 - ② より有意義な学生アンケートとして発展するよう質問項目および方法論の継続的な検討。
 - ③ 学生アンケート結果に対する各専攻によるコメントの継続的な公表とともに、回答内容の公表。
- 3) FD 研修会等の継続的な実施
 - ① 研究科所属教員ならびに職員の研鑽の機会としての当該研修会等の継続的な実施。
 - ② 社会情勢の変化に応じたトレンドやトピックスを把握する契機としての実施。
 - ③ 2022 年度については「アフターコロナに向けての教育内容・方法の検討および構築」をテーマとした研修会の開催。

2) 2022 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2022-Do, Check

No.	FD・SD 区分	活動名	概要 (Do)	成果・課題 (Check)	参加 者数
1*	FD	学修成果測定指標による検証や成績分布の把握等	各専攻・コースならびに自己点検・評価活動推進委員会において、各専攻の学修成果の測定指標の検討を実施した。次年度以降も引き続き、取り組む必要がある。	2023 年度に学修成果の測定指標内容について必要に応じて見直しを行う。	

2*	FD	授業評価アンケート	主に授業・研究指導改善のための示唆を得ることを目的としてライフデザイン学研究科・福祉社会デザイン研究科（ヒューマンデザイン専攻）所属の大学院生を対象とし、2022年11月6日～2022年12月16日の期間、Google FormによるWebアンケートとして実施した。 質問項目は主として①「講義」 ②『授業時間内における「研究指導」』 ③『授業時間外における指導教員（主査・副査）の「諸指導」』 ④「授業（講義や研究指導）の開講曜日・時限」 ⑤その他の観点（国際化、キャリア支援等）であった。また、2021年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部で非対面授業も実施されていることを受けて、その対応への意見も聴取した。	34名から回答が得られ、それぞれの設問に対する回答を、その内容にしたがって分類・整理し、その人数と、回答者34名（件）に対する比率を求めた。総括すると、大学院での講義・研究指導については、大半の院生は肯定的に評価していた。特に研究指導については、院生個人の状況にきめ細やかに対応してくれているとする回答が多く、教員の対応が一定の評価を受けていることがうかがえた。一方で、今年度、主に対面授業を実施したが、オンラインによる非対面授業のメリットを指摘する声も多く、今後、対面授業を主としつつも部分的にオンライン非対面授業を導入するなど、柔軟な授業運営の実施が課題として浮き彫りになった。	34
3	FD・SD	FD講演会	2022年度においては、本研究科担当教員が授業実践および学生の研究指導に還元することを目的とし、アフターコロナに向けての教育内容・方法の検討および構築をテーマとした。具体的には、東海林克彦先生に講師を依頼し、以下のテーマでFD講演会を実施した。 2022年度ライフデザイン学研究科FD企画「フルオンデマンドの授業を進めていくために有効な方法論について」 日時：2022年12月14日(水)15:30～17:00 Webex ミーティングによるオンライン開催 参加者：教員23名、職員3名、計26名	東海林先生が実施されているフルオンデマンド授業の実践例をもとに、ねらい、内容、方法、成果および課題について報告いただいた。報告をもとにフルオンデマンド授業のメリット・デメリットについてディスカッションが行われた。内容はシステムの構築、教材作成の方法、対面授業の成果との差異など、多岐にわたるものであったが、概ね肯定的に受け取られ、適宜、取り入れていくという意見が多かった。一方、大きなデメリットとして、知識付与に偏重した授業になることへの懸念があることも確認された。次年度以降も、フルオンデマンド授業の「在り方」を検討し、よりよい授業として構築していく必要があると考えられた。	26

4	FD・SD				
5	FD・SD				
6	FD・SD				

3) 2023 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2022-Act, 2023-Plan

2023 年度は、引き続き、研究科全体として、以下の諸点から活動の充実を図っていく。

1) 日常における教員の研究、社会貢献、管理業務に関する資質向上の啓発

① 研究科委員会等を活用した、FD・SD に関係する情報の確実な共有と議論ならびに実践。

② 在籍する大学院生との適切なコミュニケーションによる日常的なリフレクションの実施。

2) 学生アンケートの継続的な実施

① 研究科委員会等を活用したアンケート結果の確実な共有と議論ならびに改善。

② より有意義な学生アンケートとして発展するよう質問項目および方法論の継続的な検討。

③ 学生アンケート結果に対する各専攻によるコメントの継続的な公表とともに、回答内容の公表。

3) FD 研修会等の継続的な実施

① 研究科所属教員ならびに職員の研鑽の機会としての当該研修会等の継続的な実施。

② 社会情勢の変化に応じたトレンドやトピックスを把握する契機としての実施。

③ 2023 年度については、引き続き「アフターコロナに向けての教育内容・方法の検討および構築」をテーマとした研修会の開催を予定。

4) 大学院生の国際的な研究発表の促進に関する取り組み

①国際学会での発表を意識した授業の内容・方法等の検討。

②国際学会での発表に向けての情報提供、語学サポート等の支援。

4) その他

1) 2022 年度 FD・SD 活動計画 / 2022-Plan

2022 年度は、基本的には、①～④の活動を継続する。

① FD 研修会、②学生の声の随時フィードバック、③コンピテンシー評価の FD・SD 活動④学部との一貫教育

ただし、活動③に関してはこれまでの実績から一定の結論が得られたものとして、漸次終息させることを念頭に置いている。

2) 2022 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2022-Do, Check

No.	FD・SD 区分	活動名	概要 (Do)	成果・課題 (Check)	参加 者数
1*	FD	学修成果測定指標による検証や成績分布の把握等	学修成果の測定は、講義科目よりも、特殊研究の成果の検証により重点を置き、博士後期・前期研究発表会を春学期と秋学期に実施している 教員は、他教員のコメントや研究指導を参考に して、FD に繋げる	2022 年 8 月 6 日 春学期：38 件の発表 2023 年 2 月 4 日 秋学期：35 件の発表 研究に関して、活発な質疑・討議が行われた	20
2*	FD	2022 年 11 月 14 日 総合情報学部主催・学術研究推進センタ ー後援 FD 講演会	2022 年 12 月 8 日 (木) 14:00～14:45 (オンラ イン) 講演題目：サイエンスコミュニケーションと研 究倫理審査 (講師：山内康司教授)	視聴した大学院担当の教員からは、大変ためにな った、勉強になったとの声が多かった。 今後の研究の取り組みについて、研究倫理に 意識が向けられることが期待される。	16
3	FD・SD	2023 年 1 月 19 日 (木)～2 月 28 日 (火) 「コロナ禍における学生のメンタルヘル ス」オンライン FD 研修会	コロナ禍での学生のメンタルヘルスについての 心理面、制度、権利等の多角的な視点からの解 説がなされた	今後、コロナ下のような事態になったときに、 学生のメンタルヘルスを含めて、どのような教 育、研究指導をすべきかという点で非常に参考 になった。	18

4	FD・SD				
5	FD・SD				
6	FD・SD				

3) 2023 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2022-Act, 2023-Plan

基本的には、以下の①～④の活動を行う。

① FD 研修会、②学生の声の随時フィードバック、③学部との一貫教育 ④グローバル化

4) その他

1) 2022 年度 FD・SD 活動計画 / 2022-Plan

食環境科学研究科の博士前期課程および博士後期課程の教育目的は、「高度な倫理観によって、生命と健康、食の安全に係る分野において、指導的役割を果たすとともに、国際的に活躍できるような高度な専門能力を有する実務スペシャリストとなる人材」、「食グローバルな視点から食を取り巻く環境を科学的に考察し、国際的な幅広い視野に立って、更に高度な知識と研究能力を有し、世界・日本社会が直面する多様な食環境科学領域での諸問題に対して、解決に向けた強い責任感と倫理観を持って、新たなイノベーションを創造して解決を図る研究者、技術者、教育者等の人材」を育成することである。本研究科では博士前期課程で 6 つ、博士後期課程で 5 つのディプロマ・ポリシーを掲げており、2019 年度には内部質保証を担保するためにディプロマ・ポリシーに基づく大学院学習成果測定指標を設定して教育内容との関わりを明言化している。このような背景のもと、本研究科が目的とする人材を育成するための教育をより良いものとするため、各種 FD 活動を実践している。

2022 年度は、主な取り組みとして、① 研究科独自の評価項目を含む授業評価アンケート、② FD 講習会・講演会、③ 学会発表・参加奨励金制度、④ TA/SA 研修会、⑤ 研究とキャリアの進捗状況：年次評価、⑥ 海外研修 を実施した。

2) 2022 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2022-Do, Check

No.	FD・SD 区分	活動名	概要 (Do)	成果・課題 (Check)	参加 者数
1*	FD	授業評価アンケート	本研究科では、博士前期課程のディプロマ・ポリシーの DP(4)として「研究成果を社会に還元できる視野の広さと実社会で通用する実践的能力を身につけている」ことを設定している。これに基づいて、大学院学習成果測定指標においては「PBL 型授業の成績」と「特許の出願」を指標として設定しており、FD 活動として継続的な授業改善が求められている。 本研究科では、授業および施設設備の改善を目的として、食環境科学研究科独自の授業評価アンケートを学期の終了ごとに実施し、アンケート結果を踏まえて、講義担当者からの所見を集約して、学生にフィードバックしている。	2022 年度は、春学期および秋学期の学期末に授業評価アンケートを実施した。アンケート結果は研究科委員会において情報共有した(第 6 回 食環境科学研究科委員会(2022 年 10 月 19 日)、秋学期のアンケート結果は後日報告予定)。講義担当者からの所見の集約と学生へのフィードバックは 4 月に行う予定となっている。	

2*	FD・SD	FD 講習会・講演会	本研究科では、博士前期課程のディプロマ・ポリシーの DP(4)として「研究成果を社会に還元できる視野の広さと実社会で通用する実践的能力を身につけている」ことを設定している。これに基づいて、大学院学習成果測定指標においては「PBL 型授業の成績」と「特許の出願」をその指標として設定しており、FD 活動として継続的な授業改善が求められている。 本研究科では、教職員向けの FD・SD 研修会を企画、実施している。2022 年度は、教育の障害学生支援の一つとして対応が要請されている合理的配慮に関する講演会を行うこととした。	2022 年 3 月 1 日(水)に障がい学生支援委員長・法律学科教授早川和宏先生「障害者差別解消法の改正に伴い大学が取り組むべきこと」、社会福祉学科教授高山直樹先生「障がい学生の実習参加について―社会福祉学科の事例・体制の紹介―」をテーマにご講演いただいた。参加者は教職員 33 名であった。また、当日参加できなかった教職員のために、講演の動画を公開した。2023 年度以降も引き続き、教職員にとって有用な情報が得られるような研修会を企画・実施する。	33 名
3	FD	学会発表・参加奨励金制度	本研究科では、博士前期課程の DP(5)として「自らの設定した課題について、基礎研究、臨床研究、調査研究のいずれかの研究手法を用いて考察する能力を身につけている」を設定している。また、博士前期課程の DP(6)および博士後期課程の DP(6)として「課題解決能力、プレゼンテーション能力、論理的思考力などを修得し、自らの研究成果等を国内および国際学会での発表、学術論文の執筆を通じて情報を発信できる能力を身につけている。」を設定している。 本研究科では、独自の学会発表参加奨励金制度を導入することで、学会発表を促している。	2022 年度は食環境科学研究科独自の学会発表参加奨励金制度への申請はなかったが、新型コロナウイルス感染症の流行が落ち着くにつれて学会発表の機会が増えると予想されるため、2023 年度以降も引き続き、奨励金制度を継続する。	
4	FD	TA/SA 研修会	学生の TA の活動は、大学院学習成果測定指標に明記されておらず必須ではないが、ディプロマ・ポリシーの DP(1)「哲学教育に基づき、高度職業専門人としての倫理観や高い見識を修得し、リーダーシップを発揮し、社会貢献でき	2022 年度は 4/27 および 10/14 に対面で TA/SA 研修会を実施した。なお、欠席者はオンデマンドで研修を受講した。TA/SA は教育補助員としてどのような視点で業務に臨むかを講演および課題によって学習した。課題は高等教育	春学期 71 名 秋学

			る能力を身につけている」(備考:倫理観)の習得などに関わっている。 食環境科学研究科および食環境科学部では、春学期と秋学期に新規 TA/SA に対して、実験実習の安全教育に関する研修会を実施している。	推進委員が確認後に返却した。参加者数は、春学期 71 名(うち 17 名がオンデマンド)、秋学期 26 名(うち 1 名がオンデマンド)であった。	期 26 名
5	FD	研究とキャリアの進捗状況：年次評価	本研究科の教育目的に基づき、学生の希望するキャリア計画と学生が行っている研究内容の擦り合わせを指導教員と行う機会として、また、次年度の目標を明確にして次の 1 年間の生産性を高める機会として、「研究とキャリアの進捗状況(年次評価)」を指導教員と学生が話し合いながら作成する機会を設けている。年次評価としてまとめられたものについては、食環境科学研究科研究科委員で回覧している。	各指導教員および各学生には、本研究科での教育研究活動と学生のキャリアの目的がどのように結びついているのかを考えてもらう機会として大変重要である。2022 年度は 3 月中に実施している。	
6	FD	海外研修	本研究科では、ディプロマ・ポリシーの DP(2)として「英語による食環境科学の知識・知見及び専門的研究手法や技能を身につけている」を設定している。これに基づき、大学院学習成果測定指標では、「専門英語授業の成績」、「海外研修成果の評価」、「TOEIC 等外部英語テストスコア」を DP(2)の指標として掲げている。このうちの海外研修に関しては、コロナの影響を考慮し、2022 年度は学内での英語研修を行うこととした。	2022 年 9 月 5 日および 9 月 13 日に英語研修企画を実施した。事前講義として五十嵐博久先生による「国際学会でのポスター発表の心得/大学院生の英語学習」、スティーブン・アシュトン先生による「英語発表練習」を実施後、専門スタッフによるポスター添削(東洋グローバルサービスに依頼)を経て、ポスタービューイングを実施した。新型コロナウイルス感染症による影響が続く中、英語研修の機会を設けることができ、食環境科学研究科の学生の英語力の向上に寄与できた。	
7	FD	PROG テスト	PROG テストは、すべてのディプロマ・ポリシーに関わるジェネリックスキルを客観的に評価するためのテストである。大学院学習成果測定指標としては明記されていないが、継続的に	PROG テストは 2022 年 4 月 7 日～4 月 30 日に実施した。PROG テストの結果は、主指導教員から学生に説明・返却することで、学生指導に役立てた。	8 名

			利用することで学生の成長を客観的に評価できる。2022 年度も PROG テストを利用することとした。		
--	--	--	---	--	--

3) 2023 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2022-Act, 2023-Plan

上記の FD・SD 活動はいずれも一定の教育改善効果があったものと推察される。2023 年度以降も上記の取り組みを踏襲し、全教員が関わりながら実施していく。また、必要に応じて食環境科学研究科の教育に合った FD・SD 活動の新しい取り組みについて、研究科委員会において議論を重ねて実施していく。FD 関連予算としては、FD 講演会の講師への謝礼や PROG テストの利用料が必要となる。

1) 2022 年度 FD・SD 活動計画 / 2022-Plan

2022 年度においても、SD 活動として①継続的な教育・研究活動（例：年 2 回の修士論文の進捗状況報告・講評、東洋大学社会福祉学会での口頭・論文発表、大学院紀要への論文投稿、教員による共同指導の機会の提供、福祉社会開発研究センターの活動等を通じての社会貢献や研究・発表の機会の提供、及び志村ゼミの研究会活動の実施等）を、また FD 活動として②院生に対する質問紙調査、③外部講師による講義を行う。①は通年で、②及び③は主に秋学期中に実施予定である。これらの活動を通じ、社会福祉学専攻の学生に対して、通常の授業以外でも学習・研究活動の機会を提供するとともに、院生の実態やニーズ把握を行う。

2) 2022 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2022-Do, Check

No.	FD・SD 区分	活動名	概要（Do）	成果・課題（Check）	参加 者数
1*	FD・SD	学修成果測定指標による検証 継続的な教育・研究活動（例：年 2 回の修士論文の進捗状況報告・講評、東洋大学社会福祉学会での口頭・論文発表、大学院紀要への論文投稿、教員による共同指導の機会の提供、福祉社会開発研究センターの活動等を通じての社会貢献や研究・発表の機会の提供、及び志村ゼミの研究会活動の実施等）	本年度は、実施計画に基づき、①継続的な教育・研究活動（例：年 2 回の修士論文の進捗状況報告・講評、東洋大学社会福祉学会での口頭・論文発表、大学院紀要への論文投稿、教員による共同指導の機会の提供、福祉社会開発研究センターの活動等を通じての社会貢献や研究・発表の機会の提供、及び志村ゼミの研究会活動の実施等）を実施した 修士論文の報告会（中間報告）、東洋大学社会福祉学会での教員と院生の共著による論文の提出を行った。志村ゼミ研究会は学期中毎月開催し、参加者の利便性から赤羽台キャンパスで先行して実施した。	左記の活動により、通常のカリキュラム外での教育・研究指導を実施できた。	

2*	FD・SD	FD 講演会 「大学院におけるリカレント教育の状況と課題」	12月12日 16:30～18:00 オンラインにてFD講演会開催 ・大学院への入学者を増やす方途の1つとして社会人を対象にした大学院教育の充実ということが考えられる。そこで、この分野で実績がある日本社会事業大学の専門職大学院におけるリカレント教育の状況について話していただくことを目的として、同大学院の研究科長の井上由起子教授に講演をしていただくことになった。(周知方法:専攻内で案内、参加人数:8)。 講演会の内容の骨子は以下の通りである。 ○専門職大学院のこれまでの経緯 ○入学者の特徴 ・ほぼ全員が何らかの国家資格あり、社会福祉士取得者 80～85%程度 ・ほぼ全員が働きながら学んでいる、北海道から沖縄まで ・認定社会福祉士取得希望者 35/47 ・看護師、保健師、介護福祉士、保育士、特支教員、リハ職、弁護士、公認会計士等 ・学歴も様々(高卒からの社会福祉士から東大卒までカオス状態) ・近年多いのが専門学校の教員、職能団体の代表者、児相、高齢は減少、障害は維持 ・体系的に学びたい、視野を広げたい、もやもやがある ・修了後は現職継続、業界内での転職も多い、大学の実務家教員になる人も	講演会では社会人の大学院でのリカレント教育について話してもらった。伝統的に社会福祉学の大学院教育では、社会人を対象にしたリカレント教育がそれなりのウェイトをもってなされてきた。本学の大学院社会福祉学専攻でもその伝統を受け継いで、相応の実績を積んできているが、近年、人数的にかなり少なくなっている状況が見られる。社会人を対象にした大学院教育の内容を充実させていくためには、物的、人的な条件整備がかなり必要なことがわかった。そうした条件整備の可能性を探っていくことが今後の課題の1つである。	8名 (教員)
----	-------	-------------------------------	---	--	------------

			○カリキュラム内容 ・福祉基盤系科目、共生社会と分野専門系科目群、福祉人材の育成と管理系科目群、実践研究系科目群 ・認定社会福祉大学院ルートで必要単位がすべてとれる ・2コマ連続×4週=8コマ、1単位 ・グループワーク、事例提供、事前課題、経験を素材にする、ケースメソッド ○学びと仕事の両立をめぐる問題 ・一年履修と二年履修(一年履修は専門訓練給付金の対象) ・木曜日と金曜日の夜：オンラインのみ ・土曜日の日中：対面原則(月1休み) ・演習(3コマ連続で土曜日に20回、金曜日午後に10回)←1年履修 ・演習は1/3までオンラインを認めている ○教員体制 ・専任7名(フルタイム6名+特任1名)、研究教員3名、うち2名は実務経験あり。 ・マネジメントを教えられるようになる教員の確保と育成が継続性のための課題。 ・実務家教員のキャリアの道筋が転換を迎えていると認識。 ・研究者としての業績にはさほど興味がなく、多くが現場の支援(法人、職能団体を通じて)などに時間を割いている。	
--	--	--	---	--

3	FD	授業評価アンケート	在学中の院生、特に近年急増する留学生、特に中国からの留学生への指導方法向上に資するため、2022年11月28日から2023年1月15日まで、社会福祉学研究科の院生に対するアンケートを実施した。実施に当たっては、オンラインアンケートツールである「SurveyMonkey」を用い、無記名で下記の(1)~(6)までの6問（うち2問は留学生のみ対象）を自由記述で聴取した。回答件数は14件であった。	アンケート結果から得られた特徴的な意見を紹介しておく。 (1) 大学院の講義内容・進め方について良かった点・改善すべき点について、自由に記述してください。 ・社会福祉学研究科の講義はどれも実用的で有意義で、ほとんどの教授の講義方法は受け入れられ、リラックスした雰囲気の中で学ぶことができますと思います。 ・施設見学とそこで働く人に質問することのできる機会を講義内で提供してもらったことは、大変勉強になった。研究についての先生や生徒から指摘をもらえる機会を多く得られた。先生の関心ある分野についての授業。また自主的に完成した課題は多く、トレーニングの機会が多い。ただもっと話し合う機会があればいい。 (2) 主査・副査の諸指導について良かった点・改善すべき点について、自由に記述してください。 ・自分の考えていることの欠点を論文作成との関係できちんと伝えてもらえること。 ・自分のやりたい研究について絶対に否定しないでいてくれたこと。研究として成り立つためのアドバイスをたくさんいただいたこと。研究に繋がるかもしれない施設などをいくつも紹介して下さったこと。 ・修士論文の進め方、調査方法など、いろんなご指導をいただきました。 ・人数が少ない授業でしっかりコミュニケーションを取れるが、人数が多い授業であんまりコミュニケーションを取れなそうと思います。 (3) 院生研究室・図書館・ToyoNet-Ace 等について、良かった点・改善すべき点について、自由に記述してください。	14名 (回答者)
---	----	-----------	---	--	--------------

				・大学院教務課が休みの日に院生研究室が使えないのは改善すべきだと思う ・【図書館】借りたい文献がないことが多く困ったことが何度かあった。 ・たまにネットの調子が悪い日があるので、改善していただければと思います。 (4) (オンライン授業を受けたことのある院生のみ回答してください) オンライン授業全般の良かった点・改善すべき点について、自由に記述してください。 ・ToyoNet-Ace を使えるようになるのに時間がかかりました。 ・移動の時間という制約から解放されたことが助かりました (社会人)。 ・距離を越えるので助かりますが、対面の方がモチベーション上がります。 ・通勤時間を短くできて、助かります。 (5) (留学生のみ回答してください) 日本語講座、日本語添削を利用した場合はその感想を教えてください。利用したことがなければ、「利用なし」と書いてください。。 ・日本語削除をよく使っていたので、本当に助かりました。 ・日本語講座参加した。コミュニケーション能力が鍛えられた。 ・秋学期の日本語講座を一回だけ参加したことがあります。先生が優しくて、講義も面白かったです。 (6) (留学生のみ回答してください) 日本語講座、日本語添削を利用するつもりがない場合は、その理由を教えてください。すでに利用したり、今後利用予定であれば「利用した・する予定」と書いてください。 ・(この質問に対しては、回答者がいなかった) 以上が主な回答内容である。オンライン授業に関しては、	
--	--	--	--	--	--

				とくに目立った不満は見られなかった。むしろ、通学時間の問題がクリアできるとか、社会人の場合には、時間的な問題とのかかわりで仕事との折り合いを付けやすいなど、積極的に評価している声も見られた。 個々の教員の授業内で、福祉現場とのつながりを意識した授業等、様々な形での工夫がなされていることがうかがえた。これらの経験を教員間で制度的に共有していく必要があるだろう。 近年の院生のニーズ（全体）及び、中国からの留学生の実態（大学院への留学及び社会福祉学研究科を志す理由）などを理解できた。特に後者については中国の国内事情が大きく影響していることが想定されることから、彼らを勉学に引きつける方法を今後さらに検討する必要があると考えられる。	
--	--	--	--	--	--

3) 2023 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2022-Act, 2023-Plan

2023 年度においても、SD 活動として①継続的な教育・研究活動（例：年 2 回の修士論文の進捗状況報告・講評、東洋大学社会福祉学会での口頭・論文発表、大学院紀要への論文投稿、教員による共同指導の機会の提供、福祉社会開発研究センターの活動等を通じての社会貢献や研究・発表の機会の提供、及び志村ゼミの研究会活動の実施等）を、また FD 活動として②院生に対する質問紙調査、③外部講師による講義を行う。①は通年で、②及び③は主に秋学期中に実施予定である。その他、留学生が多い中での教育体制の在り方、大学院入学者の確保策の側面も意識した大学・大学院卒業生との卒業後の関係維持やリカレント教育等についても FD として採り上げることが考えられる。とりわけ、近隣自治体との包括協定締結等により、実務者が研究したいと思える環境の整備のあり方について検討していきたい。

これらの活動を通じ、社会福祉学専攻の学生に対して、通常の授業以外でも学習・研究活動の機会を提供するとともに、院生の実態やニーズ把握を行う。

1) 2022 年度 FD・SD 活動計画 / 2022-Plan

各専攻ごとに記す。

(1) グローバル・イノベーション学専攻 (GINOS)

2020 年度に発足したグローバル・イノベーション学専攻では学生要望等に関し情報の蓄積が少ないため、学期の最後に行われる報告会において、インタビューを実施し学生の要望や悩みを把握し、適宜解決するように努めている。国際地域学専攻では昨年度までも修了生を対象としたアンケートを実施している。学部と比べて学生数が限られているが、記述式（日、英 2 言語、無記名）の項目を複数設定している。その結果は専攻会議で報告され、教員間で共有・議論し、今後の研究教育体制の向上に活かしている。

(2) 国際地域学専攻 (RDS)

国際地域学専攻では昨年度までも修了生を対象としたアンケートを実施している。記述式（日、英 2 言語、無記名）の項目を複数設定している。その結果は専攻会議で報告、教員間で共有・議論し、今後の研究教育体制の向上に活かしている。2022 年度は、コロナ禍により非対面式授業が常態化したのち、対面式実施に回帰する時期にあたることから、年度末に院生発表会のあり方等の基本方針を教員間で確認、意見交換を行うこととした。

2) 2022 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2022-Do, Check

No.	FD・SD 区分	活動名	概要 (Do)	成果・課題 (Check)	参加 者数
1*	FD	<GINOS> 学修成果測定指標による検証 や成績分布の把握等	実施方法：春・秋学期の報告会においてオンラインで実施した。 インタビュー項目は以下のとおり。 1) 最初の学期における全般的状況 2) 研究活動・修士論文執筆の状況 3) 現時点での懸念点・悩み等 4) 大学への要望	2022 年度においては、先輩後輩そして同期との繋がりも増え、全般的に満足度も高く、問題はなかった。	

2*	FD	<GINOS>授業評価アンケート	授業評価アンケートの検討	学生数が少ないことが強みでもあり、弱みでもある。しかし、2022 年度には交換留学生の履修も可能となり、各コースが活性化した。	
3	FD・SD	<RDS>院生発表会のあり方等検討会	実施日：2023 年 2 月 14 日（火） 2022 年度中間・期末発表会、修士論文口述試験、博士論文公聴会等の振り返り 「国際地域学特殊研究」の位置づけ、運営に係る各種業務等の再確認	学生・教員の原則全員対面参加という基本方針を確認、学生が提出すべき発表資料、提出場所について学生・教員双方にとってわかりやすい整理を行った。 修士論文口述試験、博士論文公聴会の円滑な実施のために、必要な準備や当日の段取りを共有した。	13
4	FD・SD	修了予定学生のアンケートの実施	実施日：2022 年 8 月 5 日（金） 回答数：国際地域学専攻（M10 名、D1 名） 実施日：2023 年 2 月 9 日（木） 有効回答数：国際地域学専攻（M12 名） 実施日：2023 年 3 月 7 日（火） 有効回答数：国際地域学専攻（D2 名） 実施方法：google form を用いた方法で実施した。回収した回答は全て匿名で処理することを断った上で、回答に際してはメールアドレスの入力を必須とし、該当者以外の回答を除外できるようにした。 設問は記号選択と記述の混合式で、全て日英 2 言語表記とした。具体的には以下の通りである。 1. 以下の項目について、評価してください。 （1）リサーチスキル科目 （2）専門科目講義・演習	講義・研究指導に関しては、満足度は非常に高い。とりわけ、修士課程のリサーチスキル科目に関しては、問題設定、仮説の立て方、データ処理と解釈などの面で効果があることが確認できた。また、学期ごとの院生発表会も研究の進捗を確認する上で意義があることが認められた。 コロナ禍は続き、海外渡航に制限があるなか、論文テーマの選定やデータ収集に困難を抱えたとの回答があった。一方で学内の学習環境については、図書館、院生共同研究室も利用できるようになり、特に不満はなかった。	

			(3) 研究指導 (4) 設備、学生生活 (5) コロナ下におけるオンラインの研究、教育環境 2. 研究を進める上で、思うようにいかなかった点があれば記入して下さい。 3. 本研究科の教育課程で最も良いと思うことは何ですか？ 4. 本研究科の教育課程で、最も改善が必要だと思うことは何ですか？		
--	--	--	--	--	--

3) 2023 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2022-Act, 2023-Plan

<GINOS>

学生に対するインタビューの実施

大学が主催する FD 活動への教員の誘導

大学・各種センター活動への学生の誘導

<RDS>

修了予定学生へのアンケート実施を引き続き行う。また、本年度の FD から提起された論点である、院生発表会の発表資料のあり方、ガイドラインの明確化などについて、継続審議となっており、改めて意見交換の機会を設ける。

2022 年度 FD・SD 活動報告

大学院国際観光学研究科

1) 2022 年度 FD・SD 活動計画 / 2022-Plan

2022 年度は「新型コロナ禍環境から先の教育の在り方」を強く意識したFD・SD 活動を継続した。

新型コロナ禍環境は、対面での教育に大きな制約をもたらした。同時にそれはテクノロジーの利活用を促進させ、ボーダレスかつオンデマンドの教育を充実させるきっかけともなった。そうした状況を鑑み、教育の新たなあり方を模索した。

本研究科では観光産業・観光政策・観光開発領域で活躍できる人材育成をその目的としている。つまり産官学の連携重要性を強く認識していることからまずは本領域の実務家教員、さらには外部講師招聘によるFD/SD 活動も推進することとしたい。

今年度は、海外渡航制限が緩んだことで、海外から講師をお招きし研修会を実施できたことは大変有意義だった。

2) 2022 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2022-Do, Check

No.	FD・SD 区分	活動名	概要 (Do)	成果・課題 (Check)	参加 者数
1*	FD	FD 研修会：教育・研究分野における独・仏の協力とヨーロッパの教育機関について	6 月 16 日 (11 時 30 分～12 時 30 分) CY セルジー・パリ大学 ローラン・ギリ教授をお招きし、フランスの仏独大学での教育・研究分野における相互協力について研修を行った。	仏独大学には約 6500 人の学生が国境をまたいで授業プログラムを履修しており、実践を重視した幅広いカリキュラムを学生に提供している。仏独大学の高等教育システムの実例紹介をしながら、本学教員とその成果や課題について活発な議論ができた。	26
2*	FD	FD 研修会：新型コロナ後の旅行の動向～オーストラリアへの旅行プロモーションの観点から～	12 月 22 日 (9 時 45 分～10 時 30 分) オーストラリア政府観光局 日本局長 デリック・ベインズ氏によるオーストラリアの観光についてオンラインによる研修を行った。	コロナ禍におけるオーストラリアへの日本人のアウトバウンドについて、実際の観光プロモーション企画の事例紹介をしながら分析を行った。日本における外国人への観光プロモーションの参考になる斬新な手法について意見交換が	25

				できた。	
3	FD	東洋大学 観光短編映画祭（国際観光学部との共催）	本映画祭は世界中から 30 分以内の短編映画を募集し、優れた作品に対して授賞を行うものである。3 回目の開催となる今年度も井上円了ホールにて上映会・授賞式を行なった。 テーマ：「持続可能な観光」 対象：30 分以内の映像、ジャンル・手法不問 応募期間：2022 年 5 月 15 日～9 月 25 日 入賞者 10 名への通知：11 月 1 日 入賞作品上映会・授賞式：12 月 1 日 会場：東洋大学白山キャンパス 5 号館地下 2 階井上円了ホール 来場者：本学の学生・教員 78 名、本学総長、職員数名、他招待客 9 名 計約 90 名 主催：東洋大国際観光学部・大学院国際観光学研究科 後援：観光庁 国連世界観光機関（UNWTO）駐日事務所 協力：ベネチア・カフオスカリ大学 応募結果：110 カ国の国地域、1839 件の応募	本映画祭はベネチア・カフオスカリ大学と共同で実施している観光イノベーションプロジェクトの一環である。特にその運営面で現役大学院生（国際観光学研究科院生（後期課程学生3名ならびに前期課程学生11名）が国際的な学修・研究活動を経験し、これは同時に研究科教員にとってのグローバル環境での学修における成功事例としてFD としての意味合いを持つこととなった。	本学の学生・教員 78 名、本学総長、職員数名、他招待客 9 名 計約 90 名
4	FD	大学院研究会の実施	本研究科では毎学期に2 回の研究会を実施している。本年度は以下の通りの日程で開催された。 2022年度春学期第1 回研究発表会 5月21日（土）ハイブリッド	大学院の研究発表会は院生の研究テーマや手法ならびに指導教員の教育方法の工夫など、各教員にとってFD としての意義は大きい。 本研究科では本年度は40 名程度の院生が在籍し	

			2022年度春学期第2 回研究発表会 7月23日（土）ハイブリッド 2022年度秋学期第1 回研究発表会 11月19日（土）対面 2022年度秋学期第2 回研究発表会 1月21日（土）対面	ており、教室（オンラインではトラック）数を増加せざるを得ない状況となった（現在3トラックにて実施）。発表人数が多いため、特に口述審査の発表についての開催方法に工夫が必要である。	
5	FD・SD				
6	FD・SD				

3) 2023 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2022-Act, 2023-Plan

前年度の「ウイズ・コロナ環境でのツーリズム産業の取り組み」ならびに「国際的な教育・研究の進化」のテーマを継続することとする。

観光にかかわる研究分野は学際的であり、昨今のテクノロジーの進展を勘案した活動も推進したい。

新型コロナ禍環境は、対面での教育に大きな制約をもたらしたが、テクノロジーを駆使した国際短編映画祭の実施は、本研究科の活動として大きな意味を持つ。また院生の参画によるこうしたイベントの運営活動は、国際的協働のすそ野を広げるものであり、今後も積極的な展開を行っていくこととする。

23 年度はさらなる海外渡航制限の緩和が想定されツーリズム産業の拡大とともにその質的变化について産業のキーパーソンよりお話を伺う機会も必要である。また、国内外での学会などで教員・院生の活動支援も強化する所存である。

4) その他

海外の大学との交流をさらに強化させ、よりグローバルな視点での研究・学修を拡げることとする。

1) 2022 年度 FD・SD 活動計画 / 2022-Plan

2021 年度の FD 活動から得られた上記の方針を元に授業運営を行い、その課題を共有、議論することで、さらに質の高い教育研究を行うための FD 活動を実施する。また 2022 年度は、INIAD 出身学生が修士論文を提出し、初の修了生を輩出する年度となる。そのため、修士論文の発表、審査等の仕組みについても、あらためて研究科として検討していくこととする。

2) 2022 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2022-Do, Check

No.	FD・SD 区分	活動名	概要 (Do)	成果・課題 (Check)	参加 者数
1*	FD	FD 研修会「2022 年度大学院授業の振り返り」(2/1)	教員対象に実施した「授業に関するアンケート」の結果を元に、科目の開講のあり方、授業方式のあり方、教育の英語対応、大学院生同士や学部生との交流促進などについて研究科構成員全員で議論を行った。	それぞれのテーマについて、2023 年度の研究科としての基本方針を設定、共有することができた。課題としては、大学院生が大学に居着いて研究交流できるような工夫が挙げられた。	25 名
2*	FD	優秀修士研究賞の創設	優秀な修士研究を行った大学院生を、研究科全体で若干名表彰する制度を導入し、大学生の研究意欲の向上を図った。選考にあたっては、学業成績や修士論文だけではなく、学会での受賞や査読付き論文の発表など、学術団体における実績があることを原則とした。	選考の結果、2022 年度は最優秀賞 1 名、優秀賞 2 名の計 3 名を表彰し、学位記授与式会場において賞状の授与を行った。	
3	FD	博士後期課程の研究指導教員の見直し	情報連携学部卒業生が博士前期課程を修了するようになったことに伴い、これまでは限定的に認めていた博士後期課程の研究指導教員の見直しを図り、基準を満たしている教員には積極的に博士後期課程の研究指導担当資格の取得を促すことで、博士前期課程との接続を図った。	2023 年度からは博士後期課程の研究指導教員が 8 名増加した。	

4	FD・SD				
5	FD・SD				
6	FD・SD				

3) 2023 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2022-Act, 2023-Plan

2022 年度に創設した優秀修士研究賞などを通じて研究活動の質を更に高め、活発化するための工夫を行う。

4) その他

1) 2022 年度 FD・SD 活動計画 / 2022-Plan

The outline of the 2022 FD/SD activity plan, which was made in March 2022, is summarised below.

- (a) The academic staff members will give several extracurricular courses to the students to encourage their international activities in both face-to-face and remote ways.
- (b) The academic staff members will encourage and support the students to carry out advanced research. The research guidance and instruction will also be given in both face-to-face and remote ways by supervisors.
- (c) Several international programmes will be performed in collaboration with overseas universities once the “COVID-19” has ceased or the situation has been dramatically improved.
 - 1. “Erasmus+ programme” with the Politehnica University of Timisoara, Romania.
 - 2. “Erasmus+ programme” with the University of Bucharest, Romania.
 - 3. “Erasmus Mundus programme” with the University of Algarve, Portugal
 - 4. Negotiation on the “English courses for Toyo students” with the University of Exeter, UK; Queen Mary University of London, UK; and the University of California Santa Barbara, USA.
 - 5. Internship programmes for high school students and students/PDs from the partner universities.
- (d) International symposia and seminars will be organised and held in either face-to-face or remote ways for young researchers such as master and doctoral students and PDs.
- (e) The external “Evaluation Committee” will be held in the first half of 2022.

2) 2022 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2022-Do, Check

No.	FD・SD 区分	活動名	概要 (Do)	成果・課題 (Check)	参加 者数
1*	FD	Students' academic achievements	Students' academic achievements are evaluated by the following factors. (a) Scientific papers published in international journals (b) Oral/poster presentations at international conferences/symposia (c) Poster presentations at the “International Symposium on Bioscience and Nanotechnology” Note: At least one poster presentation at the “International Symposium on Bioscience and Nanotechnology” is required for the acquisition of the master's degree.	The academic staff members supervised their students' research and the outcome is summarised below. (a) 4 students/ex-students published 4 papers supervised by the academic staff members of IdNS. The mean impact factor of the journals was 5.783. (b) 1 ex-student gave a presentation as a co-author at an international conference. (c) 4 students gave poster presentations at the “19th International Symposium on Bioscience and Nanotechnology” co-organised by IdNS.	127

2*	FD	Students' evaluation of the lectures and the supervision of their research	There was no written version of students' evaluation of the lectures and the supervision of research. Instead, each academic staff member had meetings regularly with the students for their better understanding of the contents of the lectures and their effective performance of research.	Most common questions were concerning the performance of the students' research. The supervision of the students' research by the academic staff members was quite effectively carried out. As a result, 4 papers were published in international journals, the mean impact factor of which was 5.783, and 4 students gave poster presentations at the "19 th International Symposium on Bioscience and Nanotechnology" as mentioned above.	
3	FD	Educational programmes	The Graduate School of Interdisciplinary New Science was established as an international graduate school and therefore the syllabuses are written in English so that both Japanese and international students can understand the research and educational policies and programmes organised by IdNS. The lectures and workshops are classified into two categories; that is, (a) fundamental and (b) specialised ones. Fundamental lectures are necessary since IdNS accepts students from various countries and different fields such as physics, chemistry, biology, mechanics, electronics and biomedicine.	All the lectures and workshops were given in English. Basically, students gave talks on specific subjects and discuss them with the other participating students each week. Particularly, in the "Workshops on advanced equipment", the principles and operational techniques of state-of-the-art equipment were taught and instructed, which contributed greatly to the progress in the students' ability to operate advanced equipment and carry out advanced research. Students carried out research at the Bio-Nano Electronics Research Centre using several pieces of equipment and spectroscopic analysers without any difficulties and troubles thanks to their participation in the "Workshops on advanced equipment". Even under the "COVID-19 pandemic" situation, most of the lectures were given in a face-to-face way. The supervisors regularly gave research guidance and instruction to their students. The academic staff members gave extracurricular courses on oral and poster presentations in English to those students who were going to present their latest research results at the "19th International Symposium on Bioscience and Nanotechnology".	

4	FD	Research	Advanced research in the fields of nano science/technology, bio science/technology and bio-nano fusion science/technology was actively carried out via interactive instructions and discussion between students and their supervisors, thanks to which quite a few scientific papers were published in international journals.	(a) 19 scientific papers were published in international journals. The mean impact factor of the journals was 4.877, which shows that the academic standards of IdNS are high even from an international point of view. (b) 7 invited talks were given at international conferences. (c) 4 talks were given at international conferences.	
5	FD · SD	Research and educational collaboration	The Graduate School of Interdisciplinary New Science has so far exchanged memoranda of understanding (MoUs) on the development of collaborative research and educational programmes with quite a few overseas universities and companies. However, the collaborative programmes such as “International internship programmes” and “Students’ and researchers’ exchange programmes” were either cancelled or postponed under the “COVID-19 pandemic” situation. Particularly, the “Erasmus+ programmes” in collaboration with the Politehnica University of Timisoara and the University of Bucharest were postponed.	An international web symposium was organised and held by the Graduate School of Interdisciplinary New Science and the Bio-Nano Electronics Research Centre. The graduate students gave poster presentations. The Secretariat of the Research Promotion Office, the Graduate School of Interdisciplinary New Science and the Bio-Nano Electronics Research Centre efficiently supported the above academic activities from an administrative point of view. The Politehnica University of Timisoara and Toyo University applied for the “2023 Erasmus+ Programme”, rearranging the schedule of the students’/staff members’ exchange programmes.	
6	FD · SD	External evaluation of the academic and administrative activities	The “2022 External Evaluation Committee” was held online for the evaluation of the academic activities performed at the Graduate School of Interdisciplinary New Science and the Bio-Nano Electronics Research Centre on the 11 th March 2023.	The online “External Evaluation Committee” was successfully held and the evaluation committee members were basically favourable towards the academic activities carried out at the Graduate School of Interdisciplinary New Science and the Bio-Nano Electronics Research Centre. The final report will be sent from the evaluators to the secretariat by 31st March 2023. The administrative staff members supported the organisation of the committee. The “Advisory Committee” will be held some time before the “Autumn Term” ends.	

3) 2023 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2022-Act, 2023-Plan

The outline of the 2023 FD/SD activity plan is summarised below.

- (a) The academic staff members will give several extracurricular courses to the students to encourage their international activities.
- (b) The academic staff members will encourage and support the students to carry out advanced research.
- (c) Several international programmes such as “Erasmus+ Programmes” and “Internship Programmes” will be performed in collaboration with overseas universities.
- (d) International symposia and seminars will be organised and held in either face-to-face or remote ways for young researchers such as master and doctoral students and PDs.
- (e) The “Advisory Committee” will be held before the “2023 Autumn Term” finishes.

1) 2022 年度 FD・SD 活動計画 / 2022-Plan

1. 日本語教育プログラムについては、2022 年度も理論編と実践編の 2 回に分けて研修を行う予定である。基本的には 2021 年度を踏襲してオンラインでの開催を予定しているが、コロナの収束状況によっては対面で実施し、学内の日本語教育関係者が顔を合わせて議論する場を提供したい。実施時期は、第 1 回を春学期終了後、第 2 回を秋学期終了後とし、今後内容を含めて調整する。
2. LEAP プログラムについては、IELTS 対策へ再編した新プログラムに必要となる知見のインプットに繋がる研修を随時計画していく。
3. SD 研修については、引き続き TGD 構想の推進及び NEXT SGU の策定に向けた各種テーマで SD を実施する。

2) 2022 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2022-Do, Check

No.	FD・SD 区分	活動名	概要 (Do)	成果・課題 (Check)	参加 者数
1*	FD	学修成果測定指標による検証や成績分布の把握等			
2*	FD	授業評価アンケート	原則履修者 9 人以上の科目及び全 LEAP 科目において授業評価アンケートを実施している。 (LEAP は独自に作成しているアンケートを授業評価アンケートに代替するものとして実施している。) 2022 年度春学期 92 科目、秋学期 90 科目を対象に実施した。	授業評価アンケート結果 (全実施分) は国際教育センター長、国際部管理職及教務担当に共有され、国際教育センター科目の実施状況や課題把握等に活用されている。	

3	FD・SD	日本語教育講演会（8月）	アフターコロナの授業運営のあり方について、日本語教育における遠隔教育・eラーニング研究の第一人者である尹智鉉先生をお招きしご講演いただいた。遠隔教育の歴史を振り返りながら、現在の授業形態において気を付けるべき点など実践的なお話があり、今後の授業運営に活かすことのできる知見を得ることができた。 （1）日時：8月4日（木）15:00－16:30 （2）場所：zoom 会議室 （3）講師名：尹智鉉先生（中央大学文学部准教授）	本学の日本語教育プログラムにおいては、コロナ禍を通じて海外協定校に向けた NEST プログラムの双方向配信を行ってきた。学期ごとに改善を行ってきたが、専門家の知見を踏まえ、改めてプログラムを振り返る貴重な機会となった。特に、オンライン教育プログラムにおいては対面状況とは異なる配慮が強く求められ、対面状況時よりも授業運営の不可は大きくなるというご指摘を受けて、オンライン教育を推進する際の注意点を踏まえた上で、今後の進め方について意見交換が行われた。	20
4	FD・SD	日本語教育講演会（2023年2月）	アカデミックジャパニーズでも課題となる自分のテーマを見つけることについて、『自分のことばをつくる』を出版された細川先生をお招きしご講演いただいた。言語教育の変遷や CEFR ヨーロッパ言語共通参照枠の理念を踏まえ、どのような言語教室を設計するかについて実践研究を推進する必要性が説明された。 （1）日時：2月3日（金）13:30－15:00 （2）場所：zoom 会議室 （3）講師名：細川英雄先生（早稲田大学名誉教授）	学部留学生への日本語教育の課題としてアカデミックレベルでの日本語力を身につけることがあるが、それと同時に学問に向き合う姿勢や大学でテーマを見つけることの重要性が指摘されている。今回の研修会では言語教育全体の変遷を踏まえた上で、教師個人の実践研究の展開が「自分のことばをつくる」上では必要であることが示され、日頃の教育実践を振り返る貴重な機会となった。研究と実践の両面を推進するという方向性は、本学の教育理念にも合致するものであり、参加者それぞれの課題であることが確認された。	15
5	FD・SD	BEVI に関する FD/SD セミナー	2020 年度より本学でも導入が始まっている BEVI（The Beliefs, Events, and Value Inventory）について、開発者である Craig Shealy 教授（Western Washington 大学教授、BEVI 開発者）の来日に合わせて、同教授と日本	BEVI は国際教育センターに関係するプログラム内だけではなく、学部・学科・研究科で取り組む様々な教育的介入の効果を測ることに活用できる。現在は、国際教育センターの教員のみが管理者としてシステムにアクセスできる状況	21

			国内で BEVI を主導されている広島大学の西谷教授を本学に招聘し、教職員に対して BEVI に関する FD・SD セミナーを実施した。 (1) 日時：9 月 13 日 (火) 10:00–12:00 (2) 場所：白山キャンパス A101 教室 (※オンライン同時配信) (3) 講師名：Craig Shealy 教授 (Western Washington 大学) / 西谷元教授 (西谷 元教授 (広島大学))	となっているが、管理者の下に学部学科や研究科等のサブグループを作り、プログラムの成果を測るツールとして学部学科・研究科内の自由裁量で BEVI 受検やデータ分析が可能となる。大学単位で契約しているので、国際教育センターだけではなく学部学科・研究科もアクセスできる。そのため、システムとして学内での活用方法を検討することに加え、BEVI のデータを学部横断的に分析する仕組みなどがあっていいのではないかという意見もあった。	
6	FD	LEAP プログラムに係る FD	LEAP プログラムでは、2023 年度は Weekly Meeting の中でテーマを設定し、課題の共有やグッドプラクティスの共有等を行い、チームティーチングの質保証及び質向上に努めるワークショップ等を行った。設定テーマは下記を含む。 ① 各教員の英語教育に係る研究活動と成果の共有 ② IELTS スピーキングセクションのループブックと採点項目について ③ Google Classroom の活用方法 (応用編) について	Weekly Meeting を通じて、チームティーチングのための課題共有やグッドプラクティスの共有を行うことができた。各テーマの成果・課題は下記の通り ① 研究活動と成果の共有により、研究成果を教育活動の質向上に発展的に繋げていくための議論を行うことができた。 ② IELTS スピーキングセクションのループブックと採点項目に関する理解を深めることができた。 ③ Google Classroom を応用的に活用するテクニックが共有され、LEAP 教員が授業内で Google Classroom をより効果的に活用することができるようになった。	

7	SD	チャレンジワーク国際部全体ミーティング 本年度のSD活動として、「チャレンジワーク国際部全体ミーティング」を実施した。TGD構想の推進及び大学の国際化にかかる国際部・国際課の業務課題に基づく目標に対して取り組むチャレンジワークについて、今年度は課員各自が取り組んだ内容・成果・課題を課員全員に報告・共有した。そのことにより、業務課題に基づく目標の進捗状況や担当業務外も含む国際課としての取り組みを横断的に把握するとともに、SGU終了後の大学の国際化に関する方針を理解し、今後の業務改善や各自の意識改革に繋げることを目的としている。 (1) 日時：2023年3月9日 10:00-12:00 (2) 開催方法：ビデオ会議システム (3) 講師：なし (4) 参加者：29名（国際教育センター長、国際部長・次長及び国際課職員）	国際部の取組課題に基づき、国際課のチャレンジワークとして設定された総計20の目標について、目標毎に主担当が取り組み内容とその成果および今後の課題について報告した。各項目の報告後に国際部次長から達成度の妥当性に関する質問があった。その後、全体として国際部長から取り組み内容の評価や次年度以降の課題への取り組み方について提言があり、最後に国際教育センター長から大学の国際化の今後の方針について説明があった。本報告会はSDとして位置づけられ、目標管理制度のチャレンジワークを担う専任職員だけではなく、国際課に所属する全課員が参加して実施された。担当業務や所属チームを超えて、国際部・国際課として目指すべき目標や達成状況などを共有することができた。	29
---	----	---	---	----

3) 2023年度FD・SD活動実施計画 / 2022-Act, 2023-Plan

【日本語教育分野】

理論編と実践編での開催が定着しており、参加者からの反応もよいため、2023年度も理論編と実践編の構成で研修会を開催する予定である。また、学内日本語教育関係者の参加も継続して広く募ることとし、得られた知見の学内での共有化を図る。基本的には、オンラインでの開催を予定しているが、コロナの状況やテーマの内容によっては対面で開催し、学内の関係者が対面で意見交換する場として開催する可能性も残すこととする。開催時期は、第1回を春学期終了後、第2回を秋学期終了後とし、今後内容を含めて調整を進める予定である。

【LEAP】

LEAPプログラムについては、IELTS対策の教育プログラムの質向上及びデジタルツールを使った効果的な教育方法の実践に繋がる研修を随時計画していく。2025カリキュラムに向けて、「留学前教育」と「留学後教育」の科目編成の在り方を検討していく。

【その他】

- ・異文化理解や異文化コンピテンシー理解の促進にかかる FD・SD を実施する。
- ・SD 研修については、引き続き TGD 構想の推進及び SGU 後の国際化の主軸となる各種テーマで SD を実施する。また、チャレンジワークを SD の一環に位置付け、チャレンジワーク国際部全体ミーティングを行う。

4) その他

高等教育推進センター/委員会 FD・SD 活動報告

2022 年度高等教育推進センター/委員会活動一覧

月	推進委員会・部会長会議・各部会						行事	
	推進委員会	部会長	教育方法改善	FD・SD研修	高等教育研究	教育開発・改革	日程	内容
4							4/9-5/15	TA/SA研修会（春学期新規採用者）
							4月8日(金)	全学授業評価アンケート実施依頼
							4/1-4/26	教育支援システム等に関するアンケート結果集計
	①4/28						4月26日(火)	「高等教育推進センターニュースレター」
5							5月	『東洋大学FD・SD活動報告書（2021年度）』刊行
				①5/18				
							5月24日(火)	「高等教育推進センターニュースレター」
							5月28日(土)	授業評価アンケート第1Q実施期間開始（～6/10）
6								
							6月14日(火)	「高等教育推進センターニュースレター」
	②6/27-30						6月28日(火)	「高等教育推進センターニュースレター」
							7月2日(土)	新任教員FD研修会
7							7月9日(土)	授業評価アンケート第2Q/春学期実施期間開始（～8/5）
							7月26日(火)	「高等教育推進センターニュースレター」
8								
							8/18-19	英語で授業を行うための研修会
							8/29-31	学びを促す授業づくりワークショップ
9							9月9日(金)	「高等教育推進センターニュースレター」
							9/23-10/23	TA/SA研修会（秋学期新規採用者）
10								
							10月25日(火)	「高等教育推進センターニュースレター」
11							11月8日(火)	授業評価アンケート第3Q実施期間開始（～11/21）
				②11/17				
							11月29日(火)	「高等教育推進センターニュースレター」
12						①12/9		
							12月20日(火)	授業評価アンケート第4Q/秋学期実施期間開始（～1/30）
1								
							1月27日(金)	「高等教育推進センターニュースレター」
							2/1-3/7	Toyonet-ACE統計情報 集計作業・活用ヒアリング
2							2/16-19	英語で授業を行うための研修会
							3月3日(金)	「高等教育推進センターニュースレター」
3			①3/7-10	③3/7				
					②3/13-17			
	③3/22					①3/9-13		
							～3月まで	TOYO FD・SD Channel（9本公開）

高等教育推進委員会

第1回（第Ⅲ期通算第5回）

日時 2022年4月28日(木) 18:20～19:20

場所 Webex meetings

〔はじめに〕

1. 高等教育推進センター長 挨拶
2. 2022年度 高等教育推進委員会委員 紹介
3. 2021年度第4回（第Ⅲ期通算第4回）東洋大学高等教育推進委員会要録 確認

〔議 題〕

I. 協議事項

1. 部会長の選出及び委員の各部会への配属について

II. 報告事項

1. 各部会活動状況報告
 - ① 高等教育推進委員対象のアンケートについて（結果報告）
2. 各学部・研究科におけるFD・SD活動状況報告
3. センター報告
 - ① 2022年度FD・SDプログラムガイドの配信について

III. その他

今後の運営及びスケジュール等について

第2回（第Ⅲ期通算第6回）

日時 2022年6月27日(月) 17:00～6月30日(木) 12:00

場所 ガルーン会議

〔はじめに〕

1. 2022年度第1回（第Ⅲ期通算第5回）東洋大学高等教育推進委員会要録の確認

〔議 題〕

I. 協議事項

1. 高等教育推進委員会 2022年度自己点検・評価報告書の提出について

第3回（第Ⅲ期通算第7回）

日時 2023年3月22日(水) 15:30～17:00

場所 Webex Meetings

〔はじめに〕

1. 2022年度第2回（第Ⅲ期通算第6回）東洋大学高等教育推進委員会要録の確認

〔議 題〕

I. 報告事項

1. 各部会期末報告
 - ① 教育方法改善部会
 - ② FD・SD研修部会
 - ③ 高等教育研究部会
 - ④ 教育開発・改革部会
2. 各学部・研究科におけるFD・SD活動状況報告
3. センター報告
 - ① English Support Service の利用状況について
 - ② 学外機関との連携について（JPFF、関東圏FD連絡会）
 - ③ 学外におけるFD・SD研修会について
 - ④ 各学部・研究科からの教学データ提供依頼状況について
 - ⑤ 2022年度FD・SD活動報告書の作成について
 - ⑥ 2023年度「大学等における教育FD動画コンテンツ」機関利用について

II. 協議事項

1. 2023年度以降の授業評価アンケートの実施について
2. 2023年度実施FD・SDプログラムについて

III. その他

1. センター長挨拶

教育方法改善部会

部会

第 1 回

日時 2023 年 3月7日(火) ～ 3月10日(金)

場所 メール会議

議題 協議事項

(1) 2022 年度教育方法改善部会の活動報告について

(2) 2023 年度の授業評価アンケート実施計画について

報告事項

(1)2022 年度授業評価アンケート実施結果報告について

高等教育推進センター第Ⅲ期（2021～2022年度）活動計画

教育方法改善部会

計 画：2021年5月10日
中間報告：2022年3月08日
期末報告：2023年3月06日

部会長 長谷川 勝久

活動項目	P				D・C	
	2021年度計画の概要	2022年度計画の概要	検討・活動にあたって留意したい点	優先順位	中間報告（2021年度末）	期末報告（2022年度末）
①授業評価アンケートの開発、分析及び活用	1. 2022年度以降のハイフレックス授業を想定して新たな授業形式に対応した授業評価アンケートの作成を行う。 2. 春学期に授業評価アンケート項目の見直しのための調査を実施。 3. 秋学期に2の調査結果を基に、授業評価アンケート項目の修正および信頼性、妥当性の検討を行い、年内にアンケート項目を決定する。 4. 3に伴い、授業評価アンケートフィードバックシステムの一部見直しを行う。	1. 自由記述のチェック機能について、ニューラル・ネットワークを用いて誹謗・中傷に関する書き込みを判別できるか検討する。	1. 非対面授業の在り方について、同期型、非同期型それぞれにおける各種手法がどのような授業に適しているかの検証結果を基に、各学部教授会にて、授業評価アンケート項目の妥当性に関する調査依頼が必要であることから、委員会で十分理解が図れるように留意する。	1	1. 「学修者本位の教育への転換をもたらすための授業改善」を目的とする、新しい授業評価アンケートの作成に取り組んだ。 2. 授業評価アンケート項目の見直しのため、部会および委員会での協議、学部長会議の報告を経て、2021年7月～8月に専任教員を対象とした「2022年度以降の授業評価アンケートに関する調査」を実施した。 3. 調査結果を基に、授業評価アンケート項目の修正および信頼性、妥当性の検討を行い、年度内にアンケート項目の検討を行った。 4. 授業評価アンケートのフィードバックシステムについては、教員個人の結果表の内容等について、部会内で検討を行った。	1. 2021年度に開発した、授業形態別の授業評価アンケートフィードバックシステムを活用した取り組みがなされた。授業改善につながったかどうかについては、次年度の結果を基に、経年比較をすることで検証していく予定である。 2. 自由記述の誹謗中傷に対するチェック機能の開発は、本アンケートの集計業務を委託している㈱教育ソフトウェアのシステムにその機能があることを受け、本年度は、大学独自のシステムを開発することはしなかった。次年度は、2023年度のアンケート結果を踏まえ学生への注意喚起の強化を念頭に、教育ソフトウェアのシステムの性能を踏まえ、独自で開発する必要があるかどうかを検討していきたい。 3. 回答率が年々下がってきていることから、授業内での回答を原則とすることを依頼時に明記するなど、回答率の向上に務めたい。 4. 教師用のフィードバック情報がどこに提示されているのかがわかりにくいため、学生向けにコメントを書く際、何を最優先で改善すべきなのか、学生向けの単純集計のみのフィードバック情報ではわからないため、授業科目をクリックした画面の「結果・フィードバック」に教師用のフィードバック情報を配信できるように検討していきたい。
②学生の学修成果の把握と検証	2021年度は、アフターコロナを見据えた新たな授業形式に対応した授業評価アンケート項目の見直しに着手するため、学生の学修成果の把握と検証は意見交換程度とし、次年度に検討を継続していく。	1. 学修成果指標検討会議で出された結果と①の結果を踏まえた上で、授業評価アンケートと学修成果指標と関連付けができるかどうかの検討を行う。	1. 各学科が作成した学修成果指標に基づき、授業評価アンケートと学修成果指標と関連付けることができるかどうかの検討。 2. 1の検討結果に基づき、授業評価アンケートのフィードバックの仕組みの設計変更とも関連付けて検討することに留意する。	3	2021年度はアフターコロナを見据えた、新たな授業形式に対応する授業評価アンケートの開発に注力していたため、本格的な意見交換までは行われなかった。次年度は新しく開発した授業評価アンケートの実施結果を検証し、学生の学修成果をいかに把握でき、学修成果指標と関連付けができるようになったか、検証していく。	各学科が作成した学修成果指標に基づき、授業評価アンケートと学修成果指標と関連付けることができるかどうかの検討は、できなかった。次年度、これらの課題に取り組んでいきたい。
③その他	1. Webによる授業評価アンケートを着実に実施する。	1. Webによる新たに設計した授業評価アンケートを着実に実施する。	1. 授業評価アンケートの実施率の低下を防ぐため、マークシートにて実施していた時と同様に、授業内で実施するように留意する。ただし、アンケート実施時に欠席した学生については、後日、入力できるようにすることで、実施率の向上を図る。 2. 集計資料では授業名を伏せ、受講していない学生には閲覧できないようにするなど、情報管理に留意する。 3. 教員からのコメント入力を積極的に行っていたるように留意する。	2	2021年度は以下の日程でwebによる授業評価アンケートを実施した。 第1クォーター 2021年5月26日（水）～6月8日（火） 第2クォーター及び春学期 2021年7月7日（水）～8月3日（火） 第3クォーター 2021年11月4日（木）～11月17日（水） 第4クォーター及び秋学期 2021年12月16日（木）～2022年1月31日（月） その結果、アンケート回答率は、次の通りであった。 ・春学期 回答率：38.2％（昨年度 39.5％） ・秋学期 回答率：30.8％（昨年度 35.9％）	2022年度は以下の日程でwebによる授業評価アンケートを実施した。 第1クォーター 2022年5月28日（土）～6月10日（金） 第2クォーター及び春学期 2022年7月9日（土）～8月5日（金） 第3クォーター 2022年11月8日（火）～11月21日（月） 第4クォーター及び秋学期 2022年12月20日（火）～2023年1月30日（金） その結果、アンケート回答率は、次の通りであった。 ・春学期 回答率：31.4％（昨年度 38.2％） ・秋学期 回答率：24.1％（昨年度 30.8％）

◆A 総括（ふりかえり／第Ⅳ期に向けての改善）

本年度は、昨年度開発した、授業形態別の授業評価アンケートならびにフィードバックシステムを活用して授業評価アンケートを行うことができた。自由記述について誹謗・中傷を識別するシステムの費用対効果や有効性、学修成果指標とどのように関連づけて授業改善につなげていけばよいかの検討が十分でなかったため、次年度は、これら2点について取り組んでいきたい。

FD・SD 研修部会

部会

第 1 回

- 日時 2022 年 5 月 18 日(水) 15 : 00 ~ 16 : 00
- 場所 Webex Meetings
- 議題 (1) 2022 年度 FD・SD 研修部会の構成員について (報告)
(2) 2022 年度春学期 TA/SA 研修会の実施報告について (報告)
(3) 2022 年度新任教員 FD 研修会について (協議)
(4) 2022 年度 TOYO FD・SD Channel のコンテンツについて (協議)
(5) 今後の部会開催スケジュール

第 2 回

- 日時 2022 年 11 月 17 日(木) 09 : 30 ~ 10 : 30
- 場所 Webex Meetings
- 議題 (1) FD・SD プログラム実施報告について (報告)
① 新任教員 FD 研修会
② 英語で授業を行うための FD 研修会
③ 学びを促す授業づくりワークショップ
④ 秋学期 TA/SA 研修会
(2) 2022 年度 TOYO FD・SD Channel のコンテンツについて (協議)
(3) 2023 年度 FD・SD プログラムについて (協議)

第 3 回

- 日時 2023 年 3 月 7 日(火) 11 : 30 ~ 12 : 30
- 場所 Webex Meetings
- 議題 (1) FD・SD プログラム実施報告について (報告)
① 英語で授業を行うための FD 研修会
② TOYO FD・SD channel
(2) 第Ⅲ期活動計画の期末報告について (協議)
(3) 2023 年度 FD・SD プログラムについて (協議)

学内 FD・SD 関連研修会

研修会名	実施方法	実施日程	対象	参加者等
TA/SA 研修会	オンデマンド型	2022/4/9～5/15	新規	472 名
		2022/9/23～10/23	TA/SA	239 名
英語で授業を行うための研修会 ①講義とプレゼンテーション(導入) ②少人数クラスのプランニングとマネジメント ③ゼミとディスカッショングループ ④発音と Global Englishes	同時双方向型	①② 2022/8/18～19 ③④ 2023/2/16～19	専任教員	①10 名 ② 7 名 ③10 名 ④ 9 名
新任教員 FD 研修会	同時双方向型	2022/7/2	新任教員	41 名
TOYO FD・SD Channel	オンデマンド型	—	専任教職員	9 本公開
学びを促す授業づくりワークショップ	対面	2022/8/29～31	専任教員	22 名

高等教育推進センター第III期（2021～2022年度）活動計画

FD・SD研修部会

計 画：2021年5月10日
 中間報告：2022年3月08日
 期末報告：2023年3月22日

部会長

北岡 大介

活動項目	P			D・C	
	計画の概要	期待される成果物 等	優先順位	中間報告（2021年度末）	期末報告（2022年度末）
①全学的なFD・SDプログラムの企画、実施	1. TA・SA研修会の実施 2. 新任教員FD研修会 3. 英語で授業を行うためのFD研修会 4. TOYO FD・SD channel 5. FD・SD研修会 6. 東洋大学教育DX推進基本計画④「学生の成長を中心に据えた体系系あるFD・SDプログラムの構築」に向けた検討	・それぞれのFD・SD活動を実施し、教職員及び教育補助員の能力開発、資質向上を図る。 ・学内（学部研究科、全学組織、事務部門等）で実施しているFD・SD活動を情報収集し、精査する。 ・東洋大学教育DX推進基本計画を踏まえて、FD・SDプログラムの体系化に向けた方針および具体的な活動計画を立案し、実施する。	1	1. TA・SA研修会 2021年4月7日-5月10日（春学期）/2021年9月17日-10月31日（秋学期） （参加者数：425人（春）/220人（秋）。両学期とも、参加者の90%以上が研修会が「大変参考になった」「やや参考になった」と回答） 2. 新任教員FD研修会 2021年9月1日（参加者42名。参加者の95%がプログラム全体に関して、「充実している」「やや充実している」とアンケートで回答） 3. 英語で授業を行うためのFD研修会 ①2021年8月18日-8月19日 講義とプレゼンテーション(導入) ②2021年8月18日-8月19日 講義とプレゼンテーション(発展) ③2022年2月16日-2月18日 アカデミックライティング(導入) ④2022年2月17日-2月19日 発音とGlobal Englishes （参加者数：①8名、②6名、③9名、④11名、合計34名。参加者の97%がこの研修を履修して、英語力、英語スキルが上がったと回答） 4. TOYO FD・SD channel 2022年2月-3月 10本制作中 6. かねてより課題であったFD・SDの体系化について、第2回及び第3回FD・SD研修部会並びに第3回高等教育推進委員会での協議を経て、2022年度以降のFD・SDの充実施策として、以下の柱を軸にしたプログラムを企画立案した。2022年度より順次実施予定である。 i.教育力の充実 ii.理念・方針の浸透 iii.データ活用力の獲得 iv.組織運営の高度化	1. TA・SA研修会（オンデマンド型） TA/SAが教育補助員の役割や業務内容等を適切に理解するための研修会を実施(2022年4年9日-5月15日（春学期）472名参加/2022年9月23日-10月23日（秋学期）239名参加）。 研修参加者の97%以上が「大変参考になった」「やや参考になった」とアンケート回答 2. 新任教員FD研修会（同時双方向型） 本学の建学の理念のほか、授業実践に関する悩みや改善のアイデア等を共有し、教育改善の方法を見出させていただくこと、教員間交流等を目的とした研修会を実施（2022年7月2日41名参加） 研修参加者の90%以上が「充実していた」「やや充実していた」とアンケート回答 3. 英語で授業を行うためのFD研修会（同時双方向型） ①2022年8月18日-8月19日 講義とプレゼンテーション(導入) 10名参加 ②2022年8月18日-8月19日 少人数クラスのプランニングとマネジメント 7名参加 ③2023年2月16日-2月18日 ゼミとディスカッショングループ 10名参加 ④2023年2月17日-2月19日 発音とGlobal Englishes 9名参加 全ての参加者が研修受講によって「英語力、英語スキルが上がった」とアンケート回答 4. TOYO FD・SD channel（オンデマンド型） 2022年度 9本制作 5. 学びを促す授業づくりワークショップ（対面） 学生の立場にたった教育の設計と実行を目的に3日間の短期集中開講（2022年8月29日-31日22名参加） 全ての参加者がこの研修を受講して、「大変満足であった」「自分の将来に役立った」「意識や行動に変化があった」などとアンケート回答 6. 2021年度に策定したFD・SDに係る基本方針に基づき、体系的なFD・SDプログラムを企画立案し、とくに「教育力の充実」に資するプログラムを主軸に据えて、2022年度より展開している。
②各学部・研究科のFD・SD活動の支援	1. 各学部・研究科が開催するFD・SD活動に対して講師選定などの助言を行う。また、FD・SD活動に開催学部・研究科以外の教職員も参加できるよう、学内への情報提供を必要に応じて行う。 2. 各学部・研究科の『FD・SD活動報告書』の作成支援を必要に応じて行う。	・各学部・研究科特有のFD・SD活動が実施される。 ・『FD・SD活動報告書』の作成を通じて、各学部・研究科のPDCAサイクルの回すとともに、全学のFD・SD活動の取組状況を学内外にて周知・共有する。	2	1. 学部・研究科主催のFD・SD活動に対して、講師やテーマ選定等の助言を行った。 2. 2021年5月に『FD・SD活動報告書（2020年度）』を刊行した。また、2022年1月に学部・研究科に対して、『FD・SD活動報告書（2021年度）』の作成依頼を行い、3月下旬までに提出いただき、4-5月頃に刊行予定である。	1. 学部・研究科主催のFD・SD活動に対して、講師やテーマ選定等の助言を行った。 2. 2022年4月に『FD・SD活動報告書（2021年度）』を刊行した。また、2023年1月に学部・研究科に対して、『FD・SD活動報告書（2022年度）』の作成依頼を行い、3月下旬までに提出いただき、4-5月頃に刊行予定である。

◆A 総括（ふりかえり／第IV期に向けての改善）

- ・かねてより課題としていたFD・SDの体系化について、高等教育推進センターのもと、FD・SD研修部会が中心となって方針及び計画を立案した。
- ・2022年度は策定したプログラムを着実に実施し、FD・SD体系化の実現に向けた大きな一歩となった。
- ・プログラムの有効性の評価については、複数年度の実施状況・成果を踏まえて評価を行うこととする。
- ・2023年以降のFD・SD事業については、教育DX推進基本計画の他、教学の新中期計画やカリキュラム改訂などの教学改革の動きに合わせて、関連諸委員会や部局と連携し、一層の充実を図っていくこととする。

高等教育研究部会

部会

第 1 回

日時 2022 年 12 月 9 日(金) 11:40～12:10
場所 Webex によるオンライン会議
議題 ①シリーズ 7「ICT 活用アイデア」配信報告（報告）
②シリーズ 8 の企画について（協議）

第 2 回

日時 2023 年 3 月 13 日(月) ～ 17 日(金)
場所 ガルーン
議題 第 III 期（2021～2022 年度）の活動計画に対する期末報告について

東洋大学高等教育推進センターニュースレター

付録参照

高等教育推進センター第Ⅲ期（2021～2022年度）活動計画

高等教育研究部会

計 画：2021年5月10日
 中間報告：2022年3月08日
 期末報告：2023年3月17日

部会長

藤澤 誠

活動項目	P			D・C	
	計画の概要	期待される成果物等	優先順位	中間報告（2021年度末）	期末報告（2022年度末）
①国内外の高等教育の動向の調査、発信	従来の活動を踏襲し、国内外を問わず、教育行政関連機関の政策動向や、他大学および学内のグッドプラクティスなどの情報を広く収集し、メールマガジン『東洋大学高等教育推進センターニュースレター』において学内教職員に提示する。このメールマガジンはToyoNet-ACEと『FD・SD活動報告書』にバックナンバーを蓄積し、特に本学の教育の質的向上に関する取組で対外的なプレゼンスの向上に資するものと考えられるものについては、高等教育推進センターHPでの公開を検討する。記事のテーマについては、本学の教学施策や学生の実態等を踏まえた上で、時宜に合ったもので、かつ教職員への発信によって本学の教育活動の発展に資するものを選定する。情報を編集し発信する際には、教職員の興味を引くものとなるよう努めるとともに、メールマガジン誌上が教員・職員・学生の三者の意見が交流し合う場ともなるよう配慮する。 また、上記メールマガジンの編集作業の簡略化と配信効果の測定のため、専用のメールマガジン配信ツール（有料）を導入する。	左記の通り、メールマガジンの内容がToyoNet-ACEと『FD・SD活動報告書』にバックナンバーとしてアーカイブされる。 2021年度は第1回高等教育研究部会での議論を経て、連載企画シリーズ6として、6月22日配信のVol.4, No.5の配信から、「自己点検・評価から見た東洋大学(仮題)」の連載を予定している。また、シリーズ7として、「わたし・わたしたちのデジタル活用事例を紹介します(仮題)」を計画している。 2022年度以降については、左記のとおり、高等教育研究部会で協議の上、テーマを選定する。	1	メールマガジン「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」では、本部会で設定したテーマについての教職員からのご寄稿、高等教育政策動向、FD・SD関連のリンクなどを掲載している。2021年度は、2022年2月末までに14回のニュースレター(Vol.4 No.1～No.14)を発行した。No.1～3では、昨年度に引き続き、危機対応の最前線で働く職員の声から大学運営の現状を学内で共有することを目的として、「大学運営の今」を配信した。No.4～13ではシリーズ6として「Grow Up! Thirty Thousand」を配信した。このシリーズでは、当初予定していた「自己点検」や「認証評価」に関するものだけでなく、3万人の学生の成長を支えている各組織の方針や活動内容についてその組織の代表者からご寄稿いただくことで、本大学の包括的なヴィジョンを共有することを目的とした。No.14以降は、部会での協議の結果、シリーズ7として「ICT活用アイデア」をテーマにすることとなった。2月以降、月1回の頻度で11月までの配信を予定している。全てのメールマガジンは、計画通りToyoNet-ACEおよびGoogleグループにアーカイブされている。 メールマガジン配信ツールについては、ツールを比較検討中である。	「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」は、2022年3月7日までに10回配信した(Vol.5, No.1～10)。No.1および3～5ではシリーズ7「ICT活用アイデア」を配信した。また、No.7では、国際部国際課職員にご寄稿いただいたFD・SD研修会参加報告を、No.2,3,5,6,9では、学内の研修会の周知を行った。来年度からはシリーズ8「教育力強化支援プログラム紹介」の連載を予定している。 メルマガ配信ツールについては、月1回程度の配信であることから、費用対効果を鑑み、すでにツールを導入している部署との共同使用を検討する。
②学会・他大学との連携、情報交換	従来の活動を踏襲し、本学会が機関会員資格を有する「関東圏FD連絡会」と「全国私立FD連携フォーラム（JPFF）」の連絡会参加および情報共有に加え、学外FD・SD関連研修会に積極的に参加し、新たな連携先（情報交換ができる関係）を模索する。 「関東圏FD連絡会」や「全国私立FD連携フォーラム（JPFF）」、学外FD・SD関連研修会で得られた有益な情報や知見は、活動項目①「国内外の高等教育の動向の調査、発信」において共有できるよう配慮する。 なお、学会、他大学のみならず、本センター内他3部会との連携も意識し、高等教育関連情報発信の充実に努める。	本取組において得られた有益な情報は活動項目①で配信するメールマガジンで配信、アーカイブされる。	2	東洋大学高等教育推進センターニュースレター Vol.4, No.11 (2021年11月17日配信)において、伊藤 大将 先生（国際学部グローバル・イノベーション学科）にご寄稿いただいた「FD・SD研修会参加報告」をメールマガジンで配信した。国際教育研究コンソーシアムが主催した国際教育夏季研究大会への参加報告であり、ご寄稿の題目は「第1回 COIL（Collaborative Online International Learning）と留学の効果の測定」であった。本ニュースレターはGoogleグループにアーカイブされている。引き続き、FD・SD研修会に参加した教職員からのご寄稿を掲載していく。	東洋大学高等教育推進センターニュースレター Vol.5, No.7 (2022年10月25日配信)において、国際部国際課職員にご寄稿いただいた「FD・SD研修会参加報告」をメールマガジンで配信した。国際教育研究コンソーシアムが主催した国際教育夏季研究大会への参加報告であり、ご寄稿の題目は「第2回 SIIEJ2022「国際教育の社会的責任と貢献のあり方を考える」に参加して」であった。

◆A 総括（ふりかえり／第Ⅳ期に向けての改善）

2021～2022年度は、アフターコロナへの対応として学内外で多くの課題が顕在化し、それに対する試行錯誤が行われたと推察される。この間、東洋大学高等教育推進センターニュースレターは、教員や職員の枠を超えて様々な学部学科や部署の取り組み、学内外の研修会や政策動向などを紹介してきた。特にシリーズ6「Grow Up! Thirty Thousand」では、教員と職員の垣根を越えてこれまで知る機会が少なかった他部署の取り組みを知ることができる大変良い機会となった。また、シリーズ7「ICT活用アイデア」は具体的な事例の紹介により、ICT活用の土壌の醸成に寄与できたのではないかなと思う。今後はシリーズ8として「教育力強化支援プログラム紹介」を予定している。引き続き、学内外の情報共有の重要なツールとしてニュースレターを継続し、さらなる充実を図っていく。

教育開発・改革部会

部会

第 1 回

- 日時 2023 年 3 月 9 日(木) ～ 3 月 13 日(月)
- 場所 ガルーン会議
- 議題 ① 活動計画における期末報告に向けて
② 本部会における 2021-2022 年度の活動成果
③ ToyoNet ACE の機能別利用状況の確認

第Ⅲ期（2021-2022 年度）の活動成果

付録参照

高等教育推進センター第III期（2021～2022年度）活動計画

教育開発・改革部会

計画：2021年5月10日
 中間報告：2022年3月8日
 期末報告：2023年3月22日

部会長

川瀬 晃弘

活動項目	P			D・C	
	計画の概要	期待される成果物等	優先順位	中間報告（2021年度末）	期末報告（2022年度末）
1. 教育支援システム活用事例の収集及び課題整理	DX基本計画に鑑み、オンライン授業により利用機会が拡大した教育支援システム（ToyoNet-ACE等）や会議システム（Webex等）の活用事例を収集するとともに、併存する複数のシステムについて検討を行い、運用上の課題を整理する。その結果を関係委員会等を通じて学内で共有することにより、今後のLMSや情報インフラの活用・整備の一助とする。	①：現行の各教育支援システムの利用状況および活用事例の評価。 ②：教育支援システムを通じて「実現すべき教育活動」について、現行システムの活用範囲の評価、他の手法を用いた実現可能性の検討。 ③：②を踏まえた試験的な実践（現行システムまたは代替手段の試行）。 ④：③を受けた評価。 ※評価に必要な情報収集は、担当事務局（情報システム課等）や各システム開発元へ提供を求める。	1	教育支援システム等の利用状況や活用事例の評価および課題整理を行うにあたり、2021年度を『情報の収集・整理』を行う年と位置付け、下記の活動を行った。（年度内実施予定を含む） (1)他大学の教育支援システム等の利用状況調査として、関東圏FD連絡会にて参加大学への情報収集を行った。 (2)本学の教育支援システムの利用状況を把握するためToyoNet-ACEの「コース統計情報」を情報システム課より提供を受け、利用頻度などの確認を行った。データはコース（授業）ごとにToyoNet-ACEの各機能がどの程度利用されているかを示すもので、今年度の春学期・秋学期の2つの統計をもとに次年度に評価・課題整理を行う活用事例の選定に利用する。 (3)次年度に向けた事前調査（委員会承認後、年度内に実施）として高等教育推進委員会を対象に、教育支援システム等の利用状況と活用事例を収集するアンケートを実施する。主な調査項目は「利用している教育支援システム等」「所属内での先進的取り組み事例」について伺う。	教育支援システム等の利用状況や活用事例の評価および課題整理として、下記の活動を行った。 (1)2021年度に実施した高等教育推進委員会を対象とした教育支援システム等の利用状況と活用事例に関するアンケートの結果を取りまとめ、高等教育推進委員会にて報告するとともに、各部会に対し、情報提供を行った。 (2)2021年度に引き続きToyoNet-ACEの利用ログである「コース統計情報」を情報システム課より提供を受け、2022年度春学期・秋学期における機能別の利用頻度などの確認を行った。 また、データから抽出した各機能の利用頻度の高い教員へ利用内容の調査を行い、機能別に活用方法や課題を整理した。 (3)2021年度に実施したToyoNet-ACEの利用ログによるに各機能の活用状況の確認において、新型コロナウイルスの影響を最も受けた2020年度やコロナ以前との比較することの有用性が議論されたことから、2019年度から2022年度の8学期間のデータから利用状況の推移を確認した。 (2)(3)の成果物として、機能ごとに確認結果をレポート資料を作成した。
2. 学習効果を高めるコミュニケーション機会の創設	教員と学生および学生同士のコミュニケーションの円滑化を通じ、学習効果を高められるオンラインツールの整備・創設について検討を行う。 教員から学生に対するパーソナライズされたフィードバックによる学習効果、ある学生からの質問に別の学生が回答したり履修計画について情報交換を行うなど、学生同士の「教え合い」の場の提供により得られる学習効果、教員による教育活動との相乗効果を得るために必要な諸条件や運用課題を洗い出し、現行システムの活用を中心に検討を行う。 なお、本項目は「活動項目1」で得られた知見の活用・実践と位置づける。	①：学内外のコミュニケーションツール（スペース）の事例の収集および評価、「活動項目1」の活動による知見から現行システムで実現可能な実施方法を検討する。 ②：運用ルールなどの検討を行い、現行システムまたは代替手段による試行への準備。 ③：②で整備したツールを用いた試験的な実施を行う。 ④：③を受けた評価。	2	活動項目1で得られた知見の活用・実践と位置づけており、本項目に関わる活動実績も項目1の中間報告における『情報の収集・整理』に含まれている。	

◆A 総括（ふりかえり／第IV期に向けての改善）

今期の本部会では、コロナ禍によりオンラインでの授業対応を迫られた2020年度を踏まえ、教育支援システム等の利用状況や活用事例の評価および課題整理をテーマに活動を行った。

計画立案した2021年度当初から徐々にコロナウイルスに対する社会環境が変化し、対面を中心とした授業運営へと変化していったことに伴い、利用状況等の確認もコロナ以前との比較など、多角的な要素を加えたものとなった。

活動の成果物となる、他大学のLMS等の利用状況の調査、システムの利用ログから確認したToyoNet-ACEの機能別活用状況などは、今回はじめて整理され、可視化された情報が多分に含まれている。

こうした利用実態を踏まえない安易なLMSのリプレイスは、コロナ禍を通じて獲得した共通の瓦解につながりかねない。これらの知見が将来の本学におけるLMSや情報インフラの活用・整備の一助となることを期待したい。

付録

東洋大学高等教育推進センターFD・SD プログラムガイド

高等教育推進センターでは、学生の成長を支える際に役立つさまざまなFD・SD活動の機会を提供しています。本センターで実施されるFD・SD情報をまとめた「FD・SDプログラムガイド」を発行いたしました。

発行：2022年4月1日

URL：<https://www.toyo.ac.jp/academics/improve/organisation/fd/activity/>



CONTENTS：

- 高等教育推進センター長挨拶
 - 2022年度FD・SDプログラム一覧
 - プログラム詳細
 - ・ 学びを促す授業づくりワークショップ
 - ・ English Support Service
 - ・ TA/SA 研修会
 - ・ 高等教育推進センターニュースレター
 - ・ 東洋大学を知る
 - その他
 - ・ 研修会動画アーカイブ
 - ・ 東洋大学優秀教育活動賞
 - ・ 授業評価アンケート
 - 付録
 - ・ TOYO FD・SD Channel ラインナップ
 - 更新履歴
- ・ 新任教員FD研修会
 - ・ 英語で授業を行うためのFD研修会
 - ・ TOYO FD・SD Channel
 - ・ 高等教育関連図書の紹介・貸出
 - ・ 学外FD・SD研修会への参加
 - ・ FD・SD活動報告書
 - ・ 学修成果システム
 - ・ 受講計画表

東洋大学高等教育推進センター規程

東洋大学高等教育推進センター規程

平成 20 年規程第 39 号

平成 20 年 12 月 17 日

公示

平成 20 年 12 月 1 日

施行

改正 平成 30 年 4 月 1 日

(設置)

第 1 条 東洋大学（以下「本学」という。）は、東洋大学学則第 3 条の 3 及び東洋大学大学院学則第 1 条の 3 に基づき、「東洋大学高等教育推進センター」（以下「高等教育推進センター」という。）を設置する。

(目的)

第 2 条 高等教育推進センターは、本学の教育活動の継続的な改善、改革を組織的に推進、支援することを目的とする。

(事業)

第 3 条 高等教育推進センターは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 教育内容及び方法改善のための調査、研究及び支援
- (2) F D（ファカルティ・ディベロップメント）及び S D（スタッフ・ディベロップメント）の研究会、研修会、講演会等の企画、実施及び支援
- (3) 国内外の高等教育の動向に係る調査、研究及び情報提供
- (4) 新たな教育形態及び教育プログラム等の研究、開発
- (5) 各学部、研究科での教育活動の改善、改革の情報交換、調整及び支援
- (6) その他高等教育推進センターの目的達成に必要な事項

(センター長)

第 4 条 高等教育推進センターに、センター長を置く。

2 センター長は、高等教育推進センターの業務を統括し、高等教育推進センターを代表する。

3 センター長は、学長が指名する副学長とし、理事長が任命する。

4 センター長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、副学長の在任期間内とする。

(副センター長)

第 5 条 高等教育推進センターに、副センター長を置くことができる。

2 副センター長は、本学の専任教員のうちから、センター長の推薦を経て、学長が指名し、理事長が任命する。

3 副センター長は、センター長を補佐するとともに、センター長に事故があるとき、又はセンター長が欠けた場合は、センター長の職務を代理し、又は代行する。

4 副センター長の任期は、センター長の任期満了とともに終了する。ただし、再任を妨げない。

(センター員)

第6条 高等教育推進センターに、第3条に掲げる事業を推進するために、センター員を置くことができる。

2 センター員は、学内外の専門的な知識を有する者とし、センター長の推薦を経て、学長が指名し、理事長が任命する。

(高等教育推進委員会)

第7条 高等教育推進センターに、高等教育推進委員会（以下「推進委員会」という。）を置く。

2 推進委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

(1) センター長、副センター長

(2) 各学部から推薦された専任教員 各1名

(3) 各研究科から推薦された専任教員 各1名

(4) 教務部長

(5) 教務部事務部長

(6) 高等教育推進支援室長

(7) センター員

(8) 学長が推薦する本学専任教職員 若干名

3 前項第2号、第3号及び第8号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、任期の途中で委員となった者の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任することができる。

第8条 推進委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) 第3条に掲げる事業に関する重要事項

(2) 学長から諮問された事項

(3) その他高等教育推進センターに関する重要事項

2 推進委員会はセンター長が招集し、その議長となる。

3 推進委員会は、委員の3分の2以上が出席しなければ開会することができない。

4 推進委員会の議決に当たっては、出席委員の過半数で決し、可否同数の場合は、センター長が決する。

5 推進委員会は、必要に応じ、委員以外の者（学外者を含む。）を推進委員会に出席させ、その意見を求めることができる。

(部会)

第9条 高等教育推進センターに、第3条に掲げる事業を推進するために、部会を置くことができる。

2 部会の部会長は、推進委員のうちから推進委員会の議を経てセンター長が指名する。

3 部会の構成員は、推進委員のうちから部会長の意見を聴いてセンター長が指名する。

4 センター長が部会長と協議し、必要に応じ、推進委員以外の者を部会に加えることができる。

5 その他部会に必要な事項は、別に定める。

(学生F Dチーム)

第10条 センター長のもとに、学生F Dチームを置くことができる。

2 学生F Dチームは、センター長のもとで、F D活動を行う。

3 学生F Dチームは、本学の学部又は研究科に在籍する学生で、F D活動への参加を希望する者のうちから、センター長が任命する。

(細則)

第11条 この規程の実施について必要な事項は、推進委員会の意見を聴いて学長が定める。

(事務の所管)

第12条 高等教育推進センターの事務は、高等教育推進支援室の所管とする。

(改正)

第13条 この規程の改正は、学長が推進委員会及び各学部教授会の意見を聴いて行う。

附 則

1 この規程は、平成20年12月1日から施行する。

2 この規程施行の際、改正後の第6条第2項第2号、第3号、第4号及び第6号の委員は、現に「東洋大学F D委員会規程」により選出された委員をもって充てる。ただし、任期は、平成21年3月31日までとする。

3 東洋大学 F D委員会規程（平成19年規程第8号）は、廃止する。

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（平成27年規程第72号）

この規程は、平成27年4月20日から施行する。

附 則（平成29年規程第126号）

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（平成30年規程）

この規程は、平成30年4月1日から施行する

No.	通算（号）	配信日
1	69	2022 年 4 月 26 日(火)
2	70	2022 年 5 月 24 日(火)
3	71	2022 年 6 月 14 日(火)
4	72	2022 年 6 月 28 日(火)
5	73	2022 年 7 月 26 日(火)
6	74	2022 年 9 月 9 日(金)
7	75	2022 年 10 月 25 日(火)
8	76	2022 年 11 月 29 日(火)
9	77	2023 年 1 月 27 日(金)
10	78	2023 年 3 月 3 日(金)

東洋大学高等教育推進センターニュースレター（Vol.5, No.1, 通算第69号）

東洋大学高等教育推進センターニュースレター 2022年4月26日 Vol.5, No.1（通算第69号）

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」をお送りしています。
※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。
※[読者アンケート](#)にご協力いただけますと幸いです。

【1】シリーズ7 | ICT活用アイデア

第2回 オンライン授業の効果についての発見（横江 公美）

【2】お知らせ

- (1)「2022年度FD・SDプログラムガイド」をご活用ください（高等教育推進センター）
- (2) TOYO FD・SD Channel 新規コンテンツのお知らせ（高等教育推進センター）

【3】高等教育政策動向等

【4】Quick links

【1】シリーズ7 | ICT活用アイデア

第2回 オンライン授業の効果についての発見

横江 公美（国際学部グローバル・イノベーション学科 教授／高等教育研究部会 部会員）

授業形態がオンラインに限定される中で、いくつかの発見がありました。以前のようにキャンパスでの授業に戻れたとしても、その便利さと効果を知ってしまったがために、今後も利用し続けたいものもあります。また、この2年間で振り返ると、私が得たオンライン授業の知見はまさに学生が教えてくれたことでした。どんな状況でも学生たちはしっかりと成長していています。本稿では、学生から学んだことを踏まえて、アフターコロナにおいても続けていきたい事例を紹介したいと思います。

【事例1】フランス人交換留学生からのメール

先日、昨年度フランスから交換留学に来ていた留学生からEメールが届きました。「私のことを覚えていますか？そうであつたら嬉しいです。大学院進学のおすすめを書いてほしいのです。交換留学中、話したことがあるのは先生だけです。」という内容でした。昨年度の交換留学生は日本に入学できなかったため、完全に遠隔での授業参加です。その状況を利用して、この学生は、緊急事態宣言下のパリの様子をビデオにしてレポートしていました。

あるとき、現地レポートとしてパリのお墓を映したビデオを流してくれました。なんと、パリではお墓がデート場所になると言われます。ビデオを見る限り、確かにパリのお墓は美しいのですが、フランス人はなぜお墓でデートをするのでしょうか？授業では、その文化的社会的背景について学生たちと話し合いました。また、あるときには、ムスリムの学生が「フランスの学校ではヒジャブをかぶることを禁止する法律が通ったと思います。それについての現状はどうなっていますか？また、若者の皆さんはこの法律についてどう思いますか？」と質問するなど、授業では空間を超えて、活発に意見交換がされていました。

留学生は世界中に点在しますので、授業の時間によっては時差の関係でオンライン授業が苦痛になるケースもあります。アメリカの学生は午前中の授業しか取りたくないでしょうし、ヨーロッパの学生が取りやすいのは午後です。また、オンライン授業が合わない科目もあります。しかしながら、オンライン授業のおかげで、交換留学生、留学生在が頑張れば、頑張るほど、まるで世界中にレポーターが点在するような授業ができることを発見しました。これはオンライン授業の利点と言えるでしょう。

【事例2】ゼミの指導は対面よりも、もはやオンラインがいい！

ゼミの授業についてはオンラインが非常に有効でした。教室で指導するよりもPCで画面共有しながらの方が、学生との議論が深まりました。学生たちは、今後の卒論も修論の指導も、オンラインの方が良いと言っています。理由は「画面が共有できるし、すぐに調べられるから」とのことです。わたし自身も、学生の発表を聞きながら、意味がわからないところや、関係のありそうな学術論文をすぐにリサーチできますし、それをすぐに共有することができます。また、学生に「ソースはどこなの？」と聞くと、そのソースを画面共有で見せてくれます。反対にソースが不足している場合は、その場ですぐに、調べるところまで指導することが可能です。

加えて、プロジェクターでプレゼンや資料を見るよりも、ずっと近い30センチ前後の画面を見ているので脳に入ってくるのが早いのではないかと学生たちと話しています。コロナ前に教室で行っていた授業よりも、その場で深く考えるようになったようです。

【事例3】学生から学ぶ

学生はどんな状況でも成長することを痛感しました。しかも、ICTの活用については圧倒的に学生の方が得意です。コロナ初期2020年2月の段階で、ゼミ生が「先生、Zoom覚えた方が良いよ。」と教えてくれました。春休みの間はそれを使って、世界中に散らばる交換留学生、留学生、海外に留学する日本人学生とZoomでそれぞれの国の状況をレポートする集いを毎週末やっていました。

そして授業がオンラインと決まると、ある学生が、ZoomとSlackの組み合わせを提案してきました。その学生がコロナ前にアメリカの大学に留学した時にはすでに、留学先の大学ではZoomとSlackを使うことは当然だったそうです。科目ごとにSlackのグループを作ると、そこで簡単に資料共有から意見交換までできます。無料でも使えますので、Slackはオススメです。

【事例4】不安は？

オンライン授業について、最初は心配事もありました。すでに知っている学生はオンラインでも良いけれど、会ったことがない新入生とはどんな関係が築けるのかという点です。しかしながら、学生に聞いてみるとそれほど問題なかったようです。1年生は、工夫を凝らしてオンライン上でもしっかりと友達を作っています。オンラインで気が合って友達になって、実際に会って「違う」と思ったことはないか、と聞いてみたところ、全員から「一緒」と返ってきました。想像と違ったのは背の高さだけだと言います。確かに、その通りです。1年生とは初めて会ったのは、偶然、キャンパスを歩いていた時でしたが、お互い、目が合った瞬間にわかりました。「先生、コンピューターの画面と同じだ」と近づいてきました。

ただし、学年に限らず、こぼれ落ちる学生もいました。どちらかというと、上級生に顕著だったように思います。オンラインの授業は画面が脳に近いからか、やる気のある学生は、ますます勉強します。中間層は心配でしたが、こちらも大丈夫なようでした。しかし、「休学した」「卒業できなかった」という仲間が少ない学生は孤立する傾向があるように思いました。

まだまだコロナは収束したとは言えない状況です。キャンパスでの対面授業になってもまだ入国できない学生もいますし、アレルギーなどをもち、大学に行きたくない、という学生もいます。昨年、実際にキャンパスで授業をしたところ、大学に来た学生は3分の1にもなりませんでした。コロナに罹患し症状がひどかったらしく、もう怖い、という学生もいました。

これからもチャレンジは続いていくと思います。学生たちと経験したこの事例がICT活用のヒントになれば嬉しいです。

【2】お知らせ

(1) 「2022年度FD・SDプログラムガイド」をご活用ください（高等教育推進センター）

高等教育推進センターでは、本学の教職員のみなさんが、学生の成長を支える際に役立つさまざまなFD・SD活動の機会を提供しています。

この度、高等教育推進センターで実施されるFD・SDプログラムをまとめた冊子「2022年度FD・SDプログラムガイド」を発行いたしました。プログラムごとに整理してご紹介しております。興味関心に合わせてガイドをご活用ください。

2022年度FD・SDプログラムガイド（[閲覧](#) / [PDFダウンロード](#)）



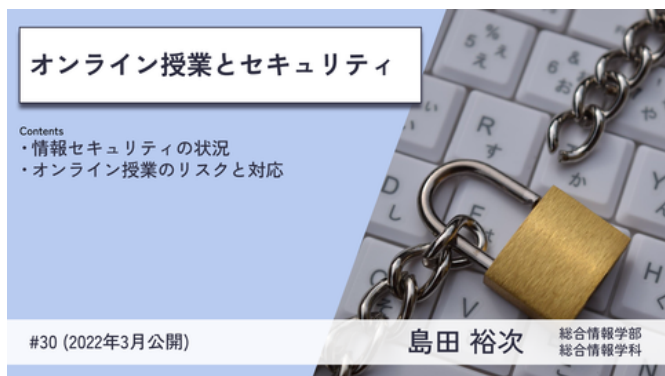
(2) TOYO FD・SD Channel 新規コンテンツのお知らせ（高等教育推進センター）

昨年度3月に7本公開いたしました。ぜひご視聴ください。

授業運営

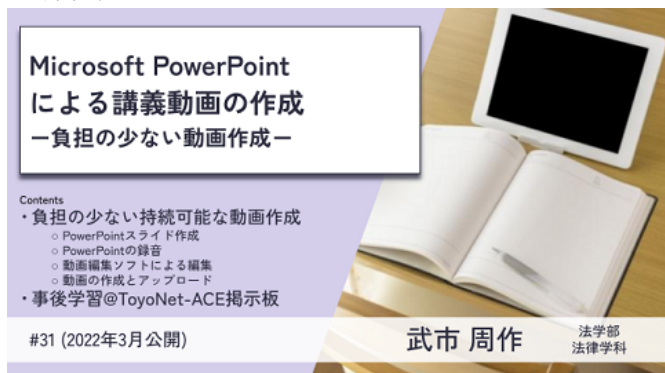
オンライン授業と情報セキュリティ

▶ 動画を見る



Microsoft PowerPointによる講義動画の作成－負担の少ない動画作成－

▶ [動画を見る](#)



対面・オンライン授業を経験した学生インタビュー～受講生の視点に立った授業づくりをするために～

▶ [動画を見る](#)



TA/SA研修会

▶ [動画を見る](#)



学生支援

UDトークご利用のお勧め～聴覚障がい学生の情報保障と学習向上に向けて～

▶ [動画を見る](#)



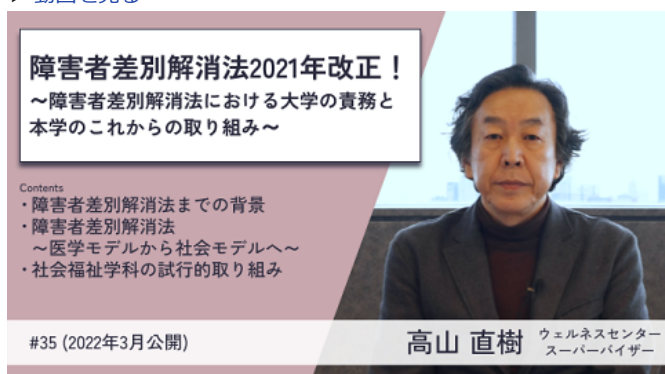
障害者差別解消法2021年改正！～法改正によって変わること・変わらないこと～

▶ 動画を見る



障害者差別解消法2021年改正！～障害者差別解消法における大学の責務と本学のこれからの取り組み～

▶ 動画を見る



【3】高等教育政策動向等

文部科学省

「研究設備・機器の共用推進に向けたガイドライン」公表（2022/03/29）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/163/toushin/mext_00004.html

「新たな時代を見据えた質保証システムの改善・充実について」（審議まとめ）取りまとめ（2022/03/18）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360_00012.html

「学校法人制度改革特別委員会報告書」取りまとめ（2022/03/29）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/daigaku/010/houkoku/mext_01093.html

科学技術・学術政策研究所

「社会人経験のある博士課程学生のアウトカム キャリア選択、知識生産に差はあるのか」公表（2022/03/31）

<https://www.nistep.go.jp/archives/51258>

「オープンアクセスを巡る日本の大学の研究者の現状：政策動向の概観とNISTEP定点調査2020から導く政策的示唆」公表（2022/04/04）

<https://www.nistep.go.jp/archives/51278>

日本学生支援機構

『令和3年度（2021年度）「障害者差別解消法」施行に伴う障害のある学生に関する紛争の防止・解決等事例集』調査結果の概要及び事例 公表（2022/03/28）

<https://www.jasso.go.jp/about/press/jp2022032801.html>

日本の大学等によるウクライナの学生への支援策について（2022/04/19）

https://www.jasso.go.jp/news/1201271_1579.html

内閣府

「Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ（案）」公表（2022/04/01）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/kyouikujinzai/index.html>

日本学術会議

「第26期日本学術会議会員候補者の選考方針」公表（2022/04/19）

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/division-18.html>

報告「経営学分野における研究評価の現状と課題」公表（2022/03/22）

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/kohyo-25-h220322-abstract.html>

日本私立大学連盟

情報公開検討分科会報告書「私立大学の情報公表—自律性、公共性、信頼性・透明性、継続性の観点から—【最終報告】」刊行（2022/04/05）

https://www.shidairen.or.jp/topics_details/id=3537

「加盟大学財務状況の推移（平成13年度～令和2年度）」公表（2022/04/06）

https://www.shidairen.or.jp/topics_details/id=3538

理工系分野の教育研究推進プロジェクト報告書「社会の発展を支える私立大学理工系分野—教育の充実に向けた課題と取組—」刊行（2022/04/20）

https://www.shidairen.or.jp/topics_details/id=3548

大学基準協会

2021（令和3）年度認証評価等の結果 公表（2022/03/30）

https://www.juaa.or.jp/news/detail_808.html

本学は、2021年度に第3期機関別認証評価を受審し、認証評価機関である公益財団法人大学基準協会より、「評価の結果、東洋大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。」との結果を受けました。認定期間は2022年4月1日～2029年3月31日までの7年間となります。（参考）<https://www.toyo.ac.jp/academics/improve/accreditation/2021/>

広報誌『じゅあ JUAA』第68号 刊行（2022/03/31）

<https://www.juaa.or.jp/publication/juaa/>

採用と大学教育の未来に関する産学協議会

2021年度報告書「産学協働による自律的なキャリア形成の推進」（2022/04/18）

<https://www.sangakukyogikai.org/activities>

ベネッセコーポレーション

日本版THE世界大学ランキング2022 公表（2022/03/24）

<https://japanuniversityrankings.jp/rankings/>

本学は73位にランクインしました。

●「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)

※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。

※閲覧は@toyo.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。

●海外については、下記のwebサイトをご確認ください。

- ・高等教育質保証の海外動向発信サイト [QA UPDATES](#)（大学改革支援・学位授与機構）
- ・海外学術動向ポータルサイト（日本学術振興会）
- ・「新型コロナと大学」に関するまとめ（広島大学 教授学習支援リエゾンセンター）

【4】 Quick links

- [高等教育推進センターホームページ](#)
- [高等教育推進センターToyoNet-ACE専用コース](#) ※ToyoNet-ACE
- [ニュースレターバックナンバー](#) ※Googleグループ
- [TOYO FD・SD Channel](#) ※ToyoNet-ACE
- [学外FD・SD研修会情報](#) ※ガルーン
- [English Support Service \(ESS\)](#) ※ガルーン
- [高等教育関連図書のご案内 / 貸出申込フォーム](#)
- [高等教育推進センターニュースレター読者アンケート](#) ※Googleフォーム

【5】 あとがき

新年度、はじめてのレターをお届けしました。

高等教育推進センターでは、毎月、高等教育に関する情報を届けるため、
本学すべての専任教職員の皆さまにメールマガジンを配信しています。

下記の読者アンケートにご協力いただけますと励みになります。

今年度もご愛読のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

-
- [みなさまの声をお寄せください](#)

[読者アンケート](#)にご協力いただけますと幸いです。

最短10秒で回答が完了します。

企画

高等教育推進センター 高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

E-mail: mfdjimu@toyo.jp

- このメールは本学教職員にお届けしています。
- このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。
- このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。

© 2018-2022 東洋大学高等教育推進センター

東洋大学高等教育推進センターニュースレター (Vol.5, No.2, 通算第70号)

東洋大学高等教育推進センターニュースレター

2022年5月24日 Vol.5, No.2 (通算第70号)

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」をお送りしています。

※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。

※[読者アンケート](#)にご協力いただけますと幸いです。

【1】お知らせ

- ・【ご案内】8/29(月)-8/31(水)開催「学びを促す授業づくりワークショップ」について (高等教育推進センター)

【2】高等教育政策動向等

【3】Quick links

【1】お知らせ

【ご案内】8/29(月)-8/31(水)開催「学びを促す授業づくりワークショップ」について (高等教育推進センター)

東洋大学高等教育推進センター主催の2022年度FD研修会「学びを促す授業づくりワークショップ」について、下記のとおりご案内申し上げます。

本プログラムは、東京大学 大学総合教育研究センターの栗田佳代子教授をお招きし、90分の授業デザインや授業科目 (15回) のコースデザイン、アクティブラーニングの技法、評価方法など、大学教員の教育能力として求められる知識とスキルを3日間で体系的に学ぶことができるプログラムとなっております。

なお、参加された先生方へは最終日に修了証をお渡しいたします。

重要なコンテンツを3日間にコンパクトに凝縮して実施する、またとない機会です。学生の成長のために日々の授業をより良くしたい、授業づくりの基礎を体系的に学びたい、といった思いをお持ちの先生方のご参加を心よりお待ちしております。

-----概要-----

◆日時

2022年8月29日(月) 09:00～17:00

30日(火) 09:00～16:00

31日(水) 09:00～17:10

◆場所

東洋大学 白山キャンパス10号館教室 (対面実施)

◆対象

本学の専任教員【定員24名】

◆使用言語

日本語

◆申込方法

2022年6月20日(月)までに、下記URLよりお申込みください。

<https://forms.gle/Aoe3u9qhE4FaC8yg9>

◆その他詳細

詳細は、添付のポスター及びシラバスよりご参照ください。

問合せ先

高等教育推進支援室 (石井・矢野)

【2】高等教育政策動向等

文部科学省

大学院部会（第106回）開催（2022/05/11）

https://www.mext.go.jp/kaigisiryoy/2019/09/1421377_00011.html

中央教育審議会教育振興基本計画部会（第2回）開催（2022/05/13）

https://www.mext.go.jp/kaigisiryoy/2019/09/1421377_00012.html

大学分科会（第167回）開催（2022/05/17）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/siryoy/1422495_00020.html

国際研究交流の概況（令和2年度の状況）の調査結果 公表（2022/05/18）

https://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/kokusai/kouryuy/1409550_00006.html

「私立学校法改正法案骨子」策定（2022/05/20）

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shiritsu/211221_00003.html

「ZEB事例集」の取りまとめ（2022/05/20）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/shuppan/mext_00003.html

カーボンニュートラルの実現に向けて、徹底した省エネルギー対策等を図った施設整備を推進するため、今後の施設整備に活かすことができる建物の計画・設計（ZEBデザイン）の事例が掲載されています。

令和3年度大学等卒業予定者の就職状況調査（4月1日現在）（2022/05/20）

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/naitei/kekka/k_detail/1422624_00003.htm

内閣府

「AI戦略2022」公表（2022/04/25）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/ai/index.html>

第5回経済財政諮問会議 開催（2022/04/27）

<https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/minutes/2022/0427/agenda.html>

総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会（2022/04/28）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20220428.html>

議題・研究に専念できる時間の確保について：研究DX

科学技術政策担当大臣等政務三役と総合科学技術・イノベーション会議有識者議員との会合（2022/05/12）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20220512.html>

議題・研究に専念できる時間の確保について：共用を通じた技術職員の活用

科学技術政策担当大臣等政務三役と総合科学技術・イノベーション会議有識者議員との会合（2022/05/19）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20220519.html>

議題・研究に専念できる時間の確保について：U R Aの活用

内閣官房

第3回 教育未来創造会議 開催（2022/05/10）

<https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyouikumirai/dai3/gijisidai.html>

「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言）（案）」が示されました。

経済産業省

第5回 未来人材会議 開催（2022/04/22）

https://www.meti.go.jp/shingikai/economy/mirai_jinzai/005.html

未来人材会議は、2030年、2050年を見据え、産学官が目指すべき人材育成について検討するため、2021年12月に設置されました。第5回会

議において「未来人材ビジョン（中間とりまとめ案）」が示されました。

「大学研究成果の社会実装マニュアル」取りまとめ（2022/04/28）

<https://www.meti.go.jp/press/2022/04/20220428004/20220428004.html>

「令和3年度大学発ベンチャー実態等調査」取りまとめ（2022/05/17）

<https://www.meti.go.jp/press/2022/05/20220517001/20220517001.html>

2021年10月時点での大学発ベンチャー数は3,306社と、2020年度から401社増加し、過去最高の伸びを記録しました。

特許庁

特許出願技術動向調査（2022/04/27）

<https://www.jpo.go.jp/resources/report/gidou-houkoku/tokkyo/index.html>

特許庁では、新市場の創出が期待される分野、国の政策として推進すべき技術分野を中心に、今後の進展が予想される技術テーマを選定し、特許出願技術動向調査を実施しています。令和3年度においては、「教育分野における情報通信技術の活用」の技術テーマについて、特許情報等を調査・分析した特許技術動向調査の報告書が取りまとめられています。

（参考情報）

経済産業省「「教育分野における情報通信技術の活用」において中国の出願が増加、中韓では人工知能の利用に関する出願が急増」

<https://www.meti.go.jp/press/2022/04/20220427004/20220427004.html>

国立教育政策研究所

令和3年度研究成果「客観的根拠を重視した教育政策の推進に関する基礎的研究報告書」公表（2022/04/26）

https://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/seika_digest_r03a.html

大学入試センター

大学入試センター研究開発部報告書「COVID-19の災禍と世界の大学入試」掲載（2022/05/20）

<https://www.dnc.ac.jp/research/kenkyukaihatsu/symposium.html>

国際大学協会

オンライン調査「COVID-19の発生から1年後の高等教育」に係る調査の結果公表（2022/05/11）

<https://www.janu.jp/news/10444/>

報告書のExecutive Summary（要旨）について、国立大学協会ホームページにて和訳（一部抜粋）が掲載されています。

UNIVAS

大学スポーツにおける競技横断的な「UNIVAS安全安心ガイドライン」の第2版発行（2022/04/27）

<https://www.univas.jp/article/341686/>

THE

「Impact Rankings 2022」発表（2022/04/28）

<https://www.timeshighereducation.com/impactrankings>

601-800位にランクインしました。

（参考情報）

Between情報サイト「「THEインパクトランキング2022」で北海道大学が総合ランキング10位」

<http://between.shinken-ad.co.jp/univ/2022/04/ImpactRanking.html>

マイナビ

「マイナビ 2023年卒大学生就職意識調査」発表（2022/04/26）

https://www.mynavi.jp/news/2022/04/post_33952.html

「2023年卒 大学生Uターン・地元就職に関する調査」発表（2022/05/11）

https://www.mynavi.jp/news/2022/05/post_33994.html

- 「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)

※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。

※閲覧は@toyo.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。

- 海外については、下記のwebサイトをご確認ください。
- ・ 高等教育質保証の海外動向発信サイト [QA UPDATES](#) (大学改革支援・学位授与機構)
- ・ 海外学術動向ポータルサイト (日本学術振興会)
- ・ 「新型コロナと大学」に関するまとめ (広島大学 教授学習支援リエゾンセンター)

【3】 Quick links

- 2022年度FD・SDプログラムガイド ([閲覧](#) / [PDFダウンロード](#))
- 高等教育推進センターホームページ
- 高等教育推進センターToyoNet-ACE専用コース ※ToyoNet-ACE
- ニュースレターバックナンバー ※Googleグループ
- TOYO FD・SD Channel ※ToyoNet-ACE
- 学外FD・SD研修会情報 ※ガルーン
- English Support Service (ESS) ※ガルーン
- 高等教育関連図書のご案内 / 貸出申込フォーム
- 高等教育推進センターニュースレター読者アンケート ※Googleフォーム

【4】 あとがき

今号では、「学びを促す授業づくりワークショップ」をご案内いたしました。
通常15コマ分のコンテンツを3日間にギュッと凝縮した本学オリジナルのFDプログラムです。
先生方のご参加を心よりお待ちしております。

◆ 申込方法

2022年6月20日(月)までに、下記URLよりお申込みください。

<https://forms.gle/Aoe3u9qhE4FaC8yg9>

- みなさまの声をお寄せください

[読者アンケート](#)にご協力いただけますと幸いです。

最短10秒で回答が完了します。

企画

高等教育推進センター 高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

E-mail: mlfdjimu@toyo.jp

- このメールは本学教職員にお届けしています。
- このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。
- このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。

© 2018-2022 東洋大学高等教育推進センター



20220829-31_学びを促す授業づくりワークショップ.pdf

571K

東洋大学高等教育推進センターニュースレター (Vol.5, No.3, 通算第71号)

東洋大学高等教育推進センターニュースレター 2022年6月14日 Vol.5, No.3 (通算第71号)

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」をお送りしています。
※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。
※[読者アンケート](#)にご協力いただけますと幸いです。

【1】シリーズ7 | ICT活用アイデア

第3回 オンラインでのロボットコンテストの開催 (山川 聡子)

【2】FD・SD研修会情報

(1)【申込受付中～6/20まで】8/29(月)-8/31(水)開催「学びを促す授業づくりワークショップ」

(2)【申込7/1～22】8/23(火)-8/24(水)開催「英語で授業を行うためのFD研修会」

【3】高等教育政策動向等

【4】Quick links

【1】シリーズ7 | ICT活用アイデア

第3回 オンラインでのロボットコンテストの開催

山川 聡子 (理工学部機械工学科/高等教育研究部会 部会員)

山車ロボットコンテストについて

機械工学科の教員有志で、2006年から高校生向けの「山車ロボットコンテスト」を毎年開催しています。このコンテストは川越キャンパスがある埼玉県川越市の「川越まつり」を題材にしたもので、ロボットの技術性だけでなく、芸術性も競うことになって、複数の視点で評価できるようなルールと評価項目を設けています。毎年、川越市近隣の高校を中心に30名前後の高校生が参加しています。近年では川越市の産業フェスタのステージで実施し、参加高校生が製作したロボットが多くの観客の暖かい声援と拍手を集めていました。

しかし、2020年は新型コロナ感染拡大の影響で、川越市のイベントもほとんど中止となり、大学においてもコンテスト参加者向けのロボット製作講座を開催することができない状況でした。そのため、コンテスト自体も中止にするしかないかと思っていましたが、複数の高校からコンテスト開催を期待する連絡が寄せられました。このコンテストを高校生の学びの動機付けとしてうまく利用してくれていたようです。この連絡を受けて、我々もコンテスト開催の意義を再確認することができ、主催者としてのやる気も一層強くなりました。

開催に向けての準備

しかし、高校生を一か所に集めることはできない状況でした。そこで、競技会場を各高校に分散し、Webexで本学川越キャンパスと各会場を繋いでリアルタイムで競技の様子を配信することになりました。複数会場で同時に実施するためには、競技内容を変更する必要がありました。例年、コンテストの競技フィールドは木枠を使って大学側のスタッフで設置していましたが、時間と費用がかかるため、このフィールドを複数の会場に設置することはできません。そこで、木枠を段ボールに変更し、誰でも容易に設置できるように競技フィールドを簡略化しました。参加校へ大学で購入した段ボールを送ることで材料を統一し、フィールドの作成手順を動画にしてYouTubeで配信することで、各高校で同じフィールドを設置できるようにしました。競技フィールドを簡略化する一方で、技術点の評価ポイントと配点を工夫することで競技の自由度と難易度を保持するようにしました。また、通信環境については各高校の設備や状況が異なるため、事前に各高校とオンライン接続を行って動作確認を行いました。Webexを初めて使う高校もありましたが、各高校の先生方の協力で当日までに操作方法や音声と画質の調整を行うことができました。

開催を終えて

オンラインでのコンテスト開催は新たな試みでしたが、大きなトラブルもなく、好評のうちに実施することができました。例年と異なっていて一般の観客がいない点は残念でしたが、参加者に目標と成果発表の場の提供するという目的は十分達成できました。今回、オンラインでうまく実施できた要因として、高校単位での参加であったことが大きかったと思われます。事前の講習会は開けませんでした。いずれの高校も部活動などのグループで参加していたので、参加者は仲間と相談したり、顧問の先生方に助言を受けたりしながら製作することができました。また、当日のWebexの操作等も各高校の先生方に支援してもらうことで、参加高校生は競技に集中でき、全体の進行もスムーズになりました。今回のように、数名の小さなグループをオンラインで結ぶことで、個人をオンラインで結んだ場合よりもできることが広がるように感じました。

(開催予告) <http://www2.toyo.ac.jp/~yamakawa/robo/news20200824.html>

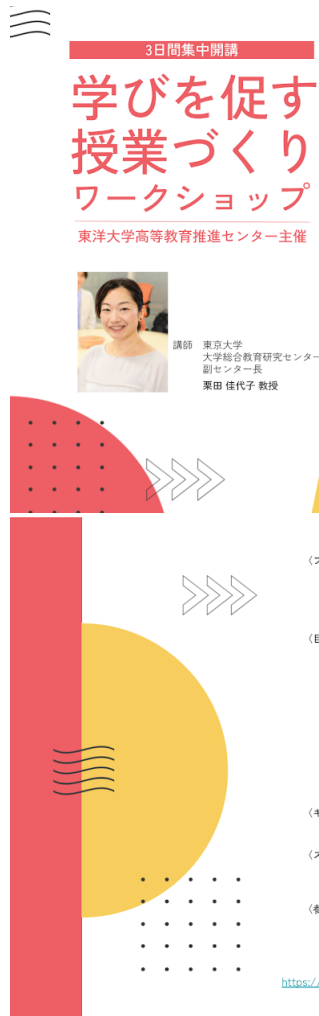
(結果報告) <http://www2.toyo.ac.jp/~yamakawa/robo/news20201114.html>

【2】FD・SD研修会情報

【1】【申込受付中～6/20まで】8/29(月)-8/31(水)開催「学びを促す授業づくりワークショップ」

申込フォーム: <https://forms.gle/Aoe3u9qhE4FaC8yg9>

※詳細は、添付のポスター及びシラバスよりご参照ください。



3日間集中開講

学びを促す 授業づくり ワークショップ

東洋大学高等教育推進センター主催

講師 東京大学
大学総合教育研究センター
副センター長
栗田 佳代子 教授

開催日時 2022年8月29日(月) 9:00-17:00
30日(火) 9:00-16:00
31日(水) 9:00-17:10

場所 白山キャンパス10号館教室(対面)

対象 専任教員 ※申込締切後、定員に余裕がある場合は大学院生(博士後期課程)へご案内予定。

定員 24名 ※最低催行人数12名・申込多数の場合は抽選

使用言語 日本語

到達目標

- ◆アクティブラーニングの手法を体験し、実際に使えるようになる
- ◆学生のモチベーションの喚起・維持・向上につながる工夫ができる
- ◆学生が主体的に学べる授業のデザインができる
- ◆基礎知識をふまえた評価をデザインできる
- ◆学んだ知識を模擬授業として活用し実施できる
- ◆キャリアパスについて考え、日頃の活動や今後の展望について整理できる

お申込みは下記の二次元コード・リンクから

URL: <https://forms.gle/Aoe3u9qhE4FaC8yg9>

申込期間: 2022年6月20日(月)まで

＜プログラムの概要＞ 現在、大学教員としてのキャリアを進むにあたっては、研究者としてだけでなく、教育者としての資質も問われています。本プログラムは、学生が主体的に学ぶ場をつくるために必要な学生のモチベーションの高め方、授業デザインやシラバス、評価方法などを学びます。また、アクティブラーニングの手法を取り入れたグループワークに取り組み、模擬授業の実践を行うなど、経験の中から学んでいきます。

＜目的と目標＞

（目的）
本プログラムでは、大学教員の責務としての「教育」の重要性を認識し、学生の立場にたった教育の設計と実行を可能にすることを目的とします。そのために、授業実施に向けた実践的な知識やスキルを実際に体験し、参加者が互いに学び合いながら実践的な教育力を身につけます。

（目標）
◆アクティブラーニングの手法を体験し、実際に使えるようになる
◆学生のモチベーションの喚起・維持・向上につながる工夫ができる
◆学生が主体的に学べる授業のデザインができる
◆基礎知識をふまえた評価をデザインできる
◆学んだ知識を模擬授業として活用し実施できる
◆キャリアパスについて考え、日頃の活動や今後の展望について整理できる

＜キーワード＞ シラバス クラスデザイン アクティブラーニング モチベーション
評価 模擬授業 ポートフォリオ

＜スケジュール＞ Day1 模擬授業、クラスデザイン、モチベーション
Day2 アクティブラーニング、シラバス/コースデザイン、評価
Day3 模擬授業、大学教員としてのリフレクション

＜参加条件＞ 前提知識は特に必要としませんが、下記をお願いします。
・事前課題および研修中の課題に遅滞なく取り組めること
・遅刻・早退・中抜けをしないこと

シラバスの詳細はこちら▶
https://drive.google.com/file/d/1TDN_4CWxf_YwcnbBYhYNg51OYfoKvqc/view?usp=sharing



【2】【申込7/1～22】8/23(火)-8/24(水)開催「英語で授業を行うためのFD研修会」

申込フォーム: <https://forms.gle/KFstf5VT7cgRySbY6>

※各コースの定員は9名、先着順で受付いたします。

※2023年2月開講コースのお申込みにつきましては、別途ご案内いたします。

※詳細は、添付のポスターよりご参照ください。

2022年度 各コース定員9名 先着順

英語で授業 を行うためのFD研修会

〈対象〉 専任教員
〈場所〉 オンライン
〈使用言語〉 英語
〈講師〉 ブリディッシュ・カウンシル専任講師
〈受講条件〉 ●英語レベル中級以上
(ネイティブスピーカーによる英語でのレッスンに対応できるレベル)
●2日間参加できること (1日のみのご参加はできません)

主 催 : 東洋大学高等教育推進センター
問い合わせ: 高等教育推進室 (mifdjimu@toyoe.jp)

8月
開催

2コース同時開催

開講日時 2022年8月23日(火) 9:30~12:45
2022年8月24日(水) 9:30~12:45

開講コース ① 講義とプレゼンテーション (導入)
② 少人数クラスの
プランニングとマネジメント

申込期間 2022年7月1日(金)~7月22日(金)

2月
開催

2コース同時開催

開講日時 2023年2月21日(火) 9:30~12:45
2023年2月22日(水) 9:30~12:45

開講コース ③ ゼミとディスカッショングループ
④ 発音とGlobal Englishes

申込期間 2023年1月6日(金)~1月27日(金)



お申込みは、二次元コードまたは下記URLから
<https://forms.gle/KFstf5VT7cgRySbY6>

8月
開催

開講日時 2022年8月23日(火) 9:30~12:45
2022年8月24日(水) 9:30~12:45

① 講義とプレゼンテーション (導入)

はじめての方に
おすすめ

〈概要〉

講義とプレゼンテーション (導入) では、教員が英語で講義やプレゼンテーションを行うにあたり、明確で論理的、かつ分かりやすいように行なう方法を学びます。参加者は講義やプレゼンテーションを効果的に行なうのに必要な英語の表現を学び、習得し、聞いて分かりやすいメッセージを伝えることが出来るようになります。それに加え、参加者は学生の理解を助ける効果的なビジュアル、声、ボディランゲージの使い方を学びます。

〈学習するスキル・レッスン内容〉

Part 1 準備と構成	・アイデアを準備する ・関連性を判断する ・論理的な構成・序論、本論、結論
Part 1 一貫性	・効果的な始めかた ・つながり言葉 ・まとめと終わり方 ・質疑応答 ・練習
Part 2 ビジュアルを使う	・ビジュアルを使う際のガイドライン ・ビジュアルを参照する ・複雑なデータを説明する ・練習
Part 2 実際に使う	・強調表現やイントネーションを使う ・ボディランゲージを使う ・メモを使う ・練習

② 少人数クラスの プランニングとマネジメント

初開講

〈概要〉

少人数のクラスをどのようにプランニングし、効果的に行なうかを学びます。クラスで使用する必要な英語を学び、講義をコントロールしながら学生を導く手法につけます。また、参加者は講義の中で明確な指示が出来るような必要なスキルを身につけます。最終的には学生を中心に考えたアプローチを使い、学生が自ら考え協力しながら学ぶことを促します。

〈学習するスキル・レッスン内容〉

Part 1 教室で使う英語	・教室で使う英語 ・指示を与える、指示をチェックする ・練習
Part 1 クラスルーム マネジメント	・インタラクションのパターン ・効果的に授業を行うための教室のセットアップ ・学生を早く簡単にグループに分ける ・フィードバックを行う ・練習
Part 2 受講生中心の アプローチ	・受講生が自分たちで考えることを促す ・受講生が知っていること、情報を引き出す ・受講生中心のクラスを、テキストを使ってデザインする ・練習
Part 2 プランニングと ステージング	・効果的にプランを立てる ・論理的に段階を踏んで進める ・練習

2月
開催

開講日時 2023年2月21日(火) 9:30~12:45
2023年2月22日(水) 9:30~12:45

③ ゼミとディスカッショングループ

開講2回目

〈概要〉

英語でゼミやグループでの議論で進行をコントロールし、参加するすべての学生の意見をきちんと取り入れるようにします。また、各学生にフィードバックする際、的確な表現を用い、効果的にアドバイスする方法を身につけます。

〈学習するスキル・レッスン内容〉

Part 1 主導し コントロールする	・議題を決める ・始め方 ・議論の異なる段階に基く、違うトピックに移る ・終わり方 ・練習
Part 1 クラスルーム マネジメント	・アイデアを紹介する ・参加を促す ・意見を聞く ・比較する、要約する、アイデアを批評する、根拠を述べる ・練習
Part 2 焦点を保つ	・丁寧に割り込む ・中断や問題のある人の対処 ・ディスカッションを元に戻す ・練習
Part 2 1対1の指導	・ポジティブな意見を伝える ・ネガティブな意見を的確な表現で伝える ・アドバイスを与える ・練習

④ 発音とGlobal Englishes

昨年度人気

〈概要〉

日本人学習者が間違えやすい英語の発音の特徴に関する認識を高め、Global Englishes(世界中で使われている様々な種類の英語)を開き取る練習をし、異なる発音の分析方法を理解します。Part1では、日本人学習者にとって間違えやすい発音の特徴に焦点を当てます。Part2では、世界のリーダーが使うような様々なGlobal Englishesを開くことに焦点を当てます。

〈学習するスキル・レッスン内容〉

Part 1 リスニング、英語の 発音の特徴を認識する	・導入ディスカッション: 自身の英語の発音についてどのように感じるか ・異なるネイティブの発音 ・ネイティブスピーカーの発音を取り取り、特徴を認識する
Part 1 英語の発音の特徴の 分析および練習	・言葉のアクセント ・文のリズム ・接続語 ・対照する際に使うアクセント
Part 2 日本人学習者にとって 難しい点	・「r」と「l」の違い ・「th」と「v」の違い ・「a」と「æ」の違い ・発音の絶妙な練習
Part 2 Global Englishesの 聞き取り	・ディスカッション: Global Englishesとジャバニーズイングリッシュ ・リスニング: タボス会議で世界のリーダーが話す英語 ・ディスカッション1: Global Englishesの異なる特徴 ・ディスカッション2: より話し手とは ・リスニング: あまり流暢でないGlobal Englishes(東南アジア)の聞き取り 聞き取りが難しい上記の発音の特徴を認識する ・質疑と練習: 受講者は1日ですべてのことを学べる。その後、ショート トースト・スピーチを実施し、発音についてフィードバックを受ける

【2】高等教育政策動向等

文部科学省

「「イノベーション・コモンズ (共創拠点)」の実現に向けて一まとめの方向性」公表 (2022/05/24)

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shisetu/062/1417904_00001.htm

「令和3年度 ものづくり基盤技術の振興施策」(ものづくり白書) 公表 (2022/05/31)

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2021/1417842_00006.htm

日本私立大学連盟

『私立大学ガバナンス・コード』に関する遵守状況報告結果の公表について (2022/06/01)

首相官邸

「知的財産推進計画2022」決定（2022/06/03）

（概要） https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/kettei/chizaikeikaku2022_gaiyou.pdf

（本文） <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/kettei/chizaikeikaku2022.pdf>

内閣官房

「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画・フォローアップ（2022年）」閣議決定（2022/06/07）

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/atarashii_sihonsyugi/index.html

「デジタル田園都市国家構想基本方針」閣議決定（2022/06/07）

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/digital_denen/index.html

内閣府

「世界に伍するスタートアップ・エコシステムの形成について」公表（2022/06/02）

https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/innovation_ecosystem/index.html

「統合イノベーション戦略2022」閣議決定（2022/06/03）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/tougosenryaku/2022.html>

「経済財政運営と改革の基本方針2022 新しい資本主義へ～課題解決を成長のエンジンに変え、持続可能な経済を実現～」（骨太方針2022）閣議決定（2022/06/07）

<https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/cabinet/2022/decision0607.html>

経済産業省

「未来人材会議 中間とりまとめ」公表（2022/05/31）

https://www.meti.go.jp/shingikai/economy/mirai_jinzai/20220531_report.html

農林水産省

「農林水産研究イノベーション戦略2022」策定（2022/05/24）

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/220524.html>

デジタル庁

「デジタル社会の実現に向けた重点計画」閣議決定（2022/06/07）

<https://www.digital.go.jp/news/f6b7bb94-b31c-4d85-9e3f-269fe8f2ee3a/>

- 「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)

※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。

※閲覧は@toyo.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。

- 海外については、下記のwebサイトをご確認ください。
 - ・高等教育質保証の海外動向発信サイト [QA UPDATES](#)（大学改革支援・学位授与機構）
 - ・海外学術動向ポータルサイト（日本学術振興会）
 - ・「新型コロナと大学」に関するまとめ（広島大学 教授学習支援リエゾンセンター）

【4】 Quick links

- 2022年度FD・SDプログラムガイド（ [閲覧](#) / [PDFダウンロード](#) ）
- 高等教育推進センターホームページ
- 高等教育推進センターToyoNet-ACE専用コース ※ToyoNet-ACE
- ニュースレターバックナンバー ※Googleグループ

- TOYO FD・SD Channel ※ToyoNet-ACE
- 学外FD・SD研修会情報 ※ガルーン
- English Support Service (ESS) ※ガルーン
- 高等教育関連図書のご案内 / 貸出申込フォーム
- 高等教育推進センターニュースレター読者アンケート ※Googleフォーム

【5】あとかき

この春東洋大学を卒業した学部生を対象に実施した卒業時アンケートについて、学部・学科別の集計表がガルーンファイル管理にて公開されています。
2014年度から2021年度までの結果を比較してご確認いただけます。

卒業時アンケート

2021年度結果：

<https://garoon-t.garoon.toyo.ac.jp/v2/cgi-bin/toyo/grn.cgi/cabinet/index?hid=4413>

2014-2021年度結果比較：

<https://garoon-t.garoon.toyo.ac.jp/v2/cgi-bin/toyo/grn.cgi/cabinet/index?hid=4185>

企画

高等教育推進センター 高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

E-mail: mlfdjimu@toyo.jp

- このメールは本学教職員にお届けしています。
 - このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。
 - このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。
- © 2018-2022 東洋大学高等教育推進センター

添付ファイル 2 件



20220829-31_学びを促す授業づくりワークショップ.pdf
571K



2022年度英語で授業を行うためのFD研修会.pdf
224K

東洋大学高等教育推進センターニュースレター（Vol.5, No.4, 通算第72号）

東洋大学高等教育推進センターニュースレター 2022年6月28日 Vol.5, No.4（通算第72号）

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」をお送りしています。
※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。
※[読者アンケート](#)にご協力いただけますと幸いです。

【1】シリーズ 7 | ICT 活用アイデア

第4回 「COVID-19 pandemic」下の PhD double degree programme（前川 透）

【2】FD・SD研修会情報

(1)【追加募集～7/5まで】8/29(月)-8/31(水)開催「学びを促す授業づくりワークショップ」

(2)【申込7/1～22】8/23(火)-8/24(水)開催「英語で授業を行うためのFD研修会」

【3】高等教育政策動向等

【4】Quick links

【1】シリーズ 7 | ICT 活用アイデア

第4回 「COVID-19 pandemic」下の PhD double degree programme

前川 透（学際・融合科学研究科／高等教育研究部会 部会員）

学際・融合科学研究科では、Nantes University, France と連携して「PhD double degree programme」を実施している。今回は興味深かった文化・習慣の違いや Online で実施された審査会を紹介したい。

学際・融合科学研究科では、博士後期課程において Double degree programme を実施している。この制度は、学際・融合科学研究科と協定校で一連の Curriculums を収めることにより、博士号を両校から 1 つずつ取得できる仕組みで、希望者は東洋大学の大学院入学時に Programme に参加することを宣言する必要がある。

2019年4月、学部 3 年からの飛び級制度により私の研究室に配属された学生が、博士後期課程への進学時に Nantes University との「PhD double degree programme」への参加を表明した。

その後、参加学生の博士研究の内容・指導教員の決定・奨学金の確保・宿舍の確保・France 滞在期間・保険・学費の支払い（免除）等について、Nantes University と東洋大学の間で契約書を取り交わした（Nantes University では、学生毎に契約書を交わしている）。なお、奨学金等により 約 160,000 円 / 月の収入がないと、学生として France に滞在することが許されないが、参加学生が「France 政府給費生」に選抜され、Visa が支給された。また、1 年以上 Nantes University で研究を実施することが求められている。学生の France への渡航・France 滞在に関しては France 大使館の支援体制が充実していた。

2020 年 6 月には「Web 中間審査会」が実施され、学生は日本から Remote 参加した。審査員は男女の比率が 1:1 である必要があり、2 名（Spanish（女性）と Greek（男性））であった。英語が公用語であることから、学生は英語で研究経過・成果・計画について 1 時間程発表し、審査員からの質問に答えた。研究指導教員は審査会に参加するが、発言は許されない。学生が退室し、審査員から研究指導教員に、学生の独創性・独立心・国際性等に関する質問があった。また、研究指導教員が退室し、審査員から学生に、研究指導の適切性等に関する質問があったようである。最後に、審査員から学生に研究遂行に関する助言があった。その後、審査員から中間審査結果が文書（e-mail）で送られてきた。

その後、2021 年 1 月 28 日に「最終審査会」が Nantes University で開かれた。審査員は 4 名（French（2 名）、Italian（1 名）、Greek（1 名））で、中間審査会と同様に、審査員の男女比は 1:1 であった。なお、中間審査員は最終審査員を務めることができない決まりになっていた。

最終審査委員会では、学生が 1 時間程度発表し、それぞれの審査員が 30 分程質問した。研究成果だけでなく、基本的な科学・原理に関する質問もあり、また、審査員の英語の発音・表現が多彩で、学生にとっては 3 時間を超える過酷な審査会であったと思う。1 週間後に最終審査報告書が学生と指導教員に送付され、博士論文を修正した後に、博士論文の最終版を提出した。PDF file を提出すれば、出版部が印刷・製本するので便利である。なお、最終審査委員会は、十分な成果が得られ、論文がまとまった時点で組織化・招集することができるので、時間の空白がなく、学生の研究意欲が向上すると思われる。実際に、2022 年 2 月 10 日に Nantes University から博士号が授与されたのだが、入学から 2 年 6 ヶ月で博士号を取得したことになる。

また、博士号取得条件として、国際論文誌への発表は義務付けられていないが、厳格な審査が行われるので、博士号取得者の研究能力・国際性は高い。また、博士号取得後に論文を執筆するので、高水準の論文誌に投稿することができる。現在までに、本学生が第一著者の論文3編が国際論文誌（Online）に掲載されている。

France の大学では、外国大学との「Cotutelles (PhD double degree programme)」が推奨されており、普通に実施されている。Nantes University の博士課程の学生のほとんどが Cotutelles に参加しているが、本学生は、Nantes University で初めての日本人 Cotutelles 参加学生・博士号取得者となった。東洋大学の研究水準・国際性の向上のために、PhD double degree programmes の発展（連携大学の拡張・参加学生数の増加）が望まれる。

※その他、COVID-19 pandemic 下の教育研究活動の詳細については、添付の PDF file を参照いただきたい。

【目次】「COVID-19 pandemic」下の教育研究活動（別紙参照）

1. はじめに
2. 2020・2021年度の教育活動の概要
3. 研究活動
4. Hardware・software
5. PhD double degree programme

【2】FD・SD研修会情報

【1】【追加募集～7/5まで】8/29(月)-8/31(水)開催「学びを促す授業づくりワークショップ」

本研修会について、申込期間（～6/20）を終了しましたが、定員に若干の空きがありますので、2022年7月5日(火)まで、先着順にて追加募集をいたします。

参加を希望される方は、下記フォームよりお申込みください。
引き続き、皆さまのご参加をお待ちしております。

申込フォーム：<https://forms.gle/Aoe3u9qhE4FaC8yg9>

※詳細は、添付のポスター及びシラバスよりご参照ください。

3日間集中開講

学びを促す 授業づくり ワークショップ

東洋大学高等教育推進センター主催



講師 東洋大学
大学総合教育研究センター
副センター長
東田 佳代子 教授

開催日時 2022年8月29日(月) 9:00-17:00
30日(火) 9:00-16:00
31日(水) 9:00-17:10

場所 白山キャンパス10号館教室 (対面)

対象 専任教員・大学院生(博士後期課程)

定員 24名

使用言語 日本語

到達目標

- ◆ アクティブラーニングの手法を体験し、実際に使えるようになる
- ◆ 学生のモチベーションの喚起・維持・向上につながる工夫ができる
- ◆ 学生が主体的に学べる授業のデザインができる
- ◆ 基礎知識をふまえた評価をデザインできる
- ◆ 学んだ知識を模擬授業として活用し実施できる
- ◆ キャリアパスについて考え、日頃の活動や今後の展望について整理できる

お申込みは下記の二次元コード・リンクから



URL: <https://forms.gle/Aoe3uJqbl4FaC8yg9>

申込期間: 2022年7月5日(火)まで

〈プログラムの概要〉 現在、大学教員としてのキャリアを進むにあたっては、研究者としてだけでなく、教育者としての資質も問われています。本プログラムは、学生が主体的に学ぶ場をつくるために必要な学生のモチベーションの高め方、授業デザインやシラバス、評価方法などを学びます。また、アクティブラーニングの手法を取り入れたグループワークに取り組み、模擬授業の実践を行うなど、経験の中から学んでいきます。

〈目的と目標〉

〈目的〉

本プログラムでは、大学教員の職務としての「教育」の重要性を認識し、学生の立場にたった教育の設計と実行を可能にすることを目的とします。そのために、授業実施に向けた実践的な知識やスキルを実践に体験し、参加者が互いに学び合いながら実践的な教育力を身につけます。

〈目標〉

- ◆ アクティブラーニングの手法を体験し、実際に使えるようになる
- ◆ 学生のモチベーションの喚起・維持・向上につながる工夫ができる
- ◆ 学生が主体的に学べる授業のデザインができる
- ◆ 基礎知識をふまえた評価をデザインできる
- ◆ 学んだ知識を模擬授業として活用し実施できる
- ◆ キャリアパスについて考え、日頃の活動や今後の展望について整理できる

〈キーワード〉 シラバス クラスデザイン アクティブラーニング モチベーション
評価 模擬授業 ポートフォリオ

〈スケジュール〉 Day1 模擬授業、クラスデザイン、モチベーション
Day2 アクティブラーニング、シラバス/コースデザイン、評価
Day3 模擬授業、大学教員としてのリフレクション

〈参加条件〉 前提知識は特に必要としませんが、下記をお願いします。
・事前課題および研修中の課題に遅滞なく取り組めること
・遅刻・早退・中抜けをしないこと

シラバスの詳細はこちら▶
https://drive.google.com/file/d/1TDN_4CWxf_VwcnbRYhYNgz51QYfKqgc/view?usp=sharing



【2】【申込7/1~22】8/23(火)-8/24(水)開催「英語で授業を行うためのFD研修会」

申込フォーム: <https://forms.gle/KFstf5VT7cgRySbY6>

※各コースの定員は9名、先着順で受付いたします。

※2023年2月開講コースのお申込みにつきましては、別途ご案内いたします。

※詳細は、添付のポスターよりご参照ください。

2022年度

各コース定員9名 先着順

英語で授業 を行うためのFD研修会

〈対象〉 専任教員

〈場所〉 オンライン

〈使用言語〉 英語

〈講師〉 プリティッシュ・カウンシル専任講師

〈受講条件〉

- 英語レベル中級以上
(ネイティブスピーカーによる英語でのレッスンに対応できるレベル)
- 2日間参加できること (1日のみのご参加はできません)

主 催 : 東洋大学高等教育推進センター
問い合わせ: 高等教育推進室 (mifujimu@toyo.jp)

8月開催

2コース同時開催

開講日時 2022年8月23日(火) 9:30~12:45
2022年8月24日(水) 9:30~12:45

開講コース ① 講義とプレゼンテーション (導入)
② 少人数クラスの
プランニングとマネジメント

申込期間 2022年7月1日(金)~7月22日(金)

2月開催

2コース同時開催

開講日時 2023年2月21日(火) 9:30~12:45
2023年2月22日(水) 9:30~12:45

開講コース ③ ゼミとディスカッショングループ
④ 発音とGlobal Englishes

申込期間 2023年1月6日(金)~1月27日(金)



お申込みは、二次元コードまたは下記URLから
<https://forms.gle/KFstf5VT7cgRySbY6>

8月
開催開講日時 2022年8月23日(火) 9:30~12:45
2022年8月24日(水) 9:30~12:45

① 講義とプレゼンテーション（導入）

はじめての方に
おすすめ

（概要）
講義とプレゼンテーション（導入）では、教員が英語で講義やプレゼンテーションを行うにあたり、明確で論理的、かつ分かりやすいように行なう方法を学びます。参加者は講義やプレゼンテーションを効果的に行なうために必要な英語の表現を学び、百発百中という分かりやすいメッセージを伝えることが出来るようになります。それに加え、参加者は学生の理解を助ける効果的なビジュアル、声、ボディラングージの使い方を学びます。

〈学習するスキル・レッスン内容〉	
Part 1 準備と構成	・アイデアを準備する ・関連性を判断する ・論理的な構成・序論、本論、結論
Part 1 一貫性	・効果的な始めかた ・つながり言葉 ・まとめと終わり方 ・質疑応答
Part 2 ビジュアルを使う	・ビジュアルを使う際のガイドライン ・ビジュアルを参照する ・複雑なデータを説明する ・練習
Part 2 実用に行う	・強調表現やイントネーションを使う ・ボディラングージを使う ・メモを使う ・練習

② 少人数クラスの
プランニングとマネジメント

初開講

（概要）
少人数のクラスをどのようにプランニングし、効果的に行なうかを学びます。クラスで使用される必要な英語を学び、講義をコントロールしながら学生を導く手法を身につけます。また、参加者は講義の中で明確な指示が出せるよう必要なスキルを身につけます。最終的には学生を中心に考えたアプローチを使い、学生が自ら考え協力しながら学ぶことを促します。

〈学習するスキル・レッスン内容〉	
Part 1 教室で使う英語	・教室で使う英語 ・指示を与える、指示をチェックする ・練習
Part 1 クラスルーム マネジメント	・インタラクティブのバリエーション ・効果的に授業を行うための教室のセットアップ ・学生を素早く簡単にグループ分けする ・フィードバックを行う ・練習
Part 2 受講生中心の アプローチ	・受講生が自分たちで考えることを促す ・受講生が知っていること、情報を引き出す ・受講生中心のクラスを、テキストを使ってデザインする ・練習
Part 2 プランニングと ステージング	・効果的にプランを立てる ・論理的に段階を踏んで進める ・練習

2月
開催開講日時 2023年2月21日(火) 9:30~12:45
2023年2月22日(水) 9:30~12:45

③ ゼミとディスカッショングループ

開講2回目

（概要）
英語でゼミやグループでの議論で進行をコントロールし、参加するすべての学生の意見をきちんと取り入れるようにします。また、各学生にフィードバックする際、的確な表現を用い、効果的にアドバイスする方法を身につけます。

〈学習するスキル・レッスン内容〉	
Part 1 主軸と コントロールする	・議論を決める ・始め方 ・議論の異なる段階に進む、違うトピックに移る ・終わり方 ・練習
Part 1 クラスルーム マネジメント	・アイデアを紹介する ・参加を促す ・意見を聞く ・比較する、賛める、アイデアを批評する、根拠を述べる ・練習
Part 2 焦点を保つ	・丁寧に割り込む ・中断や問題のある人の対応 ・ディスカッションを元に戻す ・練習
Part 2 1対1の指導	・ポジティブな意見を伝える ・ネガティブな意見を的確な表現で伝える ・アドバイスを与える ・練習

④ 発音とGlobal Englishes

昨年度人気

（概要）
日本人学習者が英語で英語の発音の特徴に関する認識を高め、Global Englishes(世界中で使われている様々な種類の英語)を聞き取る練習をし、異なる発音の分析方法を理解します。Part1では、日本人学習者にとって聞き取りやすい発音の特徴に焦点を当てます。Part2では、世界のリーダーが使うような様々なGlobal Englishesを聞くことに焦点を当てます。

〈学習するスキル・レッスン内容〉	
Part 1 リスニング、英語の 発音の特徴を認識する	・導入ディスカッション：自身の英語の発音についてどのように感じるか ・異なるネイティブの発音 ・ネイティブスピーカーの発音を聞き取り、特徴を認識する
Part 1 英語の発音の特徴の 分析および練習	・重音のアクセント ・文のリズム ・接続詞 ・対照する際に使うアクセント
Part 2 日本人学習者にとって 難しい点	・「r」と「l」の違い ・「h」と「f」の違い ・「s」と「z」の違い ・発音の継続的な練習
Part 2 Global Englishesの 聞き取り	・ディスカッション：Global Englishesとジャバニーズイングリッシュ ・リスニング：ダボス会議で世界のリーダーが話す英語 ・ディスカッション1：Global Englishesの異なる特徴 ・ディスカッション2：よい話し手とは ・リスニング：あまり正確でないGlobal Englishes(東南アジア)の聞き取り ・聞き取りが難しい上記の発音の特徴を認識する ・練習と練習：受講者は自分で学んだことを振り返る。その後、ショートス ポーチを実行し、発音についてフィードバックを受ける

【2】 高等教育政策動向等

文部科学省

「令和4年版 科学技術・イノベーション白書」公開（2022/06/14）

https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpaa202201/1421221_00001.html

大学院部会（第107回）開催（2022/06/16）

https://www.mext.go.jp/kaigisiryu/2019/09/1421377_00015.html

中央教育審議会大学分科会大学振興部会（第1回）開催（2022/06/17）

https://www.mext.go.jp/kaigisiryu/mext_00391.html

中央教育審議会大学分科会（第168回）開催（2022/06/22）

https://www.mext.go.jp/kaigisiryu/mext_00396.html

科学技術・学術政策研究所

「我が国の大学の研究活動における研究マネジメントの状況に関する分析」公表（2022/06/17）

<https://www.nistep.go.jp/archives/51926>

「民間企業の研究活動に関する調査報告2021」公表（2022/06/22）

<https://www.nistep.go.jp/archives/51937>

内閣官房

2024（令和6）年度卒業・修了予定者等の就職・採用活動について（周知依頼）（2022/06/13）

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/shushoku_katsudou_yousei/2024nendosotu/Internship_yousei.html
（参考リンク）

・経済産業省「現大学2年生より、インターンシップのあり方が変わります！」（2022/06/13）

<https://www.meti.go.jp/press/2022/06/20220613002/20220613002.html>

・文部科学省「政府のインターンシップの推進に当たっての基本的考え方（三省合意）改正」（2022/06/13）

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/sangaku2/1346604.htm

日本経済団体連合会

「学生のキャリア形成支援活動の推進」に関する解説動画公開（2022/06/22）

<https://www.keidanren.or.jp/announce/2022/0622.html>

- 「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)

※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。

※閲覧は@toyo.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。

- 海外については、下記のwebサイトをご確認ください。

・高等教育質保証の海外動向発信サイト [QA UPDATES](#)（大学改革支援・学位授与機構）

・海外学術動向ポータルサイト（日本学術振興会）

・「新型コロナと大学」に関する[まとめ](#)（広島大学 教授学習支援リエゾンセンター）

【4】 Quick links

- 2022年度FD・SDプログラムガイド（[閲覧](#) / [PDFダウンロード](#)）
- 高等教育推進センターホームページ
- 高等教育推進センターToyoNet-ACE専用コース ※ToyoNet-ACE
- ニュースレターバックナンバー ※Googleグループ
- TOYO FD・SD Channel ※ToyoNet-ACE
- 学外FD・SD研修会情報 ※ガルーン
- English Support Service (ESS) ※ガルーン
- 高等教育関連図書のご案内 / 貸出申込フォーム
- 高等教育推進センターニュースレター読者アンケート ※Googleフォーム

【5】 あとがき

今回は、前川先生にご寄稿いただきました。

別紙において、コロナ禍の研究活動についてもご紹介いただいています。

「実験時間が制限されたため、学生の実験・研究に対する姿勢が変化した」というお話はとても興味深いです。ぜひ、別紙もあわせてご一読ください。

前回は、この春東洋大学を卒業した学部生を対象に実施した

卒業時アンケートをご紹介いたしました。

2022年度新入生アンケートの結果についても、

ガルーンファイル管理に公開されましたので、ぜひご覧ください。

2022年度新入生アンケート結果：

<https://garoon-t.garoon.toyo.ac.jp/v2/cgi-bin/toyo/grn.cgi/cabinet/index?hid=4414>

企画

高等教育推進センター 高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

E-mail: mfdjimu@toyo.jp

- このメールは本学教職員にお届けしています。

- このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。

ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。

- このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。

© 2018-2022 東洋大学高等教育推進センター

添付ファイル 3 件

 【別紙】「COVID-19 pandemic」下の教育研究活動.pdf
256K

 AY2022授業づくりシラバスv2.pdf
217K

 AY2022英語FD.pdf
224K

東洋大学高等教育推進センターニュースレター（Vol.5, No.5, 通算第73号）

東洋大学高等教育推進センターニュースレター 2022年7月26日 Vol.5, No.5（通算第73号）

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」をお送りしています。
※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。
※[読者アンケート](#)にご協力いただけますと幸いです。

【1】シリーズ7 | ICT活用アイデア

第5回 オンデマンド型授業の利活用の可能性（東海林 克彦）

【2】FD・SD研修会情報

(1)【7/5-8/5開催】社会学部FD研修会「大学におけるSDGs活動の推進を活かした教育」のご案内

(2)【9/13開催】国際教育センター主催「BEVI開発者によるFD/SDセミナー」のご案内

【3】高等教育政策動向等

【4】Quick links

【1】シリーズ7 | ICT活用アイデア

第5回 オンデマンド型授業の利活用の可能性

東海林 克彦（教育担当副学長／高等教育研究部会 部会員／国際観光学部 教授）

「オンキャンパスとオフキャンパスの学習スタイルの高度化」の推進が、本学の教育DX推進基本計画において、今後、検討・実施すべき措置として定められています。本稿では、これを踏まえて、オンデマンド型授業の利活用の可能性について紹介をさせていただきます。

非対面授業（オンライン授業）は、約2年前の新型コロナウイルス感染症のまん延に伴い、感染防止対策を徹底する観点からのやむを得ない措置として導入された授業形態でした。こういったことも影響していると思いますが、オンデマンド型授業には、授業教材を学生に送るだけのものであることから学修効果の維持・確保が困難であるなどといった誤解が未だに付いて回ったりします。

しかし、2年間にわたり、実際に自分の授業においてオンデマンド型授業を実施してきた経験から得られた知見などからすると、教室での対面授業以上に学修効果を上げられる場合もあると感じています。授業教材の作りこみや授業運営の工夫次第では、場所と時間の制約から解放された柔軟な教育を展開できる可能性を秘めており、非常に奥の深い教育方法になるのではと考えている次第です。

なお、すべての授業科目において、オンデマンド型の授業が可能または有効なわけではありません。知識付与型の授業内容などに限定されます。ゼミ、実験や実習などのディスカッションや実体験を重視する授業内容の科目については、オンデマンド型授業の活用はできないか、活用できたとしてもごく一部の場面に限られることとなります。

1 オンデマンド型授業とは

あらためて解説するまでもないと思いますが、オンデマンド型授業とは、動画やパワーポイントのスライド等の授業教材の配信により行う授業のことになります。

Webexなどを使った同時双方向型授業（テレビ会議方式による授業）と異なり、同時性の担保及び同時での双方向性の確保は必須ではありません。しかし、文部科学省の告示や本学のガイドライン（ガイドライン5：非対面授業（メディア授業）の実施ガイドライン、2020年4月3日・新型コロナウイルス感染症対策委員会）等によれば、次の3つが必須要件とされており、決して、教員から一方的に授業教材を流すだけの授業にとどまるものではありません。

- ①毎回の授業教材（課題を含む）の配信と当該授業教材の学習をした学生の確認
- ②電磁的方法による質問等の受け付けや意見交換の機会の確保
- ③提出された課題に対する評価の電磁的方法による毎回のフィードバック

2 オンデマンド型授業の利活用の考え方

オンデマンド型授業の利活用は、すべての授業科目について、無条件に利活用できるといったものではありません。授業内容を踏まえて必要に応じて検討されるべきものです。

利活用の仕方としては、大別すると2通りになります。1つ目は、「非対面単位認定科目における授業形態として導入する方法」になり

ます。オンデマンド型の授業は、同時双方向型の授業形態と異なり、場所と時間の制約から解放されて授業を受けられるとともに、繰り返しの学習ができることになります。学生といえども、授業時間として定められている90分の間、注意力を維持し続けることはなかなか難しかったです。しかし、オンデマンド型の授業であれば、途中で休憩を入れることもできますし、また、聞きそびれたり、見そびれたりすることもなくなります。

2つ目は、「対面単位認定科目の15回の授業回の一部を、オンデマンド型の授業に切り替えて実施する方法」です。15回の授業といっても、授業科目によっては、ディスカッション型の授業回があったり、知識付与型の内容の授業回があったりします。こういったことから、知識付与型の内容の回についてはオンデマンド型に切り替えて実施したり、オンデマンド型の授業の回と教室での対面形式での授業の回を交互に行うといった反転授業のような授業運営を行ったりするなどの方法です。

なお、こういった取り組みについては、既に一部の先生方が実際の授業に導入し始めている事例も散見されます。また、校務などのやむを得ない事情により急遽授業を休講せざるを得なくなってしまう場合、オンデマンド型の授業に切り替えて実施するといった事例も見受けられるようです。これらの場合に気を付けていただかなければならないのは、シラバスに事前の明記をしておくか、または、学生に対して事前に十分に周知をしたうえで学部長等に対して「非対面授業への切り替え届」を出す必要があることです。また、15回の授業回のうち、非対面の授業に切り替えられるのは、最大で7回までになることについても遵守しなければなりません。

3 オンデマンド型授業の学修効果、学生の反応

教室での対面授業等と比べた場合、オンデマンド型授業の学修効果はどの程度のものになるのか、また、オンデマンド型授業に対する学生のニーズや反応はどのようなものなのか、ということを確認する必要がありますと考えられますので、学修効果と学生のニーズや反応という2点から、実際の授業を通して得られた調査結果の概要をご紹介します。

なお、比較対照する授業ですが、一方は、教室での対面授業とWebexによる同時配信のハイブリッド型の授業であり、もう一方は、解説音声付きのスライドショーや動画によるオンデマンド型の授業（受講可能期間は平日の5日間）になります。

(1) 学修効果

学修効果の測定は一朝一夕にできるものではありませんが、毎回の授業で実施した「理解度の確認テスト（解答時間制限のあるオンライン方式のテスト）」の得点を「学修効果」とみなして、話を進めることとします。

対面等で行う場合の授業とオンデマンド型の授業との学修効果ですが、私の授業で検証調査を行った結果によると「差は無い」という結果になりました。むしろ、授業の内容にもよりますが、オンデマンド型授業の方が若干で高い傾向が観察されました。また、成績が下位のグループに属している学生の学修効果の違いを確認するため、授業形態の違いによる上位グループと下位グループの差も分析をしてみました。こちらについても、対面等で行う場合の授業とオンデマンド型の授業との学修効果も観察することはできませんでした。

表 授業形態の違いによる学修効果の比較

授業形態		履修者数	テスト正答率		
			政策手段	観光立国推進基本法	観光関連法
オンデマンド	授業科目①	204人	93.1%	93.3%	70.0%
	授業科目②	198人	92.8%	92.5%	73.4%
対面(同時配信)	授業科目①	298人	—	89.0%	76.3%
	授業科目②	272人	96.6%	88.7%	65.9%

※オンデマンドの授業はほぼ1年生が履修。

対面(同時配信)は1年生に加えて、2年生が各90人程度履修している。

(2) 学生の意見等

主な学生の意見や反応を紹介します。オンデマンド型授業に適した内容の授業に限られた場合のことになりますが、ほぼ全員の学生が異口同音に、「オンデマンド型授業の方が適当である」という意見や反応になっていました。

なお、ここで使用したオンデマンド型の授業用のLMSは、サイバー大学や放送大学が使用しているものに類したもので、LINEやチャットのように各学生の意見等が容易に一覧できるディスカッション機能、スライドショーや動画の解説音声が表示される機能などが付加されたものになります。

★学生からの意見や反応

①「好きな時間、繰り返しや復習、要点がまとめられている、ので良いが、自己管理については多少の不安もある」

- ・オンデマンドであれば電車などの移動時間に受けられて、時間を有効利用できます。また、一度見てから復習もできるので良いと思います。
- ・オンデマンド型授業をするのはいいと思います。ネットさえつながっていればどこからでも授業を聞くことができるし、大きな教室では先生の声がよく聞こえない場合もあったんですが、オンデマンドでは皆が平等に聞けます。また、難しかった部分をもう一度再生することもできます。授業をちゃんと聞く意志さえあればオンデマンド型授業もいいと思います。
- ・オンデマンド授業だと自己管理、自己責任になるので不安もありますが、自分のペースでできるので理解度はより深まると思いました。

②「字幕は、難しい言い回しや専門用語の確認、留学生にとって有用」

- オンデマンドは、理解が出来なかったら一回戻って見返すことが出来るので、対面授業とは違って自分のペースでできるのが利点だと感じました。
また、字幕機能もついていて、個人的には字幕を見ながら授業を受ける方が理解を深めることが出来るので有難いです。
- オンデマンド型授業は自由度が高くて、自分で時間を管理して授業を受けるのが私はこれがいいと思います。そして、字幕機能があって、何回も見直ししてもできますので、外国人留学生にとって、とても助かります。

③「みんなの意見が見られるディスカッション機能は、共有・刺激しあう点で有益」

- オンデマンドでは1ページごとに要点が凝縮されているので、一言一言聞き逃さないようにより集中して受講できます。ディスカッション機能はみんなで意見を共有しあえるのでとてもいいと思います。
- 自分が見たい時に見ることができ、振り返りも気軽にすることができるので、オンデマンド型の授業はとてもいいと思います。また、ディスカッション機能はみんなの意見を見ることができるので、新しい発見ができ、とてもいいツールだと思います。

④「スライドショーや動画の視聴時間は約30分+αが妥当」

- 講義の長さは、30～40分が妥当です。他授業で90分あるものを受けましたが、正直、退屈に思いはじめます。対面講義に比べ緊張感もないため、集中が途絶えました。個人的な意見ですが、オンデマンドだと、50～60分を超えてしまえば非効率のだと、ここ2年間のオンライン授業で感じています。
- 自分は講義を一時停止しながら聞くので、結局90分くらいかかってしまいます。

4 最後に

すべての授業科目や授業回について、オンデマンド型授業を導入できる・導入が妥当なものではありませんが、実際の授業において2年間にわたり実証的に調査等を進めてきた結果から得られた各種の知見等からすると、使い方や授業運営の工夫次第では、学生だけでなく教員にとっても有益な方法論になる可能性を秘めていることが分かりました。

しかし、こういった利点を適切に引き出せるようにするためには、教材の作成や授業の運営において一定の工夫が必要になることは言うまでもありません。そのためには、具体的かつ実践的な内容のガイドラインのようなものが必要になるでしょうし、また、教材作成等に対する支援措置の準備も必要になってくることでしょう。

こういった問題認識のもと、現在、全学カリキュラム委員会では、オンデマンド型授業のガイドラインのとりまとめに着手しています。また、学長施策の教育力強化特別予算によって（まずは大学院を対象にしたケーススタディ的な取り組みから着手中）、オンデマンド型授業の実証的実業を含む多様かつ柔軟なハイフレックス学修推進プロジェクトを実施していることを、最後に申し上げさせていただきます。

【2】FD・SD研修会情報

(1)【7/5-8/5開催】社会学部FD研修会「大学におけるSDGs活動の推進を活かした教育」のご案内（社会学部FD推進委員会）

社会学部FD推進委員会では、春学期FD研修会をオンデマンドで実施します。

全教職員を対象として録画を公開しますので、多くの方にご視聴いただきますよう、お願い申し上げます。

【テーマ】 大学におけるSDGs活動の推進を活かした教育

【講師】 株式会社進研アド 田邊心枝氏、柴田聡子氏

【公開日】 2022年7月5日から8月5日

【公開URL】 <https://youtu.be/2Ts1m7yAA5M>

【資料】 ガルーン掲示板からダウンロードをお願いいたします。

<https://garoon-t.garoon.toyo.ac.jp/v2/cgi-bin/toyo/grn.cgi/bulletin/view?cid=21&aid=20581>

【アンケート】 ご意見・ご質問等がありましたら、下記のGoogle Formからお願いいたします。

またガルーン掲示板でのコメントの書き込みでも結構です。

質問については、田邊様、柴田様からご回答いただいた結果をガルーン掲示板で公開します。

回答は公開日終了後に行います。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScCZcNM_aHL9oLf3tmBM2XnMwy3ggPZviQZOiwt10lqa5yTrw/viewform

【ガルーン掲示板】 <https://garoon-t.garoon.toyo.ac.jp/v2/cgi-bin/toyo/grn.cgi/bulletin/view?cid=21&aid=20581>

(2)【9/13開催】国際教育センター主催「BEVI 開発者によるFD/SDセミナー」のご案内（国際教育センター）

国際教育センターでは、BEVI (The Beliefs, Events, and Value Inventory) の開発者であるグレイグ・シーリー教授をお招きし、BEVI に関するFD/SD セミナーを開催いたします。

教職員の皆様におかれましては、BEVI を知るまたとない機会をお見逃さないよう、下記フォームからお申し込みをお待ちしております。

実施概要

- (1) 日 時 : 9月13日(火) 10:00 - 12:00
- (2) 場 所 : 白山キャンパス A101 教室 (※オンライン同時配信)
- (3) 講師名 : Craig Shealy 教授 (Western Washington 大学、BEVI開発者)
- (4) 対象者 : 関心がある教職員
- (5) 実施言語 : 英語
- (6) 申込方法 : 専用Google Form (<https://forms.gle/zKbmd9EattgfUkqe6>) にて受付 (9月11日まで)

BEVI とは？

BEVI とは、The Beliefs, Events, and Value Inventory の略で、個人の信念や価値観など、自己全体の心理的特性を測定できる分析ツールです。

17に細分化された尺度により「自己」について客観的に示されるため、キャンパスや学部単位、男女別など、様々な観点から本学学生の特性を把握できます。

国際教育センターでは、BEVI の活用により、学生の色々な状況や要望に合ったプログラム等の開発・改善が可能となり、また、学生にとっては、「自己」について客観的に知ること、グローバル・コンピテンシー発達のために、具体的な行動を起こせるメリットがあると考えています。

(BEVI について) <https://jp.thebevi.com/about/>

BEVI TODAY

留学・教育プログラムのアウトカム測定のために利用されている **BEVI-3** は文科省の国際化促進フォーラム・プロジェクトに採択されました。現在90を超える大学が利用し、2万人を超える学生が回答する予定です。

本学におけるBEVI利用

他大学の多くは、留学や海外研修の成果をBEVIで測っていますが、本学におきましては、国際教育センターが2020年度よりBEVIを利用し始め、現在、センターの授業を履修した学生のBEVIデータを集積し、それぞれの専門学部に属する学生の特性を分析しております。東洋グローバル・リーダーを育てるにあたり、本学の教育プログラムに何が足りて、何が不足しているのかを理解するには、学生の得意・不得意分野や関心事・無関心時などを客観的データから理解する事が必須です。

BEVI開発者によるセミナー

今回、BEVIの開発者であるグレイグ・シーリー教授が Fulbright - Specialist Programmeにより来日されますが、本学においてFD/SDワークショップを開催して頂けることになりました。
教職員の皆様におかれましては、BEVIを知るまたとない機会をお見逃しないう、よろしくお願い致します。

“

開催日: 9月13日(火)
時間: 10:00-12:00
会場: A101教室 (10号館1階)
※オンライン同時配信あり
申込方法: 専用申込フォーム (QRコード) から申し込みください。
申込締切: 9月11日(日)
問い合わせ: 国際教育センター (mlipo@toyo.jp)

【3】高等教育政策動向等

文部科学省

「令和3年度文部科学白書」公表 (2022/07/19)

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/07/1418930_00007.htm

「2030年に向けた数理科学の展開－数理科学への期待と重要課題－」策定 (2022/07/22)

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/kagaku/2022/mext_01067.html

日本学術会議

日本学術会議幹事会声明「有期雇用研究者・大学教員等のいわゆる「雇止め」問題の解決を目指して」公表 (2022/07/12)

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-25-kanji-3.pdf>

日本学術会議会長メッセージ「「研究インテグリティ」という考え方の重要性について」公表（2022/07/22）

<https://www.scj.go.jp/ja/head/pdf/20220722.pdf>

日本私立大学連盟

『令和3年度奨学金等分科会報告書』刊行（2022/07/07）

https://www.shidaiaren.or.jp/topics_details/id=3599

国際連携委員会「国際教育・交流調査2021」とりまとめ（2022/07/13）

https://www.shidaiaren.or.jp/topics_details/id=3606

私立大学情報教育協会

「大学教育と情報」2022年度No.1刊行（特集「オンライン授業の学修評価と試験方法」）（2022/07/08）

<https://www.juce.jp/LINK/journal/2204/mokuji.html>

マイナビ

「大学生のアルバイトに関するレポート（2022年）」発表（2022/07/05）

https://www.mynavi.jp/news/2022/07/post_34440.html

リクルート進学総研

高校生に聞いた大学ブランドランキング「進学ブランド力調査2022」発表（2022/07/14）

<https://souken.shingakunet.com/2022/07/2022.html>

- 「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)
※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。
※閲覧は@toyo.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。
- 海外については、下記のwebサイトをご確認ください。
 - ・高等教育質保証の海外動向発信サイト [QA UPDATES](#)（大学改革支援・学位授与機構）
 - ・海外学術動向ポータルサイト（日本学術振興会）
 - ・「新型コロナと大学」に関するまとめ（広島大学 教授学習支援リエゾンセンター）

【4】 Quick links

- 2022年度FD・SDプログラムガイド（[閲覧](#) / [PDFダウンロード](#)）
- 高等教育推進センターホームページ
- 高等教育推進センターToyoNet-ACE専用コース ※ToyoNet-ACE
- ニュースレターバックナンバー ※Googleグループ
- TOYO FD・SD Channel ※ToyoNet-ACE
- 学外FD・SD研修会情報 ※ガルーン
- English Support Service (ESS) ※ガルーン
- 高等教育関連図書のご案内 / 貸出申込フォーム
- 高等教育推進センターニュースレター読者アンケート ※Googleフォーム

【5】 あとがき

- みなさまの声をお寄せください
[読者アンケート](#)にご協力いただくと幸いです。
最短10秒で回答が完了します。

企画

高等教育推進センター 高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター

- このメールは本学教職員にお届けしています。
- このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。
- このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。

© 2018-2022 東洋大学高等教育推進センター

東洋大学高等教育推進センターニュースレター（Vol.5, No.6, 通算第74号）

東洋大学高等教育推進センターニュースレター 2022年9月9日 Vol.5, No.6（通算第74号）

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」をお送りしています。
※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。
※[読者アンケート](#)にご協力いただけますと幸いです。

【1】FD・SD研修会情報

- (1)【9/13開催】国際教育センター主催「BEVIに関するFD/SDセミナー」のご案内
- 【2】高等教育政策動向等
- 【3】Quick links

【1】FD・SD研修会情報

【1】【9/13開催】国際教育センター主催「BEVIに関するFD/SDセミナー」のご案内（国際教育センター）

国際教育センターでは、BEVIの開発者であるグレイグ・シーリー教授をお招きし、BEVIに関するFD/SDセミナーを開催いたします。
教職員の皆様におかれましては、BEVIを知るまたとない機会をお見逃しないよう、下記フォームからお申し込みをお待ちしております。

実施概要

- (1) 日 時 : 9月13日（火）10:00 – 12:00
- (2) 場 所 : 白山キャンパス A101 教室（※オンライン同時配信）
- (3) 講師名 : Craig Shealy 教授（Western Washington 大学、BEVI開発者）
- (4) 対象者 : 関心がある教職員
- (5) 実施言語 : 英語
- (6) 申込方法 : 専用Google Form (<https://forms.gle/zKbmd9EattgfUkqe6>) にて受付（9月11日まで）

BEVI とは？

BEVI とは、The Beliefs, Events, and Value Inventory の略で、個人の信念や価値観など、自己全体の心理的特性を測定できる分析ツールです。

17に細分化された尺度により「自己」について客観的に示されるため、キャンパスや学部単位、男女別など、様々な観点から本学学生の特性を把握できます。
国際教育センターでは、BEVI の活用により、学生の色々な状況や要望に合ったプログラム等の開発・改善が可能となり、また、学生にとっては、「自己」について客観的に知ること、グローバル・コンピテンシー発達のために、具体的な行動を起こせるメリットがあると考えています。

（BEVI について）<https://jp.thebevi.com/about/>



BEVI開発者による FD/SDセミナー

国際教育センター主催

BEVI TODAY

留学・教育プログラムのアウトカム測定のために利用されているBEVI-3は文科省の国際化促進フォーラム・プロジェクトに採択されました。現在90を超える大学が利用し、2万人を超える学生が回答する予定です。

本学におけるBEVI利用

他大学の多くは、留学や海外研修の成果をBEVIで測っておりますが、本学におきましては、国際教育センターが2020年度よりBEVIを利用し始め、現在、センターの所管を最終した学生のBEIデータを集積し、それぞれの専攻学部に関する学生の特性を分析しております。東洋グローバル・リーダーを育てるに当たり、本学の教育プログラムに何が足りて、何が不足しているのかを理解するには、学生の得意・不得意分野や関心事・無関心時などを客観的データから理解する事が必須です。

**BEVI開発者による
セミナー**

今回、BEVIの開発者であるグレイト・シェリー教授がFullbright Specialist Programmeにより来日されますが、本学においてFD/SDワークショップを開催して頂けることになりました。教職員の皆様におかれましては、BEVIを知るまたない機会をお見逃ししないよう、よろしくお願ひ致します。

“

開催日：9月18日（火）
 時間：10:00-12:00
 会場：A101教室（10号館1階）
 ※オンライン同時配信あり
 申込方法：専用申込フォーム（QRコード）から申し込みください。
 申込締切：9月18日（日）
 問い合わせ：国際教育センター
 (mlipo@toyo.jp)



【2】高等教育政策動向等

文部科学省

「高等教育を軸としたグローバル政策の方向性～コロナ禍で激減した学生交流の回復に向けて～」公表（2022/07/26）

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/kagaku/2022/mext_00002.html

「人文科学・社会科学系における大学院教育改革の方向性」（中間とりまとめ）公表（2022/08/03）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/004/mext_01176.html

「英語教育・日本人の対外発信力の改善に向けて（アクションプラン）」公表（2022/08/08）

https://www.mext.go.jp/a_menu/other/mext_01982.html

「薬学系人材養成の在り方に関する検討会とりまとめ」公表（2022/08/23）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/103/toushin/mext_00001.html

「第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」公表（2022/08/30）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo2/toushin/mext_00243.html

令和5年度文部科学省概算要求等 発表資料（2022/08/31）

https://www.mext.go.jp/a_menu/yosan/r01/1420668_00004.html

「学制150年史」刊行（2022/09/05）

https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/1420041_00011.htm

科学技術・学術政策研究所

「科学技術に関する国民意識調査－SDGsについて－」公表（2022/07/29）

<https://www.nistep.go.jp/archives/52325>

「科学技術指標2022」公表（2022/08/09）

<https://www.nistep.go.jp/archives/52292>

「科学技術の状況に係る総合的意識調査（NISTEP定点調査2021）」公表（2022/08/09）

<https://www.nistep.go.jp/archives/52391>

「我が国の研究組織における組織とチームの分野多様性のマッピングと現状分析」公表（2022/08/30）

<https://www.nistep.go.jp/archives/52528>

日本学生支援機構

「コロナ禍における学生同士の交流に関する取組事例集」公表（2022/08/26）

<https://www.jasso.go.jp/about/press/jp2022082601.html>

「令和3年度（2021年度）大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査」結果公表（2022/08/26）

<https://www.jasso.go.jp/about/press/jp2022082602.html>

日本学術会議

「研究力強化—特に大学等における研究成績改善の視点から—に関する審議について」（回答）公表（2022/08/05）

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-25-k328.pdf>

経済同友会

「科学技術・イノベーションへの重点的投資に関する意見—政産官学一体となった先端技術の実装と社会変革を—」公表（2022/08/10）

<https://www.doyukai.or.jp/policyproposals/articles/2022/220810a.html>

大学基準協会

「大学教育改善のための組織的取り組みに関する教員調査」集計結果公表（2022/08/05）

https://www.juaa.or.jp/report/detail_827.html

ベネッセ教育総合研究所

「第4回 大学生の学習・生活実態調査報告書 データ集 [2021年]」公表（2022/07/28）

<https://berd.benesse.jp/koutou/research/detail1.php?id=5772>

就職みらい研究所

「大学生のキャリア等に関する価値観について（2022年卒大学生）」発表（2022/07/28）

https://shushokumirai.recruit.co.jp/study_report_article/20220728001/

●「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)

※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。

※閲覧は@toyo.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。

●海外については、下記のwebサイトをご確認ください。

- ・高等教育質保証の海外動向発信サイト [QA UPDATES](#)（大学改革支援・学位授与機構）
- ・海外学術動向ポータルサイト（日本学術振興会）
- ・「新型コロナと大学」に関するまとめ（広島大学 教授学習支援リエゾンセンター）

【3】 Quick links

- 2022年度FD・SDプログラムガイド（ [閲覧](#) / [PDFダウンロード](#) ）
- 高等教育推進センターホームページ
- 高等教育推進センターToyoNet-ACE専用コース ※ToyoNet-ACE
- ニュースレターバックナンバー ※Googleグループ
- TOYO FD・SD Channel ※ToyoNet-ACE
- 学外FD・SD研修会情報 ※ガルーン
- English Support Service (ESS) ※ガルーン
- 高等教育関連図書のご案内 / 貸出申込フォーム
- 高等教育推進センターニュースレター読者アンケート ※Googleフォーム

【4】 あとがき

8月29日～31日の3日間、「学びを促す授業づくりワークショップ」を開催しました。

高等教育推進センターとしては、はじめての3日間集中型のFD研修会でした。
また来年に向けて、頑張るパワーをいただくことができました。

- みなさまの声をお寄せください
- 読者アンケートにご協力いただけますと幸いです。
最短10秒で回答が完了します。

企画

高等教育推進センター 高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

E-mail: mlfdjimu@toyo.jp

- このメールは本学教職員にお届けしています。
 - このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。
 - このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。
- © 2018-2022 東洋大学高等教育推進センター

東洋大学高等教育推進センターニュースレター (Vol.5, No.7, 通算第75号)

東洋大学高等教育推進センターニュースレター 2022年10月25日 Vol.5, No.7 (通算第75号)

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」をお送りしています。
※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。
※[読者アンケート](#)にご協力いただけますと幸いです。

【1】FD・SD研修会参加報告

第2回 SIIEJ2022「国際教育の社会的責任と貢献のあり方を考える」に参加して

【2】高等教育推進センターからのお知らせ

- (1) 【アイデア募集】ニュースレターで取り上げてほしいコンテンツをお寄せください
- (2) TOYO data portal 開設のお知らせ

【3】高等教育政策動向等

【4】Quick links

【1】FD・SD研修会参加報告

第2回 SIIEJ2022「国際教育の社会的責任と貢献のあり方を考える」に参加して 国際部国際課

1. 研修会概要

国際教育研究コンソーシアム主催のSIIEJ2022「国際教育の社会的責任と貢献のあり方を考える」にオンラインで参加した。研修会に参加して得られたことを紹介したい。

2. 研修会で得られた知見

今回、研修参加を希望した理由として、(1) 本学国際教育センターで積極的に開拓を検討しているオンラインでの国際交流プログラムについて、他大学での事例を知ること、(2) 国際教育センター活用しているBEVIについて学ぶこと、(3) 本学の国際学生寮が本研修会で紹介されることからどのような報告内容であるか把握することが上げられる。

(1) オンライン国際交流プログラムについては、関西大学が中心となって行われているCOIL (Collaborative Online International Learning) について事例紹介があった。コロナ禍で日本だけでなく海外の学生にとっても現地渡航が難しい中、時差、オンライン環境等がクリアできれば、複数国同時開催が可能となり、オンラインならではの学生交流が可能となっている。

(2) BEVI (The Beliefs, Events, and Value Inventory) は国際教育センターでも活用しているが、実際の質問項目や分析データ等を見る機会がなかったため、今回は自分自身でBEVIを受けることができ、また分析結果を見ることができたことは大きな収穫であった。また日本人学生と他国学生とのデータ比較では明らかに異なる結果が数値として示されており、異文化を理解する上で一つのツールとして活用が期待できると感じた。また、9/13 (火) に本学国際教育センターによる、BEVI 開発者であるCraig Shealy教授による活用方法等に関するFD・SD セミナーが開催された。今回の研修で学んだことを元にCraig教授の話を伺うことができた。([セミナーのアーカイブ動画はこちら](#))

(3) 本学の [AI-House](#) については、学生寮の概要、紹介動画、現在RA (Resident Assistant) として実際に活躍している本学学生へのインタビュー形式の事例紹介があった。他大学の参加者よりRAの選出方法等について質問があった。全国規模の研究会で本学の国際学生寮が紹介されたことは大きな意味を持つのではないかと感じた。

3. 研修によって今後業務に活かせる内容等

オンライン国際交流プログラムについては、まさに今国際教育センターでの喫緊の課題となっており、今回学んだことを参考にプログラム企画を進めていきたいと思う。BEVIについては、今後の学生派遣、学生の異文化理解教育の参考としたい。また、国際学生寮については、当課の寮担当チームに本セミナーの内容について情報共有をした。今後も本学の国際化推進に向けて、情報収集と情報発信に努めていきたい。

● 研修会情報

研修会名：SIIEJ2022「国際教育の社会的責任と貢献のあり方を考える」

主催：国際教育研究コンソーシアム
開催日：2022年8月25日～27日
会場：関西大学千里山キャンパス／オンライン（ハイブリッド開催）
URL：<https://siej.org/>

高等教育推進センターでは、学外で開催されるFD・SD研修会の周知及び参加に伴う経費支援をおこなっています。
参加された方には参加報告書のご提出をお願いしており、研修によって得られた知見を学内で共有し、本学のFD・SD推進につなげていく観点から、報告者より許諾を得た場合に限り、本ニュースレターへの掲載にご協力をいただいております。不定期で「FD・SD研修会参加報告」をお届けしております。

皆さまのご参加・ご報告をお待ちしております。（高等教育推進支援室）

● 関連リンク：[学外FD・SD研修会情報](#) ※ガールーン

【2】高等教育推進センターからのお知らせ

（1）【アイデア募集】ニュースレターで取り上げてほしいコンテンツをお寄せください

当ニュースレターでは、読者アンケートを設置しています。

ニュースレターについての感想や、[今後取り上げてほしいコンテンツ](#)がありましたら、声をお寄せいただけますと幸いです。

[読者アンケート](#) ※Googleフォーム

（2）TOYO data portal 開設のお知らせ

高等教育推進センターでは、これまでカリキュラムや成績状況の分析データの提供を行うなど、教育に係るデータ活用を推進してまいりました。

一方、「東洋大学教育DX推進基本計画」に基づき、2022年度より「東洋大学公式アプリ」から得られる学生のキャンパスライフの状況が把握できるデータなどを組み合わせることが可能となりました。

このことを踏まえまして、データ分析の範囲を柔軟にひろげ、定点観測的なデータに留まらない、多面的な分析を行い、学部・研究科や職員の皆さまの取り組みに貢献してまいりたいと考えております。

その足掛かりとして、下記のとおり、「TOYO data portal」を開設いたしました。開設時点では、未完のものもございます。順次追加・更新してまいりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

○リンク

TOYO data portal

※@[toyodp.jp](mailto:toyodp@toyodp.jp)のアカウントでログインをお願いいたします。

※閲覧は専任教職員（常勤嘱託含む）に限ります。

※更新情報は、[ガールーン掲示板](#)にてご案内いたします。

○ポータルサイトのねらい

各種の検討や打ち合わせの場面で、適宜ご活用ください。

〈学生の今を知る〉

東洋大学公式アプリから得られるデータをはじめ、学生に関するリアルタイムに近い情報をお届けします。

〈各種統計資料を探さずに済む〉

学内各種統計情報を同サイトでまとめて閲覧できるようにします。

掲載されていない統計情報がありましたら、情報提供ください。

〈より詳細な情報を掘む〉

「もっと深掘りした分析が必要」「こういうデータが共有されるといい」といったニーズに応えます。同サイト内のgoogleフォームからデータリクエストを承ります。従来、高等教育推進センターにてお申込みされていた方は、こちらからリクエストください。

【3】高等教育政策動向等

文部科学省

「大学における日本語等予備教育別科等に係る参照基準（ガイドライン）」公表（2022/09/08）

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/1370888.htm

「21世紀出生児縦断調査（平成13年出生児）第20回調査」発表（2022/09/28）

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa08/21seiki/kekka/mext_00001.html
調査対象者のうち、約56%が大学生です。

高等教育機関を中心としたデジタル人材育成を産学官が一体となって推進するための文科省・経産省共同の協議会「デジタル人材育成推進協議会」第1回を開催（2022/09/29）

https://www.mext.go.jp/b_menu/activity/detail/2022/20220929_2.html
（会議資料）https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/122/index.html

令和4年度大学設置基準等の改正について（2022/09/30）

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/index_00001.htm

「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について ～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の構築～（中間まとめ）」公表（2022/10/05）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo16/mext_01239.html

令和4（2022）年版「諸外国の教育統計」公表（2022/10/17）

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/data/syogaikoku/1415074_00017.htm

科学技術・学術政策研究所

「オープン・イノベーション活動が企業収益に及ぼす影響に関する実証研究」公表（2022/09/13）

<https://www.nistep.go.jp/archives/52695>

「民間企業の研究開発関連業務における日本の大学との連携状況の分析 ―研究開発者育成を含めた工学系領域における研究開発力強化の課題検討―」公表（2022/10/03）

<https://www.nistep.go.jp/archives/52953>

「地域の未来を再考する－新型コロナウイルス感染症流行後に目指す社会及びその実現に向けた方策の検討－」公表（2022/10/07）

<https://www.nistep.go.jp/archives/52936>

「日米独における科学技術指標の変遷」結果公表（2022/10/13）

<https://www.nistep.go.jp/archives/53020>

大学入試センター

令和5年度大学入学共通テストの出願状況（受付最終日）（2022/10/06）

[リンク](#)

内閣府

総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会 開催（2022/09/01）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20220901.html>
「研究に専念する時間の確保について（中間まとめ案）」が示されました。

内閣官房

第4回未来創造会議 開催（2022/09/29）

<https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyouikumirai/kaisai.html>

経済産業省

「大学発ベンチャー表彰2022」受賞者決定（2022/09/08）

<https://www.meti.go.jp/press/2022/09/20220907001/20220907001.html>

国立大学協会

「地域中核・特色ある研究大学の強みやその特色を伸ばすための取組について（最終まとめ）―我が国の大学の研究力及び国際競争力強化への7つの提言―」公表（2022/10/14）

<https://www.janu.jp/news/11882/>

日本私立大学連盟

『大学時報』アーカイブ完成のお知らせ (2022/09/30)

https://www.shidairen.or.jp/topics_details/id=3646

『私立大学学生生活白書2022』刊行 (2022/10/11)

https://www.shidairen.or.jp/topics_details/id=3652

採用と大学教育の未来に関する産学協議会

「産学協働による学生のキャリア形成支援活動－新たなインターンシップを核とした4類型の推進に向けて－」メッセージおよび解説動画〔第2弾〕のオンデマンド配信開始 (2022/09/15)

<https://www.sangakukyogikai.org/220915career>

私立大学情報教育協会

機関誌「大学教育と情報」2022年度No.2 掲載 (2022/10/03)

<https://www.juce.jp/LINK/journal/2301/mokuji.html>

リクルート進学総研

「2022年度 入試実態調査報告書」公開 (2022/09/30)

<https://souken.shingakunet.com/research/2020/04/post-7e40.html>

株式会社マイナビ

『2022年度（23年卒版）新卒採用・就職戦線総括』発表 (2022/09/21)

https://www.mynavi.jp/news/2022/09/post_34903.html

Times Higher Education (THE)

World University Rankings 2023 発表 (2022/10/12)

<https://www.timeshighereducation.com/world-university-rankings/2023/world-ranking>

東洋大学は1501+にランクインしました。

- 「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)
※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。
※閲覧は@toyo.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。
- 海外については、下記のwebサイトをご確認ください。
 - ・高等教育質保証の海外動向発信サイト [QA UPDATES](#) (大学改革支援・学位授与機構)
 - ・海外学術動向ポータルサイト (日本学術振興会)
 - ・「新型コロナと大学」に関するまとめ (広島大学 教授学習支援リエゾンセンター)

【4】Quick links

- 2022年度FD・SDプログラムガイド ([閲覧](#) / [PDFダウンロード](#))
- 高等教育推進センターホームページ
- 高等教育推進センターToyoNet-ACE専用コース ※ToyoNet-ACE
- ニュースレターバックナンバー ※Googleグループ
- TOYO FD・SD Channel ※ToyoNet-ACE
- 学外FD・SD研修会情報 ※ガルーン
- English Support Service (ESS) ※ガルーン
- 高等教育関連図書のご案内 / 貸出申込フォーム
- 高等教育推進センターニュースレター読者アンケート ※Googleフォーム

【5】あとがき

先週末10/22(土)に、SDGs推進センター設立記念シンポジウムが開催されました。
アーカイブ動画を配信中ですので、ぜひご視聴ください。

アーカイブはこちらから▼

<https://www.toyo.ac.jp/sdgs/center/sympo2022/>

企画

高等教育推進センター 高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

E-mail: mlfdjimu@toyo.jp

- このメールは本学教職員にお届けしています。
- このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。
- このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。

© 2018-2022 東洋大学高等教育推進センター

東洋大学高等教育推進センターニュースレター（Vol.5, No.8, 通算第76号）

東洋大学高等教育推進センターニュースレター

2022年11月29日 Vol.5, No.8（通算第76号）

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」をお送りしています。

※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。

※[読者アンケート](#)にご協力いただけますと幸いです。

【1】FD・SDに関するお知らせ

・TOYO FD・SD Channel コンテンツ追加のお知らせ（経理課・高等教育推進センター）

【2】高等教育政策動向等

【3】Quick links

【1】FD・SDに関するお知らせ

TOYO FD・SD Channel コンテンツ追加のお知らせ（経理課・高等教育推進センター）

経理課ではこれまで、ミスの防止を目的に講習会を行ってきましたが、今年度からはより会計に関する理解を深めて、実務に活かしていただけるようにしています。2022年度は予算要求について動画を作成し、広くご覧いただきました。改めてFD・SDチャンネルで公開しますので、ご利用ください。

[37【その他SD】予算要求について（前編）](#)

[38【その他SD】予算要求について（後編）](#)

過去の動画

2020年度

[23【その他SD】1.挨拶](#)

[24【その他SD】2.簿記を箱で考える](#)

[25【その他SD】3.勘定科目の分類](#)

[26【その他SD】4.ミスを防ごう](#)

2021年度

[27【その他SD】1.挨拶](#)

[28【その他SD】2.検収とは何か](#)

[29【その他SD】3.決算とは何か](#)

【2】高等教育政策動向等

文部科学省

「全国学生調査」に関する有識者会議（第7回）（2022/10/24）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/107/siryo/1422495_00005.html

「全国学生調査（第2回試行実施）」の結果が公表されました

大学ファンドを通じた世界最高水準の研究大学の実現に向けて、国際卓越研究大学法に基づく基本方針を決定しました（2022/11/15）

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/06/1418062_00009.htm

大学における教育内容等の改革状況について（令和2年度）（2022/11/16）

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/1417336_00009.htm

令和4年度大学等卒業予定者の就職内定状況調査（10月1日現在）（2022/11/18）

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/naitei/kekka/k_detail/1422624_00004.htm

内閣府

■ 物価高克服・経済再生実現のための総合経済対策（2022/10/28）

<https://www5.cao.go.jp/keizai1/keizaitaisaku/keizaitaisaku.html>

日本学術会議

■ 見解「性差研究に基づく科学技術・イノベーションの推進」（2022/11/10）

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/kohyo-25-k221110-abstract.html>

日本私立大学連盟

■ 【11月17日更新】大学設置基準改正に関する情報（2022/11/17）

https://www.shidaiaren.or.jp/topics_details/id=3678

■ 記者懇談会の開催／「新型コロナウイルス禍の影響に関する学生アンケート（概要版）」の公表（2022/11/17）

https://www.shidaiaren.or.jp/topics_details/id=3687

全国大学生生活協同組合連合会

■ 「2022年度保護者に聞く新入生調査」概要報告（2022/11/24）

https://www.univcoop.or.jp/news_2/news_detail_2280.html

マイナビ

■ 「マイナビ2024年卒 大学生インターンシップ・就職活動準備実態調査～中間総括～」発表（2022/10/28）

https://www.mynavi.jp/news/2022/10/post_37183.html

■ 「マイナビ2023年卒企業新卒内定状況調査」発表（2022/11/07）

https://www.mynavi.jp/news/2022/11/post_37229.html

就職みらい研究所

■ 大学生活や奨学金制度等に関する調査（2022/10/28）

https://shushokumirai.recruit.co.jp/study_report_article/20221028001/

● 「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)

※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。

※閲覧は@toyo.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。

● 海外については、下記のwebサイトをご確認ください。

・ 高等教育質保証の海外動向発信サイト QA UPDATES（大学改革支援・学位授与機構）

・ 海外学術動向ポータルサイト（日本学術振興会）

・ 「新型コロナと大学」に関するまとめ（広島大学 教授学習支援リエゾンセンター）

【3】 Quick links

● 2022年度FD・SDプログラムガイド（ [閲覧](#) / [PDFダウンロード](#) ）

● 高等教育推進センターホームページ

● 高等教育推進センターToyoNet-ACE専用コース ※ToyoNet-ACE

● ニュースレターバックナンバー ※Googleグループ

● TOYO FD・SD Channel ※ToyoNet-ACE

● 学外FD・SD研修会情報 ※ガルーン

● English Support Service (ESS) ※ガルーン

● 高等教育関連図書のご案内 / 貸出申込フォーム

● 高等教育推進センターニュースレター読者アンケート ※Googleフォーム

東洋大学高等教育推進センターニュースレター（Vol.5, No.9, 通算第77号）

東洋大学高等教育推進センターニュースレター 2023年1月27日 Vol.5, No.9（通算第77号）

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」をお送りしています。
※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。
※[読者アンケート](#)にご協力いただけますと幸いです。

【1】FD・SDに関するお知らせ

- ・総合情報学部FD研修会「コロナ禍における学生のメンタルヘルス」オンデマンド開催中（総合情報学部より情報提供）

【2】高等教育政策動向等

【3】Quick links

【1】FD・SDに関するお知らせ

総合情報学部FD研修会「コロナ禍における学生のメンタルヘルス」オンデマンド開催中（総合情報学部より情報提供）

録画映像をWeb上で配信するオンデマンド方式で総合情報学部FD研修会が開催されています。
詳細は添付のポスターをご確認ください。

配信期間：2023年1月19日(木)～2月28日(火)

プログラム：講演 加藤 千恵子 学部長（00:00～）

総括 早川 和宏 副学長（24:40～）

視聴用URL：<https://drive.google.com/file/d/18e-hR7I9QjZ3OJhGHGr2r5KSZetuqgFi/view?usp=sharing>

視聴後アンケートURL：<https://forms.gle/S4tfrjN5gw6Jz3Sy8>

東洋大学では、学生のメンタルヘルスケアに力を注いでいます。「就職は一大事になって就職を走り回り、国内外の人々に貢献する大学であり続けたい」と矢口学長がおっしゃられるように、大学をあげて「一人取り残さない」学生支援を進めてきました。学生一人ひとりの悩みや不安に寄り添うメンタルヘルスケアも、こうした取り組みの一つです。人々のために何ができるかを真剣に話し、社会教育に生きた想いを届けた島田孝一・井上四了先生の想いが、今日の本学の活動にも反映されているといえるでしょう。総合情報学部も、東洋大学の精神を受け継ぎ、学生の支援を続けていくことを目指して、FD研修会「コロナ禍における学生のメンタルヘルス」を開催します。

対面授業が再開されたとはいえ、行動制限がある中でコロナで受けたストレスを引きずっている学生が多く、本研修会が少しでもその支援のお役に立てば、と思っています。また、もともとコロナ以前からあった学生達のストレスや不登校の問題等には引き続き取り組む必要があるベネディクトや自然環境等のメンタルヘルスの諸問題にも活用していただくと幸いです。

東洋大学総合情報学部 FD研修会
コロナ禍における学生のメンタルヘルス

● FD研修会は、録画映像をWeb上で配信するオンデマンド方式で開催します
● 配信期間中に、下記のURLから映像をご視聴ください

視聴用URL <https://drive.google.com/file/d/18e-HR75QZ3CJhGHGZr5K5ZetugF/view?usp=sharing>

配信期間 **2023年1月19日（木）～2月28日（火）**

● 視聴後、アンケートにお答えください
アンケートURL <https://forms.gle/S4trjN2gw6Jk3S5y8>

演 者		制 作	
講 演	総 括	総合情報学部 FD映像制作チーム	
加藤 千恵子 学部長	早川 和宏 副学長	監 修	お問い合わせ 総合情報学部 FD委員長 田村 高昭 Mail: tamura@toyo.jp
		多田 元利 学部広報委員	

【2】高等教育政策動向等

文部科学省

大学等における令和4年度後期の授業の実施方針等に関する調査の結果について（2022/11/29）

https://www.mext.go.jp/content/20221129-mxt_kouhou01-000004520_2.pdf

ふるさと納税を活用した学校法人に対する寄附について（2022/12/19）

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shiritsu/furusato_00002.html

中央教育審議会において「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等について（答申）」取りまとめ（2022/12/19）

https://www.mext.go.jp/b_menu/activity/detail/2022/20221219.html

科学技術・学術政策研究所

「地域科学技術指標2020」公表（2022/12/05）

<https://www.nistep.go.jp/archives/53498>

「大学の研究規模による研究活動の違いと新型コロナウイルス感染症が大学の研究活動に与えた影響：研究室パネル調査定常報告2021」結果公表（2022/12/06）

<https://www.nistep.go.jp/archives/53455>

「科学技術に関する国民意識調査－人的国際交流について－」公表（2023/01/12）

<https://www.nistep.go.jp/archives/53884>

「研究活動におけるオープンソース・データの利用に関する簡易調査」公表（2023/01/20）

<https://www.nistep.go.jp/archives/53976>

大学改革支援・学位授与機構

「学位に付記する専攻分野の名称」調査結果掲載（2022/11/29）

<https://www.niad.ac.jp/publication/gakui/meishou.html>

日本学生支援機構

「大学等における学生支援の取組状況に関する調査（令和3年度（2021年度））」公表（2022/12/22）

https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_torikumi/2021.html

内閣官房

「2024年度卒業・修了予定者の就職・採用活動日程に関する考え方」公表（2022/11/30）

https://www.cas.go.jp/seisaku/shushoku_katsudou/index.html

内閣府

「日本学術会議の在り方についての方針」取りまとめ（2022/12/06）

<https://www.cao.go.jp/scjarikata/index.html>

総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会（2022/12/15）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20221215.html>

議題

1. ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム（HFSP）について
2. 研究に専念できる時間の確保（研究時間の質・量の向上に関するガイドライン案）

日本学術会議

「声明 内閣府「日本学術会議の在り方についての方針」（令和4年12月6日）について再考を求めます」を議決（2022/12/27）

<https://www.scj.go.jp/>

日本私立大学協会

「奨学金等に関する現況調査」（速報版）公開（2022/12/23）

<https://www.shidaikyo.or.jp/apuji/news/8373.html>

日本経済団体連合会

「2022年人事・労務に関するトップ・マネジメント調査結果」公表（2023/01/17）

<https://www.keidanren.or.jp/policy/2023/003.pdf>

「Ⅶ. リカレント・リスキリング教育」「Ⅷ. 採用方法の多様化」に関する調査結果が掲載されています。

私立大学情報教育協会

「私立大学教員授業改善白書（令和3年度の調査結果）」掲載（2022/12/08）

<https://www.juce.jp/LINK/report/hakusho2021/index.html>

大学ICT推進協議会

『すぐわかる著作権と授業』発行（2023/01/12）

<https://axies.jp/news/5033/>

マイナビ

マイナビアスリートキャリアとUNIVAS、「運動部学生の就職に関する意識調査」を発表（2022/12/20）

https://www.mynavi.jp/news/2022/12/post_37581.html

- 「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)

※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。

※閲覧は@[toyo.jp](#)のアカウントを持つ教職員に限定しています。

- 海外については、下記のwebサイトをご確認ください。

- ・高等教育質保証の海外動向発信サイト [QA UPDATES](#)（大学改革支援・学位授与機構）
- ・海外学術動向ポータルサイト（日本学術振興会）
- ・「新型コロナと大学」に関するまとめ（広島大学 教授学習支援リエゾンセンター）

【3】 Quick links

- 2022年度FD・SDプログラムガイド ([閲覧](#) / [PDFダウンロード](#))
- [高等教育推進センターホームページ](#)
- [高等教育推進センターToyoNet-ACE専用コース](#) ※ToyoNet-ACE
- [ニュースレターバックナンバー](#) ※Googleグループ
- [TOYO FD・SD Channel](#) ※ToyoNet-ACE
- [学外FD・SD研修会情報](#) ※ガルーン
- [English Support Service \(ESS\)](#) ※ガルーン
- [高等教育関連図書のご案内 / 貸出申込フォーム](#)
- [高等教育推進センターニュースレター読者アンケート](#) ※Googleフォーム

【4】あとがき

今年最初のニュースレターをお届けしました。
寒い日が続いています。風邪などひかれませんようご自愛ください。

企画

高等教育推進センター 高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

E-mail: mlfdjimu@toyo.jp

- このメールは本学教職員にお届けしています。
- このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。
- このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。

© 2018-2022 東洋大学高等教育推進センター



(総合情報学部) FD研修会「コロナ禍における学生のメンタルヘルス」.pdf

1000K

東洋大学高等教育推進センターニュースレター（Vol.5, No.10, 通算第78号）

東洋大学高等教育推進センターニュースレター

2023年3月3日 Vol.5, No.10（通算第78号）

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」をお送りしています。

※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。

※[読者アンケート](#)にご協力いただけますと幸いです。

- 【1】 高等教育政策動向等
- 【2】 Quick links
- 【3】 あとがき

【1】 高等教育政策動向等

文部科学省

「令和4年度大学等卒業予定者の就職内定状況調査（12月1日現在）」公表（2023/01/20）

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/naitei/kekka/k_detail/1422624_00007.htm

第8回教育未来創造会議ワーキング・グループ開催（2023/01/23）

https://www.mext.go.jp/b_menu/activity/detail/2023/20230123.html

議題

- ・第一次提言工程表フォローアップについて
- ・ワーキング・グループの論点整理案について

「令和4年度国公立大学・短期大学入学者選抜実施状況の概要」公表（2023/01/25）

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2020/1414952_00004.htm

「令和3年度 大学等における産学連携等実施状況について」公表（2023/02/10）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/sangaku/1413730_00016.html

中央教育審議会大学分科会（第172回）開催（2023/02/24）

https://www.mext.go.jp/kaigisiryomext_00528.html

議題

- （1）独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法に規定する助成業務の実施に関する基本的な指針（案）の意見聴取結果について
- （2）教学マネジメント指針（追補）の作成について
- （3）国際連携教育課程制度（ジョイント・ディグリー）の見直しについて
- （4）大学設置基準及び専門職大学院設置基準の改正等について
- （5）認証評価機関の認証について
- （6）私立学校法の一部を改正する法律案について
- （7）大学分科会審議まとめ案 他 について

科学技術・学術政策研究所

「修士課程（6年制学科を含む）在籍者を起点とした追跡調査（令和3年度修了（卒業）予定者）」公表（2023/01/31）

<https://www.nistep.go.jp/archives/53896>

「専門家が注目する科学技術に関するアンケート調査（NISTEP注目科学技術2022）」公表（2023/02/17）

<https://www.nistep.go.jp/archives/54208>

大学入試センター

「令和5年度大学入学共通テスト実施結果の概要」公表（2023/02/06）

https://www.dnc.ac.jp/news/albums/abm.php?d=243&f=abm00003433.pdf&n=%E5%A0%B1%E9%81%93%E7%99%BA%E8%A1%A8_%E5%AE%9F%E6%96%BD%E7%B5%90%E6%9E%9C%E3%81%AE%E6%A6%82%E8%A6%81R5.pdf

内閣府

総合科学技術・イノベーション会議（第66回）開催（2023/02/08）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/siryo/haihui066/haihu-066.html>

議題

- （1）今後の科学技術・イノベーション政策の方向性について
- （2）地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの改定について
- （3）次期SIPの課題及びBRIDGEの重点課題の決定について

日本私立大学連盟

「加盟大学財務状況の推移（平成14年度～令和3年度）」公表（2023/02/24）

https://www.shidaiaren.or.jp/topics_details/id=3753

リクルート進学総研

「【全国版】18歳人口予測、大学・短大・専門学校進学率、地元残留率の動向2022」公表（2023/02/17）

<https://souken.shingakunet.com/research/2023/02/182022.html>

就職みらい研究所

『就職白書2023』公表（2023/02/21）

https://shushokumirai.recruit.co.jp/white_paper_article/20230221001/

学生の就職活動および企業の2023年卒採用活動の実態、また、2024年卒以降の採用見通しについて取りまとめられています。

- 「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)
※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。
※閲覧は@[toyo.jp](#)のアカウントを持つ教職員に限定しています。
- 海外については、下記のwebサイトをご確認ください。
 - ・高等教育質保証の海外動向発信サイト [QA UPDATES](#)（大学改革支援・学位授与機構）
 - ・海外学術動向ポータルサイト（日本学術振興会）
 - ・「新型コロナと大学」に関するまとめ（広島大学 教授学習支援リエゾンセンター）

【2】 Quick links

- 2022年度FD・SDプログラムガイド（ [閲覧](#) / [PDFダウンロード](#) ）
- 高等教育推進センターホームページ
- 高等教育推進センターToyoNet-ACE専用コース ※ToyoNet-ACE
- ニュースレターバックナンバー ※Googleグループ
- TOYO FD・SD Channel ※ToyoNet-ACE
- 学外FD・SD研修会情報 ※ガルーン
- English Support Service (ESS) ※ガルーン
- 高等教育関連図書のご案内 / 貸出申込フォーム
- 高等教育推進センターニュースレター読者アンケート ※Googleフォーム

【3】 あとがき

春の訪れを体感するのが3月上旬で、入試に合格した受験生にとって新しい価値観との出会いがはじまる直前ということもあり、大学での生活に期待と不安が入り混じっていることでしょう。目を擦りながら夜中まで勉強した苦勞を乗り越え、大学で素晴らしい恩師・友人と出会い、人生の転機となるような経験をしてもらうことで、「東洋大学に入学してよかった」と多くの学生に前向きな気持ちになってもらえるようなご支援ができれば嬉しいと思います。

企画

高等教育推進センター 高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

E-mail: mlfdjimu@toyo.jp

- このメールは本学教職員にお届けしています。
- このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。
- このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。

© 2018-2022 東洋大学高等教育推進センター

教育開発・改革部会
第Ⅲ期（2021-2022年度）期末報告
＜ 別添資料 ＞

第Ⅲ期（2021-2022年度）の活動成果

2. 本部会における2021-2022年度の活動成果

2021年度

- 他大学のLMS等の利用状況の調査 ▶ [添付①]
- 2021年度におけるToyoNet-ACE 利用状況の調査 ▶ [添付②]
- 高等教育推進委員対象のアンケートの実施 ▶ [添付③]

2022年度

- 高等教育推進委員対象のアンケート結果の共有 ▶ [添付④]
- 2022年度におけるToyoNet-ACE 利用状況の調査（継続）および 活用している教員への調査 ▶ [添付⑤]
- ToyoNet-ACE 利用状況の2019年（コロナ前）、2020・2021・2022年度（コロナ禍）との比較

教育支援システムについて：

貴学で契約されているLMSおよびテレビ会議システムなどの教育支援システムについて、差し支えない範囲で、サービス名称や利用シーンをご教示いただけますと幸いです。

青山学院大学

▶ LMS：「Course Power」

オンデマンド授業動画配信、授業資料配布、レポート受付、お知らせメッセージ配信、授業に関する質問受付

▶ 語学学習用LMS：「CaLaboMX」

シャドーイング、ディクテーション、レコーディングなどの様々な語学学習用のアクティビティを先生のコントロールで学生PCに指示、小テスト・アンケート・資料配布等

▶ オンライン会議システム：「Webex（一部学部でZoomも利用あり）」

オンライン授業、教職員の会議・打ち合わせ、オンライン研修会

2021年7月5日 第32回関東圏FD連絡会 にて調査

教育支援システムについて：

貴学で契約されているLMSおよびテレビ会議システムなどの教育支援システムについて、差し支えない範囲で、サービス名称や利用シーンをご教示いただけますと幸いです。

國學院大學

▶ LMS：「UNIVERSAL PASSPORT」

日本システム技術株式会社の提供するパッケージソフト「UNIVERSAL PASSPORT」を導入・カスタマイズし、学内では「K-SMAPYⅡ」と名付けて運用しています。

▶ オンライン会議システム：「ZOOM」

令和2年度のオンライン授業に際しては、ZOOMを法人契約してライブ配信授業及びオンデマンド授業に活用しており、授業URLやパスコードなどは、K-SMAPYⅡを通じて、教員から学生へ告知されています。

<参考情報>

- ・ 学生向け利用ガイド： <https://www.kokugakuin.ac.jp/student/lifesupport/p12>
- ・ 教員向け利用ガイド： <https://img-kokugakuin.com/assets/uploads/2021/03/ksm2.pdf>

2021年7月5日 第32回関東圏FD連絡会 にて調査

教育支援システムについて：

貴学で契約されているLMSおよびテレビ会議システムなどの教育支援システムについて、差し支えない範囲で、サービス名称や利用シーンをご教示いただけますと幸いです。

法政大学

▶ 法政ポータルサイト「Hoppii」：

学内の各種システムやサイトをひとまとめにしたポータルサイト

▶ G-mail：

メールシステム

▶ ソフトウェアステーション：

ダウンロードして利用できるソフトウェアの情報を提供

▶ 情報システム：

履修科目の登録や成績確認等を行うシステム

▶ 学習支援システム：

オンライン授業ツールとして使用

▶ Webシラバス：

各授業の講義内容をWeb上で公開している

▶ Web掲示板：

学部・研究科からのお知らせや、学内の様々な部局からのお知らせが掲示される

▶ オンデマンドシステム：

オンデマンド授業やオンデマンドガイダンス等の動画を視聴することができる

▶ 授業改善アンケートシステム：

授業改善アンケートを実施するためのWebシステム

▶ Zoom・Webex・Googleclassroom：

オンライン授業のツールとして使用

▶ デジタルブックシステム「HONDANA」：

学部・研究科から発行される冊子の多くをデジタルブックとして掲載

2021年7月5日 第32回関東圏FD連絡会 にて調査

教育支援システムについて：

貴学で契約されているLMSおよびテレビ会議システムなどの教育支援システムについて、差し支えない範囲で、サービス名称や利用シーンをご教示いただけますと幸いです。

立教大学

▶ LMS：「Blackboard」

▶ ポートフォリオ：「立教時間」

全学LMSの「Blackboard（製品名：Blackboard）」と、eポートフォリオシステムである「立教時間（スクラッチ開発）」にて、授業科目ごとの教材提示や課題機能が利用可能となっています。いずれを利用するかは教員の判断となっています。

▶ Web会議システム：「Zoom」「Meet」

講義や演習をリアルタイムで実施する際にWeb会議システムとして、ZoomとMeetが利用可能となっています。いずれも有償ライセンス契約を結んでおり、時間制限等はありません。これらについても、いずれを利用するかは教員の判断となっています。また、一部の大規模講義に対応するための、大人数やウェビナーのオプションも特定の科目担当者に付与しています。

2021年7月5日 第32回関東圏FD連絡会 にて調査

情報システム課から提供を受けた統計データ

- ▶ 名称 : ToyoNet-ACE「コース統計情報一覧」
- ▶ 内容 : コース(授業)ごとに、ACEの各機能が、どの程度使われたか
- ▶ 期間 : 2021年度 春学期 (2021年4月07日～2021年8月03日)
2021年度 秋学期 (2021年9月17日～2022年1月31日)

統計データより、専任教員による活用事例として、各項目の件数の多いコースをリスト化

- ▶ 「コメント」機能を活用しているコース
 - ・担当教員コメント投稿数/履修者数
 - ・履修生コメント投稿数/履修者数
- ▶ 「小テスト」を活用しているコース
 - ・小テスト登録数
 - ・小テスト提出数/履修者数
- ▶ 「アンケート」を活用しているコース
 - ・アンケート登録数
 - ・アンケート提出数/履修者数
 - ・アンケート提出物への担当教員コメント投稿数/履修者数
 - ・アンケート提出物への履修生コメント投稿数/履修者数
- ▶ 「レポート」を活用しているコース
 - ・レポート登録数
 - ・レポート提出数/履修者数
 - ・レポート提出物への担当教員コメント投稿数/履修者数
 - ・レポート提出物への履修生コメント投稿数/履修者数
- ▶ 「掲示板」を活用しているコース
 - ・掲示板スレッド総数
 - ・掲示板投稿総数/履修者数

等

× 春学期
秋学期

高等教育推進委員対象のアンケートの実施について

▶ 背景

第Ⅲ期における各部会の活動計画では、授業における教育支援システム（ToyoNet-ACE 等）や会議システム（Webex 等）の活用事例を取り扱う内容がそれぞれ含まれています。

※以下、教育支援システムや会議システム等の授業運営に利用するアプリケーションやサービスを「教育支援システム等」と呼称します。

そこで、高等教育推進委員の先生方を対象とした、各種教育支援システム等の利用状況と活用事例の収集を目的としたアンケートを共同で実施することを、教育開発・改革部会より提案いたします。

得られた情報は高等教育推進委員会の各部会で共有し、それぞれの活動において活用いたします。

- | | | |
|-----------|-------------|----------------------|
| 各部会での活用方法 | ▶ 教育開発・改革部会 | ： システムや機能の評価や課題整理 |
| | ▶ FD・SD研修部会 | ： FD/SDチャンネルでの活用事例紹介 |
| | ▶ 高等教育研究部会 | ： メールマガジンでの活用事例紹介 |

▶ アンケート概要

- ▶ 対 象： 高等教育推進委員会 委員
- ▶ 目 的： 教育支援システム等の利用状況や活用事例の収集
- ▶ 期 間： 2022年3月8日(火) ～ 2022年3月31日(木)
- ▶ 内 容： 授業において利用している教育支援システム等
各委員の所属内での先進的取り組み事例 など
- ▶ 設問案： <https://forms.gle/wwUW2EX8NKxxPTNY9>

▶ 設問項目① 説明文／フェイスシート

教育支援システム等に関するアンケート (高等教育推進委員会)

高等教育推進委員会
委員各位

第Ⅲ期における各部門の活動計画では、授業における教育支援システム（ToyoNet-ACE 等）や会議システム（Webex 等）の活用事例を取り扱う内容がそれぞれ含まれています。
※以下、教育支援システムや会議システム等の授業運営に利用するアプリケーションやサービスを「教育支援システム等」と呼称します。

この度、教育開発・改革部会からの発案により、高等教育推進委員の先生方を対象に、各種教育支援システム等の利用状況と活用事例の収集を目的としたアンケートを実施いたします。

お手数をおかけいたしますが、「利用している教育支援システム等」「所属内での先進的取り組み事例」について情報提供をいただきたく、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

得られた情報は高等教育推進委員会の各部会で共有し、それぞれの活動において活用いたします。

＜各部会での活用方法＞

- ・教育開発・改革部会：システムや機能の評価や課題整理
- ・FD・SD研修部会：FD/SDチャンネルでの活用事例紹介
- ・高等教育研究部会：メールマガジンでの活用事例紹介

各部会より詳細情報の照会など協力依頼がございましたら、ご協力を賜れますよう併せてお願いいたします。

※教育支援システム等・・・授業運営に使用するアプリケーションやサービス
例. ToyoNet-ACE、Webex、Miro、Youtube、respon、Slack、Gather.Town、Google Jamboard など

※回答期間：2022年3月8日(火)～3月31日(木)

ご芳名 *

ご所属 *

次へ

フォームをクリア

▶ 設問項目② 利用する教育支援システム等

Q1.アプリケーション名またはサービス名を教えてください。

例. ToyoNet-ACE、Webex、Miro、Youtube、respon、Slack、Gather.Town、Google Jamboard など

a _____

Q2.『対面』『オンライン』のどちらで使用していますか。（複数回答可）

☐ 『対面』で行う授業で利用

☐ 『オンライン』で行う授業で利用

Q3.利用目的を教えてください。

例. 学生間のディスカッションをまとめるため

回答を入力 _____

Q4.使い方を教えてください。

例. JamboardのURLを学生に伝え、あるテーマに関する意見をいくつでも自由に書き込ませ、その結果を授業内で共有している

回答を入力 _____

教育支援システム等を3つまで記載できる回答欄を用意

利用する教育支援システム等について何う
共通の設問を 3種類の授業形態別に質問

- ・「講義」形式
- ・「演習（ゼミ）」形式
- ・「実験・実習」形式



「講義」形式の授業運営において、教育支援システム等を使って実現したいことがありましたら教えてください。

回答を入力 _____

戻る

次へ

フォームをクリア

▶ 設問項目③ ご存じの活用事例について + 自由記述

教育支援システム等の活用事例について

所属する学部・研究科等で、教育支援システム等を活用した授業や取り組みの事例がございましたら、ご存じの範囲で教えてください。
事例は3つまで記載できるよう回答欄を用意しておりますので、ぜひ情報提供をお願いいたします。

※所属する学部・研究科等の事例を想定しておりますが、所属以外の事例もお寄せいただいても構いません。

授業（取り組み）を担当する先生のお名前

回答を入力

授業（取り組み）の名称

回答を入力

どのような授業（取り組み）か、ご存じの範囲で構いませんので教えてください。

回答を入力

活用事例を3つまで記載できる回答欄を用意



最後に、自由にご意見をいただく設問

教育支援システム等について

本学で利用している各種教育支援システム等について、お考えや思うところがございましたら、自由に記述してください。

回答を入力

戻る

送信

フォームをクリア

教育支援システム等に関するアンケート（高等教育推進委員会）

No. 1

所属：

氏名：

(1)「講義」形式の授業で使用している教育支援システム等について（3種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-Ace
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	講義資料の提示、小テストの利用など
	使い方を教えてください。	毎回、講義資料と事前演習問題を提示。講義後、講義動画のアップロードと、respon に寄せられた質問に回答。また、教室変更などの連絡にも利用。
システム②	アプリケーション名またはサービス名	webex
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	ハイブリット授業の共有
	使い方を教えてください。	講義中に webex を利用し、講義室ではその画面を供覧。オンライン参加者は各自の環境で webex 経由で講義を受講。ただし、録音機能は使わず、PowerPoint に録音したものを後で動画にした
システム③	アプリケーション名またはサービス名	Respon
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	出席管理
	使い方を教えてください。	出席管理および質問の受付を行った。
「講義」形式の授業運営において実現したいこと		

(2)「演習（ゼミ）」形式の授業で使用している教育支援システム等について（3種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-ACE
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	資料提供
	使い方を教えてください。	講義資料の提供を事前に ACE 経由で行った
システム②	アプリケーション名またはサービス名	Webex
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	ハイブリット授業の通信ツールとして
	使い方を教えてください。	ハイブリット授業の通信ツールとして
システム③	アプリケーション名またはサービス名	Respon
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	出席管理
	使い方を教えてください。	出席管理
「演習（ゼミ）」形式の授業運営において実現したいこと		

(3)「実験・実習」形式の授業で使用している教育支援システム等について（3種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-Ace
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	実験資料の提供、レポート提出
	使い方を教えてください。	実験前に ACE 経由で実習書等を配布。レポート課題の提出を Ace で

システム②	アプリケーション名またはサービス名	Webex
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『オンライン』
	利用目的を教えてください。	オンライン参加者対策
	使い方を教えてください。	コロナ対策等で実験に参加できない学生に実験風景を配信
システム③	アプリケーション名またはサービス名	Respon
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	出席管理
	使い方を教えてください。	出席管理
「実験・実習」形式の授業運営において実現したいこと		

（４）教育支援システム等の活用事例について（３つまで）

事例①	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
事例②	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
事例③	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	

（５）教育支援システム等について自由記述

--

教育支援システム等に関するアンケート（高等教育推進委員会）

No. 2

所属：

氏名：

（１）「講義」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-ACE
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	講義に必要な情報発信とオンライン講義時の演習実施
	使い方を教えてください。	講義や試験の案内・講義資料等の配布を行う／加えて，オンライン講義では動画を含むコンテンツの配信，演習の回収・集計，中間・期末試験の実施に利用する
システム②	アプリケーション名またはサービス名	Webex
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『オンライン』
	利用目的を教えてください。	講義のリアルタイム配信
	使い方を教えてください。	少人数の大学院講義で利用する。
システム③	アプリケーション名またはサービス名	YouTube
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	オンライン用の講義動画の配信
	使い方を教えてください。	オンデマンド用の講義動画を撮影・編集して限定公開する
「講義」形式の授業運営において実現したいこと		

（２）「演習（ゼミ）」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	Webex
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『オンライン』
	利用目的を教えてください。	研究打ち合わせ
	使い方を教えてください。	資料共有をして各自の研究内容の報告，ホワイトボードを使った議論を行う。
システム②	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「演習（ゼミ）」形式の授業運営において実現したいこと		

（３）「実験・実習」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-ACE
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	講義に必要な情報発信
	使い方を教えてください。	講義の案内・講義資料等の配布を行う（動画を含む）
システム②	アプリケーション名またはサービス名	Youtube
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』

	利用目的を教えてください。	講義の記録動画の配信
	使い方を教えてください。	対面で実施した実習の記録動画を編集して公開する
システム ③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「実験・実習」形式の授業運営において実現したいこと		
（４）教育支援システム等の活用事例について（３つまで）		
事例 ①	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
事例 ②	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
事例 ③	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
（５）教育支援システム等について自由記述		

教育支援システム等に関するアンケート（高等教育推進委員会）

No. 3

所属：

氏名：

（１）「講義」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-ACE
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	授業で使用する資料のアップロード、課題提出、フィードバックなど
	使い方を教えてください。	授業関連資料を授業前にアップロードし閲覧させ、授業時間中にディスカッションやプレゼンを行う
システム②	アプリケーション名またはサービス名	Webex
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『オンライン』
	利用目的を教えてください。	授業講義、プレゼンテーション
	使い方を教えてください。	PPT を利用しながら講義を行う、プレゼンテーションを行い意見交換をする
システム③	アプリケーション名またはサービス名	Zoom
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『オンライン』
	利用目的を教えてください。	海外との共同授業
	使い方を教えてください。	ベネチア大学との共同授業で講義、意見交換で使用
「講義」形式の授業運営において実現したいこと		動画配信（現状の ACE では重たいファイルが送れません）

（２）「演習（ゼミ）」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-ACE
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	学生間のプレゼンテーションや共同作業のアップロード
	使い方を教えてください。	ポスターセッションをグループ分けし、共同作業を行う
システム②	アプリケーション名またはサービス名	Webex
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『オンライン』
	利用目的を教えてください。	グループディスカッション、発表
	使い方を教えてください。	Webex でチーム分けし、ディスカッションさせ、終了後全員で発表する
システム③	アプリケーション名またはサービス名	Zoom
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『オンライン』
	利用目的を教えてください。	海外との課題発表
	使い方を教えてください。	海外大学との共同授業にて学生間発表
「演習（ゼミ）」形式の授業運営において実現したいこと		オンライン施設見学会

（３）「実験・実習」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	YouTube
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	直接現地に行かずに施設見学をする
	使い方を教えてください。	YouTube を閲覧し、Web プロモーションの事例や紹介方法の研究を行う

システム②	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「実験・実習」形式の授業運営において実現したいこと		基本的に実習科目は Web では限界があります

（４）教育支援システム等の活用事例について（３つまで）

事例①	担当する先生のお名前	中挾知延子、増子美穂
	授業（取り組み）の名称	ヴェネチア大学との教育交流プロジェクト
	どのような授業（取り組み）か	国際観光学研究科国際観光学専攻のクラスと、イタリア・ヴェネチア大学（正式名称 Università Ca' Foscari Venezia、カ・フォスカリ大学）の観光経済研究所（CISET：Centro Internazionale di Studi sull'Economia Turistica）で学ぶ大学院修士課程に学ぶ学生のクラスとのあいだのオンラインでの教育交流。交流には英語を用いて、90 分間の通常の授業において実施された。本プロジェクトの目的は、院生にとって、１）物理的に通常簡単にはできない海外協定大学との合同授業をすることで、英語を使って議論する機会を提供する、２）観光分野のテーマにおいて、イタリアの学生の考えを知ることによって異文化理解能力を養う、というものである。 ・ 1 回目：6 月 11 日（金）Tourism Cultural Communication（中挾担当） 参加メンバー：東洋大学院生 7 名（国際観光学研究科修士課程）、中挾知延子、ヴェネチア大学院生 11 名（修士課程）、フェデリカ・モンタグティ教授（CISET）
事例②	担当する先生のお名前	中挾知延子、増子美穂
	授業（取り組み）の名称	ヴェネチア大学との教育交流プロジェクト
	どのような授業（取り組み）か	上記の第 2 回目 ・ 2 回目：12 月 1 日（水）Museum Management（増子担当） ファンツーリズムというグローバルな観光行動をテーマに学生がプレゼンテーションをし、それに対して意見交換と講義
事例③	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	

（５）教育支援システム等について自由記述

オンライン授業が多くなり、ToyonetAce を頻繁に使用することが日常的になりましたが、資料や動画をアップロードできる容量が少なすぎて苦労しています。大きい場合 Google ドライブを使用していますが、アクセスしずらく、学生も混乱するため、

できれば ACE 上に全てアップできると嬉しいです。また、今年度アップロードした資料や作成した小テストがそのまま次年度へインポートできる機能があるとありがたいです。他大で使用している Moodle ではそのような機能が充実しており、本校でも同水準のシステムがあれば授業がもっと充実すると思います。

教育支援システム等に関するアンケート（高等教育推進委員会）

No. 4

所属：

氏名：

（１）「講義」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-ACE、Zoom、Youtube、respon
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	講義、学生のグループワーク、投票アンケート
	使い方を教えてください。	講義中の課題に対する回答をチャットに書き込ませる、グループワークの結果を発表させる
システム②	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「講義」形式の授業運営において実現したいこと		アプリの使用に関するFD

（２）「演習（ゼミ）」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-ACE、Zoom、Youtube、respon
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	講義、学生のグループワーク、投票アンケート
	使い方を教えてください。	講義、課題に対する回答をチャットに書き込ませる、投票アンケート
システム②	アプリケーション名またはサービス名	同上
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	同上
	使い方を教えてください。	同上
システム③	アプリケーション名またはサービス名	同上
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	同上
	使い方を教えてください。	同上
「演習（ゼミ）」形式の授業運営において実現したいこと		前頁の回答と同じ

（３）「実験・実習」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム②	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	

	使い方を教えてください。	
システム ③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「実験・実習」形式の授業運営において実現したいこと		
（４）教育支援システム等の活用事例について（３つまで）		
事例 ①	担当する先生のお名前	佐藤節也
	授業（取り組み）の名称	New Perspectives on Globalization, Advanced Negotiation, Banking and Financial Markets, Global Financial Systems, Global Careers, Internship, Graduation Thesis
	どのような授業（取り組み）か	前ページの記述と同じ
事例 ②	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
事例 ③	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
（５）教育支援システム等について自由記述		

教育支援システム等に関するアンケート（高等教育推進委員会）

No. 5

所属：

氏名：

（１）「講義」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-ACE
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』
	利用目的を教えてください。	学課題の提出
	使い方を教えてください。	「レポート」で課題を出し、次週に講義で解答
システム②	アプリケーション名またはサービス名	Webex
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	非対面希望者への対応、グループディスカッション
	使い方を教えてください。	URL を教えて、ブレイクアウトセッションを利用
システム③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「講義」形式の授業運営において実現したいこと		

（２）「演習（ゼミ）」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	Webex
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』
	利用目的を教えてください。	非対面希望者（就活など登校時間が限られた場合）への対応
	使い方を教えてください。	URL を教えて参加してもらう
システム②	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「演習（ゼミ）」形式の授業運営において実現したいこと		

（３）「実験・実習」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-ACE
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』
	利用目的を教えてください。	レポート回収
	使い方を教えてください。	レポートに Word で提出
システム②	アプリケーション名またはサービス名	Webex
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』
	利用目的を教えてください。	非対面希望者の対応
	使い方を教えてください。	URL を教えて参加してもらう
システム③	アプリケーション名またはサービス名	

	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「実験・実習」形式の授業運営において実現したいこと		
（４）教育支援システム等の活用事例について（３つまで）		
事例①	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
事例②	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
事例③	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
（５）教育支援システム等について自由記述		

教育支援システム等に関するアンケート（高等教育推進委員会）

No. 6

所属：

氏名：

（１）「講義」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-ACE
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	連絡事項、講義資料配布(スライド、動画など)、小テストなど
	使い方を教えてください。	もの置き場だけでなく、課題として小テスト(解説付き)を用意している
システム②	アプリケーション名またはサービス名	WebEx
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	オンライン講義と出欠記録、講義の録画と配信
	使い方を教えてください。	WebEx につなぎ、録画をしている。録画した動画は必要に応じて編集してアップロードする。また、WebEx につないだ人の記録が残るため、オンライン受講者の出席確認にも利用している。
システム③	アプリケーション名またはサービス名	Respon
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	出席の記録
	使い方を教えてください。	講義の最後に番号を板書きし、出席を取っている。座席指定している講義では空席の番号を記録しておき、後で Respon の記録と比較している。
「講義」形式の授業運営において実現したいこと		講義動画は Google ドライブに保管後、ToyoNet-ACE にリンクを貼っている。WebEx で記録したものと Google ドライブと ToyoNet-ACE の連携がもう少しシームレスになると便利だと思う。

（２）「演習（ゼミ）」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-ACE
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	資料の配布
	使い方を教えてください。	コンテンツに資料を貼っている。
システム②	アプリケーション名またはサービス名	WebEx
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	オンライン受講者がいる場合に利用している
	使い方を教えてください。	WebEx 上でプレゼンターが画面共有して発表を行っている。
システム③	アプリケーション名またはサービス名	Respon
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	出席の確認
	使い方を教えてください。	出席確認のみ行っている。
「演習（ゼミ）」形式の授業運営において実現したいこと		教室で複数人が話すときに音声はよく通じるがハウリングしない機器やシステムがあれば知りたい。

（３）「実験・実習」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-ACE
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	資料の配布、レポートの回収
	使い方を教えてください。	資料置き場のコンテンツとレポート回収のためのページを用意している。
システム②	アプリケーション名またはサービス名	WebEx
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	オンライン受講者用と動画の録画
	使い方を教えてください。	実験の様子(一番近い実験台の手元)を配信している。また、講義中は PC の画面を共有している。すべて録画している。
システム③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「実験・実習」形式の授業運営において実現したいこと		1 つのカメラを都度向きを変えて利用しているので、複数台のカメラを用意してスイッチ一つで画面の切り替えができるとありがたい。

（４）教育支援システム等の活用事例について（３つまで）

事例①	担当する先生のお名前	健康栄養学科の教員
	授業（取り組み）の名称	Active-LMS
	どのような授業（取り組み）か	学期ごとに ToyoNet-ACE 上に小テストを登録し、毎朝 8 時に健康栄養学科の全学生に問題が配信される取り組みを行っている。問題は学生が作問したものを担当教員が確認修正して配信している。
事例②	担当する先生のお名前	健康栄養学科の教員
	授業（取り組み）の名称	管理栄養士国家試験受験のための勉強の記録
	どのような授業（取り組み）か	コロナ禍で大学に来て勉強する学生が減っていることから、管理栄養士国家試験の模擬試験において健康栄養学科が設定した基準点を下回った学生には、Google スプレッドシートに毎日の勉強内容を記録するように指導した。これにより学生がお互いに勉強が進んでいるか確認できるようにした。
事例③	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	

（５）教育支援システム等について自由記述

ToyoNet-ACE、WebEx、Google の各種ツールの利用をすることで、大変便利になったと感じている。特に動画コンテンツは時間に縛られることなく繰り返し学習できるので、学生にとってはメリットが大きいと考えている。また、卒業生が利用できるようなツールがあると OB・OG との連携(OB・OG による講演会や同窓会など)がより進むと思う。

教育支援システム等に関するアンケート（高等教育推進委員会）

No. 7

所属：

氏名：

（１）「講義」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-ACE
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	連絡事項、授業資料配布、小テスト、質問コーナー、課題提出
	使い方を教えてください。	毎回の授業の感想や学んだことを課題レポートコーナーから提出させ、次の授業でフィードバックする
システム②	アプリケーション名またはサービス名	Webex
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『オンライン』
	利用目的を教えてください。	遠隔授業の実施
	使い方を教えてください。	チャットに質問事項を記載させる、反応ボタンで反応させる他
システム③	アプリケーション名またはサービス名	respon
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	出席管理、アンケート
	使い方を教えてください。	アンケートの場合、授業中に回答（匿名になる）を全員で共有、他の人の考えを文字で理解する
「講義」形式の授業運営において実現したいこと		

（２）「演習（ゼミ）」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-ACE
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	連絡事項、授業資料配布、質問コーナー、課題がある場合はその提出先
	使い方を教えてください。	事前に見ておいて欲しい画像がある場合は、その URL を掲示
システム②	アプリケーション名またはサービス名	Webex
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『オンライン』
	利用目的を教えてください。	授業配信
	使い方を教えてください。	ブレイクアウトルームでディスカッション、チーム発表
システム③	アプリケーション名またはサービス名	RESPON
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	出欠管理
	使い方を教えてください。	
「演習（ゼミ）」形式の授業運営において実現したいこと		

（３）「実験・実習」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-ACE
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	授業資料配信、連絡事項、質疑応答ほか
	使い方を教えてください。	ディスカッションのための事前学習資料などを掲示
システム②	アプリケーション名またはサービス名	WEBEX
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『オンライン』

	利用目的を教えてください。	オンラインで演習に挑戦したこともありましたが、うまく行かなかったため、その後 WEBEX 使用時には講義形式に変更するか、ブレイクアウトルームでディスカッションとしています。
	使い方を教えてください。	
システム ③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「実験・実習」形式の授業運営において実現したいこと		オンラインとなった場合は、教員の実演がよく見えるような機器の部屋（スタジオ）のようなものが借りられると嬉しいです。全身が映るように遠く離れると、学生にきちんと見えているかどうかかわからず、音声も聞こえているかわからず、また反応もわからないので、オンライン時に予定されていた実演は削除してしまったことが多々ありました。学生に実演させる機会も削除しました。

（４）教育支援システム等の活用事例について（３つまで）

事例 ①	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
事例 ②	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
事例 ③	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	

（５）教育支援システム等について自由記述

オンライン全般のことなので、的外れかもしれませんが、どんなにこちらが工夫しても、結局、学生再度の WIFI の環境次第で、授業進行がスムーズに行かないことがあります。解決のしようがなく、その都度その学生をフォローしたり、締め切りを特別に伸ばしたりすることで仕事量も増え、公平性も厳密ではなくなるので、悩みます。

教育支援システム等に関するアンケート（高等教育推進委員会）

No. 8

所属：

氏名：

（１）「講義」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ZOOM
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『オンライン』
	利用目的を教えてください。	日本に入って来られない外国人学生が多いため、ZOOM と Slack を授業に使っています。
	使い方を教えてください。	オンライン授業と個別指導、困っていることについての相談
システム②	アプリケーション名またはサービス名	SLACK
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	情報共有とディスカッションとフィードバック
	使い方を教えてください。	こちらに、授業ごとの課題を書き込み、学生はここで提出し、お互い、議論します。フィードバックも書きます。
システム③	アプリケーション名またはサービス名	TOYO-ACE
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	課題の提出
	使い方を教えてください。	シラバスにある課題の提出に使っています
「講義」形式の授業運営において実現したいこと		ZOOM と Slack が東洋大学で利用できるアプリになると助かります。

（２）「演習（ゼミ）」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ZOOM
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	授業と個別指導
	使い方を教えてください。	進捗をシェアしながら指導する。
システム②	アプリケーション名またはサービス名	SLACK
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	情報共有とディスカッション
	使い方を教えてください。	必要な資料などここでシェアする。
システム③	アプリケーション名またはサービス名	TOYO-Ace
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	課題の提出
	使い方を教えてください。	シラバスに掲げる課題は証拠が必要だと思うので、学生はここに提出
「演習（ゼミ）」形式の授業運営において実現したいこと		先ほどと同じで、ZOOM と SLACK が東洋大学で使えるアプリになると助かります。

（３）「実験・実習」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	

システム ②	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム ③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「実験・実習」形式の授業運営において実現したいこと		
（４）教育支援システム等の活用事例について（３つまで）		
事例 ①	担当する先生のお名前	チャールズ 迦部留
	授業（取り組み）の名称	SDGs fourm
	どのような授業（取り組み）か	ZOOM を使って SDGs に絡むフォーラムの開催
事例 ②	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
事例 ③	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
（５）教育支援システム等について自由記述		

教育支援システム等に関するアンケート（高等教育推進委員会）

No. 9

所属：

氏名：

（１）「講義」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-ACE
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『オンライン』
	利用目的を教えてください。	授業期間中の複数のアセスメントとコミュニケーションを促進するための基盤として活用
	使い方を教えてください。	授業関連の教材共有（閲覧のみの資料の時はグーグルドライブを活用）、小テスト実施と管理（なんどもチャレンジできるドリル形式）、事前・事後のアサインメントの実施と管理、授業に関する質問対応、など。
システム②	アプリケーション名またはサービス名	Respon
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『オンライン』
	利用目的を教えてください。	授業中のアクティブラーニング（簡単な演習）ツールとして活用。
	使い方を教えてください。	トピックに関連した簡単な演習を行い、回答を全員で共有。その後、ブレイクアウトルーム（Zoom）で議論するなど。
システム③	アプリケーション名またはサービス名	Zoom
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『オンライン』
	利用目的を教えてください。	授業を配信するツールとして活用（Webex より簡単に活用でき、通信負担が少ないため）
	使い方を教えてください。	リアルタイムの非対面授業ツールとして
「講義」形式の授業運営において実現したいこと		プロジェクトを行う場合であれば、Slack を活用できるのではないかなと思う。

（２）「演習（ゼミ）」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	Toyonet-ACE
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	個々人のアサインメントの管理とプロジェクト管理
	使い方を教えてください。	プロジェクトにおいては、グループ活動における成果を全員で閲覧し、コメントしあう
システム②	アプリケーション名またはサービス名	Slack
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	コミュニケーションの促進
	使い方を教えてください。	ゼミに関する情報共有、チャンネルを設けてグループ活動（ToyoNet-ACE では、うまくできない共同作業を補完）
システム③	アプリケーション名またはサービス名	グーグルドライブ
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	資料共有
	使い方を教えてください。	閲覧のみの資料を共有する
「演習（ゼミ）」形式の授業運営において実現したいこと		Miro

（３）「実験・実習」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	該当なし
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム②	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「実験・実習」形式の授業運営において実現したいこと		

（４）教育支援システム等の活用事例について（３つまで）

事例①	担当する先生のお名前	川崎先生、鈴木明夫先生、中野先生
	授業（取り組み）の名称	Social Business 実習講義
	どのような授業（取り組み）か	外部講師を招きながら、Social Business のプロジェクト演習を行っている
事例②	担当する先生のお名前	野中誠先生
	授業（取り組み）の名称	情報関連
	どのような授業（取り組み）か	複数のツールを使いこなしながら、授業を実施。学生の授業評価も高い
事例③	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	

（５）教育支援システム等について自由記述

ToyNet-ACE の資料共有の仕方は、資料を添付するしかない。閲覧のみの設定があればうれしい。グーグルドライブではいつもアクセスで問題が発生する（学生の慣れなのかもしれませんが・・・）

教育支援システム等に関するアンケート（高等教育推進委員会）

No. 10

所属：

氏名：

（１）「講義」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-ACE
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	学生の出欠・感想を知るため。資料の配付をするため。
	使い方を教えてください。	学生の意見や感想を知るため。必要な資料を配布するため。
システム②	アプリケーション名またはサービス名	Webex
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『オンライン』
	利用目的を教えてください。	全ての学生が講義に参加できるようにするため。ホワイトボード機能を利用して板書をするため。
	使い方を教えてください。	URL を送付して、授業時間に入室してもらう。ホワイトボードにタイピングをして、板書の代わりをする。
システム③	アプリケーション名またはサービス名	Zoom
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	ハイブリッド授業を実施するため。グループ・ディスカッションをしてもらうため。
	使い方を教えてください。	留学生や地方にいる学生も授業参加できるように、事前に URL を送付する。ブレイクアウト機能により、グループ・ディスカッションをしてもらう（Webex よりも軽い）。
「講義」形式の授業運営において実現したいこと		授業参加者の意見の傾向をリアルタイムでフィードバックできるようであるが、そのやり方がわからない。

（２）「演習（ゼミ）」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-ACE
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	学生の出欠、意見や感想（理解度を含む）を知るため。
	使い方を教えてください。	respon を用いて課題への適切な回答の有無を調べる。
システム②	アプリケーション名またはサービス名	Zoom
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	全ての学生が参加できるようにするため。グループ・ディスカッションを実施するため。
	使い方を教えてください。	ハイブリッド授業の実施。ブレイクアウトによるグループ・ディスカッションの実施。
システム③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「演習（ゼミ）」形式の授業運営において実現したいこと		

（３）「実験・実習」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム	アプリケーション名またはサービス名	Zoom
------	-------------------	------

	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『オンライン』
	利用目的を教えてください。	全ての学生が参加できる実験・実習を行うため。
	使い方を教えてください。	事前に URL を送付する。
システム②	アプリケーション名またはサービス名	Qualtrics
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	Web 上で回答できる調査票の作成のため。
	使い方を教えてください。	学科で契約している Qualtrics のアカウントをグループに 1 つ発行し、調査票を作成させる。
システム③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「実験・実習」形式の授業運営において実現したいこと		

（４）教育支援システム等の活用事例について（３つまで）

事例①	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
事例②	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
事例③	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	

（５）教育支援システム等について自由記述

Zoom に関しては、大学で契約してほしい

教育支援システム等に関するアンケート（高等教育推進委員会）

No. 11

所属：

氏名：

（１）「講義」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-ACE
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	講義資料の配信、小テスト、各種アナウンス
	使い方を教えてください。	期間を設定して自由にアクセスさせている
システム②	アプリケーション名またはサービス名	Webex
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『オンライン』
	利用目的を教えてください。	講義そのもの
	使い方を教えてください。	講義をリアルタイム配信
システム③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「講義」形式の授業運営において実現したいこと		

（２）「演習（ゼミ）」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム②	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「演習（ゼミ）」形式の授業運営において実現したいこと		担当なし

（３）「実験・実習」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	Webex
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『オンライン』
	利用目的を教えてください。	講義および実験手技の説明
	使い方を教えてください。	手技の実演風景を生配信
システム②	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム③	アプリケーション名またはサービス名	

	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「実験・実習」形式の授業運営において実現したいこと		実験講義はなかなか難しいです。ハンディタイプのカメラを体に取り付けてライブしているが、視野が狭く、スマートに実施するためのトレーニング時間が膨大。毎回の講義負担が大きすぎるので、何らかの工夫やテクニックを聞いてみたい。
（４）教育支援システム等の活用事例について（３つまで）		
事例①	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
事例②	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
事例③	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
（５）教育支援システム等について自由記述		
というシステムが整備されているのか、どのようなことができるのかわかりやすいチュートリアルがあると良いですが、マップやYoutube 動画もできているのでこの存在を広く伝えると良いでしょうか。		

教育支援システム等に関するアンケート（高等教育推進委員会）

No. 12

所属：

氏名：

（１）「講義」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-ACE
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	各種情報公開・履修者への告知，提出物の受付
	使い方を教えてください。	オンデマンド動画の URL の公開（オンライン授業にて），配布資料の公開，レポート・課題の出題・提出・正解と解説の公開の公開，その他各種告知
システム②	アプリケーション名またはサービス名	Webex
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『オンライン』
	利用目的を教えてください。	インタラクティブなやり取りのため
	使い方を教えてください。	質問などの受付や回答のため
システム③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「講義」形式の授業運営において実現したいこと		

（２）「演習（ゼミ）」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	Webex
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『オンライン』
	利用目的を教えてください。	インタラクティブ・リアルタイムのやり取りを要する場での手段として
	使い方を教えてください。	リモート実施の際の発表の手段として，また，参加者のその場の反応や対応に応じて授業を進める必要がある際に，チャットや音声にて回答などをさせる
システム②	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-ACE
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	各種資料の配布，提出物の管理
	使い方を教えてください。	事前・事後に配布する資料などの公開・蓄積・管理，ゼミ終了後のフォローのための手段
システム③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「演習（ゼミ）」形式の授業運営において実現したいこと		

（３）「実験・実習」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	respon
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『オンライン』
	利用目的を教えてください。	出欠の管理

	使い方を教えてください。	2021 年度非対面実施にて respon を使っていたところ, 2022 年は対面でもこれを使用する予定
システム②	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-ACE
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『オンライン』
	利用目的を教えてください。	試験や課題の出題・実施, 各種資料の配布, 告知やアナウンス
	使い方を教えてください。	非対面において試験を実施する手段として, 2022 年度もこれを用いる予定。
システム③	アプリケーション名またはサービス名	Webex
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『オンライン』
	利用目的を教えてください。	質疑応答
	使い方を教えてください。	質問の受付・回答を対話的に行う
「実験・実習」形式の授業運営において実現したいこと		

（４）教育支援システム等の活用事例について（３つまで）

事例①	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
事例②	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
事例③	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	

（５）教育支援システム等について自由記述

新たなシステムを使うためにはそのシステムの仕組みや「癖」を把握する必要があるように考えます。そして、その癖がある程度把握できてようやく本格的な使用ができる気がします。

というのも、システムの大前提がなんであるかをよく理解しないまま中途半端に使い始めると、予期しなかった挙動により（自分としてはそれを望んでいないという意味での）トラブルが起こったりそれをフォローするための手間や時間がかかることがあります。

幸い、過去２年間で深刻な状況には至りませんでしたが、やはりシステムの挙動の理解が不十分なままで本格的な使用をするのは抵抗があります。一方でそのような癖を把握するには

そのシステムをある程度使い込む必要があり、一種のジレンマが生じます（例えば、ACE の小テストとレポートの違いは使い込んでみてようやくわかった次第です）。

「あのシステムがいい」「このソフトが優秀だ」とか色々聞きますが、多少の不便を忍んでもあれこれ手を出さずシステムを限定して使いこなすほうが良いような部分もあるようにこの２年間で感じています。

その意味で、システムの過度に凝った使い方の紹介は個人的にはさほど興味がなく、システムの前提や仕組みを踏まえて「特定システムを（標準的な機能を過度に凝らずに）どう使えば良い授業が展開できるか」的情報があればいいなと考えます。換言すれば「システムの細かい使い方テクニック」のような純技術的なものではなくて、もう少し大雑把な、しかし自分では発想しなかったような使用法の事例紹介があれば、なんらかの参考になるのではないかと考えます。

なお自分は大学院から選出の委員ですが、学部のことを念頭にこのアンケートを回答させていただいたことを付記いたします。

教育支援システム等に関するアンケート（高等教育推進委員会）

No. 13

所属：

氏名：

（１）「講義」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-ACE
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	資料の配布
	使い方を教えてください。	授業用資料の配布、質問の受付（掲示板に「なんでも質問板」を設置）
システム②	アプリケーション名またはサービス名	Google Jamboard
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	学生同士の話し合いの把握
	使い方を教えてください。	グループでの話し合いのメモを残してもらい、全体共有の際にシェアする
システム③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「講義」形式の授業運営において実現したいこと		特になし

（２）「演習（ゼミ）」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム②	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「演習（ゼミ）」形式の授業運営において実現したいこと		

（３）「実験・実習」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム②	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	

	使い方を教えてください。	
システム ③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「実験・実習」形式の授業運営において実現したいこと		
（４）教育支援システム等の活用事例について（３つまで）		
事例 ①	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
事例 ②	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
事例 ③	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
（５）教育支援システム等について自由記述		

教育支援システム等に関するアンケート（高等教育推進委員会）

No. 14

所属：

氏名：

（１）「講義」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-ACE
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	学生の活動性を高めるため、深い学びを促すため
	使い方を教えてください。	課題を何度か出し、その内容を共有する等
システム②	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「講義」形式の授業運営において実現したいこと		

（２）「演習（ゼミ）」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	Google Jamboard
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『オンライン』
	利用目的を教えてください。	課題について少人数で深く考え、その内容を共有するため
	使い方を教えてください。	Jamboard の URL を学生に伝え、あるテーマに関する意見をいくつかでも自由に書き込ませ、その結果を授業内で共有している
システム②	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「演習（ゼミ）」形式の授業運営において実現したいこと		

（３）「実験・実習」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム②	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	

システム ③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「実験・実習」形式の授業運営において実現したいこと		

（４）教育支援システム等の活用事例について（３つまで）

事例 ①	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
事例 ②	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
事例 ③	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	

（５）教育支援システム等について自由記述

非対面授業では ICT の教育支援を活用し少人数の議論もしやすく満足しています。対面の授業では、教室の机間が狭く椅子を後ろに向けることすらできない、隣の人と話すために椅子を斜めに向けることも難しい、換気が悪く会話をすると空気が悪くなるなど、対話的な学習を行うことが難しく苦慮しております。主体的な学修支援を行うためにアクティブラーニングができる教室の増加やポスターセッションがしやすい教室をつくるなどハード面の充実をお願いしたいと思います。

教育支援システム等に関するアンケート（高等教育推進委員会）

No. 15

所属：

氏名：

（１）「講義」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-ACE
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	事前に資料配布と授業の導入のため
	使い方を教えてください。	事前に資料を配布したり事前課題を示して回答させ、授業の導入とするため
システム②	アプリケーション名またはサービス名	Zoom ミーティング
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『オンライン』
	利用目的を教えてください。	グループディスカッションのため
	使い方を教えてください。	ブレイクアウトルームに分かれてグループでディスカッションを行い、その内容をグループごとにチャットに書き込ませる
システム③	アプリケーション名またはサービス名	respon
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	学生の意見を集約したり、理解度を把握したりするため
	使い方を教えてください。	授業の中の一区切りごとに質問を提示し、意見等を投稿させ、フィードバックする
「講義」形式の授業運営において実現したいこと		学生がカメラオンにしやすいシステムやアーキテクチャを実現し、利用したい

（２）「演習（ゼミ）」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-ACE
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	資料の事前配布、議論のまとめ
	使い方を教えてください。	学生の報告資料を学生自身がアップし、また当日の議論のまとめを記録者がアップするなど
システム②	アプリケーション名またはサービス名	Zoom ミーティング
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	グループディスカッション
	使い方を教えてください。	ブレイクアウトルームに分かれてディスカッションするほか、質問をチャットで受けるなど
システム③	アプリケーション名またはサービス名	respon
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	発表者への質問や感想等をその都度書き込み、発表者へのフィードバックとする
	使い方を教えてください。	発表者への質問や感想等をその都度書き込み、発表者へのフィードバックとする
「演習（ゼミ）」形式の授業運営において実現したいこと		ゼミでこそカメラオンが必要なのに、カメラオンにせず反応が分からない学生がいるのでそれを解決したい

（３）「実験・実習」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム②	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「実験・実習」形式の授業運営において実現したいこと		実験・実習を担当していない

（４）教育支援システム等の活用事例について（３つまで）

事例①	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
事例②	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
事例③	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	残念ながら大学院レベルでどのような取り組みが行われているのか十分に把握していない

（５）教育支援システム等について自由記述

各種教育支援システムは十分に提供されていると思う。オンラインで参加度が薄くなってしまった学生、その状態に慣れてしまった学生の授業への参加度の問題、意欲の問題の解決が急がれると思う。

教育支援システム等に関するアンケート（高等教育推進委員会）

No. 16

所属：

氏名：

（１）「講義」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	Slack
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	学習支援
	使い方を教えてください。	レジメ・資料・参考URL等の共有、学生からの質問受け付け等
システム②	アプリケーション名またはサービス名	toyonetace
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	学習支援
	使い方を教えてください。	レジメ・資料・参考URL等の共有、学生からの質問受け付け等
システム③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「講義」形式の授業運営において実現したいこと		Zoom webinar

（２）「演習（ゼミ）」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	slack
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	学習支援
	使い方を教えてください。	学生間のレジメ・資料共有・意見交換
システム②	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「演習（ゼミ）」形式の授業運営において実現したいこと		zoom webine

（３）「実験・実習」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム②	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム③	アプリケーション名またはサービス名	

	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「実験・実習」形式の授業運営において実現したいこと		
（４）教育支援システム等の活用事例について（３つまで）		
事例①	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
事例②	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
事例③	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
（５）教育支援システム等について自由記述		
toyonet-ace 等、大変使い勝手が良い。Z o o m webiner が使えると更に助かる。		

教育支援システム等に関するアンケート（高等教育推進委員会）

No. 17

所属：

氏名：

（１）「講義」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	respon
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	学生との相互交流型授業促進のため
	使い方を教えてください。	学生にリアクションペーパーを書かせる、授業内容の確認など
システム②	アプリケーション名またはサービス名	toyonet-ACE
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	オンデマンド授業、学生への連絡、個別指導、レポート提出
	使い方を教えてください。	オンデマンド授業の URL の通知、授業連絡、学生に個別に始動する場合、レポート提出
システム③	アプリケーション名またはサービス名	Google (Email)
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	緊急連絡
	使い方を教えてください。	学生の急な休講や課題提出遅延の連絡など。
「講義」形式の授業運営において実現したいこと		Toynet-ACE に直接動画を貼り付けることができれば便利かと思う。

（２）「演習（ゼミ）」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-ACE
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	学生への連絡、個別指導、
	使い方を教えてください。	ゼミのスケジュールや、使用する資料などの事前、事後配布、個別指導、レポート提出
システム②	アプリケーション名またはサービス名	Zoom
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『オンライン』
	利用目的を教えてください。	オンラインでのゼミの授業
	使い方を教えてください。	オンラインでのゼミの授業
システム③	アプリケーション名またはサービス名	Google
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	学生からの欠席届、学生への緊急連絡
	使い方を教えてください。	学生からの欠席届、学生への金融連絡
「演習（ゼミ）」形式の授業運営において実現したいこと		特になし

（３）「実験・実習」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム②	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	

	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム ③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「実験・実習」形式の授業運営において実現したいこと		
（４）教育支援システム等の活用事例について（３つまで）		
事例 ①	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
事例 ②	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
事例 ③	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
（５）教育支援システム等について自由記述		

教育支援システム等に関するアンケート（高等教育推進委員会）

No. 18

所属：

氏名：

（１）「講義」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	Zoom
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	機能が充実している
	使い方を教えてください。	Zoom invitation を学生に送り授業を実施している
システム②	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「講義」形式の授業運営において実現したいこと		

（２）「演習（ゼミ）」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	Zoom
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『オンライン』
	利用目的を教えてください。	研究打合せ・発表指導・論文作成指導
	使い方を教えてください。	研究打合せ・発表指導・論文作成指導
システム②	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「演習（ゼミ）」形式の授業運営において実現したいこと		

（３）「実験・実習」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム②	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム	アプリケーション名またはサービス名	

	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「実験・実習」形式の授業運営において実現したいこと		
（４）教育支援システム等の活用事例について（３つまで）		
事例①	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
事例②	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
事例③	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
（５）教育支援システム等について自由記述		

教育支援システム等に関するアンケート（高等教育推進委員会）

No. 19

所属：

氏名：

（１）「講義」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	Slack
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	授業の連絡
	使い方を教えてください。	Slack で学生に小テスト開始や宿題のアナウンス，個別の質問対応。
システム②	アプリケーション名またはサービス名	Google Meet
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	オンライン講義，録画
	使い方を教えてください。	Meet は授業配信・録画。ストリーミング配信もインタラクティブな授業も行っている。
システム③	アプリケーション名またはサービス名	MOOCs
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	小テスト，課題提出先
	使い方を教えてください。	MOOCs は課題提出先，小テストの実施，オンデマンド授業動画置場に使用している。授業動画のアーカイブは Google Drive を使用している。
「講義」形式の授業運営において実現したいこと		

（２）「演習（ゼミ）」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	Slack
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	授業についてのアナウンス
	使い方を教えてください。	授業での課題，提出先 URL などの連絡事項を伝える。個別の質問も受け付ける。
システム②	アプリケーション名またはサービス名	Google Meet
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	説明の連絡，画面共有をしておきの質問など
	使い方を教えてください。	説明を授業形式で行う場面や学生からの質問を受けるときに使用する。
システム③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「演習（ゼミ）」形式の授業運営において実現したいこと		

（３）「実験・実習」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	Slack
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	授業についての連絡など
	使い方を教えてください。	実習についてのアナウンスや，学生からの質問を受けるときに使用

		する
システム②	アプリケーション名またはサービス名	Google Meet
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	対面とオンライン参加を繋ぐ場合に使用している
	使い方を教えてください。	登校と自宅からの参加が混在していたため，その2グループを繋ぐ方法として使用していた
システム③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「実験・実習」形式の授業運営において実現したいこと		

（４）教育支援システム等の活用事例について（３つまで）

事例①	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
事例②	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
事例③	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	

（５）教育支援システム等について自由記述

特にありません。

教育支援システム等に関するアンケート（高等教育推進委員会）

No. 20

所属：

氏名：

（１）「講義」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-ACE
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	講義資料等の配布、課題の実施
	使い方を教えてください。	講義資料等の共有、課題に関する解説の掲示
システム②	アプリケーション名またはサービス名	Webex
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	対面授業の非対面受講生への同時配信
	使い方を教えてください。	ライブ授業の配信
システム③	アプリケーション名またはサービス名	respon
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』
	利用目的を教えてください。	出欠確認
	使い方を教えてください。	出席の確認
「講義」形式の授業運営において実現したいこと		

（２）「演習（ゼミ）」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	Webex
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『オンライン』
	利用目的を教えてください。	（専門演習の）対面の代替手段として（感染拡大の状況下において）
	使い方を教えてください。	資料等は事前にメールで各自に配布した上で、画面上で対面に準じた報告およびディスカッションを行った。
システム②	アプリケーション名またはサービス名	respon
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』
	利用目的を教えてください。	（１年生対象の法学基礎演習の）出席確認、課題
	使い方を教えてください。	出席の確認のほか、コロナ禍でディスカッションがあまりできない状況のため、その代わりに予習内容に関する簡単な質疑応答をした。
システム③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「演習（ゼミ）」形式の授業運営において実現したいこと		

（３）「実験・実習」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム②	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	

	使い方を教えてください。	
システム ③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「実験・実習」形式の授業運営において実現したいこと		
（４）教育支援システム等の活用事例について（３つまで）		
事例 ①	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
事例 ②	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
事例 ③	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
（５）教育支援システム等について自由記述		

教育支援システム等に関するアンケート（高等教育推進委員会）

No. 21

所属：

氏名：

（１）「講義」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-ACE
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	課題の出題、解答管理
	使い方を教えてください。	講義内容に関する課題を出し、締切までに解答させ、成績評価に利用する。
システム②	アプリケーション名またはサービス名	respon
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	出席管理
	使い方を教えてください。	講義中に番号を提示し、出席を取る
システム③	アプリケーション名またはサービス名	MOOCs
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	講義資料の配布、課題の出題
	使い方を教えてください。	講義資料を MOOCs として公開した。また、課題の出題、解答の記録も行った。
「講義」形式の授業運営において実現したいこと		

（２）「演習（ゼミ）」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	MOOCs
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	講義資料の提示、課題の出題と提出
	使い方を教えてください。	講義資料や課題を提示している。また、課題の提出もできるようにした。
システム②	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「演習（ゼミ）」形式の授業運営において実現したいこと		

（３）「実験・実習」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	Slack
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	連絡、議論
	使い方を教えてください。	研究室の学生に情報を周知するのに使用した。また、個人との議論にも用いた。
システム②	アプリケーション名またはサービス名	

	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム ③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「実験・実習」形式の授業運営において実現したいこと		
（４）教育支援システム等の活用事例について（３つまで）		
事例 ①	担当する先生のお名前	情報連携学科の主な教員
	授業（取り組み）の名称	MOOCs の活用
	どのような授業（取り組み）か	講義資料は原則的に MOOCs で公開し、オンラインで閲覧可能にしている。
事例 ②	担当する先生のお名前	情報連携学科の主な教員
	授業（取り組み）の名称	Slack の活用
	どのような授業（取り組み）か	1 講義に 1 つの Slack チャンネルを割り当て、講義の連絡や学生同士の議論を行っている。
事例 ③	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
（５）教育支援システム等について自由記述		

教育支援システム等に関するアンケート（高等教育推進委員会）

No. 22

所属：

氏名：

（１）「講義」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	OLMS（共同開発アプリ）
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	既存の LMS の利点・欠点を改善した統合システム型アプリを実証実験をしながら開発
	使い方を教えてください。	対面授業の感覚に近い形での非対面授業の進行、学生同士のソーシャルコミュニケーションの効率的実施、対面に匹敵する状況でのオンラインテストの実施、簡便かつ分かりやすい操作での MOOCS レベルの授業教材の内製、学生の側から見た場合のユーザビリティに富んだ授業進行、形成的評価を実現しやすい授業環境の整備、対面授業以上に学生の意欲や興味を引き出せる授業支援基盤の構築
システム②	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「講義」形式の授業運営において実現したいこと		

（２）「演習（ゼミ）」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	A-FRAME+FILMORA+AUDACITY+VISUAL BASIC
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	STEAM 教育の実践
	使い方を教えてください。	観光・地域情報をビジュアルに発信するための仮想空間をウェブ上に構築するという課題のもと、データサイエンス・プログラミング・映像制作編集・イベント企画・ネットワーク理論などを総合的・体系的に実践する体験型の演習を実施
システム②	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「演習（ゼミ）」形式の授業運営において実現したいこと		

（３）「実験・実習」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム②	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「実験・実習」形式の授業運営において実現したいこと		

（４）教育支援システム等の活用事例について（３つまで）

事例①	担当する先生のお名前	大学院教務課＋東海林克彦
	授業（取り組み）の名称	「大学院におけるオープンかつ多様なハイフレックス 学修の運用を推進するための実証的な事業（学長施策の教育力強化特別予算）」
	どのような授業（取り組み）か	非対面授業の中でも、場所と時間の制約から解放されることから自由度の高い授業運用が可能 能となるフル・オンデマンド授業に着目して、そのあり方とそれを活用した各種の大学院教育の展開方策を検討し、実行していくための実証事業。最終的には、授業運営のノウハウ（マニュアル）とアプリケーションシステムなどがアウトプットとして具体的にとりまとめられる予定。また、あわせて、これを効果的に運用できるようにするための制度設計（先行履修制度や Certificated Program など）についてもとりまとめる必要な規程改正・予算確保なども実施。 →具体的に DX 本部会議等の会議資料をご覧ください。
事例②	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
事例③	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	

（５）教育支援システム等について自由記述

既製品の LMS だけでなく、より良いものを自らが開発をするというアプローチも併せて検討をする必要があるのではないか？
いくつかの大学では、まったく独自に LMS アプリを作っているところもあれば、オープンソースの MOODLE をベースに、自分たちで使いやすいアプリに作り替えるなどの工夫をしているところもある。
また、その際には、ユーザーである学生側の視点と教員側の視点の双方から考えることが重要であるとともに、多額の予算をかけるわけにもいかないことから、高水準の教材（授業運用を含む）を、簡便に「内製」できるものとするのが肝要であると考えている。

教育支援システム等に関するアンケート（高等教育推進委員会）

No. 23

所属：

氏名：

（１）「講義」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-ACE
	『対面』or『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	資料配布
	使い方を教えてください。	講義に関する案内、質疑応答、学生へのフィードバック
システム②	アプリケーション名またはサービス名	Webex
	『対面』or『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	オンライン授業
	使い方を教えてください。	講義を録画して ToyoNet-ACE で共有
システム③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』or『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「講義」形式の授業運営において実現したいこと		映画などの予告動画はストーリーを予想できたり興味を引くので授業で似たことができないかな？と考えてます

（２）「演習（ゼミ）」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-ACE
	『対面』or『オンライン』（複数回答可）	『対面』
	利用目的を教えてください。	資料配布
	使い方を教えてください。	レジメなどの共有

	ださい。	
システム②	アプリケーション 名またはサービス 名	Webex
	『対面』or『オンライン』(複数回答可)	『オンライン』
	利用目的を教えてください。	研究報告会の実施
	使い方を教えてください。	研究の進捗報告
システム③	アプリケーション 名またはサービス 名	
	『対面』or『オンライン』(複数回答可)	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
「演習(ゼミ)」形式の授業 運営において実現したい こと		対面で発表が苦手な人もオンライン発表から慣れていけるようなので活かせる方法を考えてです
(3)「実験・実習」形式の授業で使用している教育支援システム等について(3種類まで)		
システム①	アプリケーション 名またはサービス 名	ToyoNet-ACE
	『対面』or『オンライン』(複数回答可)	『対面』
	利用目的を教えてください。	資料配布、実験前の演習
	使い方を教えてください。	データ処理の反転授業
システム②	アプリケーション 名またはサービス 名	
	『対面』or『オンライン』(複数回答可)	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	

システム ③	アプリケーション 名またはサービス 名	
	『対面』or『オンラ イン』(複数回答可)	
	利用目的を教えて ください。	
	使い方を教えてく ださい。	
「実験・実習」形式の授業 運営において実現したい こと		事前学習しておくで実験時間の短縮できる（早く帰れる）。学生がそんなメリットを感じられるよ うに講義スタイルを検討したい。

(4) 教育支援システム等の活用事例について（3つまで）

事例 ①	担当する先生のお 名前	小山信也
	授業（取り組み）の 名称	数学関連科目
	どのような授業（取 り組み）か	【 事 例 】 手 書 き レ ポ ー ト の 出 題 ・ 回 収 https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_3719028_topics_2_tflat?start=11&pagelen=10
事例 ②	担当する先生のお 名前	和田昇
	授業（取り組み）の 名称	熱力学Ⅰ，その他の担当科目
	どのような授業（取 り組み）か	オンライン授業の実践（カタリバ） https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_3719028_topics_423_tflat 例えば 30，37のコメント
事例 ③	担当する先生のお 名前	松元明弘
	授業（取り組み）の 名称	ロボット工学，その他の担当科目
	どのような授業（取 り組み）か	オンライン授業の実践（カタリバ） https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_3719028_topics_423_tflat 例えば 20，42，43のコメント

(5) 教育支援システム等について自由記述

まずは使ってみることかな？と思います。色々試してみたいです

教育支援システム等に関するアンケート（高等教育推進委員会）

No. 24

所属：

氏名：

（１）「講義」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-ACE、
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	授業資料の配信、オンデマンド授業動画の限定配信 YouTube の URL の配信、掲示板機能を用いて学生間でのディスカッション、小テスト機能を用いたテスト等
	使い方を教えてください。	主に情報配信としての使い方。グループ内での意見交換、知識レベルのテスト
システム②	アプリケーション名またはサービス名	YouTube
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『オンライン』
	利用目的を教えてください。	対面で授業ができない場合の補完
	使い方を教えてください。	知識供給型の授業としての使い方
システム③	アプリケーション名またはサービス名	respon
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	出席の確認と授業の感想等コメントペーパー
	使い方を教えてください。	毎回授業評価を１．よくなかった～５．よかったまでの５段階で評価してもらい、その理結や授業の感想などを書いてもらうような使い方。もうひとつの使い方としては、意見の収束をはかるため、デルファイ法のような使い方をしています。
「講義」形式の授業運営において実現したいこと		

（２）「演習（ゼミ）」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-ACE
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	講義と同様、授業資料の配信、オンデマンド授業動画の限定配信 YouTube の URL、Webex の URL 等の配信、掲示板機能を用いて学生間でのディスカッション、小テスト機能を用いたテスト等
	使い方を教えてください。	主に情報配信としての使い方。グループ内での意見交換、知識レベルのテスト
システム②	アプリケーション名またはサービス名	Webex
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『オンライン』
	利用目的を教えてください。	対面で授業ができない場合の補完
	使い方を教えてください。	ブレイクアウトセッション機能を用いて、グループ内でのディスカッション、グループでまとめた結論を発表するなど。
システム③	アプリケーション名またはサービス名	respon
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	出席の確認と授業の感想等コメントペーパー、意見の集約
	使い方を教えてください。	毎回授業評価を１．よくなかった～５．よかったまでの５段階で評価してもらい、その理結や授業の感想などを書いてもらうような使い方。もうひとつの使い方としては、意見の収束をはかるため、デ

		ルファイ法のような使い方をしています。
	「演習（ゼミ）」形式の授業運営において実現したいこと	マイクロレクチャー動画により、知識レベルの内容は事前に学習でき、授業内では、それらの知識を活用して問題解決をしたり、それぞれの意見を述べ合うような授業において、音声マイニングして、各学生が何について協議あるいは学んでいるのかなど、音声データから推定できるような授業支援システムがあったらいいなと思うことはあります。

（３）「実験・実習」形式の授業で使用している教育支援システム等について（３種類まで）

システム①	アプリケーション名またはサービス名	ToyoNet-ACE
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	『対面』，『オンライン』
	利用目的を教えてください。	実習報告書を小学校、教育委員会、大学の教員の３者が共有して指導にあたることを目的にしています。
	使い方を教えてください。	実習報告書のフォーマットを決めておき、毎週小学校での実習報告を学生はアップし、それに対して大学の教員、小学校の教員からのコメントを書き込むことにより、時間と空間を超えて指導ができるような使い方を目指しています。教育委員会は、自分の区の小学校がどのような実習を行なっているのかを把握するのに役立つものと思われ（コメントもできるようにはなっていますが、教育委員会からのコメントは一度もありません）
システム②	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
システム③	アプリケーション名またはサービス名	
	『対面』 or 『オンライン』（複数回答可）	
	利用目的を教えてください。	
	使い方を教えてください。	
	「実験・実習」形式の授業運営において実現したいこと	提携実習校の研究授業等、大学と実習校をオンラインで結び、大学の教員は指導助言者として参加し、学生は現職教員の研究授業にオンラインで参加することで学ぶことができると思われます。もうひとつは、数十年前にアメリカで開発された、BUGGYのようなITSです。人工知能により、問題を出したときに学習者の誤認識等を再現し、教育実習生は、学習者がどのような誤解をしているのかを双方向のやりとりから特定して正しい指導を行えるような支援システムがあったら使ってみたいです。

（４）教育支援システム等の活用事例について（３つまで）

事例①	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	
事例	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	

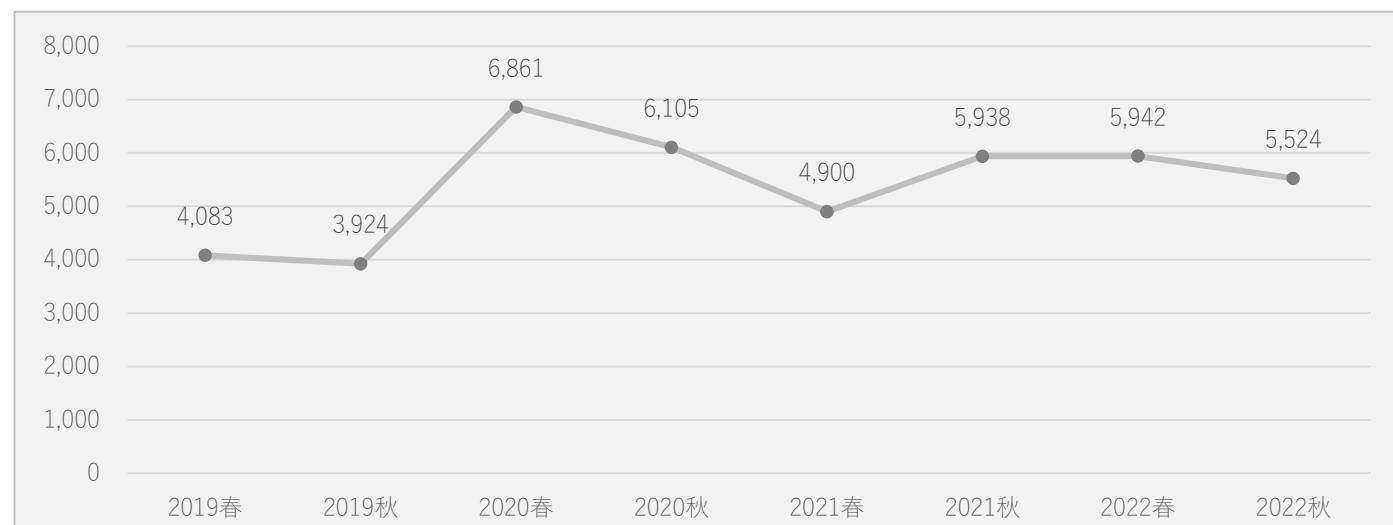
	どのような授業（取り組み）か	
事例 ③	担当する先生のお名前	
	授業（取り組み）の名称	
	どのような授業（取り組み）か	

（５）教育支援システム等について自由記述

Toyonet-Ace は比較的使いやすい LMS だと思います。この機能をベースに、簡易動画作成・編集機能や教育情報データを処理できる機能等を拡張していけるとさらに、様々なことができるのではと思われます。しかしながら、大切なことは、機能を全面に出すのではなく、教育目的をしっかりと見据え、それを達成するための教育支援システムにするべきであると思います。そのためには、教員がどのような教育目標をもって授業をしているのか、それができるためには、どのような教育支援システムがあるとよいかなどのアンケートを実施して、それらの要望にできる限りあうようなシステムを選定していくようにできたらと思っています。（急ぎ入力しましたので、乱文をお許しください）

1. 統計情報

1. 「利用フラグ」の付いたコース数の推移（2019年度～2022年度：8期）



【利用フラグ数】対2019年度比

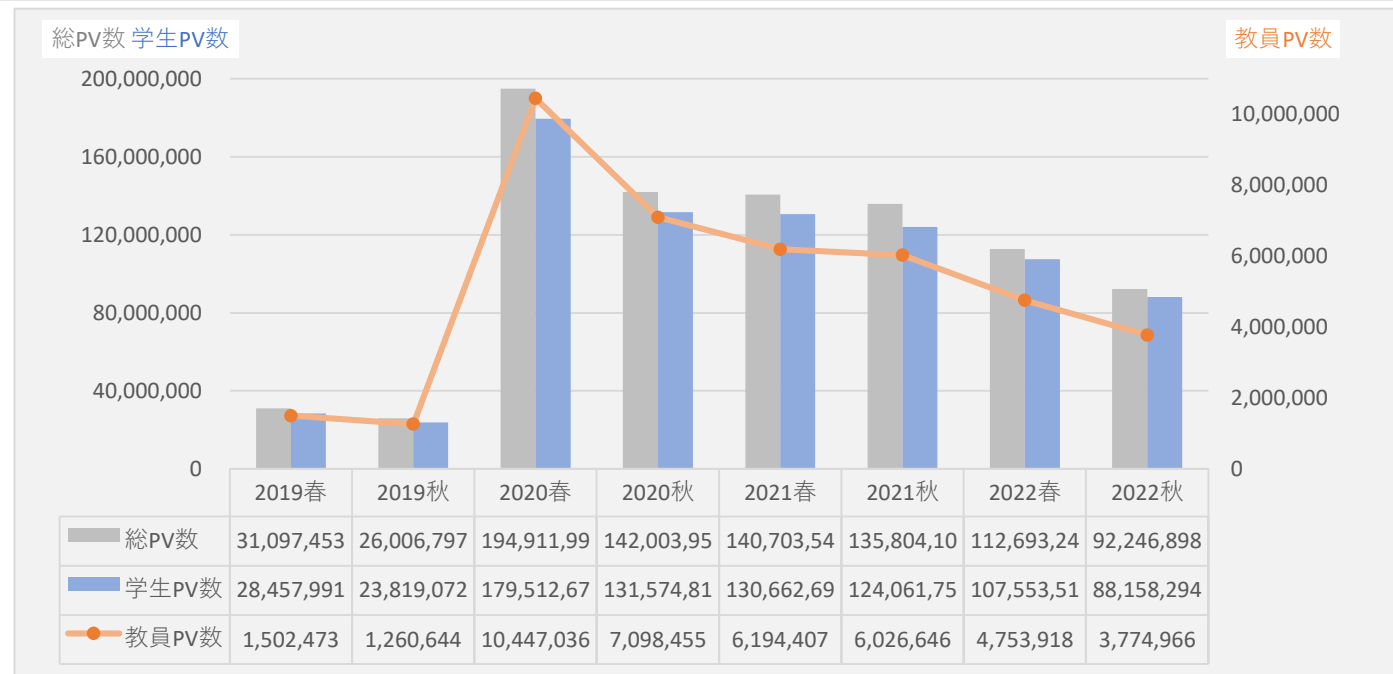
年度	(参考値) 授業の非対面率	件数	対2019年度比
2019年度	約0%	8,007	—
2020年度	約100%	12,966	161.9%
2021年度	約20%	10,838	135.4%
2022年度	4.48%	11,466	143.2%

「利用フラグ」：下記のいずれかの条件に該当した場合に、コースに対してフラグが立つ機能

- ・ 学生が課題または出席カードを1つ以上提出している
- ・ 掲示板のスレッドが1つ以上作成されている
- ・ コンテンツが1つ以上作成されている
- ・ コースニュースが1つ以上作成されている

全開講科目のコースが自動的に設置される中から、利用実態のあるコースの目安となる。

2. 「PV数」の推移（2019年度～2022年度：8期）



【教員PV数】対2019年度比

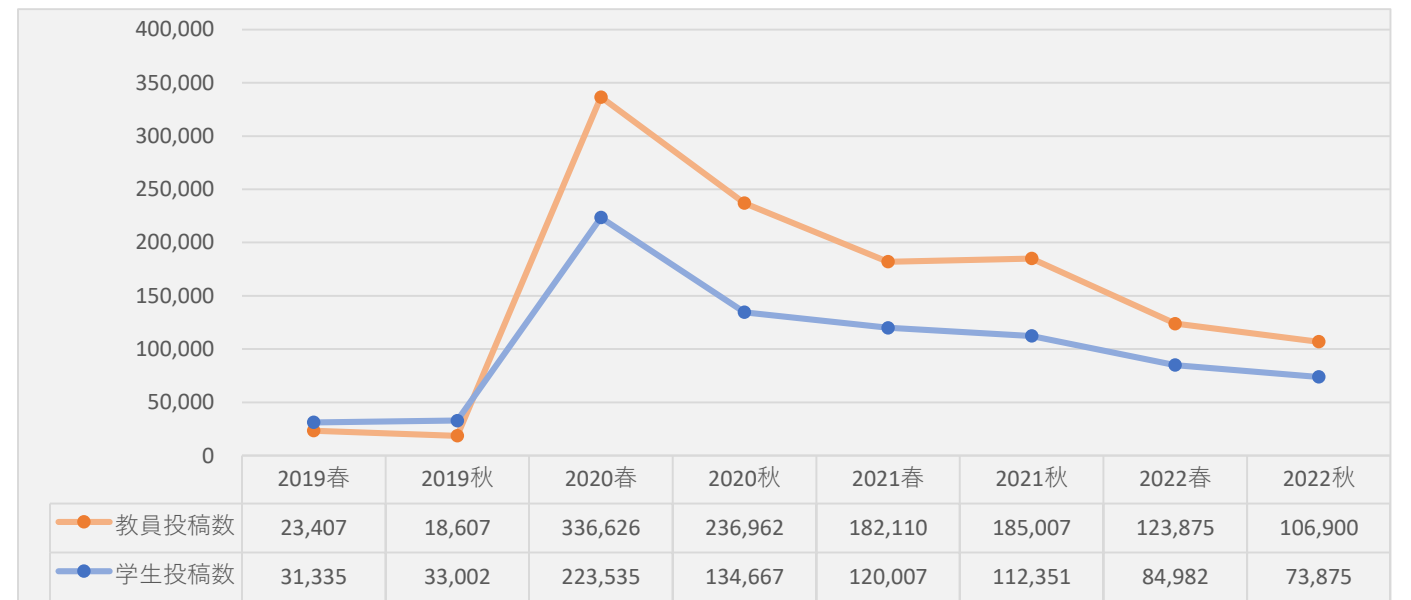
年度	(参考値) 授業の非対面率	件数	対2019年度比
2019年度	約0%	2,763,117	—
2020年度	約100%	17,545,491	635.0%
2021年度	約20%	12,221,053	442.3%
2022年度	4.48%	8,528,884	308.7%

【学生PV数】対2019年度比

年度	(参考値) 授業の非対面率	件数	対2019年度比
2019年度	約0%	52,277,063	—
2020年度	約100%	311,087,491	595.1%
2021年度	約20%	254,724,450	487.3%
2022年度	4.48%	195,711,813	374.4%

2. 「コメント」機能の活用

1. 2019年度～2022年度（8期間）の利用状況の推移・比較



【教員コメント投稿数】対2019年度比			
年度	(参考値) 授業の非対面率	件数	対2019年度比
2019年度	約0%	42,014	—
2020年度	約100%	573,588	1365.2%
2021年度	約20%	367,117	873.8%
2022年度	4.48%	230,775	549.3%

【学生コメント投稿数】対2019年度比			
年度	(参考値) 授業の非対面率	件数	対2019年度比
2019年度	約0%	64,337	—
2020年度	約100%	358,202	556.8%
2021年度	約20%	232,358	361.2%
2022年度	4.48%	158,857	246.9%

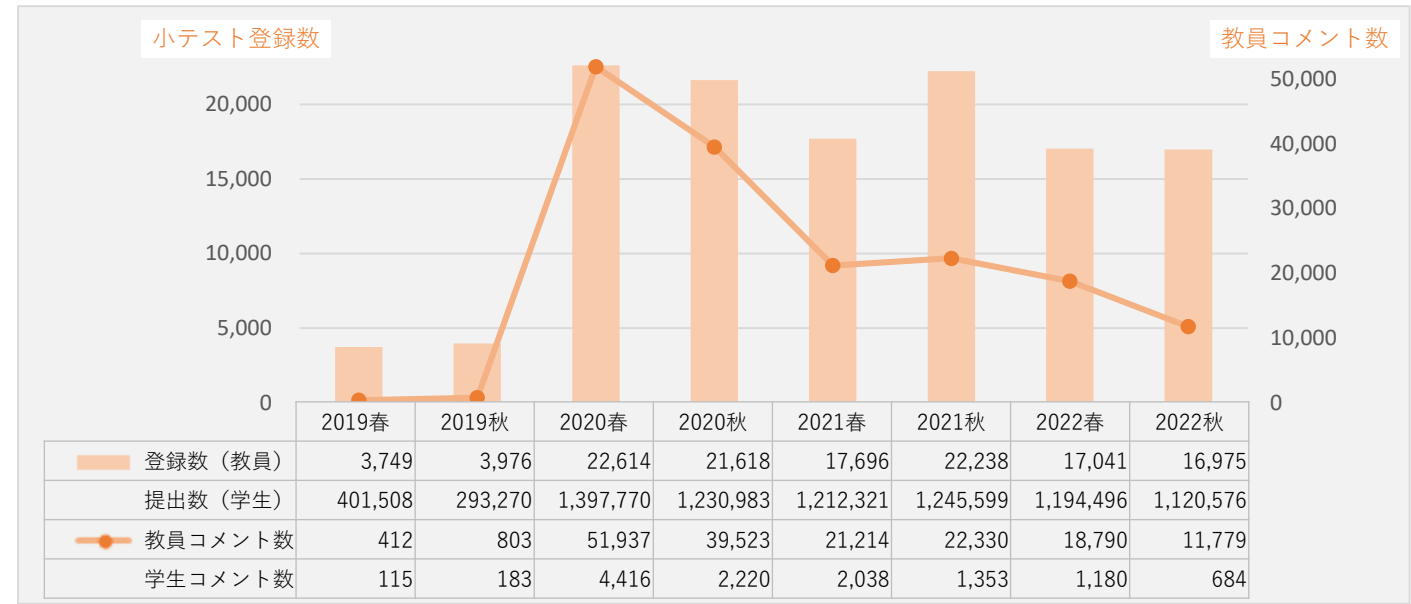
※2019年度との比較は、2つの観点から利用数の多い上位2コースを紹介。
※活用方法等は2022年度秋学期に利用数の多い専任教員（前述の2コースと同一ではない）から提供いただいた情報を一部抜粋して紹介。

2. 専任教員による活用事例（2019年度と比較）

2019度春学期	2019年度 秋学期	2022年度 春学期	2022年度秋学期
教員コメント 総投稿数/履修者あたり ▶天文学（国際文化コミュニケーション学科）非常勤講師 コメント総投稿数：2445 履修生1人あたり投稿数：17.8 ▶教育の制度と経営（生命科学科）教授 コメント総投稿数：2013 履修生1人あたり投稿数：27.2 学生コメント 総投稿数/履修者あたり ▶国際社会学（社会学科）教授 コメント総投稿数：1142 履修生1人あたり投稿数：3.3 ▶健康社会学（健康スポーツ学科）教授 コメント総投稿数：1084 履修生1人あたり投稿数：27.1	教員コメント 総投稿数/履修者あたり ▶天文学（国際文化コミュニケーション学科）非常勤講師 コメント総投稿数：1884 履修生1人あたり投稿数：12.7 ▶認知と言語（国際文化コミュニケーション学科）非常勤講師 コメント総投稿数：556 履修生1人あたり投稿数：8.2 学生コメント 総投稿数/履修者あたり ▶哲学概論（情報連携学科）准教授 コメント総投稿数：1371 履修生1人あたり投稿数：4.2 ▶レクリエーション論（健康スポーツ学科）准教授 コメント総投稿数：734 履修生1人あたり投稿数：14.4	教員コメント 総投稿数/履修者あたり ▶教育社会学/教育社会学（社会学科）教授 コメント総投稿数：2609 履修生1人あたり投稿数：14.2 ▶天文学（国際文化コミュニケーション学科）非常勤講師 コメント総投稿数：2190 履修生1人あたり投稿数：7.3 学生コメント 総投稿数/履修者あたり ▶時事英語（英米文学科）非常勤講師 コメント総投稿数：3207 履修生1人あたり投稿数：76.4 ▶Comparative Cultural Studies（グローバルイノベーション学科）准教授 コメント総投稿数：2043 履修生1人あたり投稿数：24.6	教員コメント 総投稿数/履修者あたり ▶保健医療サービス論/保健医療と福祉（社会福祉学科）非常勤講師 コメント総投稿数：2933 履修生1人あたり投稿数：13.3 ▶児童・家庭福祉/児童福祉論（生活支援学科）教授 コメント総投稿数：2643 履修生1人あたり投稿数：11.8 学生コメント 総投稿数/履修者あたり ▶時事英語（英米文学科）非常勤講師 コメント総投稿数：2858 履修生1人あたり投稿数：56.0 ▶コンピュータ・リテラシー（経済学科）非常勤講師 コメント総投稿数：2300 履修生1人あたり投稿数：19.7

活用方法（どのように利用しているのか）	長所（便利な点、優れている点 など）	短所（不便な点、不足する点 など）
アンケート機能を用いて学生に授業の振り返りの記入を課しており、記入された振り返りを読んだら「Good」をクリックし、質問や返信が必要と感じたものに対してコメントを記入した。	・個別にコメントを書き込めるため、個々の質問に対して返信ができる。やり取りは相互に複数回可能。 ・URL等を貼ることができるため、参照先による補足が可能。また、学生も授業をふまえて教員に紹介したい本やメディアのURLを貼ってくれる。 ・読んだものに「Good」でも入れることで、学生のモチベーションアップになっている。	・今のところは感じていません。
毎回のゼミで、アンケート機能により理解度の把握や理解の誤り・齟齬の有無などを確認しており、場合によってはその矯正を意図して教員のコメント（フィードバック）をアンケート機能の「コメント」により与えている。	・教員側からの情報提供やその蓄積・履歴的管理、ゼミ生からの提出物の管理（提出期限や保管など）が容易である。	

1. 2019年度～2022年度（8期間）の利用状況の推移・比較



【小テスト登録数（教員）】対2019年度比			
年度	（参考値） 授業の非対面率	件数	対2019年度比
2019年度	約0%	7,725	—
2020年度	約100%	44,232	572.6%
2021年度	約20%	39,934	516.9%
2022年度	4.48%	34,016	440.3%

【小テストへの教員コメント数】対2019年度比			
年度	（参考値） 授業の非対面率	件数	対2019年度比
2019年度	約0%	1,215	—
2020年度	約100%	91,460	7527.6%
2021年度	約20%	43,544	3583.9%
2022年度	4.48%	30,569	2516.0%

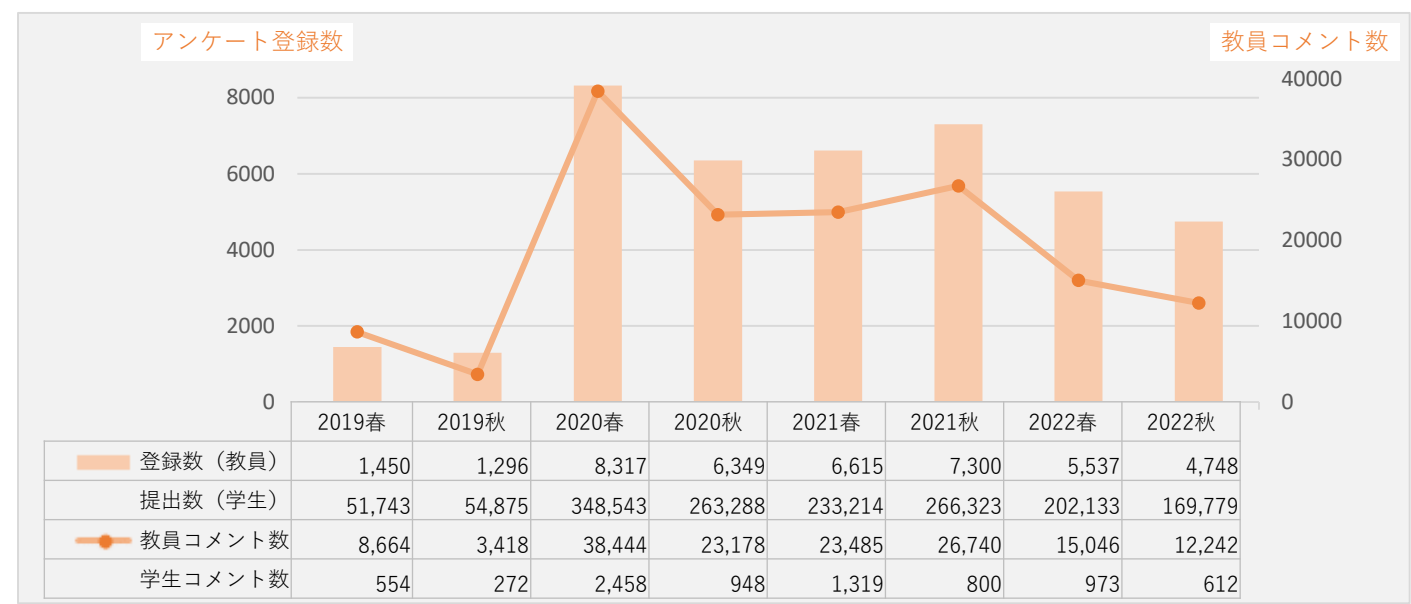
2. 専任教員による活用事例（2019年度との比較）

※2019年度との比較は、2つの観点から利用数の多い上位2コースを紹介。
※活用方法等は2022年度秋学期に利用数の多い専任教員（前述の2コースと同一ではない）から提供いただいた情報を一部抜粋して紹介。

2019年度春学期	2019年度 秋学期	2022年度 春学期	2022年度秋学期
小テスト登録数 ▶英語/英語演習(理解)/英語(理解) (経済学科)教授 登録数：66件 ▶統計とデータ分析 (情報連携学科)准教授 登録数：64件 小テスト 総提出数/履修者あたり ▶環境システム論 (国際地域学科)教授 小テスト総提出数：22602件 履修者1人あたり提出数：259.8件 ▶生物学 (英米文学科)准教授 小テスト総提出数：15931件 履修者1人あたり提出数：31.9件	小テスト登録数 ▶統計とデータ分析 (情報連携学科)准教授 登録数：110件 ▶統計とデータ分析 (情報連携学科)准教授 登録数：107件 小テスト 総提出数/履修者数あたり ▶統計とデータ分析 (情報連携学科)准教授 小テスト総提出数：13357件 履修者1人あたり提出数：126.0件 ▶地球の科学 (経済学科)教授 小テスト総提出数：11764件 履修者1人あたり提出数：21.5件	小テスト登録数 ▶英語 (法律学科)助教 登録数：123件 ▶英語 (法律学科)助教 登録数：121件 小テスト 総提出数/履修者数あたり ▶ミクロ経済学 (総合政策学科)教授 小テスト総提出数：28936件 履修者1人あたり提出数：140.5件 ▶経営統計基礎 (経営学科)教授 小テスト総提出数：23030件 履修者1人あたり提出数：67.3件	小テスト登録数 ▶英語 (法律学科)助教 登録数：124件 ▶英語 (法律学科)助教 登録数：109件 小テスト 総提出数/履修者数あたり ▶情報処理概論/コンピュータ概論 (経営学科)教授 小テスト総提出数：59856件 履修者1人あたり提出数：95.2件 ▶自然誌 (英米文学科)准教授 小テスト総提出数：26830件 履修者1人あたり提出数：28.7件

活用方法（どのように利用しているのか）	長所（便利な点、優れている点 など）	短所（不便な点、不足する点 など）
オンデマンド型授業の理解度確認テスト（事後課題）として、毎回ドリル形式で出題。提出期限は1週間後、提出回数は無制限とし、最高点を成績評価に算入している。 中間・期末試験もオンラインで実施。数日間の回答期間を設定し、学生の任意のタイミングで受験。自動採点できる設問については自動採点を取り入れているが、手動採点の設問も含めている。	・小テストの登録・編集、responでの出席管理、総合成績表など、総合的な使い勝手が大変に便利。レスポンスが速いのも良い。 ・小テストの提出状況を、項目別にソート可能。 ・過去年度に出題したものから、部分的にコピーして利用することも便利。 ・受付期間終了時に表示される解説機能があるのも便利。	・自動採点では、回答期限が終了すると自動的に成績に登録・公開されてしまう。公開のタイミングを自分で設定できるとよい。 ・ドリルの結果のACEの成績への登録が、ひとつずつ手作業で登録することとなる。最高点を自動的に成績に反映するなどの機能があると便利。 ・小テストの中の一部だけをランダムな出題ができると望ましい。
・単元ごとの演習問題：問題一覧から全問出すドリル。回答時間および提出回数に制限なし。 ・毎授業後の「小テスト」：制限時間ありで再提出不可。 ・中間・期末試験：提出回数制限なし、制限時間なしのドリル。問題一覧から一部をランダムで出題。 ・再試験・追試権・特別措置等：グループ管理の機能を使用して指定した学生に小テスト等を課す。	・アクセスログが記録され教員が確認できること。 ・提出状況の確認が容易であること。 ・特定の学生グループだけに課題を課すことができること。一人だけに課題を出したい場合も可能であるのが大変便利。 ・合格条件や設定条件をつけられること。学生のモチベーションアップにもつながる。 ・公開の予約ができること。	・一覧から全問出題するドリルは2回目以降も全問出てくるが、間違えた問題だけ出すようにできると学生にも教員にもメリットがある。 ・選択肢のシャッフルが一括設定でしかできない。問題ごとに選択できると有り難い。 ・複数選択やマッチングの問題を完全一致で正解とすると、4つ中2つが合っているでも「0%正解」と出るので「***正解」の表示はなくてよい。

1. 2019年度～2022年度（8期間）の利用状況の推移・比較



【アンケート登録数（教員）】対2019年度比			
年度	（参考値） 授業の非対面率	件数	対2019年度比
2019年度	約0%	2,746	—
2020年度	約100%	14,666	534.1%
2021年度	約20%	13,915	506.7%
2022年度	4.48%	10,285	374.5%

【アンケートへの教員コメント数】対2019年度比			
年度	（参考値） 授業の非対面率	件数	対2019年度比
2019年度	約0%	12,082	—
2020年度	約100%	61,622	510.0%
2021年度	約20%	50,225	415.7%
2022年度	4.48%	27,288	225.9%

※2019年度との比較は、2つの観点から利用数の多い上位2コースを紹介。
※活用方法等は2022年度秋学期に利用数の多い専任教員（前述の2コースと同一ではない）から提供いただいた情報を一部抜粋して紹介。

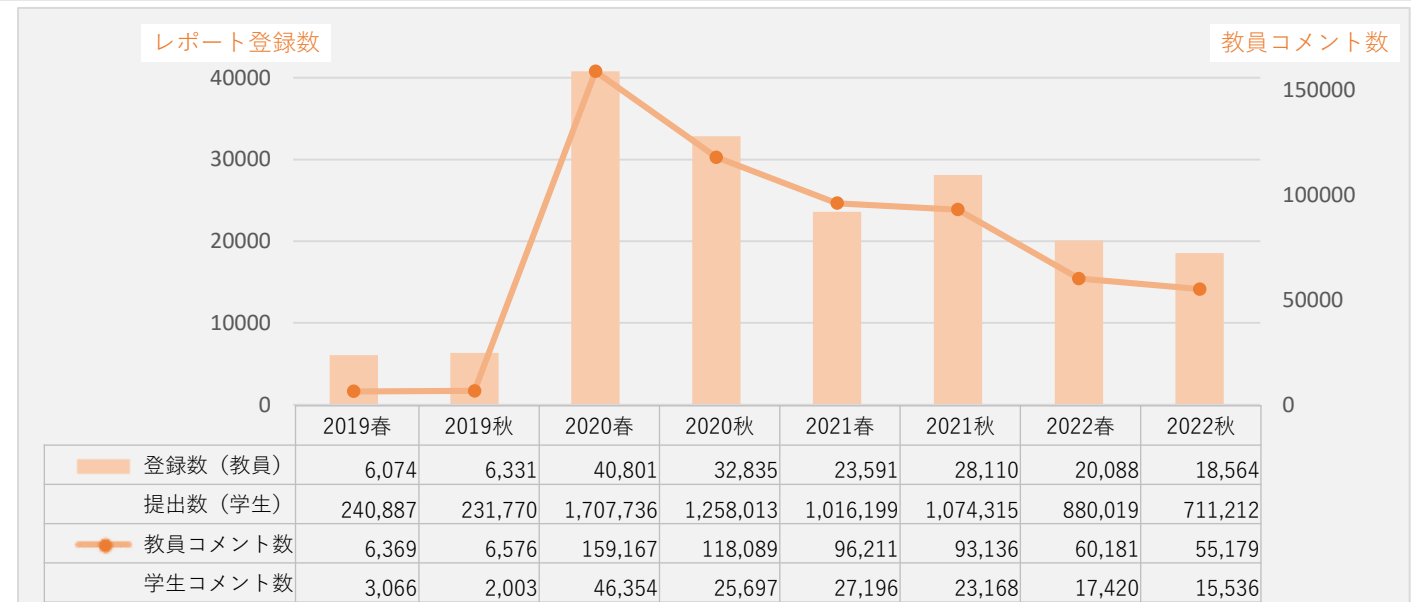
2. 専任教員による活用事例（2019年度との比較）

2019年度春学期	2019年度 秋学期	2022年度 春学期	2022年度秋学期
アンケート登録数 ▶教育方法論/教育方法研究（教育学科）非常勤講師 登録数：52件 ▶教育方法研究/教育方法論（教育学科）非常勤講師 登録数：50件 アンケート 総提出数/履修者あたり ▶天文学（国際文化コミュニケーション学科）非常勤講師 アンケート総提出数：2126件 履修者1人あたり提出数：15.5件 ▶国際法（企業法学科）准教授 アンケート総提出数：1474件 履修者1人あたり提出数：9.6	アンケート登録数 ▶ゼミナール総政（総合政策学科）教授 登録数：83件 ▶教育方法論/教育方法研究（教育学科）非常勤講師 登録数：53件 アンケート 総提出数/履修者あたり ▶総合（国際地域学科）教授 アンケート総提出数：3670件 履修者1人あたり提出数：10.2件 ▶社会貢献活動入門（生活支援学科）准教授 アンケート総提出数：3320件 履修者1人あたり提出数：7.6件	アンケート登録数 ▶プレゼンテーション技法（生活支援学科）非常勤講師 登録数：60件 ▶視聴覚教育（教育学科）非常勤講師 登録数：60件 アンケート 総提出数/履修者あたり ▶地域観光論（国際観光学科）准教授 アンケート総提出数：5999件 履修者1人あたり提出数：12.1件 ▶技術経営（経営学科）教授 アンケート総提出数：3065件 履修者1人あたり提出数：12.2件	アンケート登録数 ▶公共経営論（国際地域学科）教授 登録数：77件 ▶教育方法論/教育方法研究（教育学科）非常勤講師 登録数：44件 アンケート 総提出数/履修者あたり ▶日本史学演習（史学科）非常勤講師 アンケート総提出数：4449件 履修者1人あたり提出数：12.8件 ▶演習（経営学科）教授 アンケート総提出数：4357件 履修者1人あたり提出数：9.7件

活用方法（どのように利用しているのか）	長所（便利な点、優れている点 など）	短所（不便な点、不足する点 など）
毎回の講義の事前学習課題、事後学習課題をアンケート機能で実施している。講義内容についての要点や自分の意見、感想や疑問点などを書かせており、記載内容を次の授業で共有することで、議論を深める場合もある。また、記載された疑問点については、重要なものは講義時間内に解説し、個人的なものは個別にメールで返答している。	・学生のコメントが容易に集計でき、共有しやすい。 ・小テストではなくアンケートとすることで、学生も気軽に回答しやすい点。	・遅延での提出を受理する機能がないため、遅れた場合の提出を受け付けることができない点
・毎回のゼミで、教員の発言や説明の「記録」を、学生発表や教員説明へのコメントや感想とともにアンケートで提出させ、理解度を把握している。必要に応じてコメント機能等を利用したフィードバックを行っている。	・教員側からの情報提供やその蓄積・履歴の管理、ゼミ生からの提出物の管理（提出期限や保管など）が容易である。 ・「アンケート」の結果はExcel形式でダウンロードできるため、その後の整理・編集、教員からのコメント付与や共有も容易である。また、速報的なコメントもアンケートから即座に行えることはメリットである。	・TeX形式の入力やスクリーンショットの貼り付けは、コースニュース・掲示板、およびアンケート・小テスト・レポートの出題文においてのみ可能だが、学生の回答場面で同様のことが可能になると、回答形式の幅が広がる。

5. 「レポート」機能の活用

1. 2019年度～2022年度（8期間）の利用状況の推移・比較



【レポート登録数（教員）】対2019年度比			
年度	（参考値） 授業の非対面率	件数	対2019年度比
2019年度	約0%	12,405	—
2020年度	約100%	73,636	2681.6%
2021年度	約20%	51,701	1882.8%
2022年度	4.48%	38,652	1407.6%

【レポートへの教員コメント数】対2019年度比			
年度	（参考値） 授業の非対面率	件数	対2019年度比
2019年度	約0%	12,945	—
2020年度	約100%	277,256	2294.8%
2021年度	約20%	189,347	1567.2%
2022年度	4.48%	115,360	954.8%

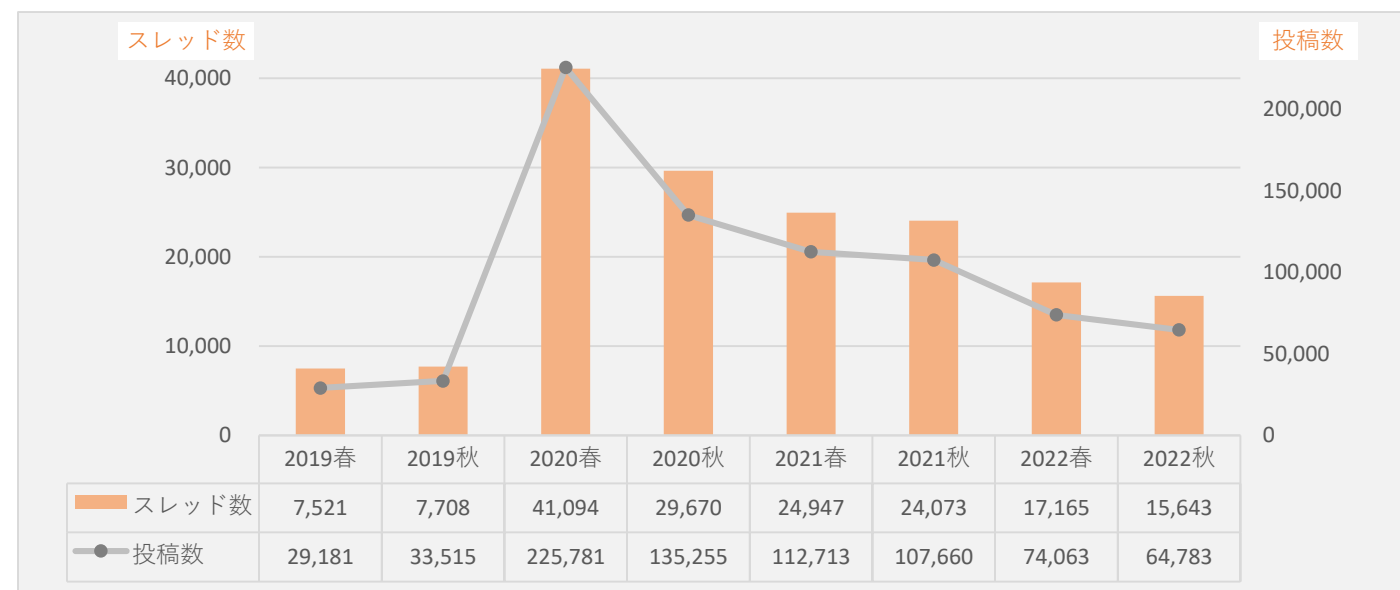
※2019年度との比較は、2つの観点から利用数の多い上位2コースを紹介。
※活用方法等は2022年度秋学期に利用数の多い専任教員（前述の2コースと同一ではない）から提供いただいた情報を一部抜粋して紹介。

2. 専任教員による活用事例（2019年度との比較）

2019度春学期	2019年度 秋学期	2022年度 春学期	2022年度秋学期
レポート登録数 ▶CAD/CAM演習機 （機械工学科）客員教授 登録数：46件 ▶CAD/CAM演習機 （機械工学科）准教授 登録数：39件 教員コメント投稿数/履修者1人あたり ▶入門プログラミング総論 （総合情報学科）非常勤講師 コメント投稿数：960件 履修者1人あたり投稿数：12.3件 ▶多文化共生論 （国際文化コミュニケーション学科）助教 コメント投稿数：372件 履修者1人あたり投稿数：4.1件	レポート登録数 ▶CAD/CAM演習 （機械工学科）准教授 登録数：47件 ▶情報リテラシー （総合政策学科）非常勤講師 登録数：44件 教員コメント投稿数/履修者1人あたり ▶認知と言語 （国際文化コミュニケーション学科）非常勤講師 コメント投稿数：555件 履修者1人あたり投稿数：8.2件 ▶多文化共生保育・教育 （生活支援学科）助教 コメント投稿数：535件 履修者1人あたり投稿数：11.4件	レポート登録数 ▶CAD/CAM演習 （機械工学科）非常勤講師 登録数：48件 ▶Kanji Literacy / Japanese Writing （国際教育センター）講師 登録数：45件 教員コメント投稿数/履修者1人あたり ▶教育社会学 （社会学科）教授 コメント投稿数：2,607件 履修者1人あたり投稿数：14.2件 ▶社会文化思想史 （国際社会学科）非常勤講師 コメント投稿数：1,600件 履修者1人あたり投稿数：4.5件	レポート登録数 ▶電気電子情報実験 （電気電子情報工学科）教授 登録数：83件 ▶CAD/CAM演習 （機械工学科）非常勤講師 登録数：50件 教員コメント投稿数/履修者1人あたり ▶保健医療サービス論/保健医療と福祉 （社会福祉学科）非常勤講師 コメント投稿数：2,919件 履修者1人あたり投稿数：13.2件 ▶社会文化思想史 （国際社会学科）非常勤講師 コメント投稿数：1,824件 履修者1人あたり投稿数：5.2件

活用方法（どのように利用しているのか）	長所（便利な点、優れている点 など）	短所（不便な点、不足する点 など）

1. 2019年度～2022年度（8期間）の利用状況の推移・比較



【掲示板スレッド数】対2019年度比			
年度	(参考値) 授業の非対面率	件数	対2019年度比
2019年度	約0%	15,229	—
2020年度	約100%	70,764	2577.0%
2021年度	約20%	49,020	1785.1%
2022年度	4.48%	32,808	1194.8%

【掲示板への投稿数】対2019年度比			
年度	(参考値) 授業の非対面率	件数	対2019年度比
2019年度	約0%	62,696	—
2020年度	約100%	361,036	2988.2%
2021年度	約20%	220,373	1824.0%
2022年度	4.48%	138,846	1149.2%

※2019年度との比較は、2つの観点から利用数の多い上位2コースを紹介。
※活用方法等は2022年度秋学期に利用数の多い専任教員（前述の2コースと同一ではない）から提供いただいた情報を一部抜粋して紹介。

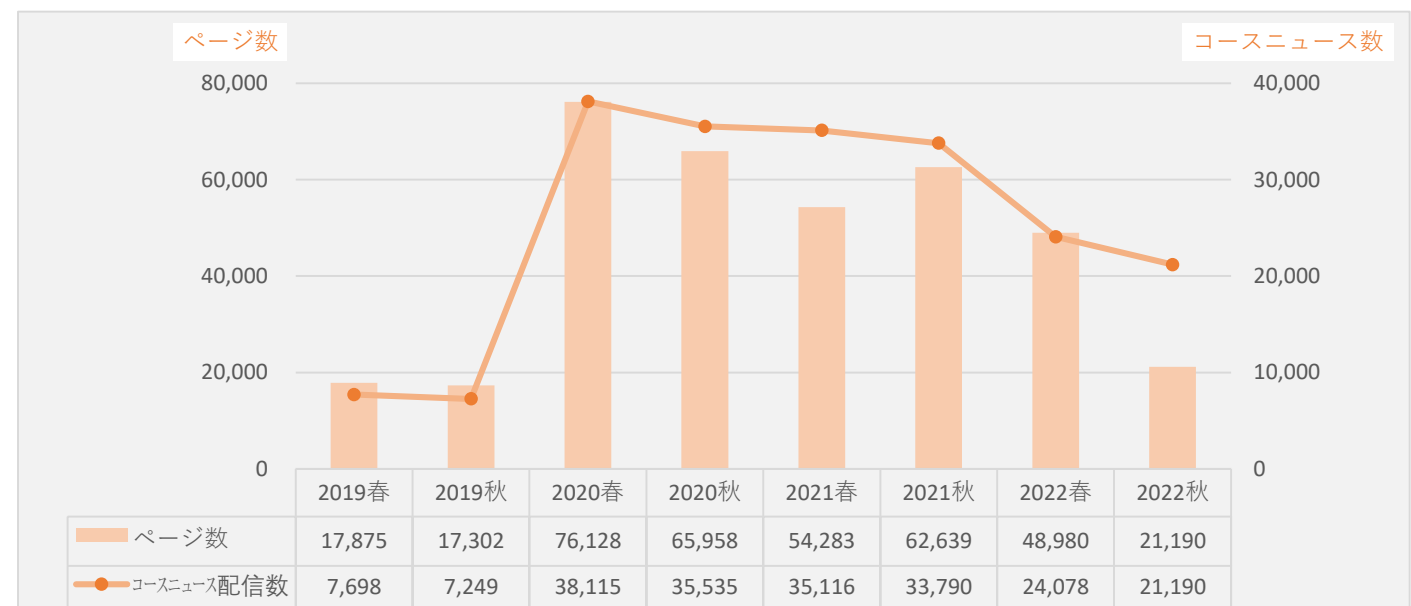
2. 専任教員による活用事例（2019年度との比較）

2019年度春学期	2019年度 秋学期	2022年度 春学期	2022年度秋学期
掲示板スレッド総数 ▶ 経営診断実習 （経営学科）教授 登録数：103件 ▶ 卒論指導 （東洋思想文化学科）助教 登録数：67件 掲示板 投稿総数/履修者1人あたり ▶ 国際社会学 （社会学科）教授 コメント投稿数：1171件 履修者1人あたり投稿数：3.3件 ▶ 多文化共生論 （国際文化コミュニケーション学科）助教 コメント投稿数：858件 履修者1人あたり投稿数：9.5件	掲示板スレッド総数 ▶ 経営診断実習 （経営学科）教授 登録数：85件 ▶ 初等教育実践研究 （教育学科）准教授 登録数：56件 掲示板 投稿総数/履修者1人あたり ▶ 哲学概論 （情報連携学科）准教授 コメント投稿数：1405件 履修者1人あたり投稿数：4.3件 ▶ ゼミナール総政 （総合政策学科）教授 コメント投稿数：766件 履修者1人あたり投稿数：33.3件	掲示板スレッド総数 ▶ デイアロギング学基礎演習 （デイアロギング学科）教授 登録数：75件 ▶ 社会人基礎力入門講義/ コミュニケーション&マナー入門 （社会心理学科）非常勤講師 登録数：57件 掲示板 投稿総数/履修者1人あたり ▶ Comparative Cultural Studies （グローバル・イノベーション学科）准教授 コメント投稿数：2070件 履修者1人あたり投稿数：24.9件 ▶ 総合政策入門 （総合政策学科）教授 コメント投稿数：1728件 履修者1人あたり投稿数：8.5件	掲示板スレッド総数 ▶ 国際地域学基礎演習/グローバル・イノベーション （国際地域学科）教授 登録数：87件 ▶ デイアロギング学基礎演習 （デイアロギング学科）教授 登録数：81件 掲示板 投稿総数/履修者1人あたり ▶ 総合政策入門 （総合政策学科）教授 コメント投稿数：1511件 履修者1人あたり投稿数：6.6件 ▶ 時事英語 （英米文学科）非常勤講師 コメント投稿数：1145件 履修者1人あたり投稿数：22.5件

活用方法（どのように利用しているのか）	長所（便利な点、優れている点 など）	短所（不便な点、不足する点 など）
ゼミの学生の発表資料の共有として利用。発表者に事前に資料をACEにアップすることで、クラス全員が事前に関覧して予習することができる。	・ 学生自身で共有するため教員の手間を省くことができるように。修正も学生だけで更新が可能。 ・ アップした資料はネットさえあれば開くことができ、修正作業も発表時も、ACEからダウンロードしてファイルを使えるので、学生からも好評。	ありません。
ゼミの発表スライドを掲示板へアップし、そのスレッドへ発表に対するコメントをさせている。	・ 書き込みを科すことで発表を真剣に聞くように。 ・ 全員から何らかのフィードバックが得られる。（人数が多く、学生同士のディスカッションは時間が不足） ・ 他のツールを用意する必要がなく、学生も使い慣れており、記録としても残る。	特になし。
a) 講義後の振り返りとして一定期日以内に、授業内容のまとめ、質問、感想を書いてもらう。 b) 講義資料や動画配信リンクの貼り付け c) 欠席や遅刻の連絡	a) 講義後の早い段階で「講義内容の振り返り」を掲示板に書き込み復習は知識の定着に効果的。質問も掲示板への書き込みだと気楽にしてくれる。基本的にすべて掲示板上で回答。質問-回答のプロセスで学生の参加意識も高まり、教員も学生の理解度の把握になる。 b) 資料配布や情報提供のチャネルを一元化できる。 c) 欠席や遅刻の連絡も掲示板に一元化することで、双方の負担がなくなる。	a) 他の学生の書き込みをコピーする学生がいる。 b) 短所なし c) 欠席や遅刻の特殊事情を公開したくない学生メール可としているが、年間で1人いるかどうかなので、それほど負担にはならない。

7. 「ページ数」「コースニュース」機能の活用

1. 2019年度～2022年度（8期間）の利用状況の推移・比較



【ページ数】対2019年度比			
年度	(参考値) 授業の非対面率	件数	対2019年度比
2019年度	約0%	35,177	—
2020年度	約100%	142,086	403.9%
2021年度	約20%	116,922	332.4%
2022年度	4.48%	70,170	199.5%

【コースニュース配信数】対2019年度比			
年度	(参考値) 授業の非対面率	件数	対2019年度比
2019年度	約0%	14,947	—
2020年度	約100%	73,650	492.7%
2021年度	約20%	68,906	461.0%
2022年度	4.48%	45,268	302.9%

※2019年度との比較は、2つの観点から利用数の多い上位2コースを紹介。
※活用方法等は2022年度秋学期に利用数の多い専任教員（前述の2コースと同一ではない）から提供いただいた情報を一部抜粋して紹介。

2. 専任教員による活用事例（2019年度との比較）

2019度春学期	2019年度 秋学期	2022年度 春学期	2022年度秋学期
コース内ページ総数 ▶ 中国語 （企業法学科）教授 登録数：115件 ▶ 統計分析/データ分析 （総合政策学科）准教授 登録数：99件 コースニュース 配信数 ▶ ウェブ情報処理および実習 （メディアコミュニケーション学科）非常勤講師 配信数：73件 ▶ ウェブ情報処理および実習 （メディアコミュニケーション学科）非常勤講師 配信数：72件	コース内ページ総数 ▶ 社会学/社会学の基礎 （都市環境デザイン学科）非常勤講師 登録数：103件 ▶ 社会学/社会学の基礎 （都市環境デザイン学科）非常勤講師 登録数：101件 コースニュース 配信数 ▶ 民法B （企業法学科）教授 配信数：66件 ▶ 建築都市法規/建築法規 （建築学科）助教 配信数：37件	コース内ページ総数 ▶ 統計分析/データ分析 （総合政策学科）准教授 登録数：169件 ▶ 英語 （英米文学科）非常勤講師 登録数：151件 コースニュース 配信数 ▶ Integrated Japanese I Theory （国際教育センター）講師 配信数：62件 ▶ ウェブ情報処理および実習/ ウェブ情報処理およびプログラミング （メディアコミュニケーション学科）非常勤講師 配信数：58件	コース内ページ総数 ▶ 放送メディア論 （メディアコミュニケーション学科）非常勤講師 登録数：300件 ▶ 英語 （英米文学科）非常勤講師 登録数：121件 コースニュース 配信数 ▶ マクロ経済学 （経済学科）教授 配信数：60件 ▶ 演習 （経営学科）教授 配信数：49件

活用方法（どのように利用しているのか）	長所（便利な点、優れている点 など）	短所（不便な点、不足する点 など）
通常講義と小テストをオンデマンド、中間・期末試験は対面で実施する学年必修科目において、小テストに関する連絡事項、教務課等から依頼のあった連絡（必修科目のため）、中間・期末試験の内容や試験結果の連絡に利用。 ・演習において、各種資料（テキストや各回スライド）の配布やゼミ生と教員が定期的に共有すべき情報、毎回のゼミの事前告知、資料の事後的公開、ゼミの事後フォローを目的とし、内容に応じて「コースニュース」「掲示板」「コンテンツ」を適宜使い分け、情報を流している。 ・全学年のゼミをリンク機能を用いて統合し、各学年、時間間での情報参照を可能にしている。ゼミ生にとって他学年とシームレスな運用をACE上で行い、ゼミ全体への告知が容易に行い、学年を貫いたゼミの一体感を生んでいる。関連して、学年を貫くグループでの課題遂行の場合には「プロジェクト」を、各学生の個別指導に「個別指導」を、それぞれ活用。さらに、ゼミのテキスト・各種資料を「コンテンツ」から公開・配布している。	履修者全員に一斉配信を即時実施できる点。また、タイマー発信ができるので、夜に書いて朝発信できるのも良いです。画像やファイルを添付できるのも良い。 ・数学的な内容が関係する場合、「コースニュース」「掲示板」ともにTeX形式の入力によって数式を使えることは極めて有効である。 ・リンクを用いれば、情報の内容が必ずしも全ゼミ生に関係ない情報にしても共有が可能で、ACE上では他時限・他学年の状況・関連情報（参照しようと思えば）部分的にはあるが学生側からも分かる。	学生は基本的にLINEを多用しており、コースニュース＝メールを見るように習慣づける必要が有る。コロナ禍以前はメールを殆ど見なかったため、流しても少数しか見ていなかったため、コロナが収束し以前の状況に戻ることを危惧している。 ・演習の場合は、年度進行に伴う学生の流動性が低く、基本的に大部分の学生が連続の上で継続的に履修するが、科目名としては毎年度・毎セメスター毎に新たなものとなる。ACEにおいても、「過去のコース」にて終了した科目の情報を手繰ることは可能とはいえ、学生に対する指導の継続性・継続性の観点から考えた場合、年度やセメスターの変わり目で情報の分断が生じることが一種の難点である。リンクもその都度の設定が必要であり、年度の変わり目はしかたないにしても、春学期→秋学期の継続性をなんらかの形で保てれば良いと考える。

東洋大学 FD・SD 活動報告書（2022 年度）

発 行 東洋大学高等教育推進センター

発行日 2023 年 5 月

編 集 東洋大学高等教育推進支援室

〒112-8606

東京都文京区白山 2-28-20

TEL: 03-3945-7253 / FAX: 03-3945-7238

Mail: mlfdjimu@toyo.jp